平成２８年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

報　　告　　書

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

はじめに

近年、わが国のスポーツ施策は、平成23年8月に施行されたスポーツ基本法を契機に、スポーツ基本計画の策定、2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催決定、障がい者スポーツの所管が厚生労働省から文部科学省に移り、平成27年10月にスポーツ庁が新設されるなど、大きな変革を迎えております。

そのような中、地方自治体においても、新たなスポーツ振興計画が策定され、地域で開催される多くのスポーツ事業についても、障がいのある方がスポーツに参加する環境、体制の整備が進められ、その取り組みに期待がされているところであります。

日本障がい者スポーツ協会では、平成 23 年度より国庫補助事業として、都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会を対象とした「地域における障がい者スポーツの振興事業」を実施してまいりました。

この事業は、障がい者が身近な地域において、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができる環境づくりをめざし、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、それぞれの地域特性にあわせた各種事業を計画し、さまざまな関係団体と連携、協働し、障がい者スポーツの振興体制を拡充していくことを目的としています。

今年度は、14 団体が特色ある事業を実施することができました。それぞれの地域の実情にあわせた多様なスポーツ事業では、多くの障がい者がスポーツの楽しさを体験するとともに、この取り組みにより、さまざまな人や組織との連携が広がっている状況もみえてきました。

本報告が、障がいのある人が身近な地域で生涯にわたりスポーツに参加できる環境整備のための取り組み事例として、地域の障がい者スポーツの振興に役立てていただければ幸いです。

今後とも、関係の皆様の一層のご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。

平成 29 年 3 月

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

目　次

はじめに

Ⅰ　振興事業の概要 …… 1
1．助成の目的
2．委託先対象
3．対象事業
4．活動の範囲
5．委託費と対象経費
6．地域振興事業検討委員会の設置

Ⅱ　実施事業の概要 …… 6

Ⅲ　まとめと今後の課題 …… 22
1．事業内容の特徴
2．組織連携の取り組み
3．障がい者スポーツ指導者の活動内容
4．地域振興事業の成果
5．今後の課題
6．おわりに

Ⅳ　事業実施団体の報告 …… 33
1．公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
2．宮城県障害者スポーツ協会
3．公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会
4．一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
5．石川県障害者スポーツ協会
6．しあわせ福井スポーツ協会
7．公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会
8．公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会
9．公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会
10．一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
11．広島県障害者スポーツ協会
12．公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
13．愛媛県障がい者スポーツ協会
14．特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

Ⅰ　振興事業の概要

１．助成の目的

障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、障がい者向けのスポーツ教室や障がい特性を踏まえたスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができるクラブやネットワーク等の組織・体制づくりの構築を目的とする。また、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与できることを目的とする。

２．委託先対象

平成 28 年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会障がい者スポーツ協会協議会登録団体を対象に、助成事業の実施体制が整っていることを条件とする。

今年度は、申請のあった 14 団体を対象に助成した。

３．対象事業

本事業は助成の目的に合致し、地域の障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者協議会が協力・連携した体制で実施するものであること。下記の例を参考とした地域における障がい者スポーツ振興にかかわる事業とする。

【事業内容例】

(1)障がい者のスポーツ教室事業
(2)障がい者スポーツ指導者の育成事業
(3)障がい者スポーツ指導者の派遣事業
(4)選手発掘・育成事業
(5)障がい者スポーツ理解啓発事業(大会等イベントも含む)
(6)組織連携推進強化事業(組織連携を主たる目的とした事業)

※注1:厚生労働省が実施している「地域生活支援事業」の「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」や日本スポーツ振興センターの「スポーツ振興事業助成」等の他団体からの助成を受けている事業は重複して申請はできない。

※注2:スポーツ庁が都道府県・指定都市に委託事業として実施する「地域における障害者スポーツ普及促進事業」および「特別支援学校等を活用した障害児・者のスポーツ活動実践事業」を実施する団体は、申請時に必ず申し出ること。

４．活動の範囲

事業は原則として一つの都道府県内（指定都市を含む）を対象とすること。なお、実施場所は、競技特性等の理由により当該の都道府県内で実施が困難な場合はこの限りではない。

５．委託費と対象経費

委託費は、各団体に 300 万円または 200 万円とする。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。諸謝金、旅費交通費、消耗品費、会議費、賃借料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料とし、支出については、すべて委託先団体の規程によるものとする。

※今年度より、委託費（総事業費）の 35%を上限として事業目的に必要なスポーツ用具の購入が認められる。（ただし、本事業では事務用品等の備品の購入はできない）

6．地域振興事業検討委員会の設置

委託先団体の選定は、「地域振興事業検討委員会」を設置し、申請事業について本事業の目的に沿った内容であるかどうか審査し決定した。

また、検討委員会により、本事業の総括を行い、今後の日本における障がい者スポーツ推進の参考にするための総括を行った。

地域振興事業 検討委員会委員（技術委員会 地域振興班）

	氏　　名	役　　職
1	大久保春美	日本障がい者スポーツ協会技術委員長
2	三上　真二	大阪市長居障がい者スポーツセンター　館長
3	高山　浩久	東京都障害者スポーツ協会 事業推進部地域スポーツ振興課　課長
4	藤田　紀昭	日本福祉大学　スポーツ科学部　教授
5	丸田　　徹	新潟県障害者交流センター 統括部長
6	森　　慶一	東京都障害者スポーツ協会 事業推進部事業推進課 推進係長
7	山﨑 珠美	長野県障がい者福祉センター(サンアップル) スポーツ課係長
8	山下　　慎	障がい者スポーツ指導者協議会　中四国ブロック長

事務局（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）

	氏　　名	役　　職
1	水原　由明	スポーツ推進部　部長
2	滝澤　幸孝	スポーツ推進部　課長
3	屋敷　優友	スポーツ推進部　主査
4	小島　大樹	スポーツ推進部　推進係

◆会議の開催

第 1 回会議

日　時：平成 28 年 4 月 26 日（火）10 時 00 分～13 時 00 分
場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室
内　容：1. 平成 28 年度申請団体の実施内容について
・申請団体の事業実施体制の適性について
・申請内容の確認について
2. 平成 28 年度委託先の審査・選定について（選定委員会）

第 2 回会議

日　時：平成 28 年 8 月 22 日（月）13 時 00 分～15 時 00 分
場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室
内　容：平成 28 年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」について
・地域振興事業受託団体（各県協会）の進捗について
・受託団体の事業視察の調整について
・「地域における障がい者スポーツの振興事業」報告会について
・報告書の作成について（スケジュール確認、目次、骨組み等）

第 3 回会議

日　時：平成 29 年 2 月 14 日（火）13 時 00 分～17 時 00 分
場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室
内　容：1. 平成 28 年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」について
・地域振興事業受託団体（各県協会）の進捗について
・視察報告（北海道、福島県、埼玉県、愛媛県）
・報告書作成に向けて（スケジュール確認、目次、骨組み等）
・「地域における障がい者スポーツの振興事業」報告会について
2. 平成 29 年度障がい者スポーツ振興事業について
・開催要項（案）の内容等

第 4 回会議

日　時：平成 29 年 3 月 22 日（水）10 時 00 分～18 時 00 分

場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室

内　容：1. 平成 28 年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」報告書について

・実施団体の事業報告に伴う報告書の作成について

・報告書のまとめ作業（最終チェック）

2. 平成 29 年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」について

◆事業の視察

（1）北海道

日　時：平成 28 年 12 月 14 日（水）

場　所：旭川市立神居東小学校　体育館

内　容：全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

（2）福島県

日　時：平成 28 年 11 月 27 日（日）

場　所：会津若松ふれあい体育館

内　容：地域スポーツ教室　運動機会提供事業

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

（3）埼玉県

日　時：平成 28 年 11 月 17 日（木）

場　所：社会福祉法人　清心会　ふらわあ事業所

内　容：障がい者スポーツ体験交流会

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

（4）愛媛県

日　時：平成 28 年 12 月 3 日（土）

場　所：愛媛県身体障がい者福祉センター

内　容：障がい者スポーツ競技理解体験会

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

◆事業報告会の開催

目　　的：本報告会では、標記事業を実施した都道府県・市の障がい者スポーツ協会が、地域振興に関する取り組みの現状、その事業のねらいや実施の背景、課題等を報告・検討することで、それぞれの地域の実態に即した新たな事業展開のヒントや地域が抱える課題解決のための一助となることを目的とする。

日　　時：平成 29 年 2 月 21 日（火）

場　　所：全国障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）2 階 大会議室

参 加 者：事業実施 14 団体　計 22 名、オブザーバー 計 9 名、スポーツ庁　計 1 名

日本障がい者スポーツ協会技術委員会（地域振興班）　計 7 名

日本障がい者スポーツ協会スポーツ推進部（事務局）　計 3 名

内　容：1. 本事業の骨子について

・当協会が考える地域振興について、本事業の目的、今後の展望など

2. 各団体からの事業報告

・事業実施の背景、目的（ねらい）、内容、連携団体、成果・効果、課題など

3. 全体ディスカッション

・各地域における現状や課題の共有

平成28年度 地域における障がい者スポーツの振興事業 事業報告会 日程表

時 間	内 容		発表者所属	発表者氏名
12:00 ～	開場			
12:00 ～ 12:15	参加団体受付			
12:15 ～ 12:45	開会・オリエンテーション		日本障がい者スポーツ協会 スポーツ推進部 部長	水原 由明
			日本障がい者スポーツ協会 技術委員会 委員長	大久保 春美
12:45 ～ 13:00	本事業の骨子について		技術委員会 地域振興担当班	三上 真二
13:00 ～ 13:15	休憩			
13:15 ～ 14:15	報告1	北海道における障がい児者スポーツの振興事業	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	正木 英之
	報告2	宮城県障害者スポーツ振興事業	宮城県障害者スポーツ協会	坂口 信一
	報告3	スポーツふくしま元気向上計画	公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会	増子 恵美
	報告4	埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会	優 尚代
14:15 ～ 14:25	休憩			
14:25 ～ 15:25	報告5	石川県における障がい者スポーツの振興事業	石川県障害者スポーツ協会	山田 圭一
	報告6	福井県障がい者スポーツ交流推進事業	しあわせ福井スポーツ協会	小野田 敬子
	報告7	長野県における障がい者のスポーツ活動環境強化支援事業	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会	半田 直道
	報告8	兵庫県における障がい者スポーツの連携推進事業	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	増田 和茂
15:25 ～ 15:35	休憩			
15:35 ～ 16:20	報告9	鳥取県障がい者スポーツ振興事業	一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会	木村 亮太
	報告10	広島県における障がい者スポーツ振興事業・地域推進事業	広島県障害者スポーツ協会	佐々木 理絵
	報告11	山口県における障害者スポーツ地域推進事業	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	西村 直記
16:20 ～ 16:30	休憩			
16:30 ～ 17:15	報告12	障がい者スポーツコミュニティーおきなわ	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	平安 泰知
	報告13	静岡県における障がい者スポーツの地域連携普及促進事業	公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会	瀬戸脇 正勝 杉山 壽一
	報告14	愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業	愛媛県障がい者スポーツ協会	清水 謙二
17:15 ～ 17:25	休憩			
17:25 ～ 18:25	全体ディスカッション			
18:25 ～ 18:45	まとめ			
18:45 ～ 20:30	情報交換会			

事業報告会の様子

<table>
<tr>
<td>
「本事業の骨子について」
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
技術委員会　地域振興担当班長　三上　真二　氏</td>
<td>
「事業実施団体における報告」
事業実施 14 団体</td>
</tr>
<tr>
<td>
全体ディスカッション
グループワーク</td>
<td>
全体ディスカッション
グループワーク</td>
</tr>
<tr>
<td>
全体ディスカッション
グループワーク</td>
<td>
まとめと質疑応答
(4 グループにおける発表)</td>
</tr>
</table>

Ⅱ　実施事業の概要

14 団体からの報告を基に、今年度の地域振興事業の全体像を把握するために、実施事業の概要をまとめた。また、それぞれの「地域のスポーツ環境の特色」「地域の実情・課題点」、「事業のねらい」、実施された「事業内容」、「連携・協力団体」、「障がい者スポーツ指導者の活動・役割」、そして「事業成果」、「事業課題」の 8 項目から実施概要を整理した。

それぞれの団体の活動の詳細については、Ⅳ．実施事業団体の報告を参照いただきたい。

【実施内容区分　一覧】

No.	団　体　名	障がい者のｽﾎﾟｰﾂ教室事業	障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導者の育成事業	障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導者の派遣事業	選手発掘・育成事業	障がい者ｽﾎﾟｰﾂ理解啓発事業（大会等ｲﾍﾞﾝﾄも含む）	組織連携推進強化事業
1	（公財）北海道障がい者スポーツ協会	●					
2	宮城県障害者スポーツ協会	●					
3	（公財）福島県障がい者スポーツ協会	●	●				
4	（公財）長野県障がい者スポーツ協会	●			●	●	
5	石川県障害者スポーツ協会			●	●	●	
6	しあわせ福井スポーツ協会	●	●			●	
7	（一社）埼玉県障害者スポーツ協会					●	
8	（公財）静岡県障害者スポーツ協会	●	●			●	
9	（公財）兵庫県障害者スポーツ協会	●				●	
10	広島県障害者スポーツ協会					●	●
11	愛媛県障がい者スポーツ協会					●	
12	（一社）鳥取県障がい者スポーツ協会	●	●			●	
13	（公社）山口県障害者スポーツ協会	●				●	
14	（NPO）沖縄県障がい者スポーツ協会	●			●		
		10	4	1	3	10	1

平成28年度　障害者スポーツ振興事業
地域における障がい者スポーツの振興事業　実施団体一覧

No.	団体名	委託費	事業名／内容
1	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	3,000	**北海道における障がい児者スポーツの振興事業**
			① 全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業
2	宮城県障害者スポーツ協会	2,000	**宮城県障害者スポーツ振興事業**
			① 障害児運動・あそびの広場開催事業
			② 宮城県卓球バレー交流会開催事業
3	公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会	3,000	**スポーツふくしま元気向上計画**
			① 地域スポーツ教室　運動機会提供事業
			② 陸上競技指導員・審判育成事業
4	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会	1,300	**埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）**
			① 障がい者スポーツ体験交流会
5	石川県障害者スポーツ協会	2,000	**石川県における障がい者スポーツの振興事業**
			① 障害者スポーツ選手発掘・育成事業
			② 障害者スポーツ活性化事業：障害者スポーツ体験会
			③ 障害者スポーツ指導員・支援者研修会
6	しあわせ福井スポーツ協会	2,000	**福井県障がい者スポーツ交流推進事業**
			① 障がい者スポーツエキシビジョンゲーム交流事業
			② 障がい者スポーツ体験交流事業
			③ 競技者環境整備事業（障がい者との伴走体験等）
7	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会	3,000	**長野県における障がい者のスポーツ活動環境強化支援事業**
			① 障がい者スポーツ体験教室開催事業
			② アスリートセミナー開催事業
8	公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会	3,000	**静岡県における障がい者スポーツの地域連携普及促進事業**
			① チャレンジスポーツ教室開催事業
			② 障がい者スポーツ指導員スキルアップ研修会開催事業
			③ 静岡県障がい者スポーツフォーラム開催事業
9	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	3,000	**兵庫県における障がい者スポーツの連携推進**
			① 障がいのない方も参加できる障がい者のスポーツ・レクリエーション教室の開催
			② 障がい者スポーツフェスティバルの開催
			③ 障がい者スポーツ普及啓発講演会の開催
10	一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会	2,000	**鳥取県障がい者スポーツ振興事業**
			① 障がい者スポーツ教室開催事業
			② 障がい者スポーツ指導者の育成事業
			③ 障がい者スポーツ理解啓発事業（大会等イベントも含む）
11	広島県障害者スポーツ協会	3,000	**広島県における障がい者スポーツ振興事業・地域推進事業**
			① 地域推進事業（スポーツ推進委員等を対象としたスポーツ体験事業）
			② 障がい者スポーツ紹介事業＆体験事業＆障害者スポーツ理解啓発イベント
12	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	3,000	**山口県における障害者スポーツ地域推進事業**
			① 地域障害者スポーツ教室開催事業
			② 障害者スポーツ体験教室開催事業
			③ 障害者交流スポーツ大会開催事業
			④ 障害者スポーツ指導者養成及び派遣事業
13	愛媛県障がい者スポーツ協会	2,000	**愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業**
			① 障がい者サイクリング大会(しまなみ海道と島四国めぐり)
			② 障がい者ハンドサイクル等体験会
			③ 障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）
			④ 障がい者スポーツ競技理解体験会（ボランティアスタッフ等）
14	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	2,000	**障がい者スポーツコミュニティーおきなわ**
			① 知的障がい者福祉施設スポーツ・レク祭り
			② 障がい者バスケットボール教室
			③ 聴覚障害者バレーボール教室
		34,300	

実 施 概 要

実施団体名	北海道障がい者スポーツ協会
事　業　名	北海道における障がい児者スポーツの振興事業 ①全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆「スポーツ王国北海道」の実現を目指す本道は、「する人」、「観る人」、「支える（育てる）人」に着目した取組を行い、①子供の運動・スポーツ機会の促進②世界の舞台で活躍する競技者の育成③若者から高齢者までのライフステージに応じた地域スポーツ活動の推進などを計画しているが、その中でも、障がい者スポーツは、健康の保持増進ばかりでなく、出会いやふれあいを通して、社会参加への意欲、競技力や記録の向上を目指すことで自己実現のきっかけなど、大きな意義がある。

また、本道では、パラリンピックなどの国際大会をはじめ、道内外の障がい者スポーツ大会で、多くの選手が活躍している。

こうした中、障がい者が自らの選択と決定により、社会のあらゆる活動に参加し、生きがいを持って生活できるような地域社会の実現が求められる。また、次世代の、世界の舞台で活躍する競技者を育成するためには、子ども達に、運動に親しむ機会をつくり、運動やスポーツの楽しさを実感させながら、競技人口の裾野の拡大を図ることが必要である。

【地域の実情・課題点】

◆本道の障がい者スポーツ振興事業では、いまだ、小中学校の特別支援学級の児童生徒のスポーツ支援が立ち遅れている現状にあり、障がい者スポーツ人口の裾野の拡大を図るためには、基盤となる年齢層の支援促進が求められている。

また、本道は、他県にない広い面積と多数の市町村（179 市町村）を有しており、全道各地の障がいのある児童生徒に対して、適切な指導員及び必要な支援を行うための体制が整備されていない。

広域な本道においては、スポーツ事業の開催地が道央圏に集中する傾向にあり、地方の都市部まで事業効果が浸透しないことから、障がい者スポーツの認知度が低い状況にある。

さらに、道内では大規模で専門的な障がい者スポーツセンターが無いことから、スポーツの支援活動するための会場の確保に苦慮しており、障がい者スポーツ指導員の活動の場が制約されている。

2 年前から、日本障がい者スポーツ協会から受託し本事業を行っているが、本年度は、未開拓の地域や未実施の学校に対して重点的にアプローチし、障がいのある児童生徒のスポーツを日常化するための巡回教室を効果的に推し進めていく。

【事業の目的・ねらい】

◆本道の障がい児者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、スポーツ教室を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を促し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図るものであり、特別支援学校と比較して、スポーツ環境が整っていない特別支援学級の児童生徒を事業の対象としている。道内の小中学校の特別支援学級の児童生徒が、日頃からスポーツに親しむことにより、心身の成長とともに、それぞれのライフステージにおいて、スポーツを楽しむ意欲と体力が醸成される。

【事業内容】

◆全道の小中学校を巡回し、障がい児者のスポーツ教室を実施する。
・教室内容例（ハンドサイクル、車いす体験、フライングディスク、ボッチャ、ディスクゴルフ等）
・道内の障がい者スポーツ指導員に、ボランティアを募る。
・参加者募集のため、チラシを作成する。プログラム及び資料を作成する。

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆本事業の継続性を重視し、指導経験が豊富な上級障がい者スポーツ指導員をメイン講師に据え、教室の企画から運営までを主導した。
◆資格を有する地域の公認スポーツ指導員を対象にボランティアを募集し、教室当日のスタッフとして協力を得た。

【連携・協力団体】

◆NPO 法人あ・りーさだ、特別支援学校、北海道特別支援学級設置学校長協会、北海道内の小中学校

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

前年度に教室を実施した複数の学校から、違うスポーツもやってみたいという希望があり、子どもたちが興味を持ちそうな競技用車椅子などを数台購入し、教室メニューに取り入れた。

◆今回の事業後の管理方法と活用予定

本事業に活用することを主目的に当協会において管理し、必要に応じて長期の貸出しも行う予定である。

【事業成果】

◆支援学級と通常学級の混合教室を実施し、児童生徒がともに新しいスポーツを体験し、楽しく過ごす時間を共有した。共通の体験が、お互いの距離を縮め、相互理解を深めることができた。
◆障がいのある児童・生徒たちが、教室の体験を通じて、からだを動かすことの楽しさやスポーツの達成感を得ることが出来た。日常生活への好影響やスポーツ意欲の向上が期待できる。
◆広大な面積の本道において、３年かけて全ての区域（全１４エリア）で本教室の実施を達成することができた。実施エリアの拡充は、本教室の成果のバロメーターでもある。

【事業の今後の必要性】

◆豊かなスポーツ環境づくりを目指し、ピラミッドの裾野を成す「普及」を促進するためには、本事業を今後も継続していく必要がある。
◆今後は、①離島の学校での開催、②都市部よりも地方の学校での開催、③地方のボランティア団体との協力などを計画策定し、地域に根付いた障がい児者スポーツのネットワークを全道に築いていく所存である。

実 施 概 要

実施団体名	宮城県障害者スポーツ協会
事　業　名	障がい者のスポーツ教室事業 ①障害児運動・あそびの広場開催 ②卓球バレー交流会開催　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆平成 25 年度に策定された「宮城県スポーツ推進計画」では、施策の柱にとして「生涯にわたるスポーツ活動の推進」があり、その基本方向「子供の遊ぶ（身体活動）機会の創出」の中で、「児童生徒の障がいの種類や程度に応じて、安全にあそび（身体活動）ができるように配慮します。」とされている。また、支援学校の部活動の充実も目標とされている。また、（公財）宮城県体育協会の事業計画の中に、障がい者スポーツの支援が謳われており、当協会との連携協力及び競技団体と当協会が連携し大会を開催することが目標とされている。

【地域の実情・課題点】

◆「未就学児および児童のあそび場がないという」保護者からの要望をもとに、平成 22 年 12 月から県内各地において「障がい児運動・あそびの広場」を開催してきた。当初は、仙台市内での活動であったが、市外から参加者が徐々に増え始め、保護者からの要望もあり県内各地域での活動を求められてきた。
◆事業実施をとおし、地域の障がい者スポーツ指導員を中心とし、地域総合型スポーツクラブ、大学生、ボランティアの協力のもと、事業が継続して開催できる体制をつくる。

【事業の目的・ねらい】

◆障がい児が身体を動かせる機会や場所を提供し、障がい児の健康増進、運動あそびの実践の機会つくりをサポートすることを目的とする。
◆県内の卓球バレーの普及と大会開催により意欲を高めるとともに広く社会参加促進を目的とする。

【事業内容】

◆障害児運動・あそびの広場開催事業
マット、平均台、フライングディスク、パラシュート、バルバレー、ティーボール等を使用しながら、遊びを通して体を動かすことの楽しさを身つける。
◆卓球バレー交流会開催事業
交流大会、体験会、指導者養成講習会（全 5 回）

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆高齢化と固定化が課題となっているが、リーダーとして指導を行った。
◆認定校をはじめとする大学生、専門学校生に事業運営の補助を依頼し、障がい者スポーツ指導員が学生に対し指導、アドバイスを行った。

【連携・協力団体】

◆宮城県身体障害者福祉協会、宮城県障害者社会参加推進センター、ＮＰＯ法人アクアゆめクラブ、ＮＰＯ法人多賀城市民スポーツクラブ、富谷市身体障害者福祉協会、ＮＰＯ法人石巻市体育協会、宮城県卓球バレー協会設立準備委員会、石巻専修大学、東北福祉大学、宮城学院女子大学、東北文化学園大学、東北大学ラクビー部

【スポーツ用具について】

◆障害児運動・あそびの広場開催事業
・レクリエーション用具（釣りっこ、バルバレー、ディスゲッター9、ストライクボウリング、忍者ランドセット、多目的健康バレーネット）
スポーツ用具やレクリエーション用具は、高価なため設置している施設も少なく、あそびの広場については、参加者のニーズに合わせ、数多くの種類を用意しなければならず、現状では不足していたので、この度の購入で対応をすることができた。
◆卓球バレー交流会開催事業
・卓球バレー用具セット
体験教室、大会、審判養成を独自で実施できる用具の充実化を図ることができた。多くの方の受け入れが可能になっただけではなく、総合型クラブ指導者などへも貸出しを行うことができるようになり、今後幅広い地域での展開ができるようになった。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
備品は当協会にて管理し、メンテナンスを行うこととした。また、レクリエーション用具を充実することで、メニューのバリエーションが多様化できたため、今後の事業において、参加者のニーズに合わせて引き続き使用していく。

【事業成果】

◆児童とボランティアがマンツーマンで活動することで、保護者同士の情報交換の場を確保することができた。
◆協力団体（大学生同士）の連携、交流を図ることができた。
◆卓球バレーの手軽さと楽しさを体験してもらうことで、ある地域総合型スポーツクラブの指導者が興味を示し、用具を購入し普及へのきっかけづくりとなった。

【事業の今後の必要性】

◆今回の事業で連携できた関係各所とは今後も更なる連携を図ると共に、実施していない地域での普及活動を行うなど、県内全域へ広がっていくように強化していく。
◆地域総合型スポーツクラブなどと各地域での開催を目指すとともに、専門の指導者の育成が必要である。

実 施 概 要

実施団体名	スポーツふくしま元気向上計画
事　業　名	①地域スポーツ教室運動機会提供事業 ②陸上競技指導員・審判育成事業　　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆本県は、東日本大震災の影響により、屋外での運動が制限されたことに伴い、県民の運動不足が問題となった。その改善案として豊かなスポーツライフの創造性を目指すため、「楽しむ」、「育む」、「競う」、「つなぐ」の 4 つの視点から 8 つの推進施策を掲げた。
◆今年度より障がい福祉課からスポーツ課に移管されたことから、本県において障がい者スポーツは一般スポーツと一元化し、障がいのあるなしに関わらずスポーツ振興を図っている。

【地域の実情・課題点】

◆平成 25 年度に障がい者スポーツ指導者協議会の組織を 3 支部に再編した。その結果今までスポーツに親しむ機会の少なかった人たちが参加するようになった。平成 28 年度からは 3 支部体制から 6 支部体制とし、現在開催している地域スポーツ教室の拡大を図る。また、地域スポーツ教室に参加した選手の中から、パラリンピック等の強化選手の発掘を実施したい。
◆2017 年に福島県でジャパンパラ陸上競技大会の開催が決定し、選手はもちろん、陸上競技に関わる指導員の熱も高まっている。これを追い風にしてスポーツ振興を図りたい。

【事業の目的・ねらい】

◆地域において障がい者スポーツ教室を実施し、活性化することで当事者が気軽にスポーツできる環境づくりをより活性化する。重度の障がい児・者を対象に実施することで、当事者だけでなく保護者にとっても貴重な体験を提供することができ、今後の生活や社会参加等にプラスの効果を生み出すことを目的とする。また、併せて運動導入指導を行い、当事者と保護者が一緒にスポーツをし、成功体験をしてもらうことを目的とする。
◆より専門的な指導員、審判員を育成するために審判講習会を実施し、2017 年のジャパンパラ陸上競技大会だけで終わることのないように、継続的に活躍できる指導員、審判員の育成を目的とする。

【事業内容】

◆地域スポーツ教室　運動機会提供事業
　6 地域において障がい者スポーツ教室を開催した。種目はフライングディスク、ボッチャ、卓球バレー等の集団種目を実施。
◆陸上競技指導員・審判員育成事業
　陸上審判講習、陸上競技運営講習、医療スタッフ講習、総務運営講習

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆障がい者スポーツ指導員が主体となり、地域スポーツ教室の運営・進行を行っている。参加者とその保護者とコミュニケ―ションをとりながら、各参加者の障がい状況考慮し、楽しく目標を持ってスポーツに取り組めるよう指導している。また、指導員間でも情報を交換し、共有することでより良い教室となるよう努めている。
◆福島パラ陸上競技協会には数多くの障がい者スポーツ指導員が所属しており、今回の審判講習会を受講したことで、ジャパンパラ陸上競技大会だけでなく、それ以降の陸上競技教室での指導にも活かしていく。

【連携・協力団体】

◆福島県障がい者フライングディスク協会、福島県ボッチャ協会、会津若松市、会津若松市教育委員会、会津若松市社会福祉協議会、会津若松市ボランティア連絡協議会、会津若松市身体障がい者福祉会、障害者の明日を考える会、東北発電工業労働組合　会津分会、いわきサンアビリティーズサポータークラブ、福島県文化スポーツ局スポーツ課、日本パラ陸上競技連盟、福島陸上競技協会、福島パラ陸上競技協会

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
　・フライングディスクとアキュラシーゴールに関しては、各支部のスポーツ教室にて活用し、多くの参加者に楽しんでいただいた。ルールが分かりやすいため、人気があり、障がいの程度によってゴールの距離を調整し行った。
　・スポーツ吹き矢に関しては、特に会津支部で人気があり、一度やると次もやりたくなる中毒性があるようでリピーターが多い人気競技となった。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
　・今後は各支部で１セットずつ管理し、各支部で持っている倉庫で管理する。今後も地域のスポーツ教室で活用していく。

【事業成果】

事業①：障がいのある当事者が身近な地域で定期的に運動をする機会を設けることができた。また、障がい状況やニーズに合わせたスポーツ指導を行うことで、保護者等も参加しやすい環境で開催できた。
事業②：審判講習会を開催することで、国際陸上競技連盟競技会規則と IPC 陸上競技規則の共通点と相違点について学ぶことができ、指導員のスキルアップに繋がった。

【事業の今後の必要性】

事業①：各地域でのスポーツ教室を継続的に開催し、身近な地域でスポーツができる環境づくりを行っていく。また、自治体との連携を全支部で行うため周知の徹底に努めていく。次年度は総合型地域スポーツクラブとの連携も視野に入れる。
事業②：ジャパンパラ陸上競技大会開催前に再度実施する。その後も、定期的に開催し、指導員のスキルアップ及びパラ陸上競技指導員の育成に力を入れていく。

実 施 概 要

実施団体名	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
事　業　名	埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域） ①障がい者スポーツ体験交流会　　〔130 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆県スポーツ推進計画は平成 25 年度から 29 年度までの 5 か年計画であり、幼児から高齢者まで、性別や障がいの有無にかかわらず、全ての県民が生涯にわたってスポーツと関わる活動全般を対象としおり、「生涯にわたるスポーツ活動の推進」、「国内・国際大会に向けた競技スポーツの推進」の項目において、障がい者スポーツに関する記載がされている。

【地域の実情・課題点】

◆協会、県障害者交流センターが所在する県南部でのスポーツ活動の場は広まってきている。しかし、県北部ではスポーツ活動の場が少ないことや、遠方で行くことができない状況にあり、環境の整備・普及が望まれている。特に、秩父地域（秩父市+秩父郡）については、他方面へのアクセスが悪いため、より身近な地域でのスポーツ活動の場が求められていると予想されるが、情報を得る機会が少なく、地域での活動状況を十分に把握できていない。
◆県全体としての障がい者スポーツ指導員の登録人数は多いが、登録者・活動の場には地域による偏りがあり、地域と障がい者スポーツ指導員をどのように繋ぐかが課題である。県北部は登録者が少ない状況にあるため、継続した活動を実施していくには共にスポーツ活動をすすめる地域の人材の掘りおこし、育成を図る必要がある。

【事業の目的・ねらい】

◆地域の実情に応じた、地域で自立したスポーツ活動ができるよう基盤を整備する。
◆地域の人と組織をつなぐ。
◆スポーツ活動をすすめる地域の人材の掘りおこし、育成を図る。
◆平成 28 年度初級障がい者スポーツ指導員講習会は県北部で開催予定のため、受講者の地域での活動のきっかけをつくり、取得後は実践をふまえながら地域での活動の場づくりを行う。
◆重度障がい児者が身近な地域でスポーツにふれあう機会をつくる。

【事業内容】

◆障がい者スポーツ体験交流会
　計６か所（内１か所は２回実施）でのボッチャ、フライングディスク、カーリング、スカットボール、テーブルホッケー、卓球バレー等のデモンストレーションと体験
◆報告会・振り返り会（事業実施団体関係者が参加）
　・交流会実施団体からの報告（あらかじめ提出した報告書にそって）
　・29 年度実施にむけて意見交換
　・今後の取り組みについて、それぞれの立場でやるべきことを整理

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆秩父地域での継続した活動につなげるため、秩父地域及び近隣市町在住の障がい者スポーツ指導員に限定して協力を依頼し、体験交流会の運営をサポートしてもらった。
◆体験交流会では、ルール説明や審判等の運営としての役割とともに、参加者と一緒に活動・交流し、スポーツの楽しさを共有・広める大切な役割を担ってくれた。

【連携・協力団体】

◆行政（健康福祉課等）、身体障害者福祉協会、障害者活動センター、社会福祉法人清心会、開催地域教育委員会、特別支援学校、県特別支援学校体育連盟、障がい者交流センター

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
　・ボッチャのボールセット、フライングディスク用具を購入し、体験交流会を実施することができた。
　・交流会実施後に、交流会実施団体へ貸出しを行うことができた。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
　・協会にて備品を保管し、貸出備品として地域での継続したスポーツ活動に使用していただく。
　・今後、地域に備品を整備できるよう、教育局や特別支援学校と連携し、拠点のあり方について検討していく。

【事業成果】

◆体験交流会実施前に、行政職員にスポーツ活動の実態について聞き取りを行ったことで、スポーツ活動の状況把握が進んだ。
◆体験交流会・準備会を通して、障がいのある人や周りにいる人にスポーツの楽しさを実感してもらうことができ、12 月に県南部で開催したボッチャ大会に体験交流会実施団体からチームが参加することにも繋がった。また、町民やスポーツ推進委員の参加もあり、新しい人と人との繋がりや、障がいのある人のスポーツへの理解・啓発の機会にもなった。

【事業の今後の必要性】

◆より充実した事業にするため、行政、体験交流会実施団体等の関係団体と連携を図りながら、スポーツにふれあう機会や親しむ機会を増やし、人材の掘りおこしと育成ができるよう取り組んでいく必要がある。また、次年度は、新たにスポーツ推進委員との繋がりを目指していきたい。

実 施 概 要

実施団体名	石川県障害者スポーツ協会
事　業　名	石川県における障がい者スポーツの振興事業 ①障害者スポーツ選手発掘・育成事業 ②障害者スポーツ活性化事業 ③障害者スポーツ指導員・支援者研修会　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆県の教育振興計画には、スポーツ分野の主な取り組みが示され、平成 29 年度からは県体育協会が知事部局となることが決定した。しかし、障害者スポーツに関する事業は、福祉行政中心で「指導員の養成目標数や生涯スポーツの一つとして普及・振興を図るとする」という目標は示されているだけであり、教育と福祉の調整・連携が十分でない。

【地域の実情・課題点】

◆平成 3 年「ほほえみ石川大会」をきっかけに、当時は北陸三県のなかでも早くから障がい者のスポーツクラブや団体が設立されたが、20 年経ち県内の障害者の増減がほとんど見られない中、障害者スポーツ人口は高齢化と大会等への参加者の減少が進んでいる。また、一部のクラブを除きそのほとんどが①若人、新規会員の加入が少ない②現役選手、指導者・支援者の高齢化と不足の状況からクラブ存続の危機になっている。

【事業の目的・ねらい】

◆地域に根差した障害者スポーツの理解と促進を進めるため、関係団体と共同イベント事業の実施や支援事業の開催を通じ、障害の有無にかかわらず、誰もが身近な地域でスポーツを楽しめる環境とニーズに答えることができるスポーツの在り方を具体化する。
◆スポーツ環境が都市部に集中しているため、スポーツ体験教室を都市部近郊において開催する。
◆障がい者スポーツ指導員の活動・機会の拡大、支援者、スタッフの育成も図る。また、指導員認定校に活動の場を提供し、地域スポーツクラブやスポーツ関係団体との連携強化、地域における活動基盤をつくり、継続的にスポーツのできる環境を整備する。

【事業内容】

◆アーチェリー教室
若人だけでなく幅広い年齢層にアーチェリーの魅力を伝え、集客を図ることを目的に新しい用具を購入し初心者への体験教室も併せ、経験者の技術向上に向けたプログラムを行った。
◆障害者スポーツ強化練習会
全国障害者スポーツ大会の強化選手や各競技クラブ選手を中心に、スポーツ体験（フライングディスク、陸上競技、水泳、卓球、ＳＴＴ、ボッチャ）を開催し、興味を深めてもらうこと。また、障害者スポーツ指導員の強化とニーズに沿ったプログラムに取り組んだ。
◆障害者スポーツ体験会
障害者スポーツの関わりが少ない方、健常者を主体に参画を呼びかけ、「知る・観る・触れる」とする体験会の実施
◆障害者スポーツ指導員・支援者研修会

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆障害者スポーツ指導員・支援者研修会においては、種目の紹介やサポート、質疑応答を行いながら話す機会をもち、連携と理解を深めた。また、年齢も様々な中で、事業の企画運営といったコーディネートする過程の中、若手（認定校の学生含む）育成にもつながった。

【連携・協力団体】

◆県教育委員会、県体育協会、各市町社会福祉協議会、市スポーツ事業団、スポーツクラブ、県アーチェリー協会、県障害者アーチェリークラブ、総合型地域スポーツクラブ、県クラブ連絡協議会、かなざわスポーツ推進委員会、MRO ラジオ、読売新聞、北國新聞、星稜大学、北陸学院大学、PTA、県婦人団体
◆事業をとおし関係性が深まり、講師、サポートだけでなく、資料作成をお願いした。

【スポーツ用具について】

◆アーチェリー用具の購入により、数の不足、ジュニア用、左利き用、練習用という問題は解決できた。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
　保管と点検は、その種目団体が行い、借用や購入に際しての必要な指導、アドバイスも含めて対応することとしている。

【事業成果】

◆指導員の派遣や専門職派遣費用が各地によって差がある事、事業費の開催地や機関が持つ連絡網と組織力のある地域は都市より郊外に多いことを知ることができた。
◆地元のケーブルテレビを中心に報道関係と連携し、県民への理解を深めることができた。
◆新たな地域での事業開催により、各機関との連携や障害者スポーツの普及振興と強化には、効果がみられた。

【事業の今後の必要性】

◆継続と発展のためにも、人が変われば中身も変わるということがないように目標と課題を共有していくことが必要。
◆参加者や支援者の疑問やニーズに応えられるための体制づくりが必要。
◆競技力、技術向上に向けたニーズに応えられるように指導員の質の向上、専門性が課題である。
◆各市町に障がい者スポーツ部局の設立及び予算化されてきていることは好ましいが、事業日程の集中から会場が確保できない。また、整備不足、人材や専門職が少ない費用が足りないことも課題である

実 施 概 要

実施団体名	しあわせ福井スポーツ協会
事　業　名	福井県障がい者スポーツ交流推進事業 ①障がい者スポーツエキシビジョン　ゲーム交流会 ②障がい者スポーツ体験交流事業 ③競技者環境整備事業（障がい者との伴走体験等）　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆平成 24 年 3 月「福井県スポーツ推進計画」が策定され、障がい者スポーツは「ユニバーサルスポーツの推進」として、障がいのある人が、スポーツ活動に気軽に参加できるよう、体験教室の開催、指導者の養成、スポーツ活動ができる場を確保することとしている。
◆平成 30 年の「福井しあわせ元気大会（第 18 回全国障害者スポーツ大会）」の開催に向け、障がい者の社会参加や障がいに対する理解を深めていく必要がある。

【地域の実情・課題点】

◆平成 30 年の「福井しあわせ元気大会」開催を契機に、平成 26 年 4 月に県協会を設立し 3 年目になるが、より一層、協会の役割として障がい者のスポーツの普及が望まれている。
◆「福井しあわせ元気大会」の開催県として全競技に出場できるが、陸上競技、車椅子バスケットボール、バレーボールの選手が不足している。特に、車椅子バスケットボールは、選手が高齢化・固定化しており、若手選手の発掘が急務である。また、陸上競技では、視覚障がい者の伴走者の養成が課題となっている。
◆障害の有無を越え、すべての人に開かれた、「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」の両大会の融合を目指しているため、健常者と障害のある者がスポーツの楽しさを共に味わい、障がい者の社会参加や障害に対する理解を深めるための取り組みが必要な状況にある。

【事業の目的・ねらい】

◆「福井しあわせ元気大会」に向け、県民が全国トップレベルの障がい者スポーツの観戦や体験することにより、健常者と障がいのある者が共にスポーツの楽しさを味わい、障がい者の社会参加や障がいに対する理解を促進するとともに、大会への関心を高める。
◆大会に向けた陸上競技、車椅子バスケットボールの選手育成・競技力向上および視覚障がい者の陸上競技伴走者の育成を図る。

【事業内容】

◆障がい者スポーツエキシビションゲーム交流事業（車椅子バスケットボール）
　①車椅子バスケットボールエキシビションゲーム　②車椅子バスケットボール交流体験会
◆障がい者スポーツ体験交流事業
　①エンゼルこどもサマーフェスタ in ハピリン　②障がい者スポーツ出前体験教室　③障がい者スポーツクラブ・サークル冊子作成・配布
◆陸上競技普及推進事業
　①県内の障がい者スポーツ強化陸上競技選手と一般の小中学生、高校生を対象にトップアスリートによる陸上競技講習会を実施
　②日本盲人マラソン協会の講師による伴走講習会を実施

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆競技団体が中心となって講習会等の運営を行うため、障がい者への対応に不安があったが、障がい者スポーツ指導員が受付、参加者誘導、声かけなど補助的な役割を担い、競技団体のサポートをしてもらった。
◆イベントでは、障がい者の選手と健常者の選手が一堂に会することになったが、指導員により会場内や駐車場で円滑に選手誘導を行うとともに、速やかに観客等にアンケート調査を行い情報収集した。

【連携・協力団体】

◆福井県、県バスケットボール協会、県車椅子バスケットボール連盟、県民スポーツ祭実行委員会、福井陸上競技協会、県障害者フライングディスク協会、県身体障害者陸上競技協会、特定非営利活動法人 日本盲人マラソン協会、福井楽障クラブ

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
　今まで、大人用の競技用車椅子で児童を対象に車椅子体験教室やイベントを行っていたが、ジュニア用のスポーツ車椅子および障がい児用陸上車椅子を購入したことで、対象を小学校中学年まで広げた事業を実施することができた。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
　①当協会にて備品を保管し、ホームページで競技用具として貸し出し、障がい者スポーツの普及として活用する。
　②車椅子バスケットボールや陸上競技の若手選手発掘のため、アスリート練習時に借用要望があった際対応する。

【事業成果】

◆障がい者スポーツ指導員の活動の場が少ないことが課題であったが、当事業で多くのイベント開催で、活動する場や機会を増やした。
◆健常者の県レベルの競技大会の中で、全国トップレベルの障がい者スポーツ選手を招聘し、車椅子バスケットボールエキシビションゲームを実施した結果、障がい者スポーツに関心が低かった人に競技の魅力や迫力を伝える機会となった。また、健常者と障がい者が一緒にバスケットボールを楽しむことで、相互理解が深められた。
◆県内の障がい者スポーツクラブ・サークルの情報を集めた冊子を作成したことで、障がい者スポーツの活動実態を把握するとともに、気軽にスポーツに取り組める環境づくりとなった。

【事業の今後の必要性】

◆事業①⇒健常者の競技大会に障がい者の試合を組み込むことは、競技団体の理解・協力、時間および会場規模から課題が多く、競技団体内に障がい者スポーツへの理解を広く浸透させることが重要。
◆事業②⇒出前体験教室の開催地域に偏りがみられた。広域での開催および各地域で平日に活動できる指導者とスタッフの確保が課題。
◆事業③⇒健常者と障がい者が共に障がい者トップアスリートから競技指導を受けることは、競技力向上および障がい者の理解・促進に直結するため、継続して、様々な競技で実施していくことが必要。また、健常者と障がい者が、身近な地域で共にスポーツができる受け皿づくりが重要。

実 施 概 要

実施団体名	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会
事　業　名	長野県における障がい者のスポーツ活動環境強化支援事業 ①障がい者スポーツ体験教室開催事業 ②アスリートセミナー開催事業　　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆「長野県スポーツ推進計画」（H25.3 策定）における位置づけ
・計画の基本理念に「県民一人一人が、年齢や性別、障害の有無等を問わず、関心や適性等に応じて日常的にスポーツに親しめる環境を整える」とした上で、障がい者スポーツに関する政策展開や目標を定めている。
◆県の特徴
・「冬季パラリンピック（1998 年）」と「SO 冬季大会（2005 年）」の２つの両世界大会を開催したのは全国唯一。
・長野県障がい者スポーツ協会と長野県障がい者福祉センター（サンアップル）が、本県の振興の牽引役。

【地域の実情・課題点】

◆障がい当事者に関しては、年々障がい者は増加しているが、スポーツを行う障がい者数は減少傾向である。また、国際舞台や国内大会で活躍できる本県出身のアスリートも減少傾向であり、障がい者スポーツ競技団体への新規入会者が増えないことも課題である。
◆県民の障がい者スポーツへの参加、協力、支援の輪が広がらない。（冬季パラリンピックや SO のときの応援機運が維持されていない）
◆障がい者スポーツの振興体制については、長野県障がい者スポーツ協会や障がい者スポーツ競技団体（26）の組織・経営基盤が脆弱。
障がい者スポーツ指導員の活躍の機会が少ない、健常者のスポーツ団体等との連携が不足が挙げられる。

【事業の目的・ねらい】

◆すそ野の拡大：地域に身近な場所でスポーツに親しむ障がい者を増やしていくための取組み。
◆競技力の向上：東京パラリンピックを目指すアスリートの発掘・育成
◆県民の理解促進と応援ムーブメント向上：障がい者スポーツへの関心度を高める取組み。

【事業内容】

◆障がい者スポーツ体験教室開催事業
①障がい者（児）へのスポーツ導入の契機づくり　②スポーツを勧められる立場の者へのアプローチ
③地域での支援ネットワークづくり　④意欲ある障がい者スポーツ指導員の活躍の場づくり
上記、4 項目を目的に、チアダンス、レクスポ、フライングディスク、バスケットボール用車いす・陸上競技用車いすの体験等を行った。
◆アスリートセミナー開催事業
・競技性の高い舞台を目指すアスリート、コーチ、家族等を対象に、医科学サポートの講義を行った。

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆今回の体験教室では、地区協議会が中心となって企画運営を担当し、地域の一般スポーツ団体との協力関係を築きながら事業を実施した。これにより、地域における障がい者スポーツ指導員の存在や役割について理解が進み、さらなる波及効果（資格希望者の増など）も期待できる。

【連携・協力団体】

◆県教育委員会、特別支援学校、特別支援学校長会、障がい者スポーツ競技団体（車椅子バスケットボール、ボッチャ等）、スポーツ推進委員、県レクリエーション協会、県スポーツドクター協議会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツドクター協議会、県栄養士会、県薬剤師会、松本大学、信州大学　等

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
・バスケットボール用車いすと陸上競技用車いすという高額なスポーツ用具を購入することができたので、すそ野の拡大や障がい者スポーツの理解促進のため、障がいの有無に関わらず多くの者が利用体験できるよう、教室、アスリート講演会、一般スポーツイベントへの貸出展示など、様々な場面で活用していく。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
・最も効果的な活用が期待できる機関等に管理を委託することとした。
・バスケットボール用車いすは、協会の副理事長が代表を務める車椅子バスケットボールチームに管理委託し、障がい者のある子どもの体験利用、健常者車椅子バスケットボールチームとの合同練習、アスリート講演会等で活用していく。
・陸上競技用車いすは、長野県体育センター（従来から用具の貸出事業を実施）に管理委託し、車椅子陸上選手の強化練習に参加する子どもや陸上競技場を利用する者の体験利用のほか、センターの主催スポーツイベント等で活用していく。
・貸出に関しては、各種会議や機関誌、ＨＰ等による貸出情報を広く発信していく。

【事業成果】

◆スポーツ体験教室「地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境づくり」を進める上で、①地域の一般スポーツ関係者等の支援者相互の顔の見える関係づくり、②地域の一般スポーツ関係者による障がい者へのスポーツ指導体験、③障がい者スポーツ指導員の存在と役割の浸透など、予想を超える確実な一歩を踏み出せた。
◆アスリートセミナーでは、今回講師を務めた一般スポーツの専門分野の専門家と今後につながる関係が構築できた。また、これまで支援が不足していた競技力向上の分野に関して、目に見える具体的な取組ができたことで、協会への評価向上にもつながった。

【事業の今後の必要性】

◆スポーツ体験教室では、さらに身近な地域での実施、ネットワークづくり（4⇒10 地区程度）、さらなる連携組織の掘り起こしと拡大が必要である。理解啓発ポスターは、小中学校、障がい者多数雇用事業所等への拡大配布していく。
◆アスリートセミナーは、参加者の利便性向上と県民への情報発信の強化（1⇒2 か所、平日⇒休日等）や、さらに様々な分野の専門家と将来につながる関係づくりをしていく。

実 施 概 要

実施団体名	公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会
事　業　名	静岡県における障がい者スポーツ振興事業 （1）チャレンジスポーツ教室開催 ①スポーツ巡回指導 ②第 2 回障がい者サッカーフェスティバル （2）スポーツフォーラム開催 ①パラリンピック競技体験フォーラム ②障がい者スポーツフォーラム　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆「静岡県スポーツ推進計画」において、基本理念である「『ふじのく』生涯スポーツ社会の実現」のための基本目標のひとつである「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」として、県民誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しむことができる環境の整備を目指し、障害がいのある人とない人が共にスポーツができる機会の提供や、障がい者スポーツ指導員の養成と育成に努めるとしている。

【地域の実情・課題点】

◆障がいのある方の重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーション（人との交流）をしたくても、受入可能な場所が無い、場所はあるが遠くて（ひとり）で行くことが出来ない等の現状を改善するため、県内各地域の公認指導者と地域の連携により、障がい者スポーツの普及が進んでいない地域を重点的にスポーツのできる環境を整えること。

【事業の目的・ねらい】

◆平成 25 年度から継続して地域と連携したスポーツ教室を開催してきたことにより、普及啓発の効果は見えてきており、各市町福祉担当課・生涯スポーツ担当課・医療関係団体との連携も深まった。しかし、教室開催にあたっては県全域に大きく展開してしまったことにより、地域に根付かせることができなかったと思われる。今年度は、障がい者スポーツ環境のないところを重点的に参加を待つのではなく、まず、より狭い範囲の地域に出向き、重度障がい者への対応を含め、障がい者スポーツ環境の格差をなくしていきたい。地域の指導員の掘り起しをしながら、初めてスポーツをする障がいのある方へ参加を促し、生涯スポーツとして継続・発展させたい。

【事業内容】

◆チャレンジスポーツ教室
①スポーツ巡回指導
障がい者スポーツ環境の少ない地区を中心に、県内各所へチラシを配布希望先を募り、指導員を派遣。県内 77 回開催
②サッカーフェスティバル
大会（知的、電動車いす、アンプティー、ソーシャルフットボール、ブラインドの部）
体験会（ブラインドサッカー、アンプティーサッカー、ブラインドサッカー教室、混合）
研修会（サッカー会議）
◆スポーツフォーラム
パラリンピック競技体験フォーラム（講演、バドミントン、車いすバスケットボール体験）
スポーツフォーラム（講演、シッティングバレーボール、ゴールボール、パラバトミントンの実践）

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆スポーツ巡回指導において派遣指導員は、プログラム作成し、指導員同士で事前打ち合わせを行い、教室終了後は報告書の提出をした。

【連携・協力団体】

◆静岡 FID サッカー連盟、県サッカー協会、清水サッカー協会、県電動車椅子サッカー協会、清水ライオンズクラブ、清水ナショナルトレーニングセンター、YONEX、車椅子バスケットボールクラブ、県健康福祉部障害者政策課、各市町障害者福祉担当課、生涯スポーツ担当課、県内特別支援学校、特別支援学級、障がい者各団体、支援団体、精神障害者スポーツ推進協議会、静岡県理学療法士会他

【スポーツ用具について】

◆借用希望のあった施設や学校へ貸出ができるよう、貸出簿を整備し、保管についても定期的に確認をしていく。

【事業成果】

◆継続的実施と新聞等への掲載効果で、事業についての周知が広がり、スポーツをしたことが無い方の申込みも増えてきた。また、障がい者スポーツ指導員養成講習会への参加や問い合わせもさらに増えてきている。
◆県教育委員会の各市町担当者会議や、県スポーツ推進委員連絡協議会、総合型スポーツクラブ連絡協議会でも、障がい者スポーツへの取り組みについてが検討事項には入ることが増えてた。

【事業の今後の必要性】

◆地域での教室開催や研修会・講習会を続けて、県内の障がい者スポーツの地域格差を減らして行 きたい。
◆将来を考え、障がい者スポーツ指導員を増やしていくためには、各障がい者スポーツイベントに小学生・中学生からボランティアなどに参加してもらうことが大切であると感じた。
◆活動していない指導員の掘り起しと活動への自信、活動が集中している指導員の負担軽減のためのも、指導者の育成講習や現任研修の実施及び事業の達成度をより高くするためには、事務局体制の強化も必要である。

実 施 概 要

実施団体名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会
事　業　名	兵庫県における障がい者スポーツの連携推進 ①障がいのない方も参加できる障がい者のスポーツ・レクリエーション教室の開催 ②障がい者スポーツフェスティバルの開催 ③障がい者スポーツ普及啓発講演会の開催　　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆平成 24 年 12 月に「兵庫県スポーツ推進計画」を策定し、重点目標に「障害のある人のスポーツ参加者の増加」を掲げ、スポーツ推進審議会には障がい者スポーツ指導者が参画し、県立特別支援学校などを障がい者スポーツ拠点として整備（施設整備・用具の充実）・活用するなど、新たな事業も展開している。
◆障がい者スポーツ推進の基盤となる競技団体 31 組織が設立されており、県協会からの事業助成を受けて活動を展開しているほか、兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会や全国車いすマラソン大会の開催などにより、障がい者の積極的な社会参加の促進等に取り組んでいる。

【地域の実情・課題点】

◆兵庫県は南北に長く、瀬戸内と日本海にまたがる地理的条件があり、障がい者スポーツ普及の状況についても地域格差は否めない。
◆地域のスポーツ環境や障がい者スポーツ関連の事業数、市町のスポーツ推進委員との関係、公認障がい者スポーツ指導者の活動や地域総合型スポーツクラブの状況等、地域によってさまざまな条件に大きな差がある。
◆地域における障がい者スポーツ推進への問題解決には、競技団体や地域のスポーツ推進組織、指導者協議会員等との協働が求められる。
◆各団体・機関との連携を強化し、障がい者スポーツ・レクリエーション教室の開催、障がい者スポーツ指導者の活用推進、地域スポーツ関係者の理解、教育関係者への呼びかけなどによりこの事業を実施し、障がい者スポーツ参加者数の増加を目指すとともに、今後の障がい者スポーツ推進の基礎となる体制づくりを推進することが目的である。

【事業の目的・ねらい】

◆障がい者スポーツ実施者の拡大を目指し、障がい者スポーツ・レクリエーション教室の地域での企画開催をする。
◆障がいへの理解を促すため、障がい者スポーツを見る・学ぶ・体験する事業（講演・写真展・体験プログラム）を実施する。
◆障がい者スポーツ支援者の拡大を目指し、障がい者スポーツ指導者、一般指導者、教育関係者の参加促進を目指す。
（教室の指導と補助、スポーツイベントのスタッフ参加、障がい者スポーツ体験参加等）、企業の社会貢献

【事業内容】

◆障がいのない方も参加できる障がい者のスポーツ・レクリエーション教室の開催
障がい者のスポーツ参加とあわせ、障がいのない方の参加促進の機会とし、フライングディスク・ローンボウルズ教室を開催。
◆障がい者スポーツフェスティバルの開催
多くの方に「見る、学ぶ、体験する」を促す為、手軽に体験できる形式（ビームライフル・吹き矢等）での実施やパラリンピック写真展示を同時開催
◆障がい者スポーツ普及啓発講演会の開催
障がい者スポーツへの理解・学びを促す為のパラリンピアン等による講演

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆【ねらい】地域格差は否めない現状がある中で、「ひょうご障害者スポーツ指導者協議会」では、会員の連携と活動充実を目的に「地域委員会」を設けている。しかし、スポーツ振興課（スポーツ推進委員含む）、地域スポーツクラブ等との有機的な関係化は十分ではない。兵庫県障害者スポーツ協会が関与し、活用を促進することで、役割が明確となり、「協働」が生まれることを目標とした。
◆事業について、いずれも打合せ、参加者募集、受付け、会場設営・撤去、競技団体と合同での競技主管等、企画実施運営全般に参画した。

【連携・協力団体】

◆県立障害者スポーツ交流館、西宮市スポーツクラブ 21、市スポーツ推進委員会、リハビリテーションセンター、障がい者スポーツネットひょうご、障がい者スポーツ競技団体、障がい者スポーツクラブ、開催地域行政、教育委員会、障がい者施設、特別支援学校、体育施設、宝塚市障害者スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、PTA、自治会、小学校、高等学校　等

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
フライングディスク：老若男女、障がいの種別・程度に関係なくだれでも親しめる用具が整備され、本事業が円滑に取り組めた。
ローンボウルズ：通常サイズに加え、普通ワゴン車への搭載が可能なサイズも購入したことで、少人数かつわずかな費用での運搬、体験会実施等、今後の各地域での普及啓発の可能性が広がった。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
・購入した用具は兵庫県障害者スポーツ協会が管理し、自主事業（普及啓発事業）に活用する。また、今回の連携協力機関が各地域において、連携しながら実施する障がい者スポーツの普及啓発・体験事業等への活用を促し、各地域における普及振興の一助とする。

【事業成果】

◆障がいの有無に関わらず、障がい者スポーツに親しむ姿が注目され、地域、施設等によっては用具の整備を検討したいとのコメントや、公認審判員資格取得の問い合わせなどもあった。
◆当日の企画運営には 11 種の障がい者スポーツ団体（連盟・協会等）が協働できたことが大きな成果である。また、地元ラジオの放送、テレビ放送があり、障がい者スポーツの啓発に大きな効果があった。
◆選手との交流により、スポーツや障がいのある生活等について学ぶ機会を、児童生徒や地域住民、教育関係者に提供できた。

【事業の今後の必要性】

◆手軽に参加できるスポーツとして参加者、支援者が知識・経験がなくても取組め、ユニバーサルスポーツとして普及の可能性を見出した。
◆指導者間の共通意識が芽生え、事業の企画、準備と運営を通じたチームでの取り組み体験が重要であり、継続性へ連動すると確信した。
◆障害を理解する・障害者スポーツを知る機会にはなるが、継続した記憶や次への行動に結びつけることは難しい。よって、意図的な啓発プログラムを企画し継続することが必須であり、パラアスリートバンクや活動の推進体制を整備することが施策と考える。
◆今回の事業参加には、重度障害者、精神障害者や内部障害者の参加が少ないことは気がかりであり「誰もが参加できるスポーツ」への取組みをより目指す必要がある。

実 施 概 要

実施団体名	一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
事　業　名	鳥取県障がい者スポーツ振興事業 ①障がい者スポーツ競技体験教室 ②障がい者スポーツ指導法講習会 ③精神障がい者フットサル体験会及び交流試合　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆鳥取県スポーツ推進計画の目指す姿は、「すべての県民が豊かなスポーツ文化を享受できる鳥取県」である。鳥取県スポーツ戦略会議に、鳥取県体育協会と対等な立場で、障がい者スポーツ協会から会長と事務局長が加わっている。また、県スポーツ課が主催するスポーツ審議会に障がい者スポーツ協会から 3 名出席し、積極的に発言し、様々な年代の人々が年齢や性別、障がい等を問わず、関心、適正に応じてスポーツに参画できる環境を設備し、心豊かな生活を営むことができる社会を 10 年計画で推進している。

【地域の実情・課題点】

◆鳥取県障がい者スポーツ協会は、障害者の自立と社会参加を推進し、共生社会の実現に向け様々な事業を展開している。昨年度、総合型地域スポーツクラブと連携した教室事業を行い、地域での活動を少しずつ推進しているが、指導者不足や新たな人材発掘等の支援・育成体制が十分ではなく、身近な地域でのスポーツを楽しむ環境整備が課題となっている。

【事業の目的・ねらい】

◆障がい者スポーツ協会の自主事業では徐々に参加者が増加しているが、加盟競技団体では指導者不足や新たな人材発掘ができておらず、活動状況はどの団体も脆弱となっていることが顕在化したため、各競技活動を推進し、人材確保と育成を行うことで障がい者が身近な地域で楽しめるネットワークを構築したい。
◆関係団体と連携体制を構築し、選手発掘や指導者育成ができる仕組作り、地域のスポーツに参加できる環境づくりの推進。

【事業内容】

◆障がい者スポーツ競技体験教室
　障がい者陸上競技体験会、FID バスケットボール体験教室、障がい者水中運動教室
◆障がい者スポーツ指導法講習会
　陸上競技指導者及び保護者対象講習会、FID バスケットボール指導者講習会、障がい者水中運動指導者講習会
◆精神障がい者フットサル体験会
　フットサルの体験及びレクリエーション、プロサッカーチーム選手、スタッフを配置しグループ練習、交流試合

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆障がい者スポーツが身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境を整えるため、本協会加盟競技団体、障がい者スポーツ指導者協議会に加え県体育協会加盟競技団体にも中心的に関わって頂き、障がい者への対応や専門的な指導を行って頂く為の指導者育成事業を実施した。その後の教室事業企画や運営を行い充実した事業となった。教室前に指導者講習会を実施することで指導者の指導に対する不安を軽減し、知識の再習得ができたことは効果的であった。

【連携・協力団体】

◆鳥取県、県陸上競技協会、県パラ陸上競技協会、県理学療法士会、県体育協会、一般企業、県内の特別支援学校、県障がい者スポーツ協会加盟競技団体、県体育協会加盟競技団体、SON 鳥取、スポーツ推進委員、鳥取県精神保健福祉センター、県・市町村社会福祉協議会、鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、ガイナーレ鳥取、医療福祉センター、就労継続支援施設

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
　各競技団体から事業実施に必要な用具を聞き取り、陸上競技で使用するケア・トレーニング用品等の購入をした。他にも参加者や施設の状況に合わせた用具の購入により幅広い方々に対応できた。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
　当協会にて保管し、定期点検を行う。また、今回の事業を一過性にせず各団体と協力して活用していきたい。

【事業成果】

◆全事業で幅広い世代から多くの参加があり、専門的なスポーツに触れるきっかけになった。参加者の満足度も高く、今後の障がい者スポーツ活動の発展に繋がる足がかりとなった。FID バスケットボールについては、これまで男子チームのみであったが、本事業をきっかけに女子チームを発足できることとなった。
◆各事業でプロスポーツチームや、中央競技団体、県内のトップ指導者に指導を受けることで、指導者やスタッフの資質向上と障がい者スポーツの理解啓発となり、有意義な事業を実施することができた。

【事業の今後の必要性】

◆今後、継続的に各教室実施を目指す中で、全事業において指導者の確保が課題となった。スポーツ指導者以外の地域在住指導者の参加が少なかったこともあり、更なる理解啓発を広げる活動を行い、スポーツ指導者以外でも関わる指導者育成を推進したい。そのため各競技団体や関係機関と年間を通した連携をしていくことが競技団体育成に必要である。

実 施 概 要

実施団体名	広島県障害者スポーツ協会
事　業　名	広島県における障がい者スポーツ振興事業 ①組織連携推進強化事業 ②障がい者スポーツ理解啓発事業　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆「東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部」が設置され、関連事業を総合的かつ計画的に推進するための検討や、国際大会誘致等の取り組みが進められている。障害者スポーツの現状を踏まえ、広島県障害者プランや広島県スポーツ推進計画に取り組んでいる。

【地域の実情・課題点】

◆広島県内の現状は、広島県立障害者スポーツ交流センターと広島市心身障害者福祉センターが障害者スポーツの拠点となって活動している。県障害者スポーツ協会と広島県障害者スポーツ指導者協議会の事務局が交流センターにあることから、これから障がい者スポーツの振興・地域推進を行うことにより、スポーツ協会・指導者協議会の更なる発展に繋げていくためにも本事業実施が不可欠である。

【事業の目的・ねらい】

◆現在、実働されているスポーツ指導員は県内でも数十人しかいないので、スポーツ推進委員や地域の指導員、理学療法士に関わってもらうことにより、障がいのある人が地元で何かのスポーツやレクリエーション等に参加できるような体制づくりと地域の拠点・キーパーソンの確保。
◆パラリンピック個人種目の紹介や体験を行うことにより、選手の発掘や障がい者スポーツの啓発に繋げる。

【事業内容】

◆地域推進事業(スポーツ推進委員等を対象としたスポーツ体験事業
　広島県内 4 カ所で地域のスポーツ推進委員会、総合型地域スポーツクラブ会員、障がい者スポーツ指導員、理学療法士を対象に障がい者スポーツを体験してもらい、障がいのある人のスポーツ参加のきっかけとする。
◆障がい者スポーツ紹介＆体験事業＆障がい者スポーツ理解啓発イベント
　パラリンピックの個人種目の体験会と実技指導やパラリンピック出場選手による講演会及び体験ブースでの指導

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆本県における障がい者スポーツ振興の課題として、障がい者スポーツ指導員資格取得後、各地域で実際に指導を行える指導員が少ない事が挙げられており、障がい者スポーツ指導員の積極的な参加を呼び掛けた。本事業の実施により、各地域の障がい者スポーツ指導員に対する指導の知識習得とスキルの向上に繋げることができた。また、理学療法士や学校教員、各種スポーツクラブ指導員等、障がい者スポーツ指導員資格を取得していない参加者が、指導者資格への興味・関心を持ち、障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講する等、指導者の養成に繋げることができた。

【連携・協力団体】

◆県教育委員会、県理学療法士会、県特別支援学校校長会、県社会福祉協議会、県身体障害者団体連合会、広島大学（アダプテッドサポートクラブ)、広島大学病院スポーツ医科学センター、県立広島大学（アダプテッドサポートクラブ)、障がい者スポーツ競技団体、県立障害者リハビリテーションセンター、県体育協会、市教育委員会、(株)チャレンジド・アソウ、障害者スポーツ選手雇用センターC's Athlete 等

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
　これまで公式用具が不足しており、他の用具で代用し、ルールを簡略化するなどのレクリエーション要素を重視した内容をしていたが、用具の購入により、より競技に近い形での体験会を実施でき、競技特性の正しい理解や指導知識の習得に役立てることができた。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
　当協会にて管理・保管・貸し出しを行い、障がい者スポーツ振興に役立てていく。

【事業成果】

事業①：障害者関係機関だけでなく、様々な職種の指導者に参加してもらうことができ、障害者スポーツの知識習得とスキル向上の機会となった。また、本事業終了後、障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講する方が増え、各地域で実際に指導を行える指導員の養成に繋げることができた。
事業②：パラスポーツ各競技団体からの協力を得て、デモンストレーションや体験会を実施し、参加者が楽しめる有意義なイベントを実施できた。また、イベント内では最新機器を用いたメディカルサポートについても周知できた。その他、テレビ各社で報道されたことにより、興味・関心を持ってもらう貴重な機会となった。

【事業の今後の必要性】

事業①：継続的な活動の場を提供することにより、指導者のスキル向上に繋げることができる。また、本事業の広報時期が遅れたことにより、全体を通して参加者が少なかった。継続的な実施により、若い世代の指導者育成に繋げていきたい。
事業②：継続したパラスポーツ選手との関わりにより、障がい者スポーツへの興味・関心だけでなく、支援、指導の出来る人材の育成に繋げることができる。また、障がい者スポーツ選手の発掘に繋げることができる。

実 施 概 要

実施団体名	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
事　業　名	山口県における障害者スポーツ地域推進事業 ①地域障害者スポーツ教室開催事業 ②障害者スポーツ体験教室開催事業 ③障害者交流スポーツ大会開催事業 ④障害者スポーツ指導者養成及び派遣事業　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆平成 25 年に「山口県スポーツ推進計画」を策定し、「生涯スポーツの推進」、「競技水準の向上」、「人材の育成」、「地域の活性化」を基本方針にスポーツ推進施策を展開しており、障害者が地域で自主的、主体的に参加できるスポーツ環境づくりを推進している。
◆地理的には山口市を中心としているが、県下各地に同規模の都市が点在し、障害者スポーツの活動推進には苦労している為障害者スポーツ関係団体だけでなく行政団体、一般競技団体等と連携し、諸環境（指導者、支援者、拠点施設、仲間、経費等）の整備を推進している。

【地域の実情・課題点】

◆2011 年に開催した「おいでませ！山口大会」の成果と 2020 年の「東京パラリンピック」の開催決定により、県民の障害者スポーツへの理解や障害者のスポーツへの意欲は大いに高まってきているが、障害者が各地域で身近にスポーツを実践するにはまだまだ多くの問題や課題（指導者、支援者、拠点施設、仲間、経費等）を残している。
◆地域の組織（拠点）づくりを支援・実践するため、各地域で中心となり得る障害者団体や市社協等に出向き、地域における障害者スポーツの推進に努めているが、地域の組織（拠点）づくりだけでなく、総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツ推進委員に働きかけ、県民も参加するスポーツ教室・大会開催支援や指導者、支援者の養成が急務のため本事業を実施する。

【事業の目的・ねらい】

◆共生社会の実現に向けて、多様な障害や年齢に関わらず活動できるレク・スポーツを地域の組織（拠点）に普及することや総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツ推進委員、特別支援学校に働きかけ、障害者スポーツ教室や大会開催支援を積極的に実施することにより、健常者と障害者が一緒にスポーツを楽しむ交流スポーツ大会を実現させることを目的とする。
◆教室や大会の充実には、企画立案やコーディネートできる指導者や支援者やボランティアが必要となるので地域の拠点づくりとともに事業の中で養成と確保に力を入れる。

【事業内容】

◆地域障害者スポーツ教室開催事業
　風船バレー、卓球バレー、ボッチャを主として、各地域で要望に合わせ実施種目を選択して教室を行った。
◆障害者スポーツ体験教室開催事業
　県内の特別支援学校にて、各学校の実情に合わせた実施種目を選択して教室を行った。
◆障害者交流スポーツ大会開催事業
　スポーツフェスティバル（卓球、卓球バレー、風船バレーの３種目の大会と車椅子フェンシングの体験会）、STT 大会、ボウリング大会、ヨット教室を行った。
◆障害者スポーツ指導者養成及び派遣
　障害者スポーツボランティア養成講習会や障害者スポーツ支援相談会を実施した。

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆地域のスポーツ教室では、企画から資料の作成や運営まで行い、継続的に活動している。また、スポーツ大会では、プログラム編成会議に参加し選手の組み合わせを決め、当日は審判から介助まで幅広く運営スタッフとして活躍し、審判員資格を取得する指導者も増えている。
◆講習会では、講師や補助員として協力している。
◆スポーツ教室や大会を運営する上では欠かせない存在となっている。

【連携・協力団体】

◆山口県、大学、県レクリエーション協会、山口県施設管理財団、一般競技団体、障がい者スポーツ競技団体、サン・アビリティーズ、各市教育委員会、各市社会福祉協議会、小・中学校、高等学校、県特別支援学校体育連盟、県特別支援学校長会、県小・中学校長会、身体障害者団体連合会、障害福祉サービス協議会、身体障害者施設協議会、精神障害者福祉会連合会、手をつなぐ育成会、県知的障害者福祉協会、障害者社会参加推進センター、スポーツ推進委員連絡協議会、県障害者スポーツ医・科学サポート活用推進委員会　等

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
　・同日にスポーツ教室が開催されてもボッチャを行うことができるよう、ボッチャボールを購入した。
　・ボウリング大会で重度障害者の参加に対応できるよう、投球補助具を購入した。
　・スポーツフェスティバルで使用するため、卓球の球、ＳＴＴの球、風船バレーの風船を購入した。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
　・当協会で管理しているが、申請があれば貸し出しも行い、障がい者スポーツの普及に役立てており、年間を通して、障がい者施設や学校等が貸し出しを利用してボッチャ等を楽しんでいるため、今後も用具の貸し出しについて広報し、活用していく予定。

【事業成果】

◆地域障害者スポーツ教室においては、地域の組織づくりができ、障がい者スポーツ指導者が自主的に会議を行い、スポーツ教室を開催している地域が増えてきた。また地域によっては、障がい者スポーツ指導者が行政等と連携を取りながら行政主催のイベント等で障害者スポーツ教室を開催し積極的に活動を行っている。
◆スポーツフェスティバルにおいては、障がい者と健常者がともに楽しみ、交流し、理解を深めた。
◆ボランティア養成講習会においては、障がい者とともにスポーツを体験したことで、支援に興味を持ち、協会主催のスポーツ大会にボランティアとして参加した者もいた。
◆スポーツ支援相談会においては、医科学の専門家が質問に答えることで課題解決の糸口となり、指導者の資質向上に役立った。

【事業の今後の必要性】

◆地域障害者スポーツ教室においては、地域ごとの取り組みの差があるため、他地域との情報交換の場が必要に思われる。
◆障害者スポーツ体験教室においては、支援学校だけでなく支援学級にも対象を広げて周知したい。
◆障害者交流スポーツ大会においては、よりスタッフを増やす必要があり、指導者やボランティア等の人材確保には引き続き取り組みたい。
◆障害者スポーツ指導者養成においては、障がい者スポーツへの関心が高まっている今こそ、人材養成や資質向上に努める必要がある。

実 施 概 要

実施団体名	愛媛県障がい者スポーツ協会
事　業　名	愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業 ①障がい者サイクリング大会 ②障がい者ハンドサイクル体験会 ③障がい者スポーツ紹介事業 ④障がい者スポーツ競技理解体験会　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆平成 23 年 3 月に「愛媛県スポーツ振興計画(後期)」が策定され、『ライフステージに応じたスポーツ機会の創造や、トップアスリートの育成、スポーツ施設の整備・活用、平成 29 年の愛媛国体に向けた開催準備を積極的に推進するなど、この計画の実現に向けて市町やスポーツ団体や県民の理解、協力を得て、取り組みを着実に進めていきたい。』とされている。具体的な取り組みとして、子供から高齢者・障がい者まで地域住民の誰もが、身近に好きなスポーツを気軽に楽しむことができるよう地域に根差したスポーツ振興を図ることとしている。

【地域の実情・課題点】

◆平成 29 年に本県で開催される愛媛国体及び全国障害者スポーツ大会の認知度は確実に伸びており、県民に対して障がい者スポーツへの理解も浸透しつつあるが、より積極的に障がい者スポーツ理解啓発の周知を図っていく必要があると考える。
◆全国障害者スポーツ大会の前年ということで、ボランティアで参加いただく、大学生や教職員、手話、要約筆記者等のボランティアに対し、障がい者スポーツを体験してもらい、気運を盛り上げていく。

【事業の目的・ねらい】

◆サイクリング大会、ハンドサイクル等体験会は、障がい者からの要望も強く、定着してきているため継続して実施していく。
◆障がい者スポーツ紹介事業においては、障がいの程度が重い人でも参加できるボッチャ競技、車いすで参加できる競技も積極的に取り入れていきたい。
◆全国障害者スポーツ大会の１年前であることで、大学生やボランティアスタッフ等に対し、障がい者スポーツの体験を通してより障がい者スポーツを理解してもらい、大会時に幅広く活躍してもらいたい。

【事業内容】

◆障がい者サイクリング大会（しまなみ海道と島四国めぐり）
　6 班に分かれ、一人乗り自転車・二人乗り（タンデム）自転車・ハンドサイクルでしまなみ海道の自転車用海道部及び一般道２０kmの距離をサイクリングする。
◆障がい者ハンドサイクル等体験会
日頃ハンドサイクルに接する機会の少ない障がい者にハンドサイクルやハンドバイクの試乗体験を行うい、障がい者の健康保持と障がい者スポーツの振興に努める。
◆障がい者スポーツ紹介事業（体験会）
　体験会の希望のあった各市町や学校等で障がい者スポーツ体験会を開催（全８回）実施した種目は、ボッチャ、フライングディスク、ディスコン、グランドゴルフ。
◆障がい者スポーツ競技理解体験会
　平成 29 年に本県で開催する全国障がい者スポーツ大会の実施に際し、運営に協力してもらう学生、教職員に対し、障がい者スポーツを体験してもらい、理解とスタッフとしての関わりを学んでもらう。

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆事業の企画・運営・検討等、常に連携して事業を実施している。特にサイクリング大会では、パイロットの役割からカメラマン、ＤＶＤの編集、事前準備など。事業を実施する際の障がい者スポーツ指導員と障がい者スポーツ協会との継続した連携の大切さを感じいる。

【連携・協力団体】

◆県障がい者福祉課、県教育委員会、県体育協会、県身体障害者団体連合会、県手をつなぐ育成会、県知的障害者福祉協会、県精神障害者福祉会連合会、県視覚障害者協会、県聴覚障害者協会、県庁サイクリングチーム、今治市役所サイクリングクラブ、NON ちゃん倶楽部、県障害者フライングディスク協会、香川県ボッチャ協会他

【スポーツ用具について】

◆購入したボッチャ用具を使用し、スポーツ紹介事業で 4 回活用また、ボッチャの体験会を実施することができた。
◆ボッチャ用具は、借用希望があった場合は、適切に対応し、継続して事業が実施できるように工夫していく。

【事業成果】

◆サイクリング事業に取り組んで３年になる。参加者からは、今後も継続してほしい等の声が多く寄せられたことで、平成２９年度からは、県予算によりパラサイクリングの支援者養成研修会等を加え、内容を充実して実施することができるようになった。
◆障がい者スポーツ紹介事業においては、2 年間フライングディスクの紹介のみであったが、今年度からはボッチャ、ディスコン、グラウンドゴルフ等の種目も取り入れ、開催地の希望も広がりつつある。
◆平成 29 年度の全国障害者スポーツ大会で協力いただく予定のボランティアスタッフ等を対象に障がい者スポーツを体験してもらう事業の中で、継続的に支援体制が図れるための「障がい者サポートバンク」について説明したことで、積極的な加入につながった。

【事業の今後の必要性】

◆障がい者ハンドサイクル等体験会及びサイクリング大会事業において、実施にあたり多くのスタッフの応援等、人員の確保が必要である。また、県内ではタンデム自転車の台数に限りがあり、今年度以上の参加者への対応等を検討する必要がある。
◆全国障害者スポーツ大会への理解は、ある程度得られたと思われるが、今後は、県障がい者スポーツ指導者協議会や関係機関と連携し、様々な競技を実施し、障がい者スポーツの普及啓発に努めていきたい。また、県内の市町とも連携し、イベント等開催時には、障がい者スポーツ普及啓発を進めていきたい。

実 施 概 要

実施団体名	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会
事　業　名	障がい者スポーツコミュニティおきなわ ①知的障がい者福祉施設スポーツ・レク祭り ②障がい者バスケットボール教室 ③聴覚障害者バレーボール教室　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆年間を通して温暖な本県の地理的・自然的条件とスポーツ資源を生かした「スポーツアイランド沖縄」の形成とともに、国際的なスポーツ交流の構築を目指している。障がい者スポーツは、県民の誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しみ、楽しむことができるツールとして広がりを見せている。「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」としての多様な展開を通じてまちづくりや地域の活性化に寄与する役割は大きい。福祉施設や障がいのある児童生徒がその健康の維持・増進に役立つ。また、とりもなおさず仲間づくり、社会参加への有効な手段としてコミュニティースポーツの広がりが期待されている。

【地域の実情・課題点】

◆障がい者スポーツ協会の設立に伴い、身体・知的・精神の各スポーツ団体の活動状況が地域住民に発信され、障がい者スポーツへの理解の広がりとともに、これを教育現場に活用したいとする小・中・高校からの相談・依頼が増加している。福祉施設の利用者のスポーツ・レク実施による生活の質の向上、児童・生徒の福祉教育への展開と広がりを見せている。こうした地域社会の要請に対応すべく、スポーツ指導員やボランティアの育成も並行して事業量は年々増している。

【事業の目的・ねらい】

◆障がい者スポーツが、障がいのある人々に限らず、年齢や性別を問わず全ての人が共有できるものとして定着を図り、スポーツ指導員やボランティアの育成に社会的広がりを期待する。これにより日常的に地域で親しまれるツールとしてのコミュニティースポーツを目指す。
◆また、指導員やボランティアの発掘・育成を目指す。

【事業内容】

◆知的障がい者福祉施設スポーツ・レク祭り
　会場となるドーム内を区分けし、複数種目（ボッチャ、ラダーゲッター、風船バレー、フライングディスク）の体験ブースを設置。
◆障がい者バスケットボール教室
　3 障がいを対象に障がい程度や技能別に分け、それらに応じたバスケット指導や参加者の交流試合の実施。
◆聴覚障害者バレーボール教室
　聴覚障害者バレーボールの選手の発掘・育成を目指し、県内バレーボール指導者による指導教室を実施。

【障がい者スポーツ指導者の活動・役割】

◆沖縄県における障がい者スポーツの競技団体、各福祉施設事業所は地域社会との関わりが少ない事が挙げられる。また、障がい者スポーツ指導員の固定化、活動の場の少なさの現状。
これらを解消すべく障がい者スポーツのイベント等では積極的な地域社会への周知と参加呼びかけ。障がい者スポーツ指導員やボランティアの活動の場の提供により今後の障がい者スポーツの定着化を図る。

【連携・協力団体】

◆うるま市就労支援福祉ネットワーク連絡協議会、うるま市青年会議所、沖縄県バスケットボール協会、知的障がい者スポーツ協会、沖縄県育成会、車椅子バスケットボールチーム　シーサーズ、聴覚バスケットボールチーム、精神バスケットボールチーム、トラステック・ミズノ共同企業体、県聴覚障害者協会、県バレーボール協会、合同会社レジスポ、商工会、高等学校

【スポーツ用具について】

◆購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
　各競技ともスポーツ用具の不足であったが購入する事により充実した事業を実施することが出来た。特にボール類やボッチャ、フライングディスク等を揃える事により多くの方がそれらのスポーツの取り組むことが出来た。
◆今回の事業後の管理方法と活用予定
　当協会が備品を管理、対応していく。借用についても各団体を対象に借用手続きを行い積極的に活用していく。

【事業成果】

◆「スポーツ・レク教室」の事業は福祉施設だけでなく地域の青年会議所や商工会も巻き込む事ができ地域社会との交流・連携ができ今後も様々な面で関りを持っていこうという話し合いが出来た。
◆「障がい者バスケットボール教室」や「聴覚障害バレーボール教室」では県内の競技団体・協会からの指導で当事者の競技力とモチベーションの向上が図れた。競技団体・協会からは健常者の県内の大会にも参加出来るようにしたいという意見ももらえた。

【事業の今後の必要性】

◆本事業の実施は実施前の予想よりも大きな成果がみられた。連携した各関係団体とも１回限りでなく今後とも連携を続けていきたいという意思表示をいただいた。周りの関心も上がったことにより、より一層障がい者スポーツの普及、推進に力を入れていきたい。
事業①⇒多くの関係団体に企画会議の段階で参加していただき様々な意見を出しあった。当日の実施体制での反省も含めて地域社会の団体が参加する事で指導員やボランティアの今後の活動にも意欲が出る。
事業②⇒県内の障がい別のバスケットボール競技団体による交流が今まではなかった。これによりお互いの情報交換もでき指導者も招いて競技の発展・育成に繋がった。
事業③⇒県内に競技団体が男女共に 1 チームしかなく他の団体等との交流もなく練習試合の相手や競技指導に関する悩みがあった。県内バレーボール協会に協力してもらう事により技術の向上や高校のバレーボール部との練習試合の機会が増えた。

Ⅲ　まとめと今後の課題

本事業は、障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりをめざすために、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、スポーツ教室やスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができること、そして、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与することを目的に 14 団体が事業を実施した。

まず、14 団体の事業内容を整理し、以下のようにまとめた。

※文中で、事業を実施した 14 団体を総称する場合「県障がい者スポーツ協会」とし、県と政令市を含む地域全体をさす場合も「県」と表現した。

1　事業実施の背景

1）県のスポーツ推進計画に基づいて、障がい者スポーツが推進されている

平成 23 年に制定された「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」に基づき、各県では、それぞれの実態に応じたスポーツ振興に関する計画が策定され、中でも障がい者スポーツの推進に具体的な目標や取り組みを掲げた地域も増えてきている。

しかしながら、県民それぞれのライフステージに沿ったスポーツ振興を謳いながらも、障がい者が身近な場所でスポーツを継続し、楽しむ環境づくりにはまだまだ障壁が多い。

そのような中、本事業での取り組みは、各県の計画を推進するための「しくみ」をつくる役割を担うとともに、県域における地域のスポーツ環境整備へのきっかけづくりとなっていると考えられる。

以下に、今回事業を実施した各県のスポーツ推進に関わる計画やそれに基づいた状況をあげる。

北海道	「スポーツ王国北海道」の実現を目指し、「する人」「観る人」「支える（育てる）人」に着目するとともに、健康の保持・増進だけでなく出会いやふれあいを通して社会参加への意欲、競技力や記録の向上を目指すことで自己実現のきっかけとなるような取り組みが進められている。
宮城県	平成 25 年に策定された『宮城県スポーツ推進計画』では、施策の柱として「生涯にわたるスポーツ活動の推進」があり、その基本方向に「子供の遊ぶ（身体活動）機会の創出」の中で、「児童生徒の障がいの種類や程度に応じて、安全にあそび（身体活動）ができるように配慮します」としている。
福島県	東日本大震災の影響により、県民の運動不足が問題となった中、改善案として豊かなスポーツライフの創造性を目指すため、「楽しむ」、「育む」、「競う」、「つなぐ」の 4 つの視点から 8 つの推進施策を掲げており、今年度より障がい福祉課からスポーツ課に移管され、スポーツが一元化し、障がいの有無に関わらずスポーツ振興を図っている。
埼玉県	県スポーツ推進計画は平成 25 年度から 29 年度までの 5 か年計画であり、幼児から高齢者まで、性別や障がいの有無にかかわらず、全ての県民が生涯にわたってスポーツと関わる活動全般を対象としており、「生涯にわたるスポーツ活動の推進」、「国内・国際大会に向けた競技スポーツの推進」の項目において、障がい者スポーツに関する記載がされている。
石川県	県の教育振興計画には、スポーツ分野の主な取り組みが示され、その中には「指導員の養成目標数や生涯スポーツの一つとして普及・振興を図るとする」と示されている。平成 29 年度からは県体育協会が知事部局となることが決定した。
福井県	平成 24 年に「福井県スポーツ推進計画」が策定され、障がい者スポーツは「ユニバーサルスポーツの推進」として、当事者がスポーツ活動に気軽に参加できるよう、体験教室の開催や指導者の養成、スポーツ活動の場の確保を行うとともに、平成 30 年開催の全国障害者スポーツ大会の開催に向けての準備に取り組んでいる。

長野県	「県民一人一人が、年齢や性別、障害の有無等を問わず、関心や適性等に応じて日常的にスポーツに親しめる環境を整える」ことを基本理念とした「長野県スポーツ推進計画」を平成 25 年に策定し、障がい者のスポーツ活動を推進している。
静岡県	『静岡県スポーツ推進計画』において、基本理念である「『ふじのくに』生涯スポーツ社会の実現」のための基本目標のひとつである「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」として、県民誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しむことができる環境の整備を目指し、障がいのある人とない人が共にスポーツのできる機会の提供や、障がい者スポーツ指導者の養成と育成に努めるとしている。
兵庫県	兵庫県では、平成 24 年 12 月に「兵庫県スポーツ推進計画」を策定し、重点目標に「障害のある人のスポーツ参加者の増加」を掲げ、スポーツ推進審議会には障がい者スポーツ指導者が参画し、県立特別支援学校などを障がい者スポーツ拠点として整備（施設整備・用具の充実）・活用するなど、新たな事業も展開している。
鳥取県	県スポーツ推進計画の目指す姿は、「すべての県民が豊かなスポーツ文化を享受できる鳥取県」と掲げている。県スポーツ戦略会議や、県スポーツ課が主催するスポーツ審議会に出席し、様々な人々が年齢や性別、障がい等を問わず、関心や適正に応じてスポーツに参画できる環境を設備し、心豊かな生活を営むことができる社会を 10 年計画で推進している。
広島県	「東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部」が設置され、関連事業を総合的かつ計画的に推進するための検討や、国際大会誘致等の取り組みが進められている。障がい者スポーツの現状を踏まえ、広島県障害者プランや広島県スポーツ推進計画に取り組んでいる。
山口県	平成 25 年度に「山口県スポーツ推進計画」が策定され、協会においても年齢や性別、障がい等を問わず、すべての県民が生涯にわたって、それぞれの関心や適性等に応じて身近でスポーツに親しむことができるよう地域や関係団体、学校、行政等と連携、協働し障がい者スポーツの推進に努めている。
愛媛県	平成 23 年に『愛媛県スポーツ振興計画（後期）』が策定され、子どもから高齢者、障がい者まで地域住民誰もが、身近に好きなスポーツを気軽に楽しむことができるよう地域に根ざしたスポーツ振興を図ることとしている。また、平成 29 年に開催される全国障害者スポーツ大会への理解と認識を積極的に推進していく。
沖縄県	温暖な地理的・自然的条件とスポーツ資源を生かした「スポーツアイランド沖縄」の形成に目指すとともに、いつでも・どこでも・いつまでも安全にスポーツに親しみ、楽しむことができるよう、多様な展開を行い、地域の活性化に寄与できるような取り組みが進められている。

2）地域の特性や課題に即した事業が企画実施されている

各県では、それぞれの地域が抱える課題（拠点となる場所や支える人材の不足・偏り、県域の立地条件によるアクセスの不便さ等）に向き合い、そこに視点を当てた事業が企画され、地域における障がい者スポーツの環境整備を図るための様々な工夫がみられた。

＜本事業での主な取り組み＞

北海道では、専門的な障がい者施設がないため、道内を 14 エリアに分け、特別支援学校や学級をターゲットに障がい者スポーツを体験してもらうことにより、スポーツに取り組むきっかけとなることを目的とした事業を行った。

福島県では、地域でのスポーツ活動を支える障がい者スポーツ指導員の登録人数が震災の影響で減少傾向にあり、地域格差が生じているため、より細かな指導者協議会の支部体制を設け、地域でのスポーツ活動を展開している。

埼玉県では、交通アクセスが悪く、スポーツ参加が制限されがちな県北部の秩父地域に、障がい者スポーツの活動基盤を整備するために、人材の掘り起こしや、指導者間の連携を目的とした事業を行い、継続したスポーツ活動につながる働きかけを行った。

２　事業内容の特徴

１）地域格差を埋めるために拠点づくりを意識した事業が進められている

本事業を実施するにあたり、いくつかの県では「県内におけるスポーツ振興の地域格差」を解消することを目的に、拠点づくりを意識した事業が展開されていた。特に、スポーツ環境の整っていない地域をターゲットに積極的に場づくりや人づくりを行い、本事業終了後も継続した活動ができるような事業が計画、実施された。

＜本事業での主な取り組み＞

福島県では、平成 28 年度より障がい者スポーツ指導者協議会の支部体制を 3 支部から 6 支部体制にして地域スポーツ教室等を開催することで拠点を増やし、当事者がより身近な地域でスポーツに親しめるよう取り組んだ。

静岡県では、当初からの目的でもある地域のスポーツ格差をよりなくすために、スポーツ環境の整っていない地域に特に重点的に出向き、重度障がい者への対応を含めたチャレンジスポーツ教室を開催した。（全 77 回）

長野県では、「障がい者（児）へのスポーツ導入の契機づくり」や「地域での支援ネットワークづくり」などを目的に、『障がい者スポーツ体験教室開催事業』を行った。

山口県では、地域の拠点づくりを行うために、各地域の要望や学校の実情に合わせた形での障がい者スポーツ教室を開催しながら、コーディネートできる指導者や支援者の養成に力をいれた。

２）自立した活動に向けて意図した事業が企画されている

本事業は、「障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりをめざす」ことを目的として、事業実施後いかに地域（団体）が自立した運営につなげることができるかが、重要な要素となっている。連携先との関係づくりや役割分担、また障がい者スポーツ指導者へのアプローチや関わり方など、自立した活動に向けての事業を遂行する中で様々な工夫がなされた。

＜本事業での主な取り組み＞

宮城県では、保護者からの要望をもとに、大型遊具を使用し、未就学児及び児童のあそびを中心とした「障がい児運動・あそびの広場」を全 7 回開催した。また、障がい者だけでなく、子供から高齢者まで楽しめる種目として、総合型地域スポーツクラブ等で活用できるように卓球バレー交流会を全 5 回開催した。

埼玉県では、自立した活動につながるような障がい者スポーツ体験交流会（計 6 か所）を行い、事業実施団体関係者も交えた活動報告会・振り返り会を行い 29 年度実施に向けた意見交換や今後の取り組みについて、それぞれの立場でやるべきことを整理した。

３）人材不足の解消を意識した事業が展開されている

本事業では、地域でのスポーツ活動を支える「人づくり」を実際の事業運営や他組織との連携の中で、意識して行われた。「地域格差の解消」や「自立した活動」ということにもつながることであり、本事業を通じて確実に成果が出始めた。

＜本事業での主な取り組み＞

鳥取県では、各競技の指導者不足や新たな人材発掘ができていない状況にあり、加盟競技団体や体協加盟団体等と連携を図りながら指導者育成やスポーツ体験教室に取り組んだ。

広島県では、障がい者スポーツ指導員のほか、スポーツ推進委員や理学療法士にも参画を仰ぎながら、県内4か所に地区割りしたスポーツ体験事業を実施して各地域のリーダーの養成や支援体制の構築に取り組んだ。

4）障がいのない人に向けて障がい者スポーツの理解促進を目的とした事業が企画されている

障がい当事者のみならず、障がいのない人たちにも障がい者スポーツに対する理解を促し、理解者や応援者を増やすことが重要である。そのために、本事業では様々な方法で障がい者スポーツの魅力を伝達することを目的に事業の展開がなされた。

＜本事業での主な取り組み＞

石川県では障がい者スポーツに関わりの少ない方、障がいのない人を主体に参画を呼びかけ、「知る・観る・触れる」をテーマに障がい者スポーツの理解者、支援者を増やすことを目的とした体験会「金沢スポーツフェスティバル」等を実施した。

静岡県では東京 2020 パラリンピックに向けて県民の期待が高まる中、県内の障がい者スポーツへの理解促進につなげるためのスポーツフォーラムにおいて、パラリンピックの競技でもあるゴールボール、シッティングバレーボールの体験を取り入れた。

愛媛県では、昨年度までフライングディスクのみの障がい者スポーツ体験会であったが、今年はボッチャ、ディスコン、グラウンド・ゴルフなど競技を増やした。（全8回）

沖縄県では、地域への障がい者スポーツの理解や指導員の活性化を考慮し、福祉施設におけるイベントを開催した。

兵庫県では、障がいのない人も参加できる「障がい者のスポーツ・レクリエーション教室の開催」や「障がい者スポーツフェスティバルの開催」、「障がい者スポーツ普及啓発講演会の開催」を通じてより多くの方に障がい者スポーツへの理解・学びを促した。

5）全国障害者スポーツ大会の開催を控える県では、大会に向けた県民への理解啓発、選手発掘・育成事業等の取り組みが広がった

＜本事業での主な取り組み＞

石川県では、障がい者のスポーツに取り組む人口の高齢化、全国障害者スポーツ大会への参加者の減少が進む中、全国障害者スポーツ大会の競技を中心に障がい者が体験し、併せて競技役員、支援者の育成につながるようなプログラムを実施した。

福井県では、平成 30 年に開催される全国障害者スポーツ大会に向けて、選手の少ない競技の普及・振興・強化を目的とした事業や障がい者スポーツの理解促進事業を行った。

愛媛県では平成 29 年の全国障害者スポーツ大会開催に伴い、教職員、学生を対象とした障がい者スポーツの理解とスタッフとしての関わりを学ぶことを目的とした障がい者スポーツ競技理解体験会を実施した。

3　組織連携の取り組み

今年度も各事業実施団体（以下、実施団体とする）がそれぞれの地域の実情や各事業の特徴に応じて、様々な分野の団体と連携し、障がい者スポーツの振興につながる事業を実施した。

別表の「一覧表」は各実施団体における連携先の種類について表したものである。

【連携団体　一覧】

◆各都道府県 障がい者スポーツ指導者協議会は除く

区分		No.	連携先			北海道	宮城県	福島県	埼玉県	石川県	福井県	長野県	静岡県	兵庫県	鳥取県	広島県	山口県	愛媛県	沖縄県
						3年目	初	2回目	4回目	初	初	初	4年目	2回目	2年目	初	4年目	3年目	4年目
						4	6	12	8	15	7	12	11	12	10	10	25	13	6
1	行政関係	1	県・市担当主管課（町・村含む）	10	18			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	
		2	県・市教育委員会	8				●	●	●		●		●		●	●	●	
2	教育関係	3	学校長会（特別支援学級設置校含む）	3	27	●							●				●		
		4	特別支援学校長会	2								●					●		
		5	小・中学校・高校	6		●					●		●	●			●	●	
		6	専門学校・大学	6			●			●	●	●				●	●		
		7	特別支援学校・学級	8		●		●	●	●	●	●		●			●		
		8	特別支援学校体育連盟	2					●								●		
3	スポーツ関係	9	県・市・町体育協会	6	32		●			●		●			●	●		●	
		10	県レクリエーション協会	2								●					●		
		11	スポーツ推進委員協議会	4						●		●		●			●		
		12	一般競技スポーツ団体	6				●		●	●		●		●				●
		13	スポーツ関連団体	5						●			●	●			●	●	
		14	総合型地域スポーツクラブ	4			●			●		●		●					
		15	スポーツ医科学センター・組織	2												●	●		
		16	企業スポーツ団体	2									●					●	
		17	プロスポーツ団体	1											●				
4	医療関係	18	県スポーツドクター協議会	1	8							●							
		19	県理学療法士会	3									●		●	●			
		20	県薬剤師会	1								●							
		21	病院・医療センター	1											●				
		22	リハビリテーションセンター	2					●					●					
5	福祉関係	23	県・市・町社会福祉協議会	3	27			●		●							●		
		24	障がい児・者施設	3					●	●					●				
		25	身体障害者福祉協会	3			●	●	●										
		26	身体障害者団体連合会	2													●	●	
		27	視覚障害者協会	1														●	
		28	聴覚障害者協会	1														●	
		29	知的障害者福祉協会	2													●	●	
		30	手をつなぐ育成会	2													●	●	
		31	精神障害者福祉会連合会 精神保健福祉連合会	2													●	●	
		32	精神保健福祉センター	1											●				
		33	社会参加推進センター	2			●										●		
		34	障害者施設協議会	1													●		
		35	その他　障がい者団体	4				●					●				●		●
6	障がい者スポーツ関係	36	障がい者競技スポーツ団体	11	27		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		37	障がい者スポーツ関連団体	5		●		●					●	●					●
		38	障がい者スポーツセンター	3					●					●		●			
		39	勤労身体障害者教養文化体育施設	2				●									●		
		40	障がい者スポーツのクラブ・サークル	6						●	●			●		●	●		●
7	その他	41	市・町婦人会	1	12					●									
		42	メディア（新聞社、放送局等）	1						●									
		43	一般企業	5				●							●	●	●		●
		44	県栄養士会	1								●							
		45	ボランティア連絡協議会	1				●											
		46	社会奉仕団体	1									●						
		47	青年会議所	1															●
		48	指定管理者	1													●		

今年度の本事業の連携先は 7 区分 48 種の団体があげられ、実施団体の多くが、県・市町村の行政「担当主管課」や「教育委員会」、「特別支援学校・学級」、「障がい者スポーツ競技団体」、「障がい者スポーツ関連団体」等による連携を基盤として事業を展開した。

一昨年からの同事業における連携先の変化をみてみると、今年度は「教育関係」では地域の一般校（小・中学校・高校）の施設利用や生徒も一緒に参加する形態の事業、大学のクラブ（運動部活動等）やサークルとの連携による事業の実施など、障がいの有無に関わらず、スポーツを皆で楽しむための環境整備や障がい理解、障がい者スポーツの理解促進をめざした教育的要素を含めた取り組みがみられた。

また、地域に根ざしたスポーツ環境を整備するためにスポーツ推進委員協議会や総合型地域スポーツクラブと連携を図ることは、地域での継続した取り組みを見据えていく上では重要なことである。今年度の「スポーツ関係」では、新規の事業実施団体においてもスポーツ推進委員協議会や総合型地域スポーツクラブと連携をし、事業を実施した団体も複数みられた。さらに今年度は県市町村体育協会や一般スポーツ競技団体との連携が特に増加している傾向があり、各地域ではスポーツ関係団体との連携を充実させ、スポーツ環境の整備や専門的な指導・技術の提供等、連携団体の専門性を活かした事業の実施がみられた。今年度はじめて事業を実施した長野県、石川県、広島県の取り組みにおいても、福祉関係団体よりもスポーツ関係団体との連携の方が明らかに多い結果であった。

同時に今年度は、「一般企業」との連携を深めている団体が多くみられた。地域に根ざしたスポーツ環境を整備していく上で、今後はスポーツ関連団体だけでなく、地域の企業との連携は「身近な支援者」として欠かせないものである。お互いに何が必要なのか、何ができるか、何を提供しあえるかなど、双方にとって恵みのある連携関係の構築が拡がっていくことを期待したい。

各県において実施された事業の多くが、障がい者のスポーツを様々な側面で支えてもらう・応援してもらう人材、団体との「つながるきっかけづくり」とすることに主眼が置かれていた。さらに各地域においては、個人でのスポーツ指導・支援だけでなく、事業実施後の各団体との組織的なつながりを見据えた多様な連携の形、工夫がみえてきていることは、本事業における各実施団体の地道な取り組みの成果であるといえる。

４　障がい者スポーツ指導者の活動

身近な地域でスポーツを楽しめる環境を整える上で、最も重要なキーパーソンである障がい者スポーツ指導者が主体的に動けるための働きかけや仕組みづくりを意識した事業が多くみられた。同時に、障がい者スポーツ指導者自身の意識の向上も進み、企画から運営まで深く関わるような取り組みが増えてきた。

＜本事業での主な取り組み＞

北海道では、障がい者スポーツ指導者資格を有する地域の指導者を対象に事業のサポートを依頼し、スタッフとして協力を得た。

宮城県では、指導者の高齢化と固定化はしているが、事業を通じて、補助員として入った認定校をはじめとする学生への指導やアドバイスを行うなど、指導現場のリーダーとしての役割を担った。

福島県では、県障がい者スポーツ協会が全体のコーディネート機能に徹することで、各 6 支部の障がい者スポーツ指導者が主体的に活躍する場を設け、事業を実施した。今後、より身近な地域（市町村別）での障がい者スポーツ振興を図る際に障がい者スポーツ指導者の活動モデルとして、おおいに参考となる取り組みが行われた。

石川県では、研修会において、競技・種目の紹介、サポート、質疑応答などの話をする機会をつくり、事業の企画運営といったコーディネートを行った。

福井県では、競技団体が講師等を担当したので、障がい者スポーツ指導者が補助的な役割を担当することによって、障がい者の対応や選手誘導等スムーズな運営ができた。

静岡県では巡回指導においては、プログラム作成から指導者同士で打ち合わせを行い、教室終了後は報告書の提出まで行った。

愛媛県では、事業企画・運営・検討等を行った。特に、サイクリング大会では、パイロットからカメラマン、DVD 作成など役割は多岐にわたり、事業の準備から当日運営まで幅広い業務に関わった。

沖縄県では、障がい者スポーツ競技団体や指導者が地域社会や福祉事業者との関わりが少なかったが、この事業を通して繋がりができた。

埼玉県では、体験会のルール説明や審判等の運営としての役割とともに、参加者と一緒に活動・交流することで、スポーツの楽しさを共有、そして広めるという大切な役割を担った。

長野県では体験教室において、地区協議会が中心となって企画運営を担当し、地域の一般スポーツ団体との協力関係を築きながら事業を実施した。

兵庫県では、実施事業について、いずれも、打合せ、参加者募集、受付、会場設営・撤去、競技団体と合同での競技主管等、企画実施運営全般に参画した。

山口県では、地域のスポーツ教室において、企画から運営まで行い、継続的に活動している。スポーツ大会では、プログラム編成会議に参加し、大会当日は審判から障がい者の介助まで幅広く運営スタッフとして活躍している。また、審判員資格を取得する指導者も増えており、講習会では講師や補助員として協力している。

５　事業成果

地域のスポーツ環境は異なっており、各団体が様々なアプローチでスポーツ推進に取り組んでいることがわかる。本事業を継続することでみえてきた成果を含めて、下記の 5 項目について各地域での成果をあげる。

１）障がい者スポーツ指導者が運営の主体となった事業が増えた

・障がい者スポーツ指導者がボランティアの学生等のリーダー役を担い、実際の活動のけん引役に加えて、これから資格取得をめざす若い学生への指導、アドバイスを行う役割を果たした。
・障がい者スポーツ指導者が参加者とその保護者達とコミュニケーションをとりながら、各参加者の障がい状況を考慮し、楽しく、目的をもってスポーツに取り組めるよう指導を行っている。
・県の障がい者スポーツ協会が発足して間もないところでは、障がい者スポーツ指導者の役割は特に大きく、事業の企画・運営・検討など、常に連携して事業を実施している。
・障がい者スポーツ指導者が、地域におけるスポーツ教室では企画から資料の作成や運営まで行い、スポーツ大会ではプログラム編成会議で組み合わせを決め、大会当日の審判から選手の介助まで幅広く運営スタッフとして活躍している。

２）事業実施日だけでなく、その後につながる協働が生まれている

・事業実施後に、行政や体験交流会実施団体を対象に「報告会・振り返り会」を行い、関係者とのつながりの構築、実施内容や地域の情報を共有し、次年度以降の取り組みについて整理できた。
・障がい者のスポーツ活動が進んでいない地域でスポーツ教室を開催することにより、その地域の特別支援学校が障がい者スポーツ拠点施設となり、その波及効果として他の地域の特別支援学校も拠点施設として活用されることとなった。
・地域ならではの連携（依頼・要請、説明）を活かすとともに、障がい者スポーツ指導者はもちろんク

ラブ・選手や市町体協、各競技の協会との新たな交流が進み、この事業がきっかけとなり大会や教室等の事業においてクラブ、協会が自主的に連携するようになった。
・新しいスポーツの県内での普及を目的に交流会事業を開催したところ、総合型地域スポーツクラブの指導者がこの競技に興味を示し、クラブで用具を購入し活用するなど、新たな発展につながった。
・事業を実施することで、これまでほとんど関わりのなかった県内のスポーツ関係団体（レクリエーション協会、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、スポーツドクター協議会、薬剤師会、栄養士会など）と将来に向けての関係を築くことができた。
・ボランティア養成研修会を受講した大学の講師が、次年度、自身の大学において初級スポーツ指導員養成講習会の開催を希望し、新たな連携が生まれた。
・事業に参加した障がい児の保護者同士の交流、学生同士の連携が図られ、次年度以降の事業発展に期待ができる。

3）事業の実施を通じて新たな周知方法の開拓や活用がなされた

・事前周知および当日の事業の模様を地元の FM ラジオが放送し、後日には地元のケーブルテレビによる報道があり、障がい者スポーツの啓発に大きな効果があった。
・事業の支援者を募集する際、行政から各市町やスポーツ推進委員へ、県体協から総合型地域スポーツクラブへ、県理学療法士会から県内の理学療法士へ周知を依頼し、さらに学生への周囲には大学のホームページを活用できるよう依頼した。
・本事業を継続してきたことで、28 年度より県の障がい者サポートバンクの登録制度を立ち上げ、トレーニングサポーターやリーダーサポーターが体験会やイベントを実際に運営する動きが始まっている。
・継続的な事業実施、また報道機関へ発信することで、事業についての周知が広がり、スポーツをしたことが無い方の申込みが増え、さらに障がい者スポーツ指導員養成講習会への参加、問い合わせも増えている。

4）体験教室等を行うことでその後の発展がみられた

・県内では知的障がい者のバスケットボールチームが男子チームのみであったが、本事業を契機に女子のチームが発足することになった。
・本事業で 3 年間かけて障がい者サイクリング大会を開催してきたが、29 年度からは一部内容を変更し、県予算で実施することとなった。
・事業を開催するにあたり、福祉施設だけではなく地域の青年会議所や商工会も巻き込むことができ、地域社会との交流・連携が生まれ、今後も様々な関わりを持つことについて確認がされた。
・障害者バスケットボール教室や聴覚障害者バレーボール教室では、県内の競技団体・協会からの指導で当事者の競技力とモチベーションの向上が図れ、健常者の県内の大会にも参加する動きが生まれた。

5）競技に特化した専門性の高い人材確保のための一般競技団体との連携が生まれた

・ジャパンパラ陸上競技大会の開催を控え、審判講習会を実施することで、一般の競技規則と IPC 規則との共通点や相違点について学び、また、障がい者スポーツ指導者協議会と障がい者スポーツの競技団体、一般競技団体が連携し関係を強めることができた。
・事業実施をきっかけに、県陸上競技協会と県バスケットボール協会に障がい者スポーツを専門とする部門が組織化された。

・この事業を通じて、県障がい者スポーツ協会加盟競技団体と県体協加盟競技団体を中心に連携した事業が実施され、また、プロスポーツチームや中央競技団体、県内のトップ指導者に指導を受けることで、指導者やスタッフの資質向上と障がい者スポーツの理解啓発につながった。
・アスリートセミナーを開催したことで、講師を務めた一般の競技団体の専門分野の方々との連携が生まれ、地域における競技力向上への道筋ができた。

本事業の目的である「障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境を作る」という視点でみると、障がい者が本事業を通じてスポーツに参加する機会が拡充し、個々の生活に今まで以上にスポーツを好意的に取り入れ、スポーツの生活化がさらに進んだといえる。

特に今年度よりスポーツ用具の購入を認めたことで（総事業費の 35%を上限)、スポーツ振興の柱である「人（障がい者スポーツ指導者の活用、他団体との連携・協働)」「場所（身近な地域での拠点作り)」に「物（スポーツ用具の活用)」が加わったことで、従来以上に事業内容に充実がみられた。これまで実施したかったが用具が足りないことで断念していたスポーツ教室や体験会ができるようになり、さらにその県の実情や参加対象者に合わせた用具購入がなされ、県の障がい者スポーツ協会の工夫が感じられた。

また、上記の「成果」にもあるように、本事業は県障がい者スポーツ協会が中心となり、障がい者スポーツ指導者を活用して実施しているが、これまでのように事業当日だけのサポートではなく、事業の企画や資料作成から当日の運営までに渡り、広い範囲で参画し、指導者が運営の主体となった事業スタイルが増えてきた。

さらに、他団体との連携・協働についても、行政はもちろんのこと、教育、スポーツ、福祉、マスコミ関係とつながりを持ち、様々な事業を共に実施することで構築される関係作りが生まれ、事業終了後の継続した活動にこの成果が引き継がれることを期待したい。

６　今後の課題

今後の地域振興事業における課題について、以下のようにまとめた。

１）地域格差解消のための障がい者スポーツ指導者の育成が今後さらに必要となる

・競技力、技術向上の要望に応えられるような指導員の質の向上、専門性が課題となった。
・障がい者や障がいのない人が身近な地域で共にスポーツ活動ができる受け皿づくりの為に、平日に活動できる指導者とスタッフの確保が課題となった。
・関係団体や競技団体との年間を通じた日常的な連携が不可欠であり、同時に指導者やボランティアの確保も大きな課題である。
・地域ごとの取り組みに差があり、他地域との情報交換の場が必要である。また、指導者やボランティア等の人材確保と同時に人材の資質の向上を図ることが課題である。
・県域が広域であるため、都市部とそれ以外の格差は否めない。県の障がい者スポーツ指導者協議会では、会員の連携と活動充実を目的に地域委員会を設けているが、行政（福祉やスポーツ部門)、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ施設等との有機的な関係化は十分ではなく、県障がい者スポーツ協会がその連携の橋渡し役を務める必要がある。
・活動できる指導員の固定化が課題であり、各種派遣事業や研修会において、経験の豊富な指導員が各地区の核となる指導員を育成していかなければならない。

２）一般競技団体など他団体の持つ専門性をより活かすための更なる協働体制の構築が必要である

・総合型地域スポーツクラブと連携し、各地域での開催をめざすとともに、専門の指導員の育成が課題となった。

・障がい者にとってより身近な地域単位でのスポーツ環境づくりを推進する必要があり、身近な地域での体験会の実施や連携組織の掘り起こしと拡大は図りながら、ネットワークづくりを強化することが課題となった。

・一般競技団体と連携した記録会や交流試合を企画したが、団体独自の大会等も数多くあり、日程を追加することが非常に困難であった。

３）活動場所や用具の確保、人材不足の解消等、拠点づくりが急務である

・障がい者スポーツ振興事業を離島や地方でも開催し、未開拓の地域においてもその場所に根ざした障がい者スポーツのネットワークを築くことが課題である。

・今回の事業で連携できた関係各所とは更なる連携作りを図り、今後は実施していない地域でも普及活動を行い、県内全域へ広げて行くことが課題となった。

・さらにきめ細かな支援体制の充実を図るために、次年度は総合型地域スポーツクラブとの連携・協働の取り組みを行う必要がある。

・ハンドサイクルやタンデム自転車の体験会への参加者が増加する中で、用具の台数にも限りがあり、希望者全体の受け入れが困難な状況になっている。

４）県障がい者スポーツ協会の基盤整備(予算確保・人材補強・情報発信力の拡大等)が必要である

・各市町に障がい者スポーツ部局の設立及び予算化は進んでいるが、日程の集中により会場確保の困難さ、人材や専門職が少なく、費用が足りないことも課題となっている。

・今後も事業を継続し、県内の障がい者スポーツの地域格差を減らすために、事務局の体制強化が課題である。

・「誰もが参加できるスポーツ」への取り組みをさらにめざす必要があり、そのためにより一層の関連組織との連携による多種多様な情報発信力が課題である。

・事業を実施する中で、無事に終了することに目が向きがちになるが、参加者や支援者には疑問点やニーズが必ずあることから、その解消に向けスムーズに相談、対応できる体制を整えておく必要がある。

本事業は平成 23 年度から始まり 6 年目を迎えた。その間、多くの関係者や関係団体との連携・協働が生まれ、障がい者が身近な地域でスポーツに取り組むことができる環境の整備をはじめとしたスポーツ振興が進められてきた。そのような中、今回の事業ではいくつかの課題がみえてきた。

一つ目は、地域で障がい者スポーツを振興するうえで大切な要素の一つである「事業の中核を担える障がい者スポーツ指導者の育成」についての課題。指導者に求められる資質とは、障がい者との接し方はもちろんのこと、スポーツの指導力、事業の企画運営のマネジメント力や地域で様々な支援者、連携団体と共に取り組んでいく環境を整えるコーディネート力、時にはリーダーシップを発揮し、皆をまとめ、計画を進めていく推進力が求められている。現在、障がい者スポーツ指導員は、初級・中級・上級でそれぞれに役割があるが、地域においては、資格の種別の他に、指導員個々の得意分野や専門性を活かした活動や核となるリーダーを育成し、県域のいくつかの地域に配置することで指導者も身近な地域での活動が活性化することが期待できる。

二つ目は、事業を推進していくために必要な「一般競技団体など他団体との連携・協働体制の構築」である。地域に根ざした障がい者スポーツの振興を進めるためには、県障がい者スポーツ協会が中核になりながら様々な団体との連携・協働が必要と考えている。今回の 14 団体は、7 区分 48 種の他団体と事業を進め、それぞれの地域の実情やニーズに合わせて企画を行い、多くの団体と共に事業に取り組み、障がい者が身近な地域でスポーツに参加する機会が増えた。しかしながら、関係団体との連携・協働が少ない状況で事業を進めている県もあることから、今後、より一層の関係作りを期待したい。

三つ目は、事業推進の中核となる「県障がい者スポーツ協会の基盤整備」である。上記にも記したが、県障がい者スポーツ協会は障がい者スポーツ関連団体だけでなく、一般のスポーツ関連団体、行政、福祉、医療関係との連携・協働の動きに応じていくことが必要である。地域の社会資源とのネットワークを活かしながら、県の窓口としての継続的かつ中核的なコーディネート活動をし、現状の課題を改善していく取り組みや地域の新たな要望に応じる取り組み、さらに連携のネットワークを拡大していく取り組みなど、地域のキーパーソンとしての責務を担っている。そのためには、専任職員の配置・増員、予算確保など組織の基盤体制の充実を期待したい。

7　おわりに

県の障がい者スポーツ協会では、全国障害者スポーツ大会への派遣、それに伴う予選会の開催、強化練習会などが主要な事業になっていると思われるが、より大切なこととして、当協会のビジョンにもあるように、「障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、さらにはライフステージに応じて、身近な地域でみんなと一緒に日常的にスポーツを楽しめる生涯スポーツの環境の整備」が急務である。そのためには、県障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者、地域の関連団体が連携・協働しながら障がい者スポーツの裾野を広げることが求められている。

今回、14 の団体が事業を実施する中で、それぞれの地域において取り組みは異なるが、行政、教育・スポーツ・福祉・医療等の関係団体からの支援や協力が少しずつ芽生え、それぞれの団体の関わりが相乗効果を上げ、事業実施の運営基盤を強固にし、地域の課題に向けた取り組みが進められていることがみられた。

本事業を通じて、県障がい者スポーツ協会が地域の統括組織として、地域の関係者を巻き込みながら事業の企画や運営を進めてきた「連携のしくみづくり」は、この地域振興事業の成果と考えられ、今後さらに多くの団体が取り組むことを期待したい。

北海道における障がい児者スポーツの振興事業

◆全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

北海道における障がい児者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

「スポーツ王国北海道」の実現を目指す本道においては、①子供の運動・スポーツ機会の促進、②世界の舞台で活躍する競技者の育成、③若者から高齢者までのライフステージに応じた地域スポーツ活動の推進、④道民が自ら進んで参画するスポーツ環境の充実を政策目標として、「スポーツの力」をキーワードに、総合的かつ計画的なスポーツ振興に取り組んでいる。

その中でも、障がい者スポーツは、健康の保持増進ばかりではなく、多くの人々との出会いやふれあいなど、社会参加の輪を拡げたり、競技力や記録の向上を目指すことで自己実現のきっかけとするなど、極めて大きな意義と効用がある。

当協会では、小中学校の特別支援学級の児童生徒のスポーツ支援が立ち遅れている現状を踏まえ、平成 26 年度から本事業を実施してきたが、他県に類を見ない広い面積と多数の市町村(179 市町村)を有する本道において、この 2 年間で本教室を実施した学級数は、道内の特別支援学級全体の 2%に満たない数であり、本事業は端緒についたばかりとも言える状況にある。

②事業の目的・ねらい

本事業は、本道の障がい児者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、スポーツ教室を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を促し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図るものであり、特別支援学校と比較して、スポーツ環境が整っていない特別支援学級の児童生徒を事業の対象としている。

③事業実施概要

（1） 障がい児者スポーツ教室の開催

事　業　名	全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業
日　　時	平成 28 年 6 月 20 日～12 月 19 日　計 30 回
場　　所	道内の小中学校　体育館　計 28 か所
参　加　者	1,218 名（支援学級生 411 名、通常学級生 565 名、教員保護者 242 名）
スタッフ	講師 78 名、サポート補助員 5 名、ボランティア補助指導員 14 名
補　助　員	サポート　NPO 法人 あ・りーさだ所属 5 名 ボランティア　公認障がい者スポーツ指導員 14 名
連携組織	NPO 法人 あ・りーさだ 北海道特別支援学級設置学校長協会 北海道内の小中学校
事業内容	・講義説明（DVD 等） ・競技用車椅子の紹介及び試乗体験 ・競技実技（車椅子リレー、フライングディスク、ブラインドサッカー、ボッチャ、ストラックアウト等） ・公認障がい者スポーツ指導員のボランティアを募り、教室に参加協力 ・参加者全員に修了証書を授与

事業の様子

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

本事業の継続性を重視し、今年度も、指導経験が豊富な上級障がい者スポーツ指導員をメイン講師に据え、教室の企画から運営までを主導した。また、資格を有する地域の公認スポーツ指導員を対象にボランティアを募集し、教室当日のスタッフとして協力を得た。

当協会のホームページのリニューアルを機に、教室の年間カレンダーやボランティア募集のサイトを新設したところ、問い合わせの件数やボランティア登録者の数が増える結果となった。機会や情報があれば活動したいと考えているスポーツ指導員の潜在的な意欲に応えることができた。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

メイン講師を担う上級障がい者スポーツ指導員が代表を務める「NPO 法人あ・りーさだ」は、障がいのある子どもを対象とした放課後スポーツ教室を開催している団体であり、事業前までは、当協会の事業活動に直接関わることはなかった。

（2）実際の事業での役割分担

本事業の実施にあたり、メイン講師は、教室を開催する学級との事前の打ち合わせを行い、当日の教室運営を計画立案するとともに、補助ボランティアに対する指導も担った。

当協会においては、主体的に本事業の方向性を定め、年間の実施計画を策定の上、予算の執行状況を管理し、教室事業全般について総合的なプロデュースを行った。

（3）事業後の関係性の変化

事業実施後は、機会あるごとに協働パートナーとして相互の支援協力を行っている。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

前年度に教室を実施した複数の学校から、違うスポーツもやってみたいという希望があり、子どもたちが興味を持ちそうな競技用車椅子などを数台購入し、教室メニューに取り入れた。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

本事業に活用することを主目的に当協会において管理し、必要に応じて長期の貸出しも行う予定である。

⑦事業の成果および評価（達成度）

・支援学級と通常学級の混合教室を実施し、児童生徒がともに新しいスポーツを体験し、楽しく過ごす時間を共有した。共通の体験が、お互いの距離を縮め、相互理解を深めることができた。
・障がいのある児童生徒たちが、教室の体験を通じて、からだを動かすことの楽しさやスポーツの達成感を得ることが出来た。日常生活への好影響やスポーツ意欲の向上が期待できる。
・広大な面積の本道において、3 年かけて全ての区域（全 14 エリア）で本教室の実施を達成することができた。実施エリアの拡充は、本教室の成果のバロメーターでもある。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

豊かなスポーツ環境づくりを目指し、ピラミッドの裾野を成す「普及」を促進するためには、本事業を今後も継続していく必要がある。

今後は、①離島の学校での開催、②都市部よりも地方の学校での開催、③地方のボランティア団体との協力などを計画策定し、地域に根付いた障がい児者スポーツのネットワークを全道に築いていく所存である。

⑨おわりに

（1）所感

スポーツに触れる機会の少ない環境にある特別支援学級の児童生徒を対象にスタートした本事業だが、2 年目から支援学級と通常学級の混合教室を取り入れることにより、障がい児と健常児の相互理解が深まった。また、今年度から始めた複数の学校による合同教室の実施により、近隣の学校間の連携強化を促すことができた。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

本教室では、障がいのある子どもたちが様々な種類の車椅子に試乗したり、誰もが簡単に楽しめるフライングディスクなど、幅広いメニューを用意するとともに、障がいの種別を問わずスポーツを楽しめるプログラムを提供した。その結果、参加した児童生徒にはスポーツに対する関心が芽生え、自主性や活動意欲が向上する効果もあった。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

巡回教室を開催した地域におけるその後の継続したスポーツ振興という課題については、講師と教室参加者とが問題意識を共有することが重要である。地域によってスポーツ環境やコミュニティ事情が異なり、定型的なアプローチはできないので、今年度の教室においては、継続した活動に繋がるよう、プログラムメニューに変化を加え、参加者との意思疎通を図ることに務めた。

支援学級と通常学級との混合教室は、前年度から大幅に増え、通常学級の児童生徒の参加人数が支援学級を上回る結果となった。前年度の混合教室では、通常学級から参加した低学年の児童に、集中力に欠けた言動が散見されたが、今年度は、低学年児童にも理解しやすいメニュー構成に改めたところ、支援学級の同学年の児童とも打ち解け、楽しく熱心に参加していた。

⑩資料

開催要項、チラシ、教室内容報告資料（写真付）

「平成28年度地域における障がい者スポーツの振興事業」

全道巡回障がい児者スポーツ教室開催要項

1　目　的

本道の障がい児者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、スポーツ教室を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を涵養し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図ることを目的とする。

2　主　催

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

3　共　催

ＮＰＯ法人あ・りーさだ、北海道障害者スポーツ指導者協議会

4　開催期日

平成２８年５月から平成２９年１月末まで（平日の2時間を原則）

5　開催場所

全道の小中学校の体育館（14振興局全エリアの30校予定）

6　教室内容

小中学校の特別支援学級の児童・生徒を対象として、障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具や競技ルールの説明を行い、基礎的な実技指導および応用技術やトレーニング方法などについて指導する。

7　講　師

正木　英之　氏（ＮＰＯ法人あ・りーさだ代表理事）ほか

8　参加対象者

(1) 特別支援学級及び通常学級の児童・生徒

(2) 小中学校の教職員

(3) その他関係者

9　参加費

無料

10　申込先

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

〒060-0002　札幌市中央区北2条西7丁目　かでる2・7　4階

TEL 011-261-6970　FAX 011-261-6201　担当：細田

11　その他

(1) 参加者は、スポーツに適した服装・上靴を着用すること。

(2) 主催者は、参加者を対象とした傷害保険に一括加入する。

平成28年度 地域における障がい者スポーツの振興事業

全道巡回 障がい児者スポーツ教室

参加無料

お申込受付中

講師が全道の小中学校に出向き、特別支援学級に就学する児童・生徒を対象としたスポーツ教室を開催します。
この教室に、障がいのない児童・生徒も一緒に参加することもできます。別紙「開催申込書」に必要事項をご記入の上、お申込みください。

開催場所
全道の小中学校体育館

2016年5月～2017年1月末まで

平日の2時間

参加対象者 特別支援学級及び通常学級の児童・生徒（小中学校の教職員・その他関係者）

参加者は、スポーツに適した服装・上靴の着用をお願いいたします。

障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具や競技ルールの説明を行い、基礎的な実技指導および応用技術、トレーニング方法について指導いたします。

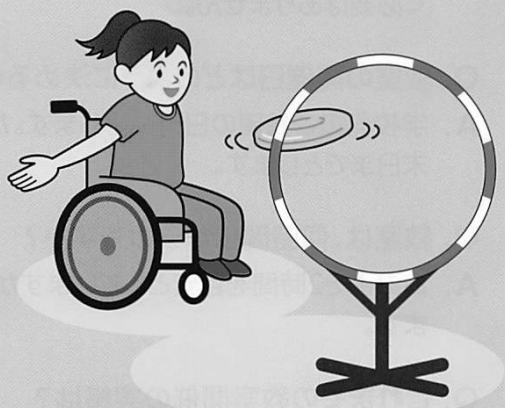
講　師

●**正木 英之**（NPO法人あ・りーさだ 代表理事）**ほか**

あ・りーさだは、「公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会」との共同事業により、北海道全域の特別支援学級への出張教室を行っています。

教室内容例

●フライングディスク ●ボッチャ ●ゴールボール
●ドッチビー など



お申込先 公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会 担当／細田（ほそだ）
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 4階
TEL 011-261-6970 FAX 011-261-6201
E-mail tanto-3@do-syospo.or.jp

裏面もご覧ください『よくある質問（FAQ）』

主 催／公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
共 催／NPO法人あ・りーさだ、北海道障害者スポーツ指導者協議会

平成28年度地域における障がい者スポーツの振興事業

全道巡回障がい児者スポーツ教室

よくある質問（FAQ）

Q.「全道巡回障がい児者スポーツ教室」は、どんな内容なのですか？

A. 全道の特別支援学級の児童・生徒を対象としたスポーツ教室です。教室開催を希望する学校に講師を派遣し、学校の体育館で出前教室を行います。

Q. 教室の開催地域に制限はあるのですか？

A. 道内であれば、どの地域にも出向いて教室を開催します。

Q. 教室の開催に費用はかかるのですか？

A. 学校側で負担する費用は一切ありません。教室に参加する児童・生徒や教職員の皆さんの参加も無料です。

Q. 講師はどうするのですか？

A. 当協会と事業提携しているNPO法人あ・りーさだの代表理事である正木 英之氏をはじめ、障がい児者スポーツに精通している指導者数名を現地に派遣します。講師陣は、日本障がい者スポーツ協会の公認指導者の資格を有しています。

Q. 競技用具はどうするのですか？

A. 教室で使用する用具は、現地に赴く講師が全て持参しますので、学校側においてご準備いただく必要はありません。

Q. 教室の開催日はどのように決めるのですか？

A. 学校側のご希望の日時に応じます。ただし、平成28年度の単年度事業ですので、平成29年1月末日までとします。

Q. 教室は、何時間になるのですか？

A. おおよそ2時間を目安としていますが、児童・生徒の体力等を勘案して、時間は弾力的に調整します。

Q. これまでの教室開催の実績は？

A. 今年度が三年目となる事業ですが、昨年度は、全道各域の小中学校において30回の教室を開催しました。

Q. 教室開催の申込方法は？

A. 別紙「開催申込書」に必要事項をご記入の上、お申込みください。教室の詳細については、別途、ご相談いたします。

この教室事業は、北海道特別支援学級設置学校長協会のご協力を得て、実施しております。
是非、この機会に、障がい児者スポーツ教室をご体験ください。

学校名	江別市立江別第二中学校														No,	1
実施日	2016	年	6	月	20	日	月	曜日	実施時間	10:35	~	12:25	2	時限	110分	
参加数	通常級	29	名	支援級	9	名	職員	6	名	父兄	0	名	合計	44	名	
スタッフ	講師	3	名	ｻﾎﾟｰﾄ	1	名	ボラ	0	名	その他	0	名	合計	4	名	
距離	54	km	時間	70	分	高速	無し	宿泊	無し							
希望するスポーツ	フライングディスクゴルフ															
要望																
連絡事項																

学校名	旭川市立愛宕小学校														No,	2
実施日	2016	年	6	月	21	日	火	曜日	実施時間	9:30	~	11:30	2	時限	120分	
参加数	通常級	64	名	支援級	1	名	職員	3	名	父兄		名	合計	68	名	
スタッフ	講師	4	名	ｻﾎﾟｰﾄ	0	名	ボラ	0	名	その他	0	名	合計	4	名	
距離	129	km	時間	177	分	高速	無し	宿泊	無し							
希望するスポーツ	ブラインドサッカー、ドッチビー、ゴールボール															
要望	日時は6月中旬～７月初旬OK															
連絡事項	映像器材はOK、写真は判別不能で、15分程度の座学OK															

学校名	当別町立西当別小学校										No,	3
実施日	2016 年 7 月 13 日 水 曜日				実施時間 10:40 ～ 12:15				2	時限 95分		
参加数	通常級	42 名	支援級	3 名	職員	5 名	父兄	名	合計	50 名		
スタッフ	講師	4 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	3 名	その他	0 名	合計	7 名		
距離 64 km	時間 81 分		高速 無し		宿泊 無し							
希望するスポーツ	ボッチャ、フライングディスク											
要望												
連絡事項												

学校名	釧路市立鳥取西中学校												No,	4	
実施日	2016 年 8 月 26 日 金 曜日					実施時間 10:45 ～ 12:35					2	時限 110分			
参加数	通常級	名		支援級	10 名		職員	4 名		父兄	名		合計	14 名	
スタッフ	講師	2 名		ｻﾎﾟｰﾄ	0 名		ボラ	1 名		その他	0 名		合計	3 名	
距離 280 km	時間 264 分			高速			宿泊 前泊(8月25日泊)								
希望するスポーツ	ボッチャ・ドッチビー、ｱﾙﾃｨﾒｯﾄ以外のFD														
要望															
連絡事項															

学校名	岩見沢市立美園小学校									No,	5
実施日	2016 年 9 月 5 日 月 曜日				実施時間 10:40 ~ 12:10		2	時限	90分		
参加数	通常級	名	支援級	14 名	職員	6 名	父兄	9 名	合計	29 名	
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	3 名	
距離 40 km	時間 56 分		高速		宿泊						
希望するスポーツ	ドッチビー・ボッチャ										
要望											
連絡事項											

学校名	夕張市立ゆうばり小学校									No,	6
実施日	2016 年 9 月 8 日 木 曜日				実施時間 9:30 ~ 11:30		2	時限	120分		
参加数	通常級	34 名	支援級	2 名	職員	2 名	父兄	名	合計	38 名	
スタッフ	講師	4 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	4 名	
距離 10 km	時間 分		高速 無し		宿泊 無し						
希望するスポーツ	FDなど一任										
要望	リオパラがある年なのでそれに関わるようなスポーツ										
連絡事項	6年生のクラス										

学校名	石狩市立南線小学校										No,	7
実施日	2016 年 9 月 14 日 水 曜日				実施時間 10:25 ~ 15:00				4	時限 210分		
参加数	通常級	169 名	支援級	2 名	職員	5 名	父兄	0 名	合計	176 名		
スタッフ	講師	5 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	3 名	その他	0 名	合計	8 名		
距離 77 km	時間 97 分		高速 無し		宿泊 無し							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項	午前４組・５組 10:25~12:10　午後１組～３組 13:15~14:50											

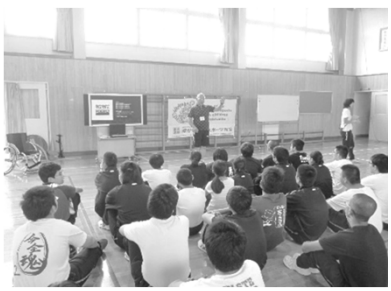
学校名	清里町立清里小学校										No,	8
実施日	2016 年 9 月 21 日 水 曜日				実施時間 12:30 ~ 14:30				2	時限 120分		
参加数	通常級	名	支援級	18 名	職員	11 名	父兄	名	合計	29 名		
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 355 km	時間 4h30 分		高速 無し		宿泊 **前泊(9月20日泊)**							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項												

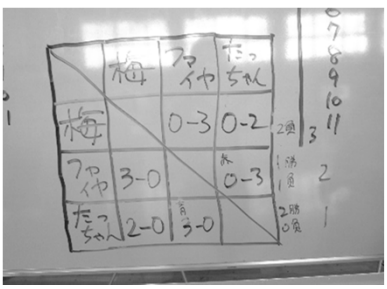
学校名	今金町立種川小学校										No,	9
実施日	2016 年 9 月 27 日 火 曜日				実施時間 10:00 ~ 12:00				2	時限 120分		
参加数	通常級	17 名	支援級	0 名	職員	4 名	父兄	名	合計	21 名		
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 258 km	時間 240 分		高速 無し		宿泊 **前泊(9月26日泊)**							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項												

学校名	北海道今金高等養護学校２年生										No,	10
実施日	2016 年 9 月 27 日 火 曜日				実施時間 13:00 ~ 15:00				2	時限 120分		
参加数	通常級	名	支援級	22 名	職員	5 名	父兄	名	合計	27 名		
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 km	時間 分		高速 無し		宿泊 前泊							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項	※今金町立種川小学校より移動											

学校名	せたな町立瀬棚中学校										No,	11
実施日	2016 年 9 月 28 日 火 曜日				実施時間 10:00 ~ 12:00				2	時限 120分		
参加数	通常級	25 名	支援級	1 名	職員	2 名	父兄	名	合計	28 名		
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 km	時間 分		高速 無し		宿泊 前泊							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項												

学校名	北海道今金高等養護学校1年生												No,	12	
実施日	2016 年 9 月 28 日 水 曜日					実施時間 13:00 ~ 15:00					2	時限 120分			
参加数	通常級	名		支援級	32 名		職員	5 名		父兄	名		合計	37 名	
スタッフ	講師	3 名		ｻﾎﾟｰﾄ	0 名		ボラ	0 名		その他	0 名		合計	3 名	
距離 km	時間 分			高速 無し			宿泊 前泊								
希望するスポーツ															
要望															
連絡事項	※今金町立種川小学校より移動														





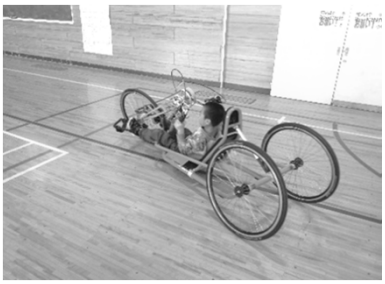
学校名	江別市立大麻東小学校										No,	13
実施日	2016 年 10 月 3 日 月 曜日				実施時間 10:35 ~ 12:05		2	時限 90分				
参加数	通常級	58 名	支援級	3 名	職員	4 名	父兄	名	合計	65 名		
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	4 名	ボラ	1 名	その他	0 名	合計	8 名		
距離 54 km	時間 73 分		高速 無し		宿泊 無し							
希望するスポーツ	フライングディスク・ボッチャ・ゴールボール											
要望												
連絡事項												

学校名	小樽市立長橋中学校										No,	14
実施日	2016 年 10 月 18 日 火 曜日				実施時間 13:30 ~ 15:30		2	時限 120分				
参加数	通常級	0 名	支援級	11 名	職員	5 名	父兄	名	合計	16 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名		
距離 99 km	時間 分		高速 無し		宿泊 無し							
希望するスポーツ	フライングディスク・ボッチャ・ゴールボール											
要望												
連絡事項												

学校名	別海町立中春別小学校											No,	15
実施日	2016 年 10 月 25 日 火 曜日					実施時間 10:05 ~ 12:05				2	時限 120分		
参加数	通常級	名	支援級	3 名	職員	4 名	父兄	1 名	合計	8 名			
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	2 名	その他	0 名	合計	4 名			
距離 368 km	時間 350 分		高速 無し		宿泊	前泊(10月24日泊)							
希望するスポーツ	フライングディスク・ボッチャ・ゴールボール												
要望													
連絡事項													

学校名	函館市立臼尻小学校											No,	16
実施日	2016 年 10 月 28 日 金 曜日					実施時間 10:25 ~ 12:00				2	時限 95分		
参加数	通常級	8 名	支援級	2 名	職員	3 名	父兄	名	合計	13 名			
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名			
距離 304 km	時間 分		高速 無し		宿泊	無し							
希望するスポーツ	フライングディスク・ボッチャ・ゴールボール												
要望													
連絡事項													

学校名	函館市立鍛神小学校										No,	17
実施日	2016 年 11 月 7 日 月 曜日					実施時間 8:45 ~ 10:15		2	時限	90分		
参加数	通常級	0 名	支援級	20 名	職員	4 名	父兄	6 名	合計	30 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名		
距離 304 km	時間 350 分		高速 無し		宿泊		前泊(11月6日泊)					
希望するスポーツ												
要望	内容はお任せします											
連絡事項												



学校名	厚真町立厚真中央小学校										No,	18
実施日	2016 年 11 月 8 日 火 曜日					実施時間 10:00 ~ 12:00		2	時限	120分		
参加数	通常級	名	支援級	7 名	職員	7 名	父兄	6 名	合計	20 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名		
距離 54 km	時間 59 分		高速 無し		宿泊		無し					
希望するスポーツ	ボッチャなど											
要望	昨年FD,車椅子体験、他の競技で。											
連絡事項												

学校名	旭川市立愛宕中学校									No,	19
実施日	2016 年 11 月 9 日 水 曜日				実施時間 10:45 ～ 12:25		2 時限	100分			
参加数	通常級	名	支援級	7 名	職員	3 名	父兄	名	合計	10 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	3 名	その他	0 名	合計	5 名	
距離 129 km	時間 174 分		高速 無し		宿泊 無し						
希望するスポーツ	車椅子体験・フライングディスク										
要望	内容はお任せします										
連絡事項											

学校名	富良野市立富良野小学校-1											No,	20	
実施日	2016 年 11 月 10 日 木 曜日					実施時間 9:30 ～ 11:30		2 時限	120分					
参加数	通常級	0 名		支援級	37 名		職員	15 名		父兄	0 名		合計	52 名
スタッフ	講師	2 名		ｻﾎﾟｰﾄ	0 名		ボラ	0 名		その他	0 名		合計	2 名
距離 97 km	時間 109 分			高速 無し			宿泊							
希望するスポーツ														
要望														
連絡事項														

学校名	富良野市立富良野小学校									No,	21
実施日	2016 年 11 月 11 日 金 曜日				実施時間 9:30 ～ 11:30		2	時限	120分		
参加数	通常級	名	支援級	38 名	職員	14 名	父兄	9 名	合計	61 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名	
距離 km	時間 分		高速 無し		宿泊		前泊(11月10日泊)				
希望するスポーツ											
要望											
連絡事項											

学校名	稚内市立潮見が丘中学校										No,	22	
第2希望日	2016 年 11 月 15 日 火 曜日					実施時間 10:00 ～ 12:00		2	時限	120分			
参加数	通常級	名		支援級	21 名	職員	14 名	父兄	名		合計	35 名	
スタッフ	講師	2 名		ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名		合計	2 名	
距離 319 km	時間 351 分			高速 無し		宿泊		前泊(11月13日泊)					
希望するスポーツ													
要望													
連絡事項													

学校名	函館市立桔梗小学校										No,	23
実施日	2016 年 11 月 18 日 金 曜日				実施時間	9:30 ~ 15:05	5	時限 分				
参加数	通常級	119 名	支援級	3 名	職員	6 名	父兄	名	合計	128 名		
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 304 km	時間 5h8m 分		高速 無し		宿泊	前泊(11月17日泊)						
希望するスポーツ												
要望	午前２クラス ８１名 午後１クラス ４１名											
連絡事項	体育館が狭い											

学校名	釧路市立共栄小学校										No,	24
実施日	2016 年 11 月 22 日 火 曜日				実施時間	10:40 ~ 12:10	2	時限 90分				
参加数	通常級	名	支援級	14 名	職員	5 名	父兄	10 名	合計	29 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名		
距離 280 km	時間 274 分		高速 無し		宿泊	前泊(11月21日泊)						
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項												

学校名	浦河町立萩伏小学校									No,	25
実施日	2016 年 11 月 25 日 金 曜日				実施時間 9:50 ~ 11:20				2	時限	90分
参加数	通常級	0 名	支援級	29 名	職員	16 名	父兄	名	合計	45 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名	
距離 164 km	時間 2h50 分		高速 無し		宿泊	前泊(11月24日泊)					
希望するスポーツ	フライングディスク・ボッチャ										
要望											
連絡事項											

学校名	江別市立江別第二小学校									No,	26
実施日	2016 年 11 月 29 日 火 曜日				実施時間 8:40 ~ 10:15				2	時限	95分
参加数	通常級	名	支援級	17 名	職員	10 名	父兄	名	合計	27 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名	
距離 21 km	時間 274 分		高速 無し		宿泊						
希望するスポーツ											
要望											
連絡事項											

学校名	江別市立大麻東中学校										No,	27
実施日	2016 年 12 月 8 日 木 曜日				実施時間 9:30 ~ 11:30					2	時限	120分
参加数	通常級	0 名	支援級	18 名	職員	7 名	父兄	名	合計	25 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名		
距離 21 km	時間 1h17 分		高速 無し		宿泊 なし							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項												

学校名	増毛町立増毛小学校・中学校										No,	28
実施日	2016 年 12 月 9 日 金 曜日				実施時間 13:30 ~ 15:05					2	時限	95分
参加数	通常級	0 名	支援級	8 名	職員	6 名	父兄	名	合計	14 名		
スタッフ	講師	1 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	1 名		
距離 157 km	時間 3h10 分		高速 無し		宿泊 前泊							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項												

学校名	旭川市立神居東小学校											No,	29
実施日	2016 年 12 月 14 日 水 曜日					実施時間 10:40 ~ 12:15		2	時限 95分				
参加数	通常級	名	支援級	27 名	職員	8 名	父兄	名	合計	35 名			
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	3 名			
距離 129 km	時間 分		高速 無し		宿泊								
希望するスポーツ													
要望													
連絡事項													

学校名	伊達市立伊達小学校											No,	30
実施日	2016 年 12 月 19 日 月 曜日					実施時間 13:15 ~ 14:50		2	時限 95分				
参加数	通常級	名	支援級	32 名	職員	12 名	父兄	名	合計	44 名			
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名			
距離 153 km	時間 161 分		高速		宿泊								
希望するスポーツ													
要望													
連絡事項													

宮城県障害者スポーツ振興事業

◆障害児運動・あそびの広場開催事業

◆卓球バレー交流会開催事業

宮城県障害者スポーツ協会

宮城県における障害者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

平成25年度に策定された「宮城県スポーツ推進計画」では、施策の柱1として「生涯にわたるスポーツ活動の推進」があり、その基本方向「子どもの遊ぶ（身体活動）機会の創出」の中で、「児童生徒の障がいの種類や程度の応じて、安全にあそび（身体活動）ができるように配慮します。」とされている。また、支援学校の部活動（実際は聴覚支援学校のみではあるが）の充実も目標とされている。

（公財）宮城県体育協会の事業計画の中にも、障がい者スポーツの支援が謳われており、当協会との連携協力、および競技団体と当協会の連携し大会を開催することが目標とされている。

「未就学児および児童のあそび場がない」という保護者からの話をもとに、平成22年12月より県内各地にて開催してきた。当初は、仙台市内での活動ではあったが、市外からの参加者も徐々に増えはじめ、遠く石巻市や白石市、亘理町からの参加者も増え始め、県内各地での開催を求められている。どうしても仙台市内での活動が中心となってしまうため、保護者からの要望もあり、各地域での活動を地域のスポーツ指導者を中心とし、総合型クラブによる会場の確保、また、地元の大学生やボランティア等による協力のもと、事業展開できる体制づくりが急務となっている。

②事業の目的・ねらい

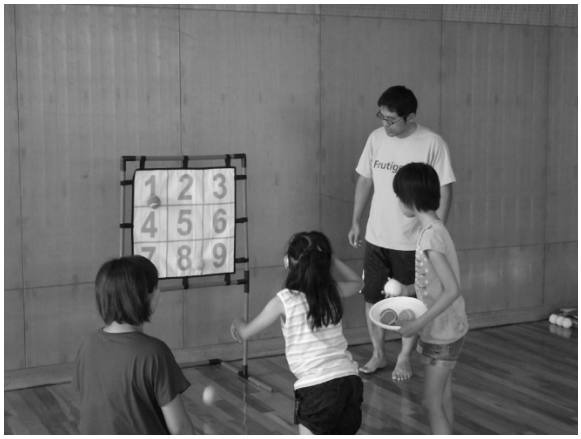
障害児がのびのびと身体を動かせる機会や場を提供し、障害児の健康増進、運動あそび実践のきっかけ作りをサポートすることを目的とする。また、県内の卓球バレーの普及と大会開催により意欲を高めるとともに、広く社会参加の促進に寄与することを目的とする。また、県内各地で開催することにより、その地域の指導員をはじめとする関係者主導で継続開催できるよう、指導していく。

③事業実施概要

（1） 障害児運動・あそびの広場開催事業

事　業　名	障害児運動・あそびの広場
日　　時	第1回：平成28年 7 月23 日　10:30～11:00 第2回：平成28年 8 月27 日　11:00～12:30 第3回：平成28年 9 月 3 日　13:30～15:00 第4回：平成28年10月15 日　10:30～11:00 第5回：平成28年11月19 日　10:30～11:00 第6回：平成28年12月18 日　10:30～11:00 第7回：平成29年 1 月28 日　10:30～11:00
場　　所	第1・2・6・7回：宮城県障害者総合体育センター 第3回：石巻市総合体育館 第4・5回：セキスイハイムサブアリーナ
参 加 者	延べ439名
スタッフ	協会職員2名／看護師2名
補 助 員	延べ287名 障害者スポーツ指導員118名／学生129名／個人ボランティア40名
協　　力	
連携組織	石巻専修大学 東北福祉大学 宮城学院女子大学 東北文化学園大学 東北大学ラグビー部 NPO法人石巻市体育協会
事業内容	マット、平均台、フライングディスク、パラシュット、バルバレー、ティボール等を使用しながら、遊びを通して体を動かすことの楽しさを身につける。

事業の様子



（2） 卓球バレー交流会開催事業

事　業　名	卓球バレー交流会開催事業
日　　時	第1回：平成28年 6 月23日　13:30～16:00 第2回：平成28年12月14日　13:00～15:00 第3回：平成28年12月16日　10:30～12:00 第4回：平成29年 1 月20日　13:30～16:30 第5回：平成29年 1 月30日　13:30～17:00
場　　所	第1回：宮城県障害者総合体育センター 第2回：アクアアリーナ 第3回：富谷中央公民館 第4回：カメイアリーナ仙台 第5回：仙台市宮城野体育館
参　加　者	延べ107名
スタッフ	協会職員2名／看護師2名
補　助　員	延べ39名 障害者スポーツ指導員39名（卓球バレー審判員）
協　　力	宮城卓球バレー協会設立準備委員会
連携組織	宮城県身体障害者福祉協会 宮城県障害者社会参加推進センター NPO法人アクアゆめクラブ NPO法人多賀城市民スポーツクラブ 富谷市身体障害者福祉協会
事業内容	卓球バレー交流大会開催 卓球バレー体験会の開催（七ヶ浜町・富谷市） 卓球バレー指導者養成講習会の開催

事業の様子

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

当該地域での障がい者スポーツ指導者は、高齢化と固定化が課題となっている。そのため、資格取得認定校をはじめとする大学生、専門学校生に運営の補助を願いすることが多くなっている。障がい者スポーツ指導者に各グループのリーダーを担ってもらい、実際に活動に併せて、これから資格取得を目指す若い学生への指導、アドバイスなどの役割を行うよう促した。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

在仙の大学や福祉団体については、以前から周知活動などの事業協力をお願いしていた。今回石巻の大学および体育協会、そして地域総合型スポーツクラブは、もともと当会の事業やボランティア活動に興味を示していたが、なかなかタイミングが合わず活動できずにいた。

（2）実際の事業での役割分担

事業の周知活動、会場の確保などを行っていただいた。石巻専修大学においては、石巻地区の障がい者スポーツ活動などの活動を行う際のボランティア組織を立ち上げる準備を始めている様子である。

（3）事業後の関係性の変化

地域総合型クラブからの数名が初級障がい者スポーツ指導員資格を取得するなど、小学生や高齢者の活動の際に、障がい者スポーツを取り入れている様子である。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

スポーツ用具やレクリエーション用具は、高価なため設置している施設も少なく、あそびの広場については、参加者のニーズに合わせ、数多くの種類を用意しなければならず、現状では不足していたので、この度の購入で対応をすることができた。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

備品は当協会にて管理し、メンテナンスを行うこととした。また、今後の事業に引き続き使用していく。

⑦事業の成果および評価（達成度）

「障害児運動・あそびの広場事業」の実施を通して、障害児がのびのびと遊ぶ姿を見ることができ、保護者も満足そうであった。また、活動を通じ、参加した保護者同士の交流や、協力団体特に大学生同志の連携を図ることができた。また、障がい者スポーツ指導者も学生にアドバイスすることにより、自らの資質の向上を図るよい機会となった。

「卓球バレー交流会開催事業」では、卓球バレーの手軽さと楽しさを参加者に体験していただくことができた。また、総合型クラブ指導者もこの競技に興味を示し、競技用具を購入し活用するなど、競技の普及へのきっかけとなった。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

本事業の実施に当たり連携できた関係各所とさらなる連携を図り、また、実施していない地域での普及活動を行うなど、県内全域へ広がっていくよう強化していく。

また、「障害児運動・あそびの広場」については、地域総合型クラブなどを活用しての開催を目指したが、やはり地域での自主的な開催となると、地域任せでは困難な事業でもある。率先して活動できる専門の指導者を育成することが課題となった。

⑨おわりに

（1）所感

地域での障害者スポーツの振興はまだまだ進んでおらず、現在行っているスポーツ教室なども、仙台市内での活動がメインであり、仙台市を除く地域での活動は定着することは困難であった。

今回、障害児がのびのびとあそぶことができる場所の提供と定着を目標に各地へと出向いたが、スポーツ振興の地域格差、指導者の人材不足が課題となった。

また、卓球バレーについては、障害者だけでなく、子供から老人までが楽しめる競技特性に、教員や総合型クラブの指導者も興味を示すなど、ある程度の成果は得られた。今後は協会の設立、県内各地への普及活動へとつながっていくと思われる。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・指導者と学生、また、各大学間の交流を図った。
・障害児と保護者の分離により、保護者がくつろげる時間を作り、保護者間の交流につながった。
・安全面に留意した人員体制を心がけた。
・地域の活動において核となる人材の発掘を行った。

⑩資料

開催要項、参加申込書、チラシ

【 開催日時・会場 】

平成28年 7 月 23 日(土)	宮城県障害者総合体育センター	10：00～11：30
8 月 28 日(日)		
9 月 3 日(土)	石巻市総合体育館	13：30～15：00
10 月 15 日(土)	セキスイハイム・サブアリーナ	10：00～11：30
11 月 19 日(土)		
12 月 17 日(土)	宮城県障害者総合体育センター	
平成29年 1 月 14 日(土)		

【 対 象 】

身体障害者手帳または療育手帳を有する4歳から12歳までの幼児・児童及びその家族（兄弟・姉妹の参加も可能）

参加費無料！

※ 屋内での活動ですので、室内用シューズをご持参ください。

【 お問合せ 】 宮城県障害者スポーツ協会 TEL：022-257-1005 ／ FAX：022-257-1062
e-mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp ／ URL：http://mpsa.jp/

宮城県卓球バレー交流大会　開催要綱

【目　　的】　宮城県内の卓球バレーの普及と、大会開催により障がい者のスポーツへの意欲を高めるとともに、広く社会参加の促進に寄与することを目的とする。

【主　　催】　宮城県障害者スポーツ協会

【共　　催】　宮城県障害者社会参加推進センター

【日　　時】　平成 28 年 6 月 23 日（木）

受　付　　12：30　～　12：40 ／ 開会式　　13：00　～　13：10

競　技　　13：15　～　16：00 ／ 表彰式　　16：10　～　16：30（予定）

【会　　場】　宮城県障害者総合体育センター

〒983-0836　仙台市宮城野区幸町4-6-1　　TEL：022-295-6550

【参加資格】

(1) 宮城県内に現住所を有する者で、身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳の交付を受けた者。もしくはその取得の対象に準ずる障がいのある者、及び健常者。

(2) 大会出場に際して、健康上特に問題のない者。

【競技規則】　「日本卓球バレー連盟卓球バレー競技規則」及び、本大会申し合わせ事項による。

【競技方法】

リーグ戦方式とする。但し、申込状況により変更することがある。

試合は、3セットマッチとし、2セット先取したチームを勝者とする。

競技は、各セット15点先取とし、デュースは行わない。

【ﾁｰﾑ編成】

(1) チームは、監督1名、コーチ1名、選手12名以内（男女混合可）とする。

(2) 監督及びコーチが選手を兼任することもできる。但し、兼任する場合は、申込書の【選手登録】欄にも氏名が記載されていなければならない。この場合の選手数は、選手を兼ねる監督、コーチを含めて12名以内とする。

(3) 健常者のエントリーは6名までとする。但し、試合に出場できる健常者は1名とする。また、健常者は、ブロッカーをすることはできない。

【参 加 費】　1チーム2,000円（当日徴収）

【申込方法】　別紙出場申込票に記入の上、6月13日（月）までに、下記まで申し込むこと。

【申 込 先】　宮城県障害者スポーツ協会

〒983-0836　仙台市宮城野区幸町4-6-2

TEL：022-257-1005／FAX：022-257-1062

e-mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp

【そ の 他】

(1) 出場選手の健康・安全管理については、事前に医師の診断を受けるなど、各自において十分配慮すること。主催者側においては、大会時の傷害保険の加入と応急処置を行う以外については、一切責任を負わない。

(2) 参加申込票に記載の個人情報は、参加受付・プログラム作成等の本大会の運営、成績の報道発表・公式ホームページ等への掲載、大会主催者からの資料送付・情報提供に使用する。また、大会出場中における映像・写真・記事・記録等への掲載権は主催者に属する。

(3) 参加に際し必要な介助者（手話通訳・要約筆記等も含む）は各チームで手配すること。

(4) 運動できる服装で参加すること。また、体育館シューズを必ず持参すること。

卓球バレー体験教室 開催要項

【目　的】
健常者から重度障がいを持つ方々が一緒に楽しめるスポーツとして全国的に普及し始めている卓球バレーを体験することで、日頃、軽運動すら参加することが難しい方々への運動機会の提供にもつなげることを目的とする。

【主　催】宮城県障害者スポーツ協会
【共　催】七ヶ浜町／社会福祉法人七ヶ浜町社会福祉協議会
NPO 法人アクアゆめクラブ
【後　援】宮城県障害者社会参加推進センター
【協　力】日本卓球バレー連盟
【開催日時】
平成 28 年 12 月 14 日（ 水 ） 13：30 ～ 15：00
【会　場】
七ヶ浜健康スポーツセンター　アクアアリーナ
985-0802 宮城県宮城郡七ヶ浜町吉田浜字野山 5－1
【対 象 者】
町内に在住の身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳の所持者、およびその家族、支援者等
【参加申込】
申込用紙に必要事項を記入し、下記申込先まで FAX・郵送または e-mail でお申し込み下さい
【参 加 費】無　料
【講　師】日本卓球バレー連盟公認２級審判員　　山　内　紀恵子　氏
【そ の 他】1）開始時刻 20 分前から受付をいたします。
2）タオル、運動ができる服装、室内用シューズをご用意ください。
【申 込 先】
宮城県障害者スポーツ協会
〒983-0836　仙台市宮城野区幸町 4-6-2
TEL：022-257-1005／FAX：022-257-1062
e-mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp

卓球バレー体験教室 申込用紙（七ヶ浜町会場）

実施日：12 月 14 日（水） ／ 会場：アクアアリーナ

No.	氏名	性別	障害区分	車椅子利用
1		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
2		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
3		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
4		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
5		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
6		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
7		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
8		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
9		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
10		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
11		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし
12		男・女	身体 ・ 知的 ・ 精神 ・ その他	あり　なし

※ 足りない場合はコピーして使用願います。
※ 障害区分と車椅子利用の欄は○をしてください。

卓球バレー体験教室 開催要項

【目　的】
健常者から重度障がいを持つ方々が一緒に楽しめるスポーツとして全国的に普及し始めている卓球バレーを体験することで、日頃、軽運動すら参加することが難しい方々への運動機会の提供にもつなげることを目的とする。

【主　催】宮城県障害者スポーツ協会
【共　催】富谷市身体障害者福祉協会
【後　援】宮城県障害者社会参加推進センター
【協　力】日本卓球バレー連盟
【開催日時】
平成 28 年 12 月 16 日（金） 10：00 ～ 12：00
【会　場】
富谷中央公民館　大ホール
宮城県富谷市富谷西沢 13　TEL：022-358-2036
【対 象 者】
富谷市内に在住の身体障害者手帳の所持者、およびその家族、支援者等
【参加申込】
申込用紙に必要事項を記入し、下記申込先まで FAX・郵送または e-mail でお申し込み下さい
【参 加 費】無　料
【講　師】
日本卓球バレー連盟公認２級審判員　　山　内　紀恵子　氏
【そ の 他】
1）開始時刻 20 分前から受付をいたします。
2）タオル、運動ができる服装、室内用シューズをご用意ください。
【申 込 先】
宮城県障害者スポーツ協会
〒983-0836　仙台市宮城野区幸町 4-6-2
TEL：022-257-1005／FAX：022-257-1062
e-mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp

卓球バレー体験教室 申込用紙（富谷市会場）

実施日：12 月 16 日（金） ／ 会場：富谷中央公民館

No.	氏名	性別	年齢	障害区分	車椅子利用
1		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
2		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
3		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
4		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
5		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
6		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
7		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
8		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
9		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
10		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
11		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし
12		男・女		肢体 ・ 聴覚 ・ 視覚 ・ その他	あり　なし

※ 足りない場合はコピーして使用願います。
※ 障害区分と車椅子利用の欄は○をしてください。

卓球バレー体験教室　参加者募集

卓球バレーとは、健常者から重度障がいを持つ方々が一緒に楽しめるスポーツとして、全国的に普及し始めている種目です。この種目の最大の魅力は、子供からお年寄りまで障がいの有無に関わらず、競技として成立するところにあります。
地域での行事、また日頃、軽運動すら参加することが難しい方々への運動機会の提供にもつながります。この機会に是非、多くの皆様に体験していただき、卓球バレーの魅力を体験してください。

開催日　2016年12月14日（水）13：30～15：00

会　場　アクアアリーナ

七ヶ浜町吉田浜字野山5-1　TEL：022-357-7890

対　象　町内に在住の身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳の所持者、およびその家族、支援者等

● 参　加　無　料 ●

○ 当日の服装は、スポーツのできる服装でお願いします。室内用シューズをご用意ください。

● お申込み・お問い合わせ ●

宮城県障害者スポーツ協会　〒983-0836　仙台市宮城野区幸町4-6-2
TEL：022-257-1005／FAX：022-257-1062／e-mail:kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp

【共催】七ヶ浜町／社会福祉法人七ヶ浜町社会福祉協議会／NPO法人アクアゆめクラブ

【後援】宮城県障害者社会参加推進センター

FAX申込書

氏　名		性別　男　女	年齢
障　害	肢体・聴覚・視覚・その他	車椅子使用　あり　なし	
連絡先	住所		
	TEL	FAX	
	e-mail		

卓球バレー体験教室　参加者募集

卓球バレーとは、健常者から重度障がいを持つ方々が一緒に楽しめるスポーツとして、全国的に普及し始めている種目です。この種目の最大の魅力は、子供からお年寄りまで障がいの有無に関わらず、競技として成立するところにあります。
地域での行事、また日頃、軽運動すら参加することが難しい方々への運動機会の提供にもつながります。この機会に是非、多くの皆様に体験していただき、卓球バレーの魅力を体験してください。

開催日　2016年12月16日（金）10：00～12：00

会　場　富谷中央公民館 大ホール

宮城県富谷市富谷西沢13　TEL：022-358-2036

対　象　富谷市内に在住の身体障害者手帳の所持者。およびその家族、支援者

● 参　加　無　料 ●

○ 当日の服装は、スポーツのできる服装でお願いします。室内用シューズをご用意ください。

● お申込み・お問い合わせ ●

宮城県障害者スポーツ協会　〒983-0836　仙台市宮城野区幸町4-6-2
TEL：022-257-1005／FAX：022-257-1062／e-mail:kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp

【共催】富谷市身体障害者福祉協会　【後援】宮城県障害者社会参加推進センター

FAX申込書

氏　名		性別　男　女	年齢
障　害	肢体・聴覚・視覚・その他	車椅子使用　あり　なし	
連絡先	住所		
	TEL	FAX	
	e-mail		

卓球バレー指導者養成講習会開催要項

【目　　的】 健常者から重度障がいを持つ方々が一緒に楽しめるスポーツとして全国的に普及し始めている卓球バレーの指導者の養成を通じ、日頃、軽運動すら参加することが難しい方々への運動機会の提供にもつなげることを目的とする。

【主　　催】 宮城県障害者スポーツ協会

【協　　力】 日本卓球バレー連盟

【開催日時】 平成29年１月20日（金）13：00 ～ 16：30

【会　　場】 仙台市体育館 第一競技場　〒982-0032　仙台市太白区富沢1-4-1

【対 象 者】

障がい者スポーツ指導員／体育施設関係者／スポーツ推進委員

総合型地域スポーツクラブ関係者／学校および障がい者施設職員など20名程度

※ 応募者多数の場合は抽選。（受講の可否は全員へ通知）

※ 卓球バレー指導員のフォローアップ研修としての参加も可とする。

【申 請 料】

指導者資格申請料　1,000円　※ 講習会終了後に徴収する。

受講者の方へ、後日「指導者資格認定証」を発行。

【参加申込】

<申込方法>　別紙申込書に必要事項を記入の上、下記申込先へ郵送、FAXまたは、e-mailにて申し込むこと。

<申 込 先>　宮城県障害者スポーツ協会事務局

〒983-0836　仙台市宮城野区幸町4-6-2

FAX：022-257-1062

e-mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp

<申込締切>　平成29年１月16日（月）必着

【そ の 他】

1）実技を伴うので動きやすい服装、体育館用シューズ、ホイッスルを持参。

2）参加の取り消しは事前に連絡すること。

3）駐車場の混雑が予想されるため、公共交通機関を利用すること。

4）個人情報の取り扱いについて

※ 申込書に記載された個人情報は、本講習会以外の目的に使用しない。

宮城県卓球バレー交流大会　開催要綱

【目　　的】 宮城県内の卓球バレーの普及と、大会開催により障がい者のスポーツへの意欲を高めるとともに、広く社会参加の促進に寄与することを目的とする。

【主　　催】 宮城県障害者スポーツ協会

【後　　援】 宮城県障害者社会参加推進センター

【日　　時】 平成29年1月30日（月）

受　付　13：00 ～ 13：15 ／ 開会式　13：30 ～ 13：40

競　技　13：50 ～ 16：00 ／ 表彰式　16：10 ～ 16：20（予定）

【会　　場】 仙台市宮城野体育館　サブアリーナ

〒983-0039　仙台市宮城野区新田東4-1-1　TEL：022-232-1221

【参加資格】

(1) 宮城県内に現住所を有する者で、身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳の交付を受けた者。もしくはその取得の対象に準ずる障がいのある者、及び健常者。

(2) 大会出場に際して、健康上特に問題のない者。

【競技規則】 「2016年版日本卓球バレー連盟競技規則」及び、本大会申し合わせ事項による。

【競技方法】

リーグ戦方式とする。但し、申込状況により変更することがある。

試合は、3セットマッチとし、2セット先取したチームを勝者とする。

競技は、各セット11点先取とし、デュースは行わない。

【チム 編成】

(1) 1チームの登録は、役員3名、選手12名以内とし、役員は選手を兼任できる。この他、介助者・手話通訳等を必要に応じて置くことができる。

(2) 役員が選手を兼任する場合は、申込書の【選手登録】欄にも氏名が記載されていなければならない。この場合の選手数は、選手を兼ねる役員を含めて12名以内とする。

(3) 試合に出場できる健常者は1名とする。また、健常者は、ブロッカーをすることはできない。

【参 加 費】 1チーム2,000円（当日徴収）

【申込方法】 別紙出場申込票に記入の上、1月23日（月）までに、下記まで申し込むこと。

【申 込 先】 宮城県障害者スポーツ協会　〒983-0836　仙台市宮城野区幸町4-6-2
TEL：022-257-1005／FAX：022-257-1062
e-mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp

【そ の 他】

(1) 出場選手の健康・安全管理については、事前に医師の診断を受けるなど、各自において十分配慮すること。主催者側においては、大会時の傷害保険の加入と応急処置を行う以外については、一切責任を負わない。

(2) 参加申込票に記載の個人情報は、参加受付・プログラム作成等の本大会の運営、成績の報道発表・公式ホームページ等への掲載、大会主催者からの資料送付・情報提供に使用する。また、大会出場中における映像・写真・記事・記録等への掲載権は主催者に属する。

(3) 参加に際し必要な介助者（手話通訳・要約筆記等も含む）は各チームで手配すること。

(4) 運動できる服装で参加すること。また、体育館シューズを必ず持参すること。

スポーツふくしま元気向上計画

◆地域スポーツ教室運動機会提供事業

◆陸上競技指導員・審判育成事業

公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

福島県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

本県は、東日本大震災の影響により、屋外での運動が制限され、運動不足等が問題となった。その改善案として豊かなスポーツライフの創造を目指すため、「楽しむ」、「育む」、「競う」、「つなぐ」の 4 つの視点から 8 つの推進施策を掲げた。その施策において障がい者スポーツは多く該当しており、なかでも地域スポーツ教室を開催することは、障がい者のライフステージに合った運動機会を作り、継続することが重要である。また、本県では、運動設備の改善、選手強化、震災後登録人数が減少傾向にある障がい者スポーツ指導員の養成などが課題となっている。こうした状況を改善するため、3 支部（7 地区）体制で定期的に地域スポーツ教室を開催し、身近な地域でのスポーツ活動定着に努めてはいるが、地域ごとに差があり、定着しきれていないのが現状である。

②事業の目的・ねらい

本事業では、地域スポーツ教室をより身近なものとするため、6 支部体制とし、より身近な地域で定期的に開催することで、当事者の方も障がい者スポーツ指導員も参加しやすい環境づくりに努める。その結果、当事者と指導員だけでなく、当事者の保護者にとっても新たな発見や貴重な体験を提供できる場となることを目的とする。

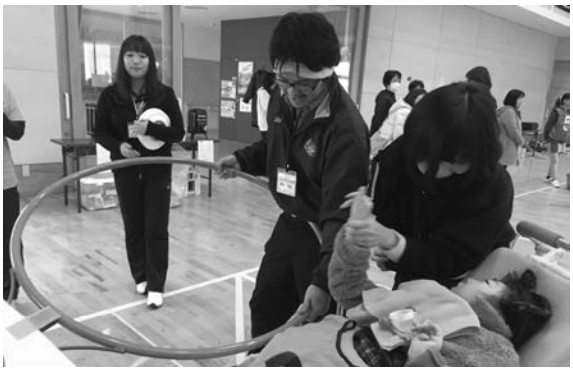
また、2017 年ジャパンパラ陸上競技大会が本県で開催されるため、陸上競技に関わっている選手及び指導員の熱が高まっている。その熱を追い風とし、より専門的な指導員・審判員を育成するため講習会を開催し、大会以降も継続的に活躍できる指導員・審判員の育成を目的とする。

③事業実施概要

（1） 障がい者のスポーツ教室事業

事　業　名	地域スポーツ教室　運動機会提供事業
日　　時	平成 28 年 10 月 2 日～平成 29 年 3 月 12 日
場　　所	県北支部：だての郷、二本松市岳下住民センター、福島県あづま総合運動公園、ラウンドワンスタジアム福島 いわき支部：いわきサン・アビリティーズ 県中支部：福島県立郡山養護学校 会津支部：会津若松市ふれあい体育館 県南支部：福島県勤労障がい者体育館 相双支部：相馬市社会福祉協議会はまなす館、LumixBowl 原町、スポーツアリーナそうま、新地町総合体育館
参　加　者	県北支部：延 170 名、いわき支部：延 75 名、県中支部：延 64 名 会津支部：延 219 名、県南支部：延 45 名、相双支部：延 86 名
スタッフ	県北支部：延 50 名、いわき支部：延 20 名、県中支部：延 35 名 会津支部：延 62 名、県南支部：延 31 名、相双支部：延 24 名
補　助　員	県北支部：延 1 名、いわき支部：延 20 名、県中支部：延 15 名 会津支部：延 46 名、県南支部：延 3 名、相双支部：延 5 名
協　　力	福島県障がい者スポーツ指導者協議会 福島県障がい者フライングディスク協会 福島県ボッチャ協会
連携組織	福島県障がい者スポーツ指導者協議会 いわきサンアビリティーズサポーターズクラブ 会津若松市 会津若松市教育委員会 会津若松市社会福祉協議会 会津若松市ボランティア連絡協議会 会津若松市身体障がい者福祉会 障害者の明日を考える会 東北発電工業労働組合　会津分会
事業内容	障がいの有無を問わず、誰もが参加でき、楽しむことのできるスポーツの実戦（フライングディスク、ボッチャ、吹き矢、卓球バレー、風船バレー、キンボール、ハンドアーチェリー、風船バレー　等）

事業の様子



↑県中スポーツ教室でのフライングディスク体験

↑会津スポーツ教室でのスポーツ吹き矢の様子

↑いわきスポーツ教室での STT 競技の様子

↑県南スポーツ教室でのハンドアーチェリー競技

↑県北スポーツ教室でのボッチャ競技の様子

相双スポーツ教室でのフライングディスク競技↑

（２） 障がい者スポーツ指導者の育成事業

事　業　名	陸上競技指導員・審判育成事業
日　　時	①平成 28 年 6 月 3 日（金）～6 月 4 日（土）
	②平成 28 年 9 月 11 日（水）～12 月 14 日（水）　計 10 回開催
	③平成 28 年 9 月 24 日（土）13 時～17 時
場　　所	①デンカビックスワンスタジアム
	②富田ふれあいセンター、とうほうみんなのスタジアム、郡山障害者福祉センター
	③とうほうみんなのスタジアム
参　加　者	①8 名（福島陸上競技協会 4 名、福島パラ陸上競技協会 4 名）
	②延 154 名（福島パラ陸上競技協会）
	③35 名（福島陸上競技協会 15 名、福島パラ陸上競技協会 20 名）
スタッフ	①福島県スポーツ課 3 名、福島県障がい者スポーツ協会 2 名
	②無し
	③講師 1 名、福島県スポーツ課 3 名、福島県障がい者スポーツ協会 2 名
協　　力	福島県文化スポーツ局スポーツ課 日本パラ陸上競技連盟 福島陸上競技協会 福島パラ陸上競技協会 福島県障がい者スポーツ指導者協議会
連携組織	福島県文化スポーツ局スポーツ課 福島陸上競技協会 福島パラ陸上競技協会 福島県障がい者スポーツ指導者協議会
事業内容	①2016 ジャパンパラ陸上競技大会視察 ・ジャパンパラ陸上競技大会の運営状況の把握 ・大会開催に必要な設備の確認 ・日本パラ陸上競技連盟との打ち合わせ ②ジャパンパラ陸上競技大会競技運営担当団体（福島パラ陸上競技協会）会議 ・ジャパンパラ陸上競技大会開催に向けた競技団体の役割の把握 ・ジャパンパラ陸上競技大会連絡協議会の内容の共有 ・IPC ルールについての勉強会 ③日本パラ陸上競技連盟　関　幸生　氏による審判講習会 ・国際陸上競技連盟競技会規則と IPC 陸上競技規則の共通点と相違点 ・相違点についての解説 ・パラ陸上競技に使用される補助具等について ・クラスについて ・伴走者及びコーラーの役割とルールについて ・質疑応答

事業の様子

①2016 ジャパンパラ陸上競技大会視察

↑日本パラ陸上競技連盟との打ち合わせの様子

↑大会中のプレスルームの様子

②ジャパンパラ陸上競技大会競技運営担当団体（福島パラ陸上競技協会）会議

↑IPC ルールについての勉強会の様子

↑会議の様子

③日本パラ陸上競技連盟　関　幸生　氏による審判講習会

9/24 審判講習会の様子

9/25 審判講習会で学んだことの実践の場
（北海道・東北障がい者陸上競技選手権大会）

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

事業①：障がい者スポーツ指導員が主となり、教室の運営・進行を行っている。参加者とその保護者とコミュニケーションをとりながら、各参加者の障がい状況を考慮し、楽しく目標を持ってスポーツに取り組めるよう指導をしている。また、指導員間でも情報を交換し、共有することでより良い教室となるよう努めている。

事業②：福島パラ陸上競技協会には数多くの障がい者スポーツ指導員が所属しており、今回の審判講習会を受講したことで、ジャパンパラ陸上競技大会だけでなく、それ以降の陸上競技教室での指導にも活かしていく。また、代表として 2016 ジャパンパラ陸上競技大会の視察に行った指導員が情報を持ち帰り、会議等で多くの指導員に共有することがスキルアップにも繋がる。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

事業①：昨年度から教室のボランティア派遣や周知協力をいただいていた。

事業②：福島県障がい者総合体育大会の運営や種目別陸上競技教室の運営等を協力していただいていた。

（2）実際の事業での役割分担

事業①：教室の周知や当日のボランティア派遣などを務めていただいた。当日は教室に補助員として実際に教室に参加していただいた。

事業②：2016 ジャパンパラ陸上大会の視察に帯同していただき、大会運営や大会の流れを把握していただいた。また、審判講習会を実際に受講していただき、陸上競技とパラ陸上競技のルール等について学んでいただいた。翌日開催された大会で実際に審判をやっていただき、学んだことを実践していただいた。

（3）事業後の関係性の変化

事業①：今後も各団体と連携をとりながら教室の開催及び運営を行っていく。周知に関しては、やはりまだまだ手薄な部分があるため、周知に関しても連携していけるようしていく。

事業②：当面の照準をジャパンパラ陸上競技大会に合わせ、会場関係や人員配置、当日の運営等に関して、各団体で協力し合っていくことを確認した。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

・フライングディスクとアキュラシーゴールに関しては、各支部のスポーツ教室にて活用し、多くの参加者に楽しんでいただいた。ルールが分かりやすいため、人気があり、障がいの程度によってゴールの距離を調整し行った。

・スポーツ吹き矢に関しては、特に会津支部で人気があり、一度やると次もやりたくなる中毒性があるようでリピーターが多い人気競技となった。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

・今後は各支部で 1 セットずつ管理し、各支部で持っている倉庫で管理する。今後も地域のスポーツ教室で活用していく。

⑦事業の成果および評価（達成度）

事業①：身近な地域で定期的に開催することができた。指導員を中心に運営し、参加者の障がい状況やニーズに合わせたスポーツを行うことで、参加しやすい教室を開催できた。

事業②：今回 2016 ジャパンパラ陸上競技大会を視察したことで、大会運営の様子や各団体の役割を把握できた。その情報を基に競技運営を担当する福島パラ陸上競技協会が定期的に会議を開催することで、団体所属の指導員の意識向上を促した。また、審判講習会を開催することで、国際陸上競技連盟競技会規則と IPC 陸上競技規則の共通点と相違点について学ぶことができ、指導員のスキルアップに繋がった。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

事業①：各地域でのスポーツ教室は継続的に開催し、身近な地域でスポーツができる環境づくりを行っていく。また今回会津支部でしか行えなかった自治体との連携を全支部で行い、周知の徹底に努めていく。

事業②：今回、開催した審判講習会をジャパンパラ陸上競技大会開催前にも一度実施し、より大会成功のため、準備していく。また、今回行った競技運営団体会議に福島陸上競技協会にも参加していただき、一般競技団体と障がい者競技団体がより近い関係性で協力し、大会成功に向かえるようにしていく。大会終了後も定期的に開催し、本県指導員のスキルアップ及びパラ陸上競技指導員の育成に力を入れていく。

⑨おわりに

（1）所感

事業①については、障がい者スポーツ指導者協議会 6 支部に協力をいただき、以前の 3 支部（県北、県中、県南）から 6 支部（県北、県中、県南、相双、いわき、会津）で地域スポーツを開催することができ、参加者にとってより身近な地域でスポーツができる環境を作れた。

また、教室の内容も参加者の障がい状況やニーズに合わせたスポーツを行うことで、より参加しやすい教室を開催することができた。

事業②については、2016 ジャパンパラ陸上競技大会視察、審判講習会を通して、障がい者スポーツ指導者協議会と障がい者競技団体と一般競技団体が連携し、ジャパンパラ陸上競技大会に向けて、関係性を強めることができた。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど

・事前に指導員、補助員で打ち合わせ等の準備を行った。
・参加者の障がい状況に合わせて実施スポーツを工夫した。
・参加者が不安にならないよう笑顔で対応した。
・指導員の参加の有無を明確にすることを徹底した。
・新人指導員に関しては担当箇所を決めて動きやすいようサポートした。

⑩資料

・開催要項　・参加者名簿

平成２８年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
地域スポーツ教室運動機会提供事業　実施要綱

１　目　的
この事業は、各地域でスポーツをする環境を整え、障がい者が身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境を提供し、地域における障がい者スポーツの振興と地域コミュニティへの参画と交流を図る。

２　実施主体
この事業の実施主体は、公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会、福島県障がい者スポーツ指導者協議会とする。

３　対象者
この事業の対象者は、スポーツに親しみ、スポーツを楽しもうとする者とする。

４　内　容
教室の方法により、「６実施上の留意事項」に配慮して行うものとする。
なお、実技にあたっては、各々の障がいの特性に配慮するとともに、その種目の選定については、障がいの有無に関わらず交流可能なもの等を取り入れる。

５　実施手続
実施主体は、参加希望の把握、参加申込等、諸手続について、福島県障がい者スポーツ指導者協議会の協力を得て行うものとする。

６　実施上の留意事項
（１）この事業の実施にあたっては、福島県障がい者スポーツ指導者協議会のほか、障害者関係施設、障がい者福祉関係団体、教育関係団体、一般市民団体、ボランティア等関係機関との連携を図り、効果的実施に努める。
（２）この事業の実施場所については、公共スポーツ施設のほか、適当な施設で行うものとし、スポーツ施設設置者に対し、本事業の趣旨の啓発を図り、本事業の利用に併せられるよう努める。
（３）参加者の事故を防止するための指導、用具の整備・調整に配慮する。
（４）実施時期、場所等は、できるだけ多くの障がい者が参加できるよう配慮する。
（５）広報誌、ホームページ、各団体等の協力を得て周知徹底を図り、多くの参加者が情報を得られるようにする。
（６）講師・指導者の選任は、障がい者スポーツ指導員資格を有する者とする。

７　細目的事項
この要綱に定めるもののほか、実施種目、開催日時、その他実施に関する細目事項については、別に定める「地域スポーツ教室運動機会提供事業実施要領」によるものとする。

附　則
この要綱は、平成２８年１０月１日から施行する。

平成２８年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
地域スポーツ教室運動機会提供事業　県北支部スポーツ教室　実施要領

１．目　的：各地域でスポーツをする環境を整え、障がい者が身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境を提供し、地域における障がい者スポーツの振興と地域コミュニティへの参画と交流を図る。

２．主　催：公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

３．主　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会県北支部

４．後　援：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

５．日　時：①平成２８年１０月２３日（日）　１０：００　～　１２：００
②平成２８年１１月　６日（日）　１０：００　～　１２：００
③平成２８年１２月１７日（土）　１０：００　～　１２：００
④平成２９年　１月１４日（土）　１０：００　～　１２：００

６．会　場：①だての郷（伊達市保原町字中瀬町１００）
②二本松市岳下住民センター（二本松市三保内７２－１）
③福島県あづま総合体育館（福島市佐原字神事場一番地）
④ラウンドワンスタジアム福島（福島市太田町１４番１８号）

７．内　容：フライングディスクやボッチャ等を基本に参加者に合わせた競技を実施。

８．申込方法：①申込期限　当日参加も可能です。
②申込先　福島県障がい者スポーツ指導者協議会県北支部
本宮市高木井戸上３４－１９
TEL：0243-34-2749　MAIL：sptk8th9@coffee.ocn.ne.jp
③申込方法　申込の際に、お名前、年齢、性別、住所、連絡先、障がい状況をお知らせください。

９．連絡事項：①開始時間３０分前から受け付けます。
②保険につきましては、主催者でレクリエーション保険に加入します。
③会場・時間の変更が発生する場合がございますので、事前に申し込みをしてください。

平成２８年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
地域スポーツ教室運動機会提供事業　県中支部スポーツ教室　実施要領

１．目　的：各地域でスポーツをする環境を整え、障がい者が身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境を提供し、地域における障がい者スポーツの振興と地域コミュニティへの参画と交流を図る。

２．主　催：公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

３．主　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会県中支部

４．後　援：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

５．協　力：福島県立郡山養護学校

６．日　時：①平成２８年１０月１０日（日）　９：００　～　１２：００
②平成２８年１１月２３日（水）　９：００　～　１２：００
③平成２８年１２月　３日（日）　９：００　～　１２：００

７．会　場：福島県立郡山養護学校　体育館
郡山市富田町字上ノ台１番地

８．内　容：フライングディスクやボッチャ等を基本に参加者に合わせた競技を実施。

９．申込方法：①申込期限　当日参加も可能です。
②申込先　福島県障がい者スポーツ指導者協議会県中支部
郡山市逢瀬町多田野字川向５
TEL：024-957-2554　MAIL：virago250.jackass@gmail.com
③申込方法　申込の際に、お名前、年齢、性別、住所、連絡先、障がい状況をお知らせください。

１０．連絡事項：①開始時間３０分前から受け付けます。
②保険につきましては、主催者でレクリエーション保険に加入します。
③会場・時間の変更が発生する場合がございますので、事前に申し込みをしてください。

平成２８年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
地域スポーツ教室運動機会提供事業　県南支部スポーツ教室　実施要領

１．目　的：各地域でスポーツをする環境を整え、障がい者が身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境を提供し、地域における障がい者スポーツの振興と地域コミュニティへの参画と交流を図る。

２．主　催：公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

３．主　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会県南支部

４．後　援：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

５．日　時：①平成２８年１０月１５日（土）　１３：００　～　１５：００
②平成２８年１１月２０日（日）　１３：００　～　１５：００
③平成２８年１２月１８日（日）　１３：００　～　１５：００
④平成２９年　１月１５日（日）　１３：００　～　１５：００

６．会　場：福島県勤労障害者体育館
西白河郡西郷村大字小田倉字上上野原５－３

７．内　容：フライングディスクやボッチャ等を基本に参加者に合わせた競技を実施。

８．申込方法：①申込期限　当日参加も可能です。
②申込先　福島県障がい者スポーツ指導者協議会県南支部
白河市古高山１－８０
TEL：0248-23-9880　MAIL：cartier_1122@yahoo.co.jp
③申込方法　申込の際に、お名前、年齢、性別、住所、連絡先、障がい状況をお知らせください。

９．連絡事項：①開始時間３０分前から受け付けます。
②保険につきましては、主催者でレクリエーション保険に加入します。
③会場・時間の変更が発生する場合がございますので、事前に申し込みをしてください。

平成２８年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
地域スポーツ教室運動機会提供事業　相双支部スポーツ教室　実施要領

１．目　　的：各地域でスポーツをする環境を整え、障がい者が身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境を提供し、地域における障がい者スポーツの振興と地域コミュニティへの参画と交流を図る。

２．主　　催：公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

３．主　　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会相双支部

４．後　　援：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

５．日　　時：①平成２８年１０月　２日（土）　９：００　～　１２：００
②平成２８年１１月　６日（日）　９：００　～　１２：００
③平成２８年１２月　４日（日）　９：００　～　１２：００

６．会　　場：相馬市総合福祉センターはまなす館
相馬市小泉字高池３５７

７．内　　容：フライングディスクやボッチャ等を基本に参加者に合わせた競技を実施。

８．申込方法：①申込期限　当日参加も可能です。
②申込先　公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会
福島市杉妻町２－１６　県スポーツ課内
TEL：024-521-8042　FAX：024-521-7879
MAIL：fsad2011@gmail.com
③申込方法　申込の際に、お名前、年齢、性別、住所、連絡先、障がい状況をお知らせください。

９．連絡事項：①開始時間３０分前から受け付けます。
②保険につきましては、主催者でレクリエーション保険に加入します。
③会場・時間の変更が発生する場合がございますので、事前に申し込みをしてください。

平成２８年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
地域スポーツ教室運動機会提供事業　いわき支部スポーツ教室　実施要領

１．目　　的：各地域でスポーツをする環境を整え、障がい者が身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境を提供し、地域における障がい者スポーツの振興と地域コミュニティへの参画と交流を図る。

２．主　　催：公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

３．主　　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会いわき支部

４．後　　援：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

５．協　　力：いわきサン・アビリティーズ
いわきサン・アビリティーズサポーターズクラブ

６．日　　時：①平成２８年１０月２０日（木）　１８：００　～　２０：００
②平成２８年１１月１７日（木）　１８：００　～　２０：００
③平成２８年１２月１５日（木）　１８：００　～　２０：００
④平成２９年　１月１９日（木）　１８：００　～　２０：００

７．会　　場：いわきサン・アビリティーズ
いわき市常磐湯本町上浅貝５番地１

８．内　　容：フライングディスクやボッチャ等を基本に参加者に合わせた競技を実施。

９．申込方法：①申込期限　当日参加も可能です。
②申込先　福島県障がい者スポーツ指導者協議会いわき支部
ＴＥＬ：090-3640-7295　ＦＡＸ：0246-34-3248
ＭＡＩＬ：bluebearblueblue@yahoo.co.jp
③申込方法　申込の際に、お名前、年齢、性別、住所、連絡先、障がい状況をお知らせください。

１０．連絡事項：①開始時間３０分前から受け付けます。
②保険につきましては、主催者でレクリエーション保険に加入します。
③会場・時間の変更が発生する場合がございますので、事前に申し込みをしてください。

平成２８年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
地域スポーツ教室運動機会提供事業　会津支部スポーツ教室　実施要領

１．目　　的：各地域でスポーツをする環境を整え、障がい者が身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境を提供し、地域における障がい者スポーツの振興と地域コミュニティへの参画と交流を図る。
２．主　　催：公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会
３．主　　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会会津支部
４．後　　援：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
５．協　　力：福島県障がい者フライングディスク協会
会津若松市
会津若松市教育委員会
会津若松市社会福祉協議会
会津若松市ボランティア連絡協議会
会津若松市身体障がい者福祉会
障がい者の明日を考える会
東北発電工業労働組合　会津分会
６．日　　時：①平成２８年１０月　９日（日）　１０：００　～　１５：００
②平成２８年１１月　５日（日）　１３：００　～　１５：００
③平成２８年１２月１０日（土）　１３：００　～　１５：００
④平成２８年１２月１８日（日）　１３：００　～　１５：００
⑤平成２９年　１月１５日（日）　１３：００　～　１５：００
７．会　　場：会津若松市　ふれあい体育館
会津若松市一箕町大字八幡字八幡２番地の１
８．内　　容：フライングディスクやボッチャ等を基本に参加者に合わせた競技を実施。
９．申込方法：①申込期限　当日参加も可能です。
②申込先　福島県障がい者スポーツ指導者協議会会津支部
会津若松市飯盛三丁目１０番１号
TEL：0242-38-4154　MAIL：toshizo@mw.net.jp
③申込方法　申込の際に、お名前、年齢、性別、住所、連絡先、障がい状況をお知らせください。
１０．連絡事項：①開始時間３０分前から受け付けます。
②保険につきましては、主催者でレクリエーション保険に加入します。
③会場・時間の変更が発生する場合がございますので、事前に申し込みをしてください。

埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）

◆障がい者スポーツ体験交流会

◇第７回秩父郡市障害者高齢者スポーツ大会　体験コーナー

◇キックオフ　体験交流会

◇秩父特別支援学校　体験交流会

◇皆野町ふれあいまつり　ボッチャ体験コーナー

◇さやかグループ　体験交流会準備会

◇さやかグループ　体験交流会

◇長瀞町　パラスポーツ体験交流会

◇秩父地域関係組織報告会・振り返り会

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

埼玉県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

埼玉県スポーツ推進計画は、平成25年度から29年度までの5か年を計画期間としているが、幼児から高齢者まで、性別や障がいの有無にかかわらず、全ての県民が生涯にわたってスポーツと関わる活動全般を対象としており、「生涯にわたるスポーツ活動の推進」、「国内・国際大会に向けた競技スポーツの推進」の項目において、障がい者のスポーツに関する記載がされている。

埼玉県における障がい者スポーツの統括団体である当協会や障がい者スポーツセンターの役割をもつ県障害者交流センターは、地域でのスポーツ活動を積極的に進めているが、ともにさいたま市に所在しているため、県南部での障がい者のスポーツ活動は広がってきているものの、県北部は地理的条件などから、スポーツ推進計画の施策の実現に向けて十分な活動ができないままであった。

特に秩父地域（秩父郡と秩父市）は周囲を丘陵や山に囲まれていることで、地域内やそれぞれの市や町の中でも交通アクセスが悪く、障がい者のスポーツ参加も少ないと思われるが、当協会や交流センターともに地域での活動状況を十分に把握できないままであった。また、埼玉県における障がい者スポーツ指導者の登録人数をみても、県南部に比べて県北部の登録者数が極端に少ないという現状もある。

このように、埼玉県全地域では、障がい者スポーツ指導者数やスポーツ環境に偏りがあるなかで、地域と障がい者スポーツ指導員をどのように繋いでいくかが課題のひとつであるが、秩父地域のような小規模の市町や関係団体等がそれぞれ単独で障がい者スポーツの振興をめざすより、その地域の障がい者スポーツ指導者とともにスポーツ推進委員、行政、障がい者団体、学校等とが連携しながら取り組むことが重要であると考えられる。

そこで、本事業においては秩父地域（1市4町　※1村は生活圏の違いにより今回の事業対象に入っていません）に限定し、スポーツ協会や交流センター等の関係者が地域に出向いて、地域でのスポーツ体験の場を提供しながら、障がい者も含めて一般市・町民や行政などの理解の促進をめざした「障がい者スポーツ体験交流会」を7回実施し、最後に関係団体代表者による報告会を開催し今後の活動目標などを協議するとともに、地域が連携して障がい者のスポーツ環境整備を目指した活動の第一歩をスタートすることができた。

②事業の目的・ねらい

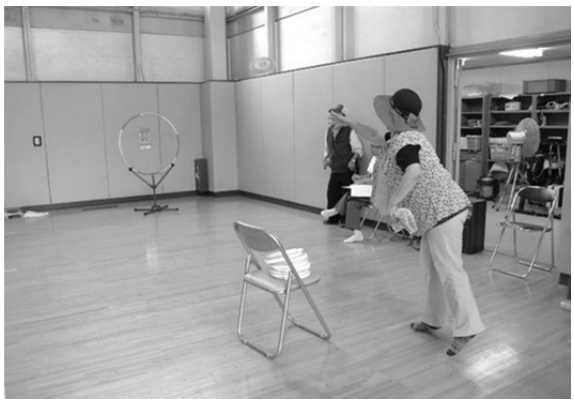
・秩父地域の実情に応じて地域で自立したスポーツ活動ができるような基盤整備
・継続したスポーツ活動の場を根付かせる
・地域の人と人、団体や組織間の連携づくり
・スポーツ活動を推進する人材の掘りおこしと育成
・秩父地域の障がい者スポーツ指導員間の連携づくりと活動の場の提供
・重度障がい児・者が身近な地域でスポーツにふれあう機会をつくる
・28年度に県北部の熊谷市で開催する指導者養成講習会受講者の地域活動のきっかけづくり
・障がい者スポーツ指導員の活動の場づくりの提供

③事業実施概要

（1） 障がい者スポーツ体験交流会

事　業　名	第7回秩父郡市障害者高齢者スポーツ大会　体験コーナー
日　　時	10月7日（金）　9:00～14:00
場　　所	秩父荒川総合公園　運動場・体育館
参　加　者	70名（身体障がい者、高齢者）
スタッフ	4名（交流センター2名 協会2名）
連携組織	秩父郡市の身体障害者福祉協会
事業内容	○新規種目の提案（ボッチャ、卓球バレー） ○大会時に、ボッチャ・卓球バレーの体験コーナーを設置し、参加者が自由に体験。昼休みには、ボッチャのデモンストレーションを実施 （既存の大会種目は、グラウンド・ゴルフ、フライングディスク、スカットボール、ペタンク）

事業の様子



事　業　名	キックオフ　体験交流会
日　　時	10 月 12 日（水）　16:00～17:30
場　　所	秩父特別支援学校　体育館
参　加　者	約 30 名（施設利用者約 25 名 職員約 5 名）
スタッフ	4 名（交流センター1 名 協会 3 名）
協　　力	秩父特別支援学校
連携組織	障害者活動センターキックオフ、秩父特別支援学校
事業内容	○バランスボール・バルーン、フライングディスク、カーリングのデモンストレーションと体験 ・フライングディスク・カーリングは 2 グループに分け、時間で種目を交替し、体験

事業の様子

事　業　名	秩父特別支援学校　体験交流会
日　　時	10 月 12 日（木）　9：30～11：00
場　　所	秩父特別支援学校　体育館
参　加　者	約 80 名（高等部生徒（知的障がい）46 名 教員 23 名 ＊児童（肢体不自由）7 名 教員数名）
スタッフ	4 名（交流センター1 名 協会 3 名）
協　　力	秩父特別支援学校
連携組織	秩父特別支援学校
事業内容	○ボッチャ、フライングディスク、カーリング、スカットボールのデモンストレーションと体験 ・参加者を 6 グループに分け、時間で種目を交替し、体験 ・最初はスタッフが進行や審判を担当し、その後は教員が進行や審判も交代で体験

事業の様子

事　業　名	皆野町ふれあいまつり　ボッチャ体験コーナー
日　　時	10 月 30 日（日）　10:00～15:00
場　　所	皆野町役場前　おまつり広場
参　加　者	192 名
ス タ ッ フ	8 名（スポーツ指導員 4 名 交流センター1 名 協会 3 名）
協　　力	埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会
連 携 組 織	皆野町
事 業 内 容	○ボッチャの体験コーナーを設置し、参加者が自由に体験

事業の様子

事　業　名	さやかグループ　体験交流会準備会
日　　時	11 月 10 日（木）　16:30～18:30
場　　所	ふらわあ事業所
参　加　者	18 名（施設職員）
スタッフ	5 名（スポーツ指導員 3 名 協会 2 名）
協　　力	埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会 埼玉県総合リハビリテーションセンター健康増進担当
連携組織	社会福祉法人清心会　さやか
事業内容	○ボッチャ、カーリング、フライングディスクのデモンストレーションと体験 ・参加者全員でひとつずつ種目を体験 ・最初はスタッフが進行や審判を担当し、その後は参加者が進行や審判も交替で体験 ○スポーツ活動の取組み事例や体験談を伝える

事業の様子

事　業　名	さやかグループ　体験交流会
日　　時	11 月 17 日（木）　16:30～18:30
場　　所	ふらわあ事業所
参　加　者	40 名（施設利用者 10 名 職員 30 名）
スタッフ	7 名（スポーツ指導員 3 名 協会 4 名）
補　助　員	10 名（準備会参加職員）＊参加職員 30 名に含む
協　　力	埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会
連携組織	社会福祉法人　清心会　さやか
事業内容	○ボッチャ（ゲーム・ターゲット)、カーリング、テーブルホッケーのデモンストレーションと体験 ・参加者を 4 グループに分け、時間で種目を交替し、体験 ・各グループに準備会参加職員をリーダーとして配置し、グループの進行や審判を担当

事業の様子

事　業　名	長瀞町　パラスポーツ体験交流会
日　　時	11 月 20 日（日）　9:30～12:30
場　　所	長瀞町中央公民館　体育室
参　加　者	9 名（障がいのある町民 2 名 社協職員 1 名 スポーツ推進委員 6 名）
スタッフ	14 名（スポーツ指導員 6 名 特別支援学校教員 3 名 町職員 1 名 交流センター1 名 協会 3 名）
協　　力	埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会 埼玉県特別支援学校体育連盟
連携組織	長瀞町教育委員会
事業内容	○ボッチャ、フライングディスク、カーリング、卓球バレー、テーブルホッケーのデモンストレーションと体験 ・参加者、スポーツ指導員・教員を混ぜて 3 グループに分け、種目体験をしながら交流を深める ・グループ内の進行・審判は、主にスポーツ指導員・教員が担当

事業の様子

事　業　名	報告会・振り返り会
日　　時	平成 29 年 1 月 26 日（木）　18:00～20:00
場　　所	秩父市福祉女性会館
参　加　者	23 名 （行政）横瀬町健康づくり課、皆野町健康福祉課、小鹿野町福祉課 （障がい者団体）秩父市身体障害者福祉協会ハート秩父代表理事、 横瀬町身体障害者福祉会会長、皆野町身体障害者福祉会会長 （学校）秩父特別支援学校　教員 2 名 （障がい者活動センター）キックオフ施設長、生活介護責任者 （社会福祉法人）さやかグループ　総合施設長、所長、係長 （障がい者スポーツ指導者）秩父市在住指導員 （障がい者交流センター）所長、担当主査、指導員 （スポーツ協会）副会長、事務局長、他職員 3 名
議　　事	○交流会実施団体からの報告（あらかじめ提出した報告書にそって） ○29 年度実施にむけて意見交換 ○今後の取り組みについて、それぞれの立場でやるべきことを整理
議　　事 ま　と　め	○効果 ・マンネリ化の改善になった（施設） ・職員も一緒に楽しむことで今後の継続につながった（施設・学校） ・関係者とのつながりの機会となった（行政） ・組織は弱体化しているがスポーツは交流が図れる（障がい者団体） ○課題 ・用具と指導員不足 ・身近な地域で昼間に活用できる場所がない（施設） ・秩父地域各行政・事業所等で共同のスポーツ環境づくりが必要（行政） ・秩父地域でプチふれあいピックを開催ができないか（学校ほか） ・指導員を育成したい（障がい者団体） ・移動の手段（障がい者団体） ○今後の取り組み ・1 市 4 町広報誌で今回事業の報告や今後について周知（各行政の取組） ※　県行政（福祉推進課）に市町へ働きかけを依頼（スポーツ協会） ・事業所は、29 年度計画事業にスポーツ活動を入れる（施設の取組） ・秩父特別支援学校を地域の拠点施設にする（県教育委員会も了承） ・「秩父地域ふれあいピック開催」をめざす（全体で協働） ・29 年度も出前体験会を実施する（スポーツ協会・交流センター） ・秩父特別支援学校にスポーツ用具を配備する（スポーツ協会） ・障がい種別を超えた連携の取り組みを（障がい者団体）

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

秩父地域での継続した活動につなげるため、秩父地域及び近隣市町在住の障がい者スポーツ指導員に限定して協力を依頼し、体験交流会の運営をサポートしてもらった。

体験交流会では、ルール説明や審判等の運営としての役割とともに、参加者と一緒に活動・交流し、スポーツの楽しさを共有・広める大切な役割を担ってくれた。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

行政：県大会に関する周知や申込み手続きの協力

体験交流会実施団体：一部団体は今までも県大会等への参加があったが、事業を実施するのは初めて。本事業を通じ、初めて連絡をとった団体もある。

（2）実際の事業での役割分担

行政：地域の状況や課題点などの情報共有、事業報告会への参加

体験交流会実施団体：会場やブースの確保、参加者募集、事業報告会での実施報告

（3）事業後の関係性の変化

秩父地域の障がい者スポーツ拠点施設として、埼玉県立秩父特別支援学校の体育施設を利用する動きが始まりつつある。

（4）その他

団体や組織が連携するだけではなく、「それぞれの立場でできること」の洗い出しと取り組み内容を確認できた。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

ボッチャのボールセット、フライングディスク用具を購入し、体験交流会を実施することができた。交流会実施後に、交流会実施団体への貸出しも行うことができた。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会にて備品を保管し、貸出備品として地域での継続したスポーツ活動に使用していただく。

また今後、地域に備品を整備できるよう、教育局や特別支援学校と連携し、拠点のあり方について検討していきたい。

⑦事業の成果および評価（達成度）

体験交流会実施前に、行政職員にスポーツ活動の実態について聞き取りを行ったことで、スポーツ活動の状況把握が進んだ。

体験交流会・準備会を通して、障がいのある人や周りにいる人にスポーツの楽しさを実感してもらうことができ、12 月に県南部で開催したボッチャ大会に体験交流会実施団体からチームが参加することにも繋がった。

また、町民やスポーツ推進委員の参加もあり、新しい人と人との繋がりや、障がいのある人のスポーツへの理解・啓発の機会にもなった。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

より充実した事業にするため、行政、体験交流会実施団体等の関係団体と連携を図りながら、スポーツにふれあう機会・親しむ機会を増やす、人材の掘りおこし・育成ができるよう取り組んでいきたい。

次年度は、新たにスポーツ推進委員との繋がりを目指していきたい。

⑨おわりに

（1）所感

今回の事業をとおして、秩父地域における障がい者のスポーツ活動の必要性を、行政や支援学校、障がい者施設関係者、障がい者スポーツ指導員、スポーツ推進委員等の多くの方々に感じていただいた。皆が、今回の事業実施に肯定的であり評価もいただいた。来年度については、前向きに計画が進められるような協力体制が整いつつある。

また、今年度の事業実施を経て、秩父地域における障がい者スポーツ活動の拠点施設として、埼玉県立秩父特別支援学校体育施設を活用できることになったのは、大きな成果と言える。

活動拠点が明確になったことにより、まずはスポーツ用具類の整備・充実にむけた具体的な環境整備をすすめるとともに、魅力あるスポーツの場の提供と参加への積極的な動機づけなど、関係者が連携と各々の立場でするべきことをしっかり行うことの大切さを確認できた。

指導者の人材不足が課題として挙げられたが、今後もこのような活動を続け、地域の障がい者スポーツ振興を担う指導者の育成や人材確保を充実させていきたい。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど

・継続的なスポーツ活動につなげるため、障がいのある人の身近にいる人（施設職員や教員等）にも一緒に体験していただき、まずは身近にいる人に楽しさを実感してもらった。
・体験交流会実施団体にアンケートを実施し、課題やニーズを検証した。
・今年度の７事業の最後に、行政や体験交流会実施団体を対象に「報告会・振り返り会」を開催し関係者との繋がりの構築、実施内容や地域の情報を共有するとともに、次年度以降の取り組みや、各々の立場で取り組むべきことなどを整理できたことは意義深い。
・小冊子「みんなのスポーツ活動ガイドブック Part2」を作成し、関係者に配布した。

⑩資料

開催要綱
将来像
実施意向調査
交流会実施団体アンケート結果
交流会チラシ（町作成）

平成２８年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」
埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）　開催要綱

１　目的

身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境の整備を目指し、地域との連携により障がい者スポーツ体験交流会及び準備会を開催し、秩父地域において地域とスポーツをしたい人とすすめる人がつながり、継続したスポーツ活動の場を根付かせることを目的とします。

２　主催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会　／　埼玉県障害者交流センター

３　運営

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会　／　埼玉県障害者交流センター
埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会

４　協力

社会福祉法人埼玉県身体障害者福祉協会　／　公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会
公益社団法人埼玉県精神保健福祉協会　／　埼玉県特別支援学校体育連盟
埼玉県総合リハビリテーションセンター

５　開催期日

平成２８年８月から平成２９年１月まで

６　事業概要

（１）企画会議

期日：８～１月
会場：埼玉県障害者交流センターほか
対象者：企画スタッフ
概要：事業概要の決定、開催地との調整
回数：４回

（２）障がい者スポーツ体験交流会準備会

期日：１０～１１月
会場：秩父地域　施設・体育館・会議室
対象者：障がい者スポーツ指導員、障がい者スポーツに興味がある人
概要：障がいの種類や程度に関わらず気軽に体験できる種目を学ぶ
回数：２～３回

（3）障がい者スポーツ体験交流会

期日：１０～１２月

会場：秩父地域　施設・体育館・会議室

対象者：秩父地域在住の障がいのある人、共にスポーツを楽しみたい人

概要：障がいの種類や程度に関わらず気軽に体験できる種目の体験、スポーツ活動を通した交流

回数：６回

７　参加申込

障がい者スポーツ体験交流会準備会、障がい者スポーツ体験交流会の申込み方法は、別途定める。

８　参加費

無料

９　傷害保険の加入

障がい者スポーツ体験交流会準備会、障がい者スポーツ体験交流会の傷害保険は主催者で加入します。

１０　その他

（1）写真等の使用について

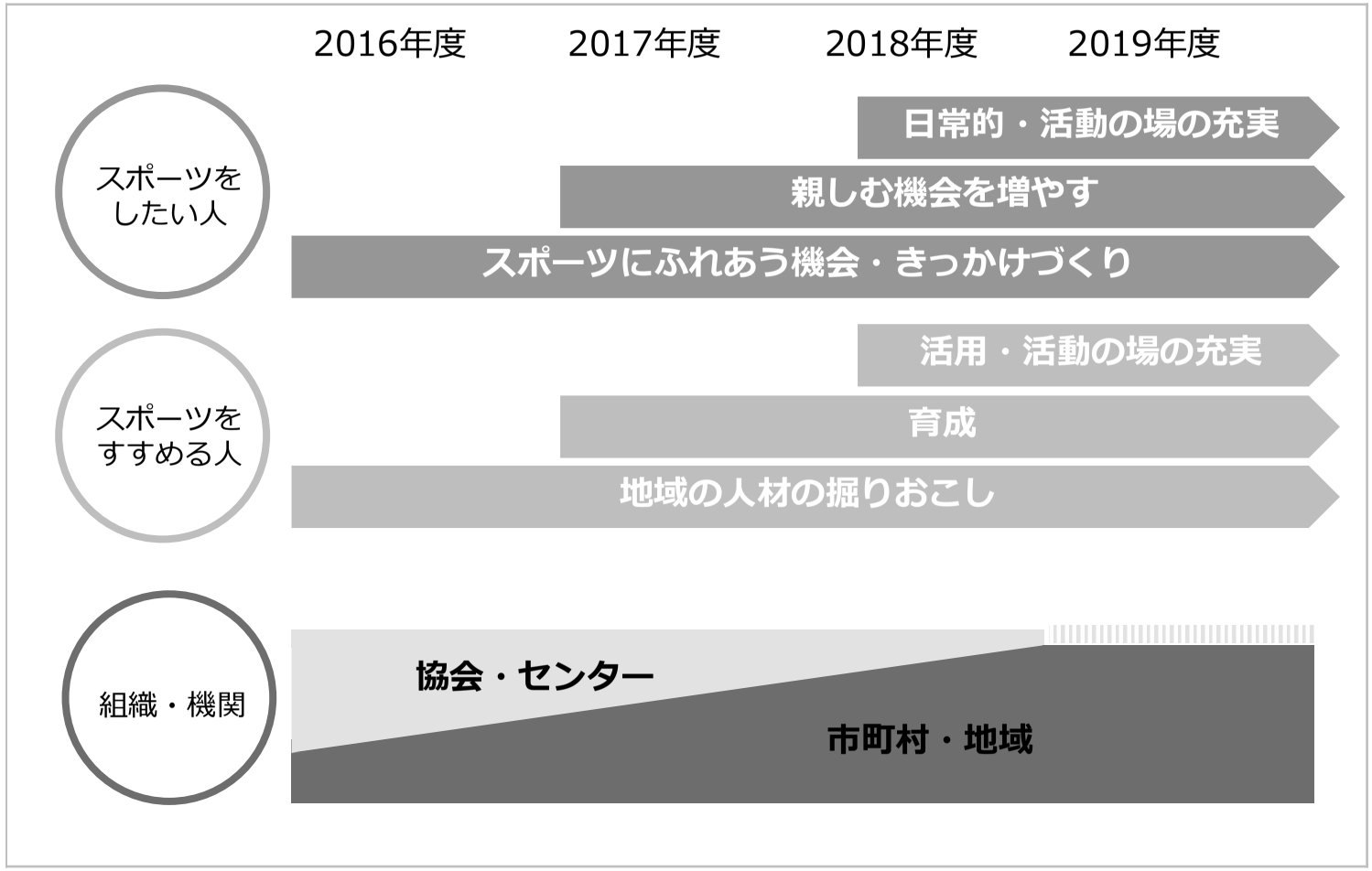
本事業で撮影する写真等は、一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会ホームページ等に掲載する場合及び障害者のスポーツに関する広報用として使用する場合があります。

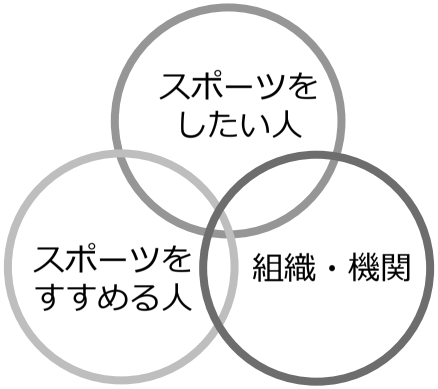
また、事業当日、テレビ・新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像がテレビ・新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえ参加してください。

（2）この要綱の定めるもののほか、各事業の実施に関し必要な事項は別に定める。

埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）　将来像

障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、年齢や性別、ライフステージに応じて、
身近な地域で日常的にスポーツに親しめる環境が整備された社会を実現する。





平成２８年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」

埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）　実施意向調査

埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）について、次のとおり回答します。

【回答者】

市町村・担当部署名	担当部署
担当者氏名	
担当者連絡先	電話　　FAX E-mail

【体験交流会準備会】＊実施日・時間・開催場所が未定の場合でも、実施希望の有無についての記載をお願いします。

実施を希望します＊実施日等の記載をお願いします　・　実施を希望しません

実施日 時間 開催場所	第１希望　月　日（　）午前・午後・夜間　場所： 第２希望　月　日（　）午前・午後・夜間　場所： 第３希望　月　日（　）午前・午後・夜間　場所：
要望等	実施種目の希望等がございましたらご記入ください。

【体験交流会】＊実施日・時間・開催場所が未定の場合でも、実施希望の有無についての記載をお願いします。

実施を希望します＊実施日等の記載をお願いします　・　実施を希望しません

希望回数	回
実施日 時間 開催場所	第１希望　月　日（　）午前・午後・夜間　場所： 第２希望　月　日（　）午前・午後・夜間　場所： 第３希望　月　日（　）午前・午後・夜間　場所：
要望等	実施種目の希望等がございましたらご記入ください。

提出先　一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

FAX:048－822－1121　E-mail:2004@sainokuni-sasa.or.jp

提出期限　平成 28 年 9 月 8 日(木)

平成28年度「埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）」
交流会実施団体（6団体）　アンケート

交流会参加者の反応について教えてください。（自由記述）

・障害者、高齢者共に交流ができ、よかった。
・障害に応じたゲームに参加できた。
・郡市福祉会主催で、多くの参加者と交流が持てた。
・新しいゲームが紹介され、マンネリ化が防止できよかった。
・初めての事で戸惑う様子も見られましたが、いざ始まってみるとみんな一緒に楽しく参加することができました。生活介護の利用者さんは、体を動かす事が少ないので、とても楽しそうに参加している姿を見て、職員としても嬉しかったです。「またやりたい。」という声もたくさん聞かれました。
・FD、フロアカーリング、ボッチャ、スカットボールとたくさんのスポーツを準備して頂き、生徒達は楽しみながら夢中になって活動していました。ルールもわかりやすく説明して頂き、障害の程度など関係なく楽しんで活動する姿が印象的でした。また、教員も一緒にルールの理解もでき、交流会後のスポーツ活動も充実した活動ができています。
・10 月 30 日(日)に、町の「ふれあいまつり」が開催され 3,000 人の参加者で賑わいました。様々な団体が出店する中、埼玉県障害者スポーツ協会の「ボッチャ」体験コーナーを 1 ブース設けたところ、みなさん楽しく体験している様子でした。
町の職員も初めて体験しましたが、担当の方からわかりやすく教えてもらい、「ボッチャ」という障害者スポーツについて知ることができ、貴重な体験ができて良かったとのことでした。1 日で 192 名の方が体験されました
・皆さん初めてやった、ボッチャやカーリングなど緊張感を持ちながらも、解りやすいルールで対戦方式を取り入れ、競争する楽しさを感じているようでした。
・だいぶ前にこういったスポーツ教室に参加したことがあるが、久しぶりに参加した。楽しかった。
・誰でも簡単にできるものばかりで､障害のあるなしに関わらず一緒に楽しめたので良かった。

交流会の良かった点と悪かった点（改善点）を教えてください。（自由記述）

■良かった点
・年 1 回のスポーツ大会だけど約 70 名の参加があり、今後も続けたい
・1 市 4 町の福祉会会員の交流ができ、会員同士の絆が深められた
・初めて行うスポーツばかりでしたが、ルールがわかりやすく、みんな一緒に楽しめたのがとても良かったと思います。先生方とのふれあいも、よい刺激になったと思います。
・4 種類もの競技ができ、はじめてやる種目がほとんどだったので、とても良かった。指導員の方も明るく楽しい雰囲気を作って頂き、生徒達が落ち着いて充実した活動ができて良かった。
・体験する機会がなかなかないので、一般の方が障害者スポーツを体験し、身近に感じてもらえたこと。

・日頃のレクリエーションやスポーツなどマンネリ化していた部分がありましたが、新たなスポーツを教えていただくことで、楽しみが広がった感じがしました。
・１回の開催でいろんな種目が体験できたので良かったと思います。
・参加者全員が名前を貼ったことにより、お互いに名前を認識し、名前で呼び合えたのですぐに打ち解けることができたと思います。

■悪かった点（改善点）

・グラウンド・ゴルフ、ペタンク、ボッチャ、フリスビー、輪投げ、スポットボール等の種目を行うのは、時間的に問題がある。時間のかかる種目は別の日に行いたい。
・開催日程を早期に決定する（年間事業との重複により不参加がある）
・時間が少ない（新しいゲームなどは、時間をかけて教わりたい）
・会員内に指導者を育成したい。
・もっと利用者さんが参加できればよかったと思います。
・開催町の問題だが、スポーツ教室を開催しても参加者が少ない。

交流会後のスポーツ活動の実施について教えてください。

項目	回答数
週に 1 回以上	1
月に 1～3 回以上	2
行っていない	3

上記内容や理由についてご記入ください。

■週に 1 回以上

・放課後等デイサービス、生活介護とも、毎日のように散歩（1 時間程度）に行っていますが、室内で行える活動のバリエーションが少なく、頭を悩ませています。

■月に 1～3 回以上

・はじめは高等部向けの交流会でしたが、当日、肢体不自由部門の児童・生徒にも声をかけ、対応して頂けたので、学校全体にも楽しさが広がった。また、道具をお借りし、学校全体に紹介をできたので、小・中・高、肢体での活用機会が増えた。
・テーブルホッケーは取り組みやすかった。
ボッチャ、カーリングは用具の準備ができなかった。

■行っていない

・リーダーとなる人が少ない
・各福祉会の事業との重複
・開催会場への移動手段が難しい（距離がある）
・スポーツ活動の実施をメインとして開催することはなかなか難しいため。今年も昨年同様、町の「ふれあいまつり」に1ブース設けて参加していただく予定

地域で継続したスポーツ活動を行うために望むことを教えてください。（複数選択可）

項目	回答数
体育施設の開放・整備	3
用具・備品の貸出し	6
地域のクラブやサークルの育成	2
スポーツイベントの開催	5
指導者の配置	6
情報の提供	4
その他	1

■その他
・運営は各市・町の身体障害者福祉会の負担金で行っているが今後は

地域で継続したスポーツ活動の環境をつくるためのアイデアがあれば教えてください。(自由記述)

・障害者の夜間外出は心配なので、昼間の時間できる身近な施設・場所の確保。
・指導者の育成とともに簡単にできる競技があれば体験して取り入れたい。
・体育施設等、広い場所の開放
・指導員の配置や用具の貸出し
・私達、施設の職員で指導できるよう、研修会等があると良いと思います。
・行政単独ではスポーツ活動の環境をつくるのは難しいため、秩父地域の各行政・障害支援事業所などの各関係機関共同でスポーツ活動の環境づくりに取り組んでいければと思います。
・先ずは小さな団体からスポーツ交流を広めていき、その地域で定期的にスポーツレクリエーションの機会をつくっていく。
・スポーツ教室を開催しても参加者が少ないのが現状なので、人の集まるイベント等でブースを設け、スポーツの楽しさに触れてもらい、まずはスポーツに興味を持っていただくことが大事だと思います。

その他、交流会や地域でのスポーツ活動についてのご意見がありましたらご記入ください。

・私の地域（5地区）では、高齢者が集まり「ディスコン」を毎週木曜日と日曜日2回（隔週）合計7回開催しています。このような事業を継続して行い、健康管理に一役かっています。
・放課後等デイサービスの利用者さんは、学校でもたくさん体を動かしておられますが、生活介護の利用者さんはそういったスポーツ活動に関わる機会がグンと少なくなってしまいます。2ヶ月に1回位でも良いので、定期的にこのようなスポーツ活動に参加させて頂けると有り難いと思います。
・とても充実した交流会ができ、指導して頂いた皆様、この機会を作っていただいた皆様に感謝しています。交流会後も継続して教えて頂いたスポーツを楽しんで行っているので、とても良かったです。学部内だけでなく、他学部とも交流にも使っていければと思います。
・今回のスポーツ交流会は、利用者さん職員共に、とても良い機会になりました。年に数回、このような機会があれば、皆さんの楽しみが増えると思いました。

石川県における障がい者スポーツ振興事業

◆障害者スポーツ選手発掘・育成事業

◆障害者スポーツ活性化事業：障害者スポーツ体験会

◆障害者スポーツ指導員・支援者研修会

石川県障害者スポーツ協会

石川県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

本県の県民人口は約 116 万人、都市別では金沢市が約 46 万人と約 40%を占める。次いで白山市と小松市のそれぞれ約 11 万人であり、北陸地方では新潟市に次いで 2 番目の金沢市を中心に、県南部の加賀地方に人口が偏在していることから、スポーツを気軽に行える環境とはいいがたい。

県の教育振興計画にはスポーツ分野の主な取組みが示され、29 年度からは県体育協会が知事部局となることが決定した。しかし、当協会や各担当の願いとは異なり、障がい者スポーツに関する事業は、福祉行政中心で、計画には「指導員の養成目標数や生涯スポーツの一つとして普及・振興を図るとする」と示されているだけである。

平成 3 年の「ほほえみの石川大会」をきっかけに、当時は北陸三県のなかでも早くから障がい者のスポーツクラブや団体が設立されたが、20 数年が経ち県内障害者数の増減がほとんど見られない中、障害者スポーツ人口は高齢化と大会等への参加者減少が進んでいる。また、一部のクラブを除きそのほとんどが①若人、あるいは、新規会員の加入が少ない②現役選手、並びに、指導者・支援者の高齢化と不足の状況からクラブ存続の危機にもなっている。さらに金銭的な問題も多くスポーツが身近に感じられないという声も上がっている。

このことから本事業を活用し、スポーツを通じた地域振興（障害の有無にかかわらず身近な地域で楽しめ、また、県民・地域社会の障がい者スポーツ理解促進、指導者・支援者、地域施設利用拡大と活動拠点の確保、地域各機関の連携・活性化につなげていきたいと考えている。

②事業の目的・ねらい

本事業では、地域に根差した障害者スポーツの理解と促進を進めるため、従来から取り組んでいる機関（社会福祉協議会や役所、学校や施設、クラブ等）と、互いのノウハウを生かした共同イベント事業の実施や支援事業の開催を通じ、障がいの有無にかかわらず、誰もが身近な地域でのスポーツを楽しめる環境と、より高いニーズに答えることができるスポーツのあり方を具体化していきたい。当県では金沢市が人口比率 40%以上を占め、スポーツの環境も都市部がその中心となっている。しかし、ニーズは県内各地のどこにおいても存在し、特に、地方・地域におけるニーズへの取り組みは、今後の石川県において必要課題であると考えている。

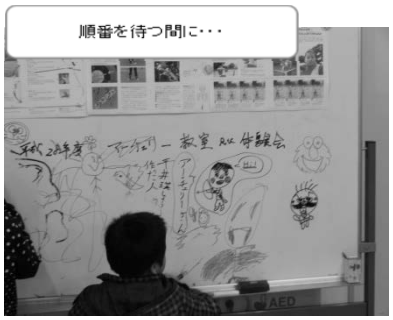
今年度は、この以前からの課題解消に向け、都市部以外ではあまり経験することができないスポーツ体験会を都市部近郊において開催し、また障がい者スポーツ指導員の活動・機会の拡大、支援者・スタッフの育成も図るべく派遣等を配慮、提案した。さらに指導員認定校の活動の場を提供し、地域スポーツクラブやスポーツ関係団体との連携強化といった、今後の地域における活動基盤を作り、継続的にスポーツができる環境整備を狙いとしている。

③事業実施概要

（1）【障害者スポーツ選手発掘・育成事業】

事　業　名	アーチェリー教室
日　　時	H29/1/26　　18：00 から 21：00
場　　所	金沢市高齢者障害者（駅西むつみ）体育館
参　加　者	健常者（学生 14）・身体障害者 3　知的障害者 2　聴覚障害者 1
スタッフ	講師 2、指導協 2、看護師 1 、手話通訳・要約筆記 2
補　助　員	学生ボランティア 14
協　　力	石川県障害者アーチェリークラブ・石川県アーチェリー協会 金沢市障害者高齢者体育館（株式会社エイム）、 石川県障がい者スポーツ指導者協議会
連携組織	石川県　金沢市　公益財団法人石川県体育協会　総合型スポーツクラブ
事業内容	この教室開催に向けて、月 2 回の活動を行っている県アーチェリー協会・クラブの活動状況から、若人だけでなく幅広い年齢層にアーチェリーの魅力を伝え、集客を図りたいとして、新たに用具を購入し、障がいの程度や用具不足の解消、ニーズへの対応できるようにした。 当日は、選手・指導者によるデモンストレーションを含む、基礎的技術の実技指導や用具の名称・矢の取り扱い（射法八節に基づく実技指導を行う）のほか、障がい者スポーツへの支援・協力者の発掘育成と認定校学生には、指導員補助の役割も課題として持たせて体験してもらい、一方で初心者への体験教室も併せた経験者のさらなる向上に向けたプログラム内容とした。

事業の様子



（1）-2【障害者スポーツ選手発掘・育成事業】

事　業　名	障がい者スポーツ強化練習会及び希望者参加による練習会
日　　時	H28/9/1～10/21 の期間に実施。
場　　所	・七尾市城山陸上競技場・七尾市城山体育館（身体・知的：FD と陸上） ・いしかわ総合スポーツセンター（身体・知的：水泳） ・金沢駅西むつみ体育館（身体・知的：STT，卓球） ・小松サン・アビリティーズ（ボッチャ） ・他、かほく市河北台健民体育館・アクロス高松でのスポーツ大会開催
参　加　者	のべ 72 名(9 月：45、10 月：27)
スタッフ	講師、指導員、ボラ、(看護師、手話通訳・要約筆記）等
補　助　員	下記、競技指導員のべ 52、障がい者スポ指：初級 2・中級 2、認定校学生ボラ 41（内：初級 5）
協　　力	体協指導員・市町社協職員・施設職員 当協会加盟の障がい者スポーツ各競技団体及びクラブ員 地域総合型スポーツクラブ（エイム・NPO 法人クラブパレット）
連携組織	県、各市、特別支援学校、県市町体協及び加盟団体、福祉団体、県市町社協・スポーツ事業団、スポーツクラブ、通所・入所施設等
事業内容	日頃から身近で指導・支援者を願うアスリートや選手や学校・施設職員からのニーズに沿ったプログラムにより、基礎から応用編トレーニング、その他疑問に答える形で実施した。特に身近な施設を利用した。 一方、全国障害者スポーツ大会の強化選手や各競技クラブ選手を中心に、この事業を開催し、興味関心を深めていただけるよう、担当するスポ指導員の強化と参加者からのニーズに沿ったプログラムについて取り取り組む。 障がいや年齢にかかわらず取り組め、自分にあった（楽しめる）スポーツを体験するとともに、そのスポーツに関する理解や用具器具について知る ・個人・仲間同士での参加。 ・今後は、各地元事業として行えるように、体育施設やスポーツクラブの職員にも参加を呼びかけ、スポーツ環境の整備につなげていく。 ※事前に、ルール・規則の確認や用具・器具の使い方、デモンストレーション等の確認の指導員及び学生の研修勉強会実施

事業の様子

上記種目より抜粋：左から、陸上・陸上・卓球・フライングディスク・ボウリング

（２）【障害者スポーツ活性化事業：障害者スポーツ体験会事業】

事　業　名	スポーツ教室（能登・加賀）地区開催
日　　時	H28 年 6/21・23（火・木）
場　　所	・6/21 かほく市河北台健民体育館 ・6/23 小松サン・アビリティーズ
	・40 名・26 名
スタッフ	延べ 41 名 講師 2、指導 2、学生ボランティア 14、看護師１、手話通訳・要約筆記 2 講師 2、指導 2、学生ボランティア 13、看護師１、手話通訳・要約筆記 2
補　助　員	延べ：指導員 8 名（各：初級 2・中級 2)・学生ボラ 41（内：初級 5）
協　　力	地域総合型スポーツクラブ（NPO 法人クラブパレット）福祉関係者
連携組織	かほく市・小松市・県内市町社協・スポーツ事業団、スポーツクラブ
事業内容	・参加者ニーズに沿ったプログラム：障がいや年齢にかかわらず取り組め自分にあった（楽しめる）スポーツを体験するとともに、そのスポーツに関する理解や用具器具について知る。・個人・仲間同士での参加。 ・体験後、各地元でも行えるように、体育施設やスポーツクラブの職員にも参加いただき、スポーツ環境の整備につなげていく。 ※事前に、ルール・規則の確認や用具・器具の使い方、デモンストレーションの確認の指導員及び学生の研修勉強会実施

事業の様子

（２）－２【障害者スポーツ活性化事業：障害者スポーツ体験会事業】

事　業　名	三菱電機 GoingUp 全国キャラバン in 石川（MRO ラジオまつり）
日　　時	H28/10/16（日）
場　　所	白山市鶴来本町通り商店街及び及びショッピングスクエア Let's 駐車場内：「三菱電機 Going Up キャンペーン全国キャラバン in 石川」ブース
参 加 者	2 万 3 千人(ブースには 200 人を超える方が参加) このブースには、県内のスポーツ関係者や他県からも来場あり。
スタッフ	のべ、50 人：このブースでは、運営リーダー指導員（ボッチャ 1・FD1・車椅子バスケ 1)、指導員補助 4、バスケ補助員 5、ボランティア約 50(三菱電機関係)
補 助 員	同上
協　　力	いしかわクラブゾーン(石川県クラブ連絡協議会)MRO ラジオ、読売新聞
連携組織	県、白山市、県内市町社協・スポーツ事業団、スポーツクラブ
事業内容	新たな機関との連携により従来手薄であった報道機関や地区のイベント祭りなどでの取組みであり、スケールの大きな事業展開の中で、指導員や競技団体には、選手や支援者の発掘・育成の機会とする。 継続、全国展開していく事業であり、情報交換と普及進行、新規地区の状況を知る。※リオパラ日本代表(車椅子バスケ)宮島徹也選手も協力参加

事業の様子

H28.10.16(日) 北国

障害者スポーツ
きょう鶴来でPR
三菱電機

三菱電機（東京）は、16日に白山市鶴来地区で開かれる「つるぎ一六大市2016」（本社後援）で、車いすバスケットボールなど障害者スポーツをPRするコーナーを出展する。

「Going Upキャンペーン」と銘打った全国キャラバンの第1弾で、電動車いすサッカー石川県チームや、11月に金沢市で日本選手権大会が開催されるボッチャなどを紹介する。車いすバスケットボールの日本代表ユニホームや競技用車いすも展示する。

H28.10.17(月) 北国

鶴来の食文化集結

白山でグルメ大会 2万3千人来場

鶴来商工会などの「つるぎ一六大市2016」「当地グルメ大会&MROラジオまつり」（本社など後援）は16日、白山市の鶴来本町通り商店街特設会場で行われた。7回目の今年は過去最多の2万3千人（主催者発表）が全国のグルメを求めて訪れ、熱気に包まれた。初企画の和菓子と「ほうらい寿し」、みそ作りの体験会、白山菊酒の利き酒大会もにぎわい、鶴来の食文化を広く発信した。

体験会では参加者が動物をかたどった上生菓子や、ほうらい祭りで振る舞われる笹寿し作りを通じ、鶴来の伝統に触れた。みそ作り体験と利き酒大会は、酒、みそ、しょうゆ、酢の店がそろう「醸造のまち」を参加者にアピールした。

会場には、地元のB級グルメ「つるぎTKGY（卵かけご飯焼き）」をはじめ、能登牛や能登豚の串焼き、小木港で水揚げされたイカを使った薄焼き、富山県の多彩なコロッケやラーメン、熊本県の塩焼きそばなど約50店が並んだ。

ラジオまつりでは、アイドルグループ「AKB48」の元メンバーで、シンガー・ソングライターの星野みちるさん、鶴来出身の山本あきさん、県歌謡文化協会理事長の乙田修三さん、同副理事長の若杉しげるさんの歌手4人がステージに登場し、観客を沸かせた。

車いすバスケを紹介するジャマネー石川のメンバーと宮島選手（右端）

リオ・パラ五輪選手 障害者スポーツPR

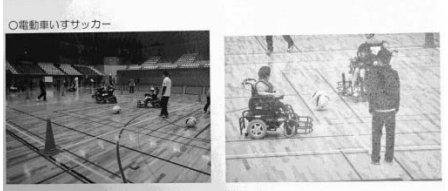
会場では、障害者スポーツをPRする「三菱電機Going Upキャンペーン全国キャラバンin石川」（本社後援）も行われ、リオデジャネイロ・パラリンピックの車いすバスケットボールに出場した宮島徹也選手(27)＝砺波市出身、金沢市在住＝ら5人が競技を紹介し、ミニゲームなどで指導した。

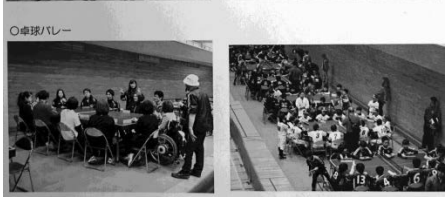
イベントには車いすバスケチームの「Jamaney（ジャマネー）石川」が協力した。ボッチャやフライングディスクなどの体験会も開かれた。

（2）-3【障害者スポーツ活性化事業：障害者スポーツ体験会事業】

事　業　名	金沢スポーツフェスティバル　障がい者スポーツを体験しよう
日　　時	H28/12/4（日）
場　　所	金沢市総合体育館
参加者	約 1500 人
スタッフ	各ブースリーダー指導員、指導員補助、ボランティア、選手、選手補助員、ゲスト選手（アンプティサッカー）学生ボラ、看護師、手話通訳・要約筆記
補　助　員	金沢市内の認定校(星稜大学・北陸学院大学)と市スポ事業団
協　　力	地域総合型スポーツクラブ・金沢市内の認定校(星稜大学・北陸学院大学)
連携組織	金沢市・県障スポ協会、県障スポ指導協、市スポ事業団、かなざわスポーツ推進委員会
事業内容	このイベント開催に向け、8 月、10 月に金沢市と金沢市の総合型スポーツクラブによる事業を開催し、このイベントへの理解と集客を図かる。また、参加者のニーズに合わせて、単発的な取り組みとならないよう、年明け 1 /14 にもスポーツクラブが主体(障がい者スポ指導員が協力)に年間を通じた、障がい者スポーツの普及と振興に向けた取り組みを進める。 ※事前に、ルール・規則の確認や用具・器具の使い方、デモンストレーション等の確認の指導員及び学生の研修勉強会実施 ※アンプティサッカー及び指導員への謝金（交通費）は、当協会負担

事業の様子





（2）-4【障害者スポーツ活性化事業：障害者スポーツ体験会事業】

事　業　名	「障害者ふれあいフェスティバル」
日　　時	H28/9/25(日)
場　　所	石川県産業展示館 4 号館
参 加 者	約 1 万 5 千人(ブースには 400 人を超える方が参加) ※このブースには、県内のスポーツ関係者や他県からも来場あり。
スタッフ	47 名が当協会加盟団体からコーナーの運営を任された。
補 助 員	上記メンバーのほかに、家族や OB 選手・スタッフ、県職員
協　　力	ゲスト(浦田　理恵選手)
連携組織	県・市議会、県市・町・村長会、県教、県市町社協、県婦人団体、PTA、北國新聞社ほか
事業内容	・毎年、県障害保健福祉課が中心に行っている内容であるが、今年度は障がい者スポーツ体験ブースを、当協会が中心に企画運営を行った。 ・毎年課題であった、障がい者スポーツ競技団体が一堂に会し、また、各会が直接交流とアピールできる機会とする。 ※事前の打ち合わせでは、イベントにおける不安や意気込みを互いに確認しあい、競技紹介や活動状況を各参加団体に取りまとめ、この事業以外の個々の活動で活用できる資料作成、クラブ運営の励みとなるよう体制を呼びかけた。 ※時間による出店とし、それ以外の時間は各ブースや各スポーツを体験できるよう配慮。 ※同時開催内容：石川県障害者スポーツ協会会長表彰式

事業の様子

会長賞の授与式

車椅子バスケ

卓球

ツインバスケ

FD

ボッチャ

STT

電動車いすサッカー

卓球バレー

【障害者スポーツ指導員・支援者研修会】

事　業　名	地域のスポーツ推進委員研修会(①志賀町・②金沢)会場
日　　時	①　7/9(土)13：30～16：30　　②7/23(土)13：00～16：30
場　　所	①　志賀町総合体育館 ②　いしかわ総合スポーツセンター
参　加　者	①　中能登地区スポーツ推進委員 53 名 ②　石川県地域スポーツ指導者養成講習会 32 名
スタッフ	①　②共通）県障スポ協、県障スポ指導協、県体協 ①　志賀町教育委員会、羽咋郡市体育協会 ②　石川県教育委員会
補　助　員	共通）県障スポ指導員 ①　志賀町役場職員　②県教育委員会職員
協　　力	石川県障がい者スポーツ指導者協議会
連携組織	県・県市町体協・志賀町・県・市町教育教育委員会
事業内容	講義・実技 ・障がい者スポーツについての概要（当協会や各加盟団体等について及び 障害者スポーツ種目(パラ・全スポ・各種大会種目から抜粋)の体験

事業の様子

①　の事業写真

②の事業写真

事　業　名	障がい者スポーツイベント開催に向けた、打ち合わせ会及び研修会
日　　時	6/19（日）
場　　所	金沢市市民総合体育館・松が枝福祉館・タント御所ほか
参　加　者	(各種目スポーツの指導員・ボランティア)
スタッフ	(各種目スポーツの指導員・ボランティア)
補　助　員	各種目スポーツの指導員
協　　力	県障スポ指導協・県障害者フライングディスク協会・県ボッチャ協会
連携組織	県障害者スポーツ協会加盟団体・金沢市・エイム・公民館・体育館
事業内容	イベント開催に向けた計画立案、役割分担と協力・準備、 関係する団体・協会等との情報の共有化と問題解決への配慮。

事業の様子

スポーツ吹き矢　　カーリンコン

サッカー　　カローリング　　勉強会　　FD

ローンボウルズ　　レクリエーション・ボッチャ

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

この事業実施を通じて、指導員の活用と役割を問い、実践する場所や機会が十分とはいえないことや障がい者スポーツ指導員の認知度、選手や種目など、まだまだ理解促進に向け他取り組みが必要であると感じた。今は、パラ・オリンピックによる理解や支援が進んできているが、それがなくなる頃までには、と考えさせられる。

今回、室内・外や季節毎にも左右されない、種目スポーツを中心に障がい者スポーツ指導員のほかに、各障がい者スポーツ有資格者（ボッチャ、FD，陸上、卓球、アーチェリー・水泳・バスケットなど）とDrといった専門家、健常者が集まった。研修会では、各自が種目の紹介やサポート、質疑応答を行いながら話す機会を持つことで、連携と理解を深めることができた。また、年齢も様々で、事業の企画運営といったコーディネートする過程の中で、若手（資格認定校学生も含む）育成にもつながった。
小・中学生のボランティア体験から、興味関心を得るとともに、未来の指導者候補が生まれた。

⑤連携について

（１）事業前の関係性：日頃あまりかかわりが持っていないが今回を契機に連絡の機会を得た。
（２）実際の事業での役割分担：当日の講師やサポートだけでなく、個々の得意とする連絡網や関連機関との調整、資料作成などをお願いした。
（３）事業後の関係性の変化：障がいの有無にかかわらず、各地域での事業開催や協力、障がい者スポーツ養成講習会への受講者として、連絡先の確認ができた。

⑥スポーツ用具について

（1） 購入した備品の活用について（実際の事業での活用）：今回購入したアーチェリー競技の備品は、以前から進めていたクラブや広報的活動を行う中で、参加者のニーズに対応できていなかった。数の不足、ジュニア用、左利き用、練習用といった問題が解決できた。
車椅子レーサー1 台については、県フェスティバルや金沢パラスポーツのほかでの展示（画像紹介）と選手によるデモとしたが、実際に車いす利用者の試乗では、スムーズな走行と小回りの少なさや個人購入の難しさや保管場所の問題などの質問や悩みが聞かれた。今回購入したものについては、体験用だけでなく、貸出も念頭に置き、現在は、再度部分加工中。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定：保管と点検は、その種目団体が行い、借用や購入に際しての必要な指導、アドバイスも含めて対応することとしている。

⑦事業の成果および評価（達成度）

今回の事業では、大会や教室、普及活動や強化のために、指導員の活動機会の拡大とその指導員が身近なところで活動でき、障がい者スポーツと指導員の認知度を上げることに重きを置いた。

具体的には、指導員の派遣や専門職派遣費用が各地によって差がある事、事業費の開催地や機関が持つ連絡網と組織力のある地域は都市部よりその郊外に多いように感じられ、各地方での実施とのための流れはできたと思う。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

新たな地域での事業開催により、各機関との連携や障害者スポーツの普及振興と強化には、効果はみられたと実感をしているが、人が変われば中身の変わることもあり、継続と発展のために各人が個々において目標と課題を共有することが不可欠である。実際に継続して行っているところでも変化は避けれず、互いが持つノウハウを有効に発揮させることが大切である。

各事業を実施する中で、無事に実施するということになりがちであるが、参加者や支援者には、疑問やニーズが必ずあるから、その解消を的確にスムーズに相談・対応できるような対応（指導者の体力的、年齢から、ベテラン指導者等の指導員としての役割）・体制を常に整えておくことも必要。しばらくは競技力や技術向上に向けた取り組みに対するニーズが増えているように思われるが、指導員の質の向上と専門性をいかにして高めるかは、指導者の課題である。

各市町に障がい者スポーツ部局や予算化されてきていることは好ましいが、年々、日程が集中し会場が確保できない、整備不足、人材や専門職が少ないこと。費用が足らない。という地域も多い。

⑨おわりに

（1） 所感

この障がい者スポーツ事業を通じ、都市集中による地域格差を懸念していたが、地域でのスポーツ活動が少しずつ定着する動きが明確になってきたと感じている。それは一つの事業を通じ、集団でかつ個人的に多くの時間をかけて話し合い、それぞれの持つノウハウが生かされたこと、用具の不足には提供できたこと、新たな機関との連携により、指導員の活動の場や機会が明確になったこと、拠点が持てたこと、多くの方に障害者スポーツを知っていただき、理解促進につながったことなどからである。しかし、地域に根差して活動するアスリートや指導者の資金確保、障がい者の健康面や情緒面、技術向上、用具・器具の工夫などにお

いては、制度の確立や組織の改革を要する課題もあり、県内企業や当協会法人化等にも向けて、継続して取り組むところである。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・新たに障害者スポーツの組織を立ち上げた地域や強化を図りたいとする機関との連携を進めたことで、ニーズや課題が早々に把握でき、事業を進めるうえで必要となる関係機関との連絡交渉や人的確保などが、思いのほかスムーズに行えた。さらに事業終了後の継続した活動につながった。
・初めての試みが多い中、体験会などで競技が異なる障がい者同志の交流と互いの活動を知ってもらう機会となるように事業を実施した。
・健常者スポーツ関係者と障がい者スポーツ関係者との交流を図れるよう事業を実施。
・地域での事業開催においては、新たな選手発掘・育成に加え、家族や支援者への理解が進むよう、参加者の笑顔とまた来るねといった雰囲気づくりのため、スタッフ(学生やボランティア、運営スタッフ、指導者）に周知。
・依頼・要請、説明など地域ならではの連携を生かすとともに、障スポ指導員や障がい者スポーツ選手・クラブのほか、競技種目の市町体協・協会との新たな交流を進めた。これがきっかけとなり、大会や教室等の事業をその協会・クラブが自主的に連携するようになった。
・障がい者スポーツドクター、トレーナー(石川県には0人)といった現在活動の場、接点がほとんどない専門スタッフの現状の改善につながるよう努めた。
・認定校の活動の機会となるよう新たに呼びかけた。
・県内の報道機関だけでなく、地元ローカルテレビの参画を常に意識して事業を進めた。
・参加者の現状やニーズの把握に努め、今後の事業につながるよう福祉団体や機関との連携のため、主だったスタッフの紹介に心がけた。

⑩資料

開催要項、チラシ、新聞記事

中能登地区スポーツ推進委員合同研修会

平成２８年７月９日（土）１３時３０分
志賀町総合体育館 ２階会議室、アリーナ

次第

1　開会あいさつ
　志賀町生涯学習課 平井課長

2　講習会
「石川県障害者スポーツ協会、障害者スポーツについて」
　講師　山田　圭一氏（石川県障害者スポーツ協会事務局次長）

3　実技研修
　バッゴー、卓球バレー
　指導者（石川県障害者スポーツ協会指導員）
　山田 圭一　河野 由美子　林 正勝　森 聰　吉田 禮子（敬称略）

4　閉会あいさつ

実施概要

- タイトル　：三菱電機 Going Upキャンペーン 全国キャラバン in 石川
- 実施日程　：2016年10月16日（日）
- 実施時間　：10:00 ～ 16:00
- 実施会場　：石川県白山市鶴来本町通り商店街特設会場
  ※つるぎ一六大市2016 ご当地グルメ大会＆MROラジオまつり内
  [住所：〒920-2128 白山市鶴来下東町カ-26]
- 展開内容　：<展示スペース>
  - [三菱電機様] 各種パネル展示
  - [三菱電機様] TVCM他 各種映像コンテンツ放映
  - [石川県障害者スポーツ協会様] 各種パネル・競技用具展示
  - [石川県障害者スポーツ協会様] 障害者スポーツ映像放映
  - 競技用具（車椅子バスケットボール日本代表ユニフォーム・ゴールボール他）展示

  <競技体験／デモンストレーションエリア>
  - 車椅子バスケットボール 体験会
  - 車椅子バスケットボール デモンストレーション
  - 障害者スポーツ紹介・体験（ボッチャ／ニュー障がい者スポーツの紹介）
- 主　催　：三菱電機 Going Upキャンペーン 全国キャラバン実行委員会
- 共　催　：北陸放送
- 後　援　：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
  石川県障害者スポーツ協会／北國新聞社
- 協　力　：東海北陸車椅子バスケットボール連盟／Jamaney石川

平成28年度石川県障害者スポーツ協会

障害者スポーツ理解促進及び障害者スポーツ普及・啓発事業　障害者スポーツ体験会【金沢市会場】

「アーチェリー体験会」開催要項

本事業は、さらなる障害者スポーツの普及・振興や障害者スポーツの競技力向上、次世代選手の発掘と育成のため、障害のある方の身近な地域での障害者スポーツへの理解者、支援者を増やすことが重要であるとして、日ごろ障害者のスポーツに関わりの少ない健常者を主体とした方々に「知る」「観る」「触れる」をテーマに、「現役選手が教えるアーチェリー体験会」を開催します。

※アーチェリーは、障害のある人とない人がほぼ同じルールで競える数少ないスポーツのひとつです。

記

1 主　　催　石川県障害者スポーツ協会

2 共　　催　石川県アーチェリークラブ・

3 協　　力　石川県アーチェリー協会　金沢市障害者高齢者体育館

石川県障がい者スポーツ指導者協議会

4 日　　時　平成29年1月26日(木)18:00～20:00

5 場　　所　金沢市障害者高齢者体育館［通称：駅西むつみ体育館］

(住所)〒920-0025 金沢市駅西本町2丁目3－27　076-221-9065

6 内　　容　講師：作間　祥一 氏　　石川県アーチェリー協会

アーチェリー体験・選手・指導者によるデモンストレーション含む、基礎的技術の実技指導や用具の名称・矢の取り扱い(射法八節に基づく実技指導を行う)

7 対 象 者　アーチェリーに興味がある方、また、障害者スポーツへの支援・協力をお考えの方のほか、どなたでも結構です。

8 定　　員　※応募者が定員を超えた場合は、主催者で決定いたします。　1/26(木)：10名

9 参 加 料　無 料

10 健康安全管理　・自己又は保護者の責任において、健康と安全の支障がないことを確認の上ご参加ください。

・参加中の怪我または発病については、主催者側は応急処置のみを行います。

・服装やシューズは、体験に適したもの(上履き運動靴)を着用ください。

・水分補給をこまめに行い、熱中症予防等に充分ご留意ください。

11 傷害保険加入　・主催者にて参加者を被保険者とした普通傷害保険(レクリエーション保険)に加入します。

12 その他　・アーチェリーの用具は、主催者が準備します。

・主催者及び主催者側が許可した報道機関等の撮影、ホームページへの写真掲載等については、ご了承の上ご参加ください。ご協力お願いします。

13 申込方法　別紙申込書に下記事項を記入してFAXまたは郵送で、申込下さい。

(氏名・年齢・住所・連絡先・障害名・経験・用具の有無ほか)

締切り　①については、1月23日(月)まで　　　当日参加も可能

※保険に加入するため、記載漏れのないようにお願いします。

【お問い合わせ及び送付先】　石川県障害者スポーツ協会　事務局：山田圭一

〒920-8557 金沢市本多町 3-1-10　TEL:076-264-3135　FAX:076-264-3136

障害者の作品展示

金沢でふれあいフェス

県障害者ふれあいフェスティバル（本社後援）＝写真＝は25日、金沢市の県産業展示館4号館で開かれ、来場者が障害者による演奏会や作品鑑賞を通して支援に理解を深めた。

障害者スポーツの体験コーナー、盲導犬のデモンストレーションもあった。ロンドン・パラリンピック金メダリストでリオデジャネイロ大会にも出場したゴールボール日本女子代表の浦田理恵さん（福岡県）のトークショーも繰り広げられた。

障害者支援でウオーク

金沢パイロットクラブ

金沢パイロットクラブの「第11回ワールドワイドパイロットウオーク」（本社後援）＝写真＝は25日、金沢市の鞍月セントラルパークから県庁周辺1.8㌔を巡るコースで行われ、約200人が障害者への理解と支援を求めて歩を進めた。

泉野小マーチングバンドが演奏を披露し、先頭を歩いた。21日に開幕した「第9回パイロット美術展」会場の県庁19階展望ロビーでは、作品入選者の表彰式や寄付金の贈呈式が行われた。

北国　9/27(火)

中日

身分証 障害者手帳でも

宅配便が届いた。本人確認が必要で障害者手帳を出すと、運転免許証か保険証をと言う。左半身が不自由な身には写真付きなのでなんとか、とお願いし、会社に確認してもらったが、だめ。急ぐ荷物ではないので持って帰ってもらった。結局他社が届けてくれたが、なんとなく宅配便を見る目が変わってしまった。銀行や携帯電話会社の窓口でも似たようなものだったが、上司確認などで通してもらえた。今春、障害者の新たな法律も施行された。障害者手帳が身分証として通じる社会になってほしい。

（金沢市、主夫兼居酒屋亭主、57歳）

すくらんぶる　交差点

H28.12.4(日)北中

車いすで全力で走る子どもたち＝金沢市総合体育館で

障害者スポに挑戦

金沢 10種目、選手が指導

障害者スポーツを市民が体験するイベント「パラスポーツを体験しよう!!」（金沢市主催、県障がい者スポーツ指導者協議会共催）が四日、同市総合体育館で開かれ、四百人が参加した。

車いすバスケットや、リオデジャネイロパラリンピックで日本代表が銀メダルを獲得したボッチャ、卓球、バレーなど十種目を用意した。手や足に切断障害がある人が競技するアンプティサッカーでは、千葉や静岡などで活躍する選手六人が参加者に基本動作を説明。ボールの蹴り方や、クラッチ（つえ）を使った走り方を教えていた。

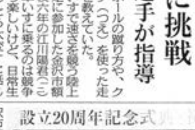
車いすで速さを競う陸上30㍍走に参加した金沢市額小学校六年の江川陽君（一二）は「車いすに乗るのは競争したら楽しいけど、日常生活だったら大変」と話した。（岡本真穂）

知的障害者スポの NPO20周年祝う

知的障害者のスポーツ体験を支援しているNPO法人「スペシャルオリンピックス日本・石川」の設立二十周年記念式典が四日、金沢市内のホテルであり、百二十一人が出席して節目を祝った。

中崎行雄理事長が所用で遅れ、前理事長の表征史さんが代わりにあいさつ。「二十年間、多くの方に支援してもらった。大会に行ったとき、バスが終始笑い声でいっぱいだった。そういう優しさで、これからも活動に努めたい」と話した。

支援してきた会社や団体に感謝状、アスリート三十九人とボランティア六人に表彰状が贈られた。団体は陸上、水泳、テニスなど十四競技で活動している。（日下部弘太）



20周年を祝う参加者＝金沢市内で

平成２８年度石川県地域スポーツ指導者養成講習会実施要項

兼　公認スポーツリーダー養成コース（集合講習会）

1　目　　的

市町において、各年齢層の住民に対し適切なスポーツの指導・助言及び相談を行うために必要な知識・技能を習得した「地域スポーツ指導者」を養成することを目的とする。

2　主　　催　石川県教育委員会

3　講習科目（予定）及び時間（６日間３１．５時間）

※詳細については、別紙講習会日程表にて開催時間及び内容をご確認下さい。なお、開催日によって講習開始時間、終了時間が異なる場合がありますので、ご注意下さい。

	1	2	3	4	5	6
講義	指導者計画と安全管理	文化としてのスポーツ	スポーツ指導者における必要な医学的知識	スポーツと栄養	総合型地域スポーツクラブとは	地域におけるスポーツ振興
講義	トレーニング論Ⅰ	中高齢者の体力とスポーツ指導		指導者の役割Ⅰ	ジュニア期のスポーツ	障がい者スポーツ
実技	テーピング実習（競技ｽﾎﾟｰﾂ用）	ニュースポーツ（実技）	障がい者スポーツ（実技）	メンタルトレーニングの実践	体力トレーニング（実技）	（検定試験）

4　日　　程

６月　４日（土）　７月１６日（土）　７月２３日（土）

８月　６日（土）　８月２７日（土）　９月１０日（土）

5　講習会場

いしかわ総合スポーツセンター（講義：会議室、実技：マルチ等）

6　受講対象

（１）地域のスポーツクラブ指導者

（２）市町教育委員会体育・スポーツ担当者

（３）地域における生涯スポーツを推進している者

（スポーツ推進委員、市町教委主催等のスポーツ教室指導者、学校教職員等）

7　申込方法

受講希望者は、別紙申込書に必要事項を記入のうえ、居住市町スポーツ主管課に提出する。市町スポーツ主管課は取りまとめて石川県教育委員会事務局スポーツ健康課へ提出する。または、受講希望者は、直接石川県教育委員会事務局スポーツ健康課へ提出する。※ＦＡＸ可

8　募集定員

５０名

9　申込締切

平成２８年５月２７日（金）

10　申 込 先

石川県教育委員会事務局スポーツ健康課　　〒920-8575　石川県金沢市鞍月１丁目１番地

ＴＥＬ(076)225－1852　ＦＡＸ(076)225－1854

E-ﾒｰﾙ motoyama@pref.ishikawa.lg.jp

11　受 講 料

無　料（ただし、保険料およびテーピング実習におけるテーピング代実費が必要です。）

「福井県における」障がい者スポーツ交流推進事業

◆障がい者エキシビションゲーム交流事業

◆障がい者スポーツ体験交流事業

（車椅子バスケットボール、フライングディスク、車いす陸上競技 等）

◆陸上競技普及推進事業（障がい者との伴走体験等）

しあわせ福井スポーツ協会

福井県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

平成 30 年に「福井しあわせ元気大会」が開催されることを契機に、平成 26 年 4 月に、民間の活力や考え方を活かしながら、障がい者スポーツの普及および振興を図ることを目的に、「しあわせ福井スポーツ協会」が設立された。今年で 3 年目になるが、当協会の役割として、より一層「障がい者のスポーツの普及」が望まれている。

平成 30 年は、全国障害者スポーツ大会の開催県として全競技に出場できるが、障がい者スポーツの競技人口が少なく、個人競技では陸上競技、団体競技では車椅子バスケットボール、バレーボールの選手が不足している状況であった。また、車椅子バスケットボールは、選手層が高齢化・固定化しているため、若手選手の発掘が必須であった。一方、選手の発掘と同時に陸上競技では、視覚障がい者の伴走者養成が課題となっていた。

「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」は、障害の有無を越え、すべての人に開かれた両大会を目指しているため、健常者と障害のある者がスポーツの楽しさを共に味わい、障がい者の社会参加や障害に対する理解を深めるための取り組みが必要な状況にある。

②事業の目的・ねらい

「福井しあわせ元気大会」に向け、県民が、全国トップレベルの障がい者スポーツの観戦や障がい者スポーツを体験することにより、健常者と障がいのある者が共にスポーツの楽しさを味わい、障がい者の社会参加や障がいに対する理解を促進するとともに、大会への関心を高める。

また、大会に向けた陸上競技、車椅子バスケットボールの選手育成・競技力向上および視覚障がい者の陸上競技伴走者の育成を図る。

③事業実施概要

（1） ◆障がい者スポーツエキシビションゲーム交流事業（車椅子バスケットボール）

事　業　名	障がい者スポーツエキシビションゲーム
日　　時	① 車椅子バスケットボールエキシビションゲーム 平成 28 年 8 月 6 日(土) 13 時 30 分～、7 日(日) 12 時 20 分～ ②車椅子バスケットボール交流体験会 平成 28 年 11 月 20 日(日)　9 時～12 時、27 日(日) 9 時～12 時
場　　所	① 福井市体育館(福井県福井市) ② 福井東特別支援学校体育館(福井県福井市)
参 加 者	① 8／6　308 名、8／7　330 名 ② 11／20　19 名、11／27　20 名
スタッフ	① 延べ 34 名 審判員 6 名、障がい者スポーツ指導員 2 名（初級 1 名、中級 1 名)、 FUKUI WBC(福井県車椅子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙﾁｰﾑ) 5 名 福井フェニックス(福井大学車椅子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｻｰｸﾙﾁｰﾑ)3 名 福井医療短期大学 3 名、その他 1 名、協会職員 3 名 ② 福井フェニックス 延べ 11 名
補 助 員	① 仁愛女子高等学校ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部 6 名 敦賀高等学校女子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部 6 名
連携組織	福井県、(一社) 福井県バスケットボール協会 福井県車椅子バスケットボール連盟、県民スポーツ祭実行委員会 福井県障害者スポーツ指導者協議会
事業内容	①車椅子バスケットボールエキシビションゲーム ・2016 県民スポーツ祭（バスケットボール大会）で、全国トップレベルの車椅子バスケットボールチーム(4 チーム)によるエキシビションゲームを実施。 ・高等学校バスケットボールチーム等のフリースローチャレンジを実施。 ②車椅子バスケットボール交流体験会 ・車椅子バスケットボールチームの練習に、高等学校バスケットボール部員が参加する交流体験会を実施。

○車椅子バスケットボールエキシビションゲーム

フリースローチャレンジ

エキシビションゲーム

○車椅子バスケットボール交流体験会

車椅子に慣れる

シュートの練習

記　念　撮　影

（２） ◆障がい者スポーツ体験交流事業

（車椅子バスケットボール、フライングディスク、車いす陸上競技）

事　業　名	障がい者スポーツ体験交流会
日　　時	①エンゼルこどもサマーフェスタ in ハピリン 平成 28 年 7 月 24 日（日）10 時～16 時 ②障がい者スポーツ出前体験教室 平成 28 年 9 月 6 日（火）10 時 20 分～、7 日（水）10 時 15 分～、 9 日（金）10 時 20 分～、23 日（金）13 時 30 分～ 28 日（水）10 時 30 分～
場　　所	①福井市ハピテラス（福井県福井市） ②福井市内小学校 4 校、特別支援学校 1 校（福井県福井市）
参　加　者	①一般参加者 217 名 ②小学校児童・特別支援学校生徒 161 名（知的 40 名、健常者 121 名）
スタッフ	①延べ 16 名 障がい者スポーツ指導員 9 名（初級 2 名、中級 7 名）、指導者 5 名 協会職員 2 名 ②延べ 32 名 障害者スポーツ指導員 延べ 4 名（中級 1 名） FUKUI WBC（福井県車椅子バスケットボールチーム）2 名 福井フェニックス(福井大学車椅子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｻｰｸﾙﾁｰﾑ) 延べ 14 名 福井県障害者フライングディスク協会 延べ 10 名、協会職員 2 名
連携組織	福井県障害者フライングディスク協会、福井県身体障害者陸上競技協会 （一社）福井県バスケットボール連盟、福井県障害者スポーツ指導者協議会
事業内容	①エンゼルこどもサマーフェスタ in ハピリン ・JR 福井駅前広場で、子どもを対象にした陸上競技スラローム、競技用車いす試乗体験、フライングディスク競技体験会を実施。 ②障がい者スポーツ出前体験教室 ・小学校、特別支援学校で車椅子バスケットボール、競技用車いす試乗、フライングディスク体験を実施。 ③障がい者スポーツ クラブ・サークル冊子を作成し、学校、病院等に配布。

○エンゼルこどもサマーフェスタ in ハピリン

スラローム体験

レーサー試乗

○障がい者スポーツ出前体験教室

福井市日新小学校　９月６日

福井市東藤島小学校　９月７日

福井市清水北小学校　９月９日

福井南特別支援学校　９月２３日

福井市本郷小学校　９月２８日

（３） ◆陸上競技普及推進事業

事　業　名	陸上競技普及推進事業 （障がい者スポーツ陸上競技講習会、伴走講習会）
日　　時	①陸上競技講習会 平成 28 年 11 月 27 日（日） 9 時～12 時 ②伴走講習会 平成 28 年 12 月 25 日（日）10 時～12 時
場　　所	福井県営陸上競技場（雨天時は補助競技場内雨天走路練習場）
参　加　者	①96 名（知的 12 名、身体 9 名、健常者 75 名） ②41 名（身体 6 名、健常者 35 名）
スタッフ	①延べ 18 名 講師 2 名、（一財）福井陸上競技協会 10 名 障がい者スポーツ指導員 3 名（中級 3 名）、協会職員 2 名 ②延べ 21 名 講師 3 名、障がい者スポーツ指導員 4 名（初級 1 名、中級 3 名） （一財）福井陸上競技協会 7 名、福井楽障クラブ 6 名、協会職員 2 名
連携組織	（一財）福井陸上競技協会、福井県障害者スポーツ指導者協議会 特定非営利活動法人 日本盲人マラソン協会、福井楽障クラブ
事業内容	①「チームふくい」アスリート（障がい者スポーツ強化陸上競技選手）と一般の小中学生、高校生を対象にトップアスリートによる陸上競技講習会を実施。 ・山本篤選手と一緒にウォーミングアップ ・山本篤選手の走るフォームをみる、指導を受ける ②日本盲人マラソン協会の講師による伴走講習会を実施。 ・視覚障がい者と伴走についての講義 ・西島美穂子選手と伴走者の溝渕学氏の伴走実技 ・視覚障がい者と伴走体験

○陸上競技講習会

山本篤選手のランニングフォーム

山本篤選手からの指導

山本選手に質問！

記　念　撮　影

○伴走講習会

講義　「視覚障がい者と伴走」

実技　アイマスク、ガイドロープを使用して

伴　走　体　験

伴　走　指　導

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

競技団体が中心となって講習会等の運営を行うため、障がい者への対応に不安があったが、障がい者スポーツ指導員が受付、参加者誘導、声かけなど補助的な役割を担い、競技団体のサポートをしてもらった。

イベントでは、障がい者の選手と健常者の選手が一堂に会することになったが、会場内や駐車場で円滑に選手誘導を行うとともに、速やかに観客等にアンケート調査を行い情報収集した。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

（一財）福井陸上競技協会と（一社）福井県バスケットボール協会に障がい者スポーツを専門とする担当者がいなかった。そのため、競技団体との関係が希薄であった。

（2）実際の事業での役割分担

講習会等での運営全般とトップアスリート招聘に関する連絡・調整をお願いした。

（3）事業後の関係性の変化

事業実施をきっかけに、（一財）福井陸上競技協会と（一社）福井県バスケットボール協会に障がい者スポーツの普及を専門とする部門が組織化した。また、本事業を通し、指導者にも障がい者への理解が深まり、指導者が増えた。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

今まで、大人用の競技用車椅子で児童を対象に車椅子体験教室やイベントを行っていたが、ジュニア用のスポーツ車椅子および障がい児用陸上車椅子を購入したことで、対象を小学校中学年まで広げた事業を実施することができた。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

・当協会にて備品を保管し、ホームページで競技用具として貸し出し、障がい者スポーツの普及として活用する。

・車椅子バスケットボールや陸上競技の若手選手発掘のため、アスリート練習時に借用要望があった際対応する。

⑦事業の成果および評価（達成度）

・障がい者スポーツ指導員の活動する場が少ないことが課題であった。当事業で多くのイベント等を開催することで、場を提供し、活動する機会を増やした。

・健常者の県レベルの競技大会の中で、全国トップレベルの障がい者スポーツ選手を招聘し、車椅子バスケットボールエキシビションゲームを実施した。これは、障がい者スポーツに関心が低かった人に競技の魅力や迫力を伝える機会となった。また、健常者と障がい者が一緒にバスケットボールを楽しむことで、相互理解が深められた。

・県内の障がい者スポーツクラブ・サークルの情報を集めた冊子を作成したことで、障がい者スポーツの活動実態を把握するとともに、気軽にスポーツに取り組める環境づくりとなった。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

事業①⇒健常者の競技大会に障がい者の試合を組み込むことは、競技団体の理解・協力、時間および会場規模などから課題が多く、競技団体内に障がい者スポーツへの理解を広く浸透させることが重要。

事業②⇒出前体験教室の開催地域に偏りがみられた。広域での開催および各地域で平日に活動できる指導者とスタッフの確保が課題。

事業③⇒健常者と障がい者が共に障がい者トップアスリートから競技指導を受けることは、競技力向上および障がい者の理解・促進に直結するため、継続して、様々な競技で実施していくことが必要。また、健常者と障がい者が、身近な地域で共にスポーツができる受け皿づくりが重要。

⑨おわりに

（1）所感

リオパラリンピックの開催もあり、「障がい者スポーツ」への関心が高まっている中での本事業の開催は、競技者や競技指導者が不足している当県にとって、注目してもらえる絶好のタイミングとなった。

また、トップアスリートの招聘は、障がい者と健常者が共にトップレベルのプレーを間近に見て、交流する機会となり、障がい者スポーツに対する理解促進をはじめ、自らの競技力を高めるきっかけづくりになった。

今後、各競技団体、障害者スポーツ指導者協議会、学校等と連携して、県内全域で障がい者スポーツの普及・拡大および障がい者への理解・促進を図りたい。

（2）特記事項

・健常者の県レベルの競技大会の中で、エキシビションゲームを行うことにより、障がい者スポーツへの理解を広く深めた。

・参加者へのアンケートを実施し、今後の障がい者スポーツを普及していく上での改善点を検証した。

・トップアスリートを招聘することで、障がい者スポーツの指導や支援意欲を高めた。

・伴走講習会では、視覚障がい者と伴走体験することにより、伴走技術の向上を図った。

⑩資料

開催要項、参加申込書、チラシ、記録写真、新聞記事、アンケート結果は別紙のとおり

～地域における障がい者スポーツの振興～

車椅子バスケットボールエキシビションゲーム交流事業 実施要綱

１　目　的

「福井しあわせ元気大会」開催に向け、県民が参加するスポーツイベント等において、全国トップレベルの障がい者スポーツの観戦や障がい者スポーツを体験することによって、障がい者の社会参加や障がいに対する理解を促進するとともに、大会への関心を高めることを目的とする。

２　主　催　福井県、しあわせ福井スポーツ協会

３　共　催　一般社団法人 福井県バスケットボール協会

～このイベントは ‘１６県民スポーツ祭交流事業です～

４　協　力　福井県車椅子バスケットボール連盟
県民スポーツ祭実行委員会
福井県障害者スポーツ指導者協議会

５　日　時　平成２８年８月６日（土）　１３時～１６時３０分
８月７日（日）　１２時２０分～１４時

６　会　場　福井市体育館アリーナ（福井市松本４丁目１０－１）

７　内　容

・トップレベルの車椅子バスケットボールチームによるエキシビションゲーム
・車椅子バスケットボール選手とフリースローチャレンジ

８月６日（土）	
13:00 ～ 14:30	第１試合　兵庫県 ＶＳ 三重県
14:30 ～ 15:00	フリースローチャレンジ
15:00 ～ 16:30	第２試合　兵庫県 ＶＳ 富山県
17:00 ～	交流試合　滋賀県 ＶＳ 富山県・三重県

８月７日（日）		
12:20 ～ 14:00	対戦試合	第１コート　兵庫県 ＶＳ 滋賀県 第２コート　三重県 ＶＳ 富山県

［競技方法］
試合は、10 分クォーターを 4 回行い、ハーフタイムは 10 分とする。第 1 ピリオドと第 2 ピリオドの間と第 3 ピリオドと第 4 ピリオドの間にそれぞれ 2 分のインターバルタイムをおく。その他、全国障害者スポーツ大会競技規則による。
［参加チーム］　富山県　三重県　滋賀県　兵庫県

８　入場料　無　料

９　問合せ　しあわせ福井スポーツ協会
福井市福町３－２０（福井運動公園事務所内）
Ｔｅｌ　０７７６－４３－９７１２
Ｆａｘ　０７７６－４３－９７１３

車椅子バスケットボール エキシビションゲーム

期日　平成28年8月6日(土)～7日(日)

会場　福井市体育館アリーナ

入場無料

エキシビションゲーム日程

8月6日（土）	
13：00～14：30	兵庫県 VS 三重県
15：00～16：30	兵庫県 VS 富山県
8月7日（日）	
12：20～14：00	兵庫県 VS 滋賀県
	三重県 VS 富山県

フリースローチャレンジ！

日時：8月6日(土) 14：30～15：00

車椅子に乗って、
フリースロー体験をしよう！
レッツチャレンジ！

主催　福井県、しあわせ福井スポーツ協会
共催　一般社団法人　福井県バスケットボール協会
協力　福井県車椅子バスケットボール連盟
県民スポーツ祭実行委員会
福井県障害者スポーツ指導者協議会

～'16県民スポーツ祭交流事業～

＜お問合せ先＞

しあわせ福井スポーツ協会
ホームページ http://hfsa291.net/

〒918－8027 福井市福町3－20
TEL 0776-43-9712
FAX 0776-43-9713
E-mail h-sports291@axel.ocn.ne.jp

～地域における障がい者スポーツの振興～

車椅子バスケットボール エキシビションゲーム

開催日時：平成２８年８月６日（土）１３：００～１６：３０
８月７日（日）１２：２０～１４：００

会　　場：福井市体育館アリーナ（福井市松本 4-10-1）
TEL０７７６－２０－５３９４

主　催　福井県、しあわせ福井スポーツ協会
共　催　一般社団法人　福井県バスケットボール協会
協　力　福井県車椅子バスケットボール連盟
県民スポーツ祭実行委員会
福井県障害者スポーツ指導者協議会

車椅子バスケットボールエキシビションゲーム

開会式・主催者あいさつ

フリースローチャレンジ

エキシビションゲーム

県外の強豪 華麗な"技"

福井で車いす公開試合

バスケットボール

1-12.8.8 日刊

車いすバスケットボールの公開試合で、熱戦を繰り広げる各県選抜チーム＝福井市体育館で

車いすバスケットボールの強豪チームを招いた公開試合が6、7の両日、福井市松本4丁目の市体育館であった。障害者スポーツに関心を持ってもらおうと、県などが初めて企画。300人が観戦し、激しいボールの奪い合いや華麗なシュートに歓声を上げた。

招待したのは、全国障害者スポーツ大会の車いすバスケを一昨年から2年連続で制している神戸をはじめ富山、三重、滋賀の各県選抜チーム。2日間で計4試合を実施し、熱戦を繰り広げた。

県車椅子バスケットボールクラブの加藤佳嗣主将(48)は、組織的に動くチームプレーに「自分の役割をしっかり果たしている」と感銘を受けた様子。「ロングシュートが武器のチームにしたい。若い力を取り入れ、勝てるチームにしていきたい」と気持ちを新たにしていた。

（玉田能成）

2016年（平成28年）8月8日（月曜日）

迫力車いすバスケ

福井 全国トップチーム熱戦

全国トップレベルの車いすバスケットボールチームを招いたエキシビションゲーム大会が6、7の両日、福井市体育館で開かれた。スピード感あふれ、激しくぶつかり合う車いすバスケならではの迫力が、スタンドの観客を魅了した。

2018年の全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」に向けて、障害者スポーツに関心を持ってもらおうと県としあわせ福井スポーツ協会が開いた。14、15年度の全国障害者スポーツ大会で優勝した兵庫県チームと全国大会常連の強豪、三重、富山、滋賀県チームが参加した。

7日は兵庫と滋賀、富山と三重の試合が行われた。ゴール前への素早い切り込みや、車いすを巧みに操ったフェイント、車いす同士のぶつかり合いが随所で見られた。

兵庫県チーム主将の西川雅敏さん(31)＝姫路市＝は「ゴール下での激しいボールの取り合いや、スピードで競り合ったときのタイヤがこすれた焦げたにおいなどを味わってもらえれば」と競技の魅力を話していた。（近藤洋平）

迫力あるプレーで観客を魅了した全国トップ級の車いすバスケットボールチーム＝7日、福井市体育館

きょうの1枚

「コート上の格闘技」（3面）

車椅子バスケットボールエキシビションゲーム　アンケート

1　本日は、「車椅子バスケットボールエキシビションゲーム」を観戦していただき、ありがとうございました。今後の参考にしたいと思いますので、アンケートにご協力お願いします。

（1）年齢

・10歳未満　・10代　・20代　・30代　・40代　・50代　・60代　・70歳以上

（2）性別　　・男性　　・女性

（3）感想に○をつけ、理由があればお聞かせください。

① 車椅子バスケットボールエキシビションゲーム観戦

a　面白かった　　b　やや面白かった　c　やや面白くなかった　d　面白くなかった

理由〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

② 機会があれば車椅子バスケットボールを体験したいですか。

a　体験したい　b　機会があれば体験したい　c　興味はない

理由〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

（4）障がい者スポーツで、「観戦したい」「体験したい」競技があれば、○をつけてください。

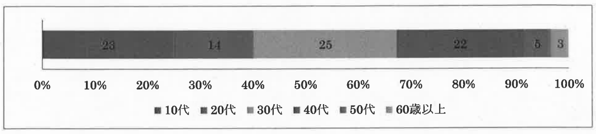
・陸上競技（スラローム・盲人マラソン等）　・水泳　・アーチェリー
・卓球（サウンドテーブルテニス含む）　・　ゴールボール　・　グランドソフトボール
・ウィルチェアラグビー　・　車いすテニス　・車いすフェンシング
・シッティングバレーボール　　・ボッチャ
・その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

（5）本日の感想やご意見をご自由にお書きください

ありがとうございました。アンケート回収箱に入れてください。

車椅子バスケットボールエキシビションゲーム アンケート　集計表

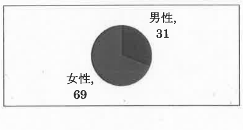
1　観戦者の年齢



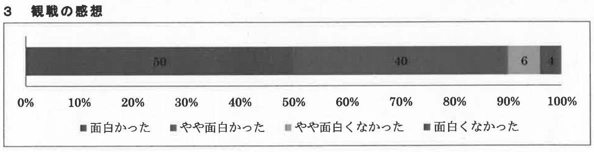
	１０代	２０代	３０代	４０代	５０代	60歳以上
人　数	12	7	13	11	5	3
割　合	23%	14%	25%	22%	10%	6%

2　観戦者の性別

	男　性	女　性
人　数	16	35
割　合	31%	69%

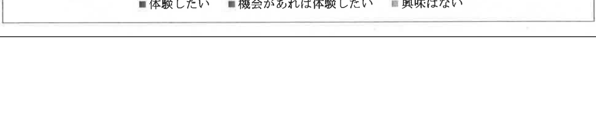


3　観戦の感想



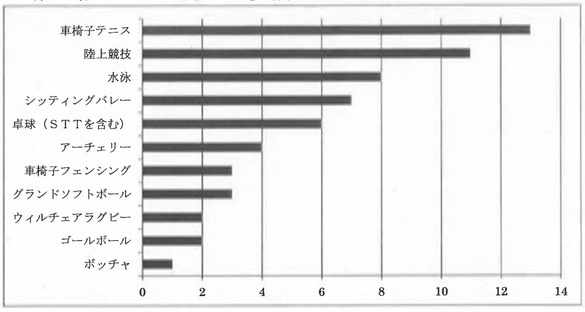
	回答人数	面白かった	やや面白かった	やや面白くなかった	面白くなかった
人　数	47	23	19	3	2
割　合		50%	40%	6%	4%

4　車椅子バスケットボールの体験希望



	回答人数	体験したい	機会があれば体験したい	興味はない
人　数	50	15	24	11
割　合		30%	48%	22%

5　障がい者スポーツで「観戦したい」「体験したい」競技



6　観戦の感想・意見

◇今後も、障がい者スポーツを間近で観る機会が増えると良い。プレイヤーのモチベーションも上がるし、ハンディキャップのある人たちの励みになると思います。（40代男性）
◇車椅子バスケットボールを初めて観戦しましたが、想像以上にスピード感がありました。シュートも、リングの高さが同じなので難しそうでした。パスの正確さにも驚きました。やっぱりバスケットボールは面白いです。（40代女性）
◇車椅子どうしのぶつかり合いなどがとても迫力がありました。漫画で読むのと実際に見るのでは、想像していたのとは違っていました。腕の筋肉すごかったです。（10代女性）
◇フリースローの体験をしましたが、思っていたよりもボールが届きませんでした。リングに届かせることも難しいので点はなかなか入らなさそうだと思いました。（10代女性）
◇観戦するのも、体験してみるのにも魅力あるスポーツだと思いました。もっともっと浸透して、多くの方に興味を持ってもらえるといいと思いました。（30代男性）
◇転倒した時自力で起き上がるのがすごい。また、相手チームの人が協力して起こしたりして、すごく良いと感じました。（30代男性）
◇全国障害者スポーツ大会に向けて、福井チーム頑張ってください。（60代女性）
◇障がい者スポーツにとても興味を持ちました。（30代女性）

～地域における障がい者スポーツの振興～

車椅子バスケットボール体験交流 実施要領

1　目　的　　障がい者スポーツを体験することで、健常者と障がいのある者が共にスポーツの楽しさを味わい、障がい者の社会参加や障がいに対する理解を促進する。

2　主　催　　しあわせ福井スポーツ協会

3　協　力　　ＦＵＫＵＩ　ＷＢＣ
福井フェニックス
福井県障害者スポーツ指導者協議会

4　日時・会場・参加者

日　時	会　場	参加者
１１月２０日（日） ９：００～１２：００	福井東特別支援学校体育館	・ＦＵＫＵＩ ＷＢＣ ・福井フェニックス ・仁愛女子高等学校 バスケットボール部
１１月２７日（日） ９：００～１２：００	福井東特別支援学校体育館	・ＦＵＫＵＩ ＷＢＣ ・福井フェニックス ・仁愛女子高等学校 バスケットボール部

5　内　容
・車椅子バスケットボール体験
　車椅子操作、ドリブル、パス、シュート等
・車椅子バスケットボール練習試合

6　問合せ　　しあわせ福井スポーツ協会
福井市福町３－２０（福井運動公園事務所内）
Ｔｅｌ　０７７６－４３－９７１２
Ｆａｘ　０７７６－４３－９７１３

車椅子バスケットボール 体験教室

みんなでチャレンジ！車椅子バスケ！

★ 練習日時・会場

9月25日（日）　9:00～12:00

福井県社会福祉センター体育館（福井市光陽２丁目３-22）

10月　9日（日）、30日（日）
11月20日（日）、27日（日）
12月11日（日）、18日（日）
} 9:00～12:00

福井東特別支援学校体育館（福井市四ツ井２丁目８-１）

★ 対象者　身体に障がいのある方および健常者

★ 参加費　無料

★ 持ち物　運動のできる服装、内履きシューズ、飲料水　他

★ 申込先　しあわせ福井スポーツ協会
電話、メールまたはFAX

◆ バスケットボール経験は問いません。関心のある方大歓迎！！

～ お問い合わせ先 ～
しあわせ福井スポーツ協会
TEL 0776-43-9712　FAX 0776-43-9713
Email: h-sports291@axel.ocn.ne.jp

車椅子バスケットボール体験教室申込用紙

氏名		年齢	
所属(学校)名			
連絡先	住所	〒	
	TEL		
参加希望日	9/25 ・ 10/9 ・ 10/30 ・ 11/20 11/27・ 12/11 ・ 12/18		
身体障害者手帳	所持している ・ 所持していない		
車椅子	利用している ・ 利用していない		

（注）いただいた個人情報は、今回の体験講習会のみに使用します。

問　合　先：　しあわせ福井スポーツ協会
0776-43-9712

FAX送信先：　0776-43-9713

メール送信先：　h-sports291@axel.ocn.ne.jp

平成３０年に福井で開催する
「福井しあわせ元気大会」に
君も出場しよう！！

車椅子バスケットボール体験交流教室

平成28年11月20日（日）、27日（日）
FUKUI WBC 、福井フェニックス、仁愛女子高等学校バスケットボール部

～車いす操作～

～基礎練習～

～シュート練習～

～記念撮影～

「バスケットボール体験教室」参加者アンケート

本日は、「バスケットボール体験教室」にご参加いただきありがとうございました。
今後の参考にしたいと思いますので、ご協力お願いします。

1　感想に○をつけ、理由があればお聞かせてください。
a　面白かった　b　やや面白かった　c　やや面白くなかった　d　面白くなかった
理由〔　　〕

2　機会があれば、また車椅子バスケットボールを体験したいですか。
a　体験したい　b　機会があれば体験したい　c　興味はない
理由〔　　〕

3　本日の感想やご意見をご自由にお書きください。

ありがとうございました

「バスケットボール体験教室」参加者アンケート　集計表

期　日：平成28年11月20日（日）・27日（日）
会　場：福井東特別支援学校
参加者：38名（のべ人数）

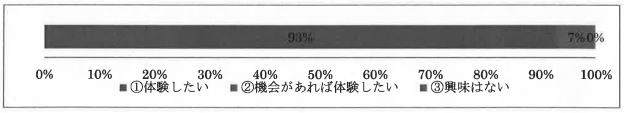
1　体験教室に参加した感想

①面白かった	②やや面白かった	③やや面白くなかった	④面白くなかった
100%	0%	0%	0%
15	0	0	0

◇①面白かった理由
・いつものバスケットボールと違ったルールで楽しかったです。
・普段体験できないことができて面白かったです。
・今まで、車椅子に乗ったことがなかったので、とてもよい体験ができました。

2　機会があれば、また車椅子バスケットボールを体験したいですか。

①体験したい	②機会があれば体験したい	③興味はない
93%	7%	0%
14	1	0



◇①体験したい、②機会があれば体験したい理由
・試合やシュート練習がしたいです。
・これからもっと詳しくルールなどを知りたいです。

3　体験しての感想や意見
・最初は難しいだろうなと思いましたが、車椅子の操作に慣れてくると楽しかったです。
・時間が短く感じました。もっと上手くなりたいと思いました。
・車椅子でもこんなに楽しくバスケットボールができることが分かり、車椅子バスケットボールに魅力を感じました。またやってみたいです。
・とにかく楽しかったです。また機会があれば車椅子バスケットボールをやりたいと思いました。
・車椅子バスケットボールのことを知ってはいましたが、初めて体験してとても難しいけれども楽しいことが分かりました。
・ルールはほとんど同じなのに、全く違うスポーツをしているように感じました。

～地域における障がい者スポーツの振興～

障がい者スポーツ体験会 実施要領

1　目　的
　障がい者スポーツを体験することで、健常者と障がいのある者が共にスポーツの楽しさを味わい、障がい者の社会参加や障がいに対する理解を促進するとともに、「福井しあわせ元気大会」への関心を高める。

2　主　催　　しあわせ福井スポーツ協会

3　共　催　　福井県障害者スポーツ指導者協議会

4　協　力　　福井県身体障害者陸上競技協会

5　日　時　　平成２８年７月２４日（日）１０：００～１６：００

6　会　場　　ハピテラス（福井市）

7　内　容

	フライングディスク	競技用車いす試乗	スラローム
内　容	ゴールに向けて、ドッチビーを投げ、その通過回数を競う	レーサー試乗	赤・白の旗門を設置し、車いすで競技を体験
準備物	ｱｷｭﾗｼｰｺﾞｰﾙ(2) ﾄﾞｯﾁﾋﾞｰ(20)	レーサー(1)	旗門(1式) 車いす(3台)

8　問合せ　　しあわせ福井スポーツ協会
福井市福町３－２０（福井運動公園事務所内）
Ｔｅｌ　０７７６－４３－９７１２
Ｆａｘ　０７７６－４３－９７１３

障がい者スポーツ体験会

平成２８年７月２４日　　ハピテラス（福井市）

～フライングディスク体験～

～スラローム体験～

～レーサー試乗～

エンゼルこどもサマーフェスタ in ハピリン
障がい者スポーツ体験会　アンケート

1　本日の障がい者スポーツ体験についてお答えください

（1）年齢

・10歳未満　・10代　・20代　・30代　・40代　・50代　・60代　・70歳以上

（2）性別

・男性　　・女性

（3）体験した競技と感想に○をつけてください。

陸上競技
スラローム体験

競技用車いす
試乗体験

フライングディスク
競技体験

・陸上競技スラローム

1 簡単だった　2 やや簡単だった　3 やや難しかった　4 難しかった

・競技用車いす試乗

1 簡単だった　2 やや簡単だった　3 やや難しかった　4 難しかった

・フライングディスク

1 簡単だった　2 やや簡単だった　3 やや難しかった　4 難しかった

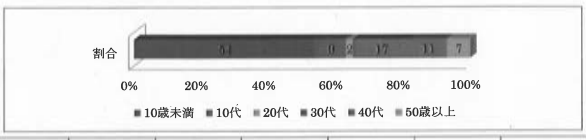
2　本日の感想やご意見をご自由にお書きください。

☺ ありがとうございました。

エンゼルこどもサマーフェスタｉｎハピリン
障がい者スポーツ体験会　アンケート　集計

1　本日の障がい者スポーツ体験についてお答えください。

（1）（体験者）の年齢



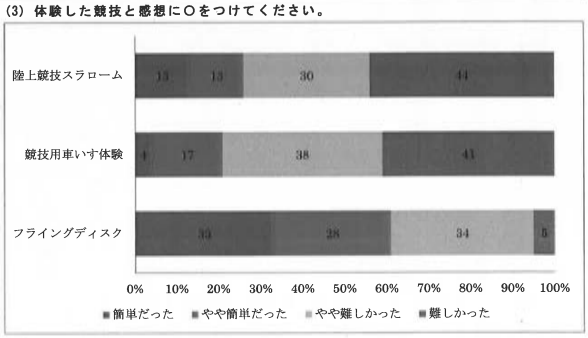
	10歳未満	10　代	20　代	30　代	40　代	50歳以上
人　数	１１７	２０	４	３６	２４	１６
割　合	５４％	９％	２％	１７％	１１％	７％

（2）（体験者）の性別

	男　性	女　性
人　数	８４	１３３
割　合	３９％	６１％

障がい者スポーツの体験者は、「こどもサマーフェスタ」に参加している小学校低学年児童とその保護者が半数以上であった。会場が駅前広場であり、競技性の高いブースを準備するなどして、青年層への参加意欲を高める工夫も必要であった。

（3）体験した競技と感想に○をつけてください。



① 陸上競技スラローム

	参加人数	簡単だった	やや簡単だった	やや難しかった	難しかった
人　数	９２	１２	１２	２８	４１
割　合	４３％	１３％	１３％	３０％	４４％

② 競技用車いす試乗

	参加人数	簡単だった	やや簡単だった	やや難しかった	難しかった
人　数	９７	４	１６	３６	４０
割　合	４４％	４％	１７％	３８％	４１％

③ フライングディスク

	参加人数	簡単だった	やや簡単だった	やや難しかった	難しかった
人　数	１６１	５２	４４	５７	８
割　合	７４％	３３％	２８％	３４％	５％

小学校低学年児童の参加者が多く、フライングディスクは取り組みやすかったと思われるが、陸上競技スラロームは、全国障害者スポーツ大会の競技規則に近い形で旗門を配置することで、競技の特性を体験できたと考える。

また、競技用（レーサー用）車いす試乗は、実際に走行することで、スピード感と、車いす操作の難しさを体験できたと考える。

2　本日の感想やご意見をご自由にお書きください。

◇陸上での、足の不自由な人は、３つのタイヤを使って、ブレーキなど難しいことが体験できてよかったです。（10代女性）

◇車いすに乗るのは、初めてでしたが、平らな場所だったので、結構スムーズにできました。（10代女性）

◇大人の人も、もっと参加するといいのにと思いました。（30代女性）

◇広いスペースで車いすの操作ができたので、子ども達は楽しめていたようです。（30代女性）

◇私達が普通にしていることでも、障がい者の方は苦労しながら頑張っているということを学びました。（60代女性）

◇すごくいい体験でした。もっと多くの人が体験できるように広まって欲しいです。（30代女性）

◇子ども達が楽しそうだった。ますます体を動かすことが好きになったようです。また、車いすの体験もなかなかできないことなので、よい経験をさせていただきました。（30代女性）

◇みんなで盛り上げて、いい大会ができるとよいと思います。（30代女性）

◇いい勉強になりました。楽しかったです。（10代女性）

◇なかなかできない、触れることのないものを体験させていただきました。子どもにとっては障がい者スポーツに興味をもつよい機会でした。ありがとうございました。（30代女性）

◇いろいろな体験ができて楽しい。これからもこんなチャンスがあるとうれしい。（10代男性）

◇たくさんの体験ができるブースがあって、子どもも楽しめるのがよかった。これからも、このような機会があるとうれしいです。（30代女性）

◇初めて障がい者スポーツを知ることができました。今後興味をもって障がい者スポーツに接し、見ることができます。来月、東京に引っ越すので、パラリンピックも興味深いです。（40代女性）

～地域における障がい者スポーツの振興～

障がい者スポーツ体験教室 実施要領

1　目　的　障がい者スポーツを体験することで、健常者と障がいのある者が共にスポーツの楽しさを味わい、障がい者の社会参加や障がいに対する理解を促進する。

2　主　催　しあわせ福井スポーツ協会

3　協　力　福井県車椅子バスケットボール連盟
福井県障害者フライングディスク協会
福井県障害者スポーツ指導者協議会

4　講　師　ＦＵＫＵＩ　ＷＢＣ
加藤　佳嗣　氏（福井県障害者スポーツ指導員）
中野　三郎　氏　　井上　武美　氏
福井県障害者フライングディスク協会
中村　和己　氏　　佐藤　未季　氏

5　日時・会場・参加者

日　時	会　場	参加者（人数）
平成２８年　９月　６日（火） １０：２０～１１：２５	福井市日新小学校	４年生（４６人）
平成２８年　９月　７日（水） １０：１５～１１：２５	福井市東藤島小学校	４年生（２７人）
平成２８年　９月　９日（金） １０：２０～１１：３０	福井市清水北小学校	４年生（２５人）
平成２８年　９月２３日（金） １３：３０～１５：００	福井南特別支援学校	高等部（４０人）
平成２８年　９月２８日（水） １０：３０～１１：４０	福井市本郷小学校	５・６年生（２３人）

6　内　容　⑴車椅子バスケットボールの体験
⑵フライングディスクの体験（車いす、アイマスクを使用）
⑶レース用車いすの試乗体験

7　問合せ　しあわせ福井スポーツ協会
福井市福町３－２０（福井運動公園事務所内）
Ｔｅｌ　０７７６－４３－９７１２
Ｆａｘ　０７７６－４３－９７１３

活動を終えて

4年2組　氏名 松原 音色

わかったことや思ったこと

今日、はじめて、車いすバスケットボールをしました。ふつうの車いすとちがって、タイヤがななめになっていて、とても、ふしぎでした。一回も、シュートを決めれなかったけれど、とても楽しかったです。またやりたいです。今度やるときは、一ぽつでもいいから、シュートを決めれるようにしたいです。

活動を終えて

4年1組　氏名 山口諒真

わかったことや思ったこと

今日、障害者スポーツの体験で、車いすバスケットボール、フライングディスクをして、障害者でもバスケットボールができることがわかりました。日新地区には、虹の会というしせつがあるけど、そこでスポーツをしているとこは見たことがなかったので今日障害者スポーツができてよかったです。

活動を終えて

4年2組　氏名 大坂 祐太

わかったことや思ったこと

全国障害者スポーツ大会で行うきょうぎのうち2つのきょうぎをしました。はじめにフライングディスクをして目のみえない人でも音をききとり合図としてといろんな人ができてすごいと思いました。2つ目は車椅子バスケットで車椅子にのるのがはじめてだったけどのってみるとたのしくて2回目にすると自分でじょうずになったきがしたのでうれしかったです。またやってみたいです。

活動を終えて

4年2組　氏名 宮下 花

わかったことや思ったこと

今日、体験をして、フライングディスクは、目の見えない人もやっていると知ってすごいと思いました。アイマスクをしてやってみるとすごくむずかしかったです。車椅子バスケットボールは車椅子のそうさもむずかしくて、ボールもうまく入らなかったけど、とても楽しかったです。あらためて車椅子バスケットボールをしている人はすごいと思いました。

～地域における障がい者スポーツの振興～

障がい者スポーツ陸上競技講習会　実施要領

1　目　的　「福井しあわせ元気大会」に向け、トップアスリートによる実技指導を行い、選手の競技力向上を図るとともに、障がい者のスポーツへの理解を促進する。

2　主　催　しあわせ福井スポーツ協会
一般財団法人　福井陸上競技協会

3　協　力　福井県障害者スポーツ指導協議会

4　日　時　平成 28 年 11 月 27 日（日）　9:00～12:00

5　会　場　福井県営陸上競技場（福井市福町 3-20）
雨天時は補助競技場内雨天走路練習場

6　講　師　山本　篤氏　（スズキ浜松AC所属）

7　内　容

時　間	内　容
8:30～ 8:50	受　付
9:00～10:20	トップアスリートと一緒にウォーミングアップ トップアスリートの競技を見る
10:40～12:00	トップアスリートの指導を受ける トップアスリートへの質疑応答　など

※同行者：岸田拓之

8　参加者　陸上競技に関心のある方（先着 50 名）

9　参加料　無料

10　参加申込み　申込先
しあわせ福井スポーツ協会
福井市福町 3-20（福井運動公園事務所内）
TEL　0776－43－9712
FAX　0776－43－9713

11　その他　傷害保険は主催者において加入します。

～地域における障がい者スポーツの振興～

障がい者スポーツ
陸上競技講習会

★ 開催日時
11月27日（日）　9:00～12:00（受付　8:30～）

★ 会場
福井県営陸上競技場（福井市福町3-20）
ただし、雨天時は補助競技場内雨天走路練習場になります。

★ 内容
講師　山本 篤氏（スズキ浜松AC所属）

★ 対象者　陸上競技に関心のある方（先着50名）

★ 参加費　無料

★ 申込先　しあわせ福井スポーツ協会 電話、メールまたは FAX
締切は、11月5日（金）です。

リオデジャネイロパラリンピック出場の
山本 篤氏
から指導を受けよう！

問　合　先：しあわせ福井スポーツ協会　0776－43－9712
FAX送信先：0776－43－9713
メール送信先：h-sports291@axel.ocn.ne.jp

障がい者スポーツ陸上講習会

平成28年11月27日（日）

〜開　始　式〜

〜山本選手のランニングフォーム〜

〜山本選手の指導〜

〜山本選手に質問！〜

〜記念撮影〜

H28.11.28 福井

世界の跳躍 練習法伝授

リオ・パラ走り幅跳び銀 山本篤さん

福井で100人指導

山本さん（手前左）と触れ合いながらジョギングをする参加者＝27日、福井市の福井運動公園

リオデジャネイロ・パラリンピックの陸上走り幅跳び銀メダリスト、山本篤さん（34）＝スズキ浜松アスリートクラブ＝を講師に招いた陸上講習会が27日、福井市の福井運動公園で開かれた。参加者は、トップアスリートから手ほどきを受けて実力の向上を誓っていた。（桂知之）

2018福井しあわせ元気国体・大会

2018年に本県で開催される国体と全国障害者スポーツ大会を見据え、福井陸協としあわせ福井スポーツ協会が企画。一般の小中学生、高校生と、福井大会に向け強化指定を受けている障害者アスリートら合わせて約100人が参加した。

左脚が義足の山本さんは「練習のポイントだけでも覚えて帰って」と、日ごろから取り組んでいるトレーニング方法を指導。足を振り上げながら前に進む運動では「姿勢を常に意識して」と声を掛けたり、自ら実演したりしていた。

参加者たちはメダリストの直接指導に感激しきり。昨年、和歌山大会の肢体不自由者女子2部走り幅跳びで、金メダルを獲得した林昌代さん（48）＝越前市＝は「普段しっかりできていないところが再確認できた」と福井大会出場に向けて意気込みを新たにしていた。

福井市社南小3年の菅原凜悟君（9）は「教えてもらったことを生かし、もっと早く走れるようになりたい」と話していた。

強い気持ちで頑張って

山本さん 本県選手にエール

福井での国体と全国障害者スポーツ大会に期待を寄せる山本さん

福井市の福井運動公園で開かれた陸上講習会で講師を務めた山本篤さんは福井新聞のインタビューに応じ、2018年福井国体と全国障害者スポーツ大会への出場を目指す本県選手に「全力で頑張るのが一番大事。強い気持ちを持ち、しんどい練習を乗り切って」とエールを送った。

県などでつくる実行委員会が国体と同大会の開会式に統一コンセプトを導入し、「2大会の融合」をテーマとしていることには「五輪とパラリンピックが一緒に活動やイベントを打ち出している中、国内の大会もそういう流れになっていくのはすごくいいこと」と期待した。

全国障害者スポーツ大会については、同大会の障害の区分がパラリンピックと違うため「よい記録を出しても、パラリンピックに参加するための記録に公認されない」と課題を指摘。パラリンピックの区分を導入することで「よい成績を出したら次はパラリンピックを目指す、というようにステップアップのための大会になるといい」と話した。

障害者への一層のスポーツ普及に向け「競技用の義足を中学生や高校生たちに支給するシステムを整えていくべきだ。競技用の車いすにしても高額」と話し、国を挙げて環境を整える必要性を訴えた。（桂）

H28.11.28 日刊

パラメダリストが指南

山本篤選手の指導を受ける障害者スポーツ強化選手や子どもたち＝福井市の福井運動公園で

福井 山本選手招き陸上教室

リオデジャネイロパラリンピック銀メダリストの山本篤選手（三四）を招いての陸上教室が二十七日、福井市の福井運動公園補助競技場の雨天走路であった。

山本選手はリオ大会の走り幅跳びで銀、四百メートルリレーで銅メダルを獲得。この日は二年後の「福井しあわせ元気大会」を目指す県内の強化選手や陸上クラブに通う小学生ら百二十人に、走り方や跳び方のこつや競技への心構えを指導した。

山本選手は「意識して頭で体をコントロールできるようになれば陸上でも球技でもうまくなる」と助言。指導後には左脚を事故で切断し、陸上を始めた経緯を語り「なくなったからこそ良い人生になった。考え方一つで変わる」と伝えた。

知的障害者の「スペシャルオリンピックス日本・福井」に所属し、県の強化陸上選手になっている伊藤力さん（三二）＝福井市＝は「メダリストと一緒に走れて気持ち良かった。二年後の大会を目指して頑張ります」と話していた。（中崎裕）

〜地域における障がい者スポーツの振興〜

「障がい者スポーツ陸上競技講習会」参加者アンケート

本日は、「障がい者スポーツ陸上競技講習会」にご参加いただきありがとうございました。
今後の参考にしたいと思いますので、ご記入の上、アンケート回収箱に入れてください。ご協力お願いします。

1　年齢について
　①　10歳未満　②10代　③20代　④40代　⑤50代　⑥60代

2　性別について
　①　男性　②女性

3　障がいについて
　①　あり
　　(1)肢体　(2)視覚　(3)聴覚　(4)知的　(5)その他（　　　　　　）
　②　なし

4　陸上競技講習会を受けて良かった事について（複数回答可）
　①　山本篤選手に会えた。
　②　指導の内容がよかった。
　③　他のアスリートと交流できてよかった。
　④　その他（　　　　　　）

5　この陸上競技講習会の感想をご自由にお書きください

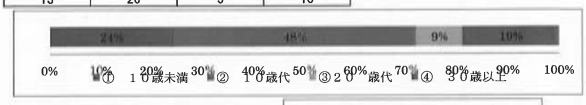
ありがとうございました

「障がい者スポーツ陸上競技講習会」参加者アンケート　集計表

期　　日：平成28年11月27日（日）
会　　場：福井県営陸上競技場　補助競技場雨天走路練習場
参加者数：250名

1　参加者の年齢

①　10歳未満	②　10歳代	③20　歳代	④　30歳以上
24%	48%	9%	19%
13	26	5	10

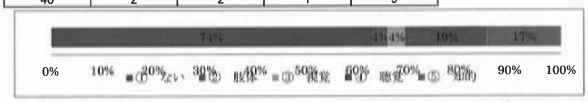


2　参加者の性別

①　男性	②　女性
56%	44%
30	24

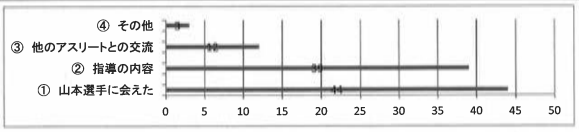
3　参加者の障がい

①　ない	②　肢体	③　視覚	④　聴覚	⑤　知的
74%	4%	4%	19%	17%
40	2	2	1	9



4　講習会を受けて良かった事（複数回答）

①　山本選手に会えた	②　指導の内容	③　他のアスリートとの交流	④　その他
44	39	12	3



5　感想
・山本選手の強さと前向きさと、優しさに感動しました。
・走法技術の説明が丁寧で、分かり易かった。
・パラリンピックの日本代表選手から直接アドバイスを受けることができてよかった。
・メダルを首にかけてもらたり、直接触ることができた。自分もオリンピックでメダルをとりたい。
・講習は、小学生低学年と分けてもらいたかった。
・障がい者アスリートの参加が多いとよかった。

～地域における障がい者スポーツの振興～

障がい者スポーツ伴走講習会 実施要領

1　目　的
「福井しあわせ元気大会」に向け、視覚障がい陸上競技選手に必要不可欠な伴走者を育成し、競走を安全かつ円滑にすすめることを目的とする。

2　主　催　　しあわせ福井スポーツ協会

3　協　力　　認定特定非営利活動法人　日本盲人マラソン協会
一般財団法人　福井陸上競技協会
福井楽障クラブ
福井県障害者スポーツ指導者協議会

4　日　時　　平成２８年１２月２５日（日）
１０：００～１２：００

5　会　場　　福井県営陸上競技場（福井市福町３－２０）
（ただし、積雪、降雪時は補助競技場内雨天走路練習場）

6　内　容

時　間	内　容
９：30～	受付
10：00～10：30	講義：視覚障がい者と伴走 〈講師　認定 NPO 法人　日本盲人マラソン協会 常務理事　原田　清生氏〉
10：45～12：00	伴走実技〈ランナー　西島　美保子氏、伴走者　溝渕　学氏〉

7　対象者　　１５歳以上（平成 28 年４月１日現在）の伴走に関心のある方
（先着２０名）

8　参加料　　無料

9　参加申込　　参加希望者は、定められた様式により、しあわせ福井スポーツ協会まで郵送、メールまたは FAX で申し込んでください。

10　その他　　傷害保険は、主催者において加入します。

11　問合せ　　しあわせ福井スポーツ協会
福井市福町３－２０（福井運動公園事務所内）
Ｔｅｌ　０７７６－４３－９７１２
Ｆａｘ　０７７６－４３－９７１３

君もチャレンジ

～地域における障がい者スポーツの振興～

障がい者スポーツ
伴走講習会　参加者募集！！

平成３０年開催の「福井しあわせ元気大会」に向け、視覚障がい者の陸上競技走者の育成を図るため、県外から講師を招いて伴走講習会を開催します。
伴走に興味をお持ちの方大歓迎!
一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

★ 開催日時
12月25日（日）
10:00～12:00
（受付　9:30～）

★ 会場
福井県営陸上競技場（福井市福町 3-20）
ただし、積雪、降雪時は補助競技場内雨天走路練習場になります。

★ 内容
・講義：視覚障害や伴走について
〈講師　認定 NPO 法人 日本盲人マラソン協会
常務理事　原田　清生氏〉
・伴走実技

リオデジャネイロパラリンピック出場の**西島 美保子氏、**
伴走者 **溝渕 学氏** も走るよ！

★ 対象者
15歳以上（平成 28 年 4 月 1 日現在）で伴走に関心のある方
（先着20名）

★ 参加費　**無料**
★ 申込先　**しあわせ福井スポーツ協会 電話、メールまたは FAX**
締切は、11月25日（金）です。

障がい者スポーツ伴走講習会

平成28年12月25日（日）

～開校式～

～講義　「視覚障がい者と伴走」～

～実技　アイマスク、ガイドロープを使用して～

～実技　西島選手と伴走者 溝渕学氏による伴走指導～

福井新聞

2016年(平成28年)12月26日(月曜日) 福井ワイド (2)

伴走 選手に安心を

視覚障害者陸上 福井で40人学ぶ

視覚障害がある陸上選手の伴走の方法を学ぶ参加者。2列目は実技を示す西島選手(右)と伴走の濱渕さん＝25日、福井市の県営陸上競技場

リオ出場 西島選手も指導

2018 福井しあわせ元気大会

2018年の全国障害者スポーツ全国大会「福井しあわせ元気大会」に向け、陸上競技で視覚障害者と一緒に走る伴走者の講習会が25日、福井市の県営陸上競技場で開かれた。県内外から約40人が参加。今夏のリオデジャネイロ・パラリンピックに出場した西島美保子さん(61)＝福井市＝と伴走者の濱渕学さん(56)＝神戸市＝も実技指導に加わり、選手が安心して走れる伴走方法を学んだ。

障害者スポーツを普及、振興する「しあわせ福井スポーツ協会」が開いた。

講師は日本盲人マラソン協会(東京)常務理事の原田清生さん(57)が務め「視覚障害のランナーは伴走者がいないと走れない。転倒などの事故に遭わないよう安全第一に信頼される伴走者になってほしい」と呼び掛けた。座学では、パラリンピックで選手と伴走者が同じ歩幅で走る映像などを紹介し「コースやレーンの視覚情報を的確に伝えることが重要」と説明した。

陸上トラックでの実技では、参加者はアイマスクや伴走のガイドロープを使って視覚障害者と伴走者の両方の立場を体験した後、西島さんや陸上クラブ「福井楽陣クラブ」の視覚障害者7人と伴走の練習をした。互いに声を掛け合い、コーナーの曲がり際やほかの走者との距離感などを伝えながら走った。西島さんは「多くの人が伴走に関心を持ってくれてうれしい」と話し、濱渕さんは「最初は恐る恐るでもだんだん慣れるので、ぜひ伴走の練習を続けてほしい」と呼び掛けた。

鯖江市の社会福祉法人光道園職員の木原翔太さん(24)＝越前町＝は「伴走は初めてで、歩幅を合わせるのが難しかった。『リラックスして走って』とアドバイスしてもらったので、施設の利用者と一緒に走れるようになりたい」と話していた。（石井敬夫）

H28 12/28 日刊

視覚障害者の伴走指導

福井で講習 リオ代表西島さんら

伴走実技で実際に伴走者とともに歩く西島美保子さん（右から3人目）＝福井市の県営陸上競技場で

二〇一八年の全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会）に向けて、しあわせ福井スポーツ協会は二十五日、視覚に障害のある人の陸上競技伴走者講習会を福井市福町の県営陸上競技場で開いた。

伴走者の育成を図るため、初めて開催し、市民約五十人が参加した。認定NPO法人日本盲人マラソン協会の原田清生常務理事が講師を務め、「視覚障がい者と伴走」とのテーマで実施。講義と実技で伴走についての心構えや注意点などを指導した。

講義では「ゴールでは必ず、伴走者より先に競技者がゴールしなければならない」「カーブなどは細かく声を掛けながら、知らせる必要がある」などとアドバイス。実技では、リオデジャネイロパラリンピック女子マラソンに出場した西島美保子さん（福井市）が実際に手本を見せながら競技場を走るなどして、伴走者の大切さを訴えていた。

（笠松俊秀）

～地域における障がい者スポーツの振興～

「障がい者スポーツ伴走講習会」参加者アンケート

本日は、「障がい者スポーツ陸上競技講習会」にご参加いただきありがとうございました。
今後の参考にしたいと思いますので、該当する番号に○をつけてください。

＜年齢＞ ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代

＜性別＞ ①男性 ②女性

Q1 あなたはこの「障がい者スポーツ伴走講習会」を何でお知りになりましたか。

① しあわせ福井スポーツ協会のホームページ
② 家族や友人から聞いた
③ 職場や所属のクラブ等
④ イベントや講習会等で配られたチラシ
⑤ その他（　　　　　　　　　　　　）

Q2 伴走講習会の内容は、満足いくものでしたか。

① とても満足
② まあまあ満足
③ あまり満足いかない
④ 満足いかない

理由があればお書きください（　　　　　　　　　　　　）

Q3 この講習会に参加して、今後も伴走に関わりたいと思いましたか。
※今後、伴走者として活動されたい方はお名前もお書きください。

① 関わりたい（名前：　　　　　　　　　　　　）
② 機会があれば関わりたい
③ 関われない

理由があればお書きください（　　　　　　　　　　　　）

Q4 講習会の感想やご意見などご自由にお書きください。

（　　　　　　　　　　　　）

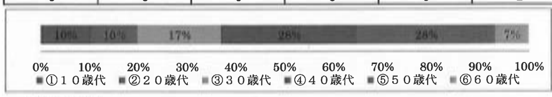
ご協力ありがとうございました。

「障がい者スポーツ陸上競技講習会」参加者アンケート 集計表

期日：平成28年12月25日（日） 会場：福井県営陸上競技場 回答者数：29名

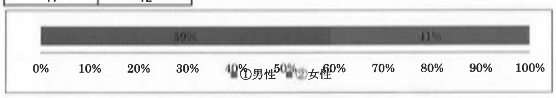
1 参加者の年齢

①10歳代	②20歳代	③30歳代	④40歳代	⑤50歳代	⑥60歳代
10%	10%	17%	28%	28%	7%
3	3	5	8	8	2



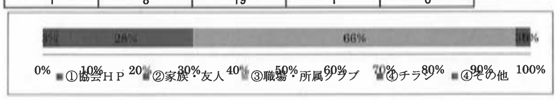
2 参加者の性別

①男性	②女性
59%	41%
17	12



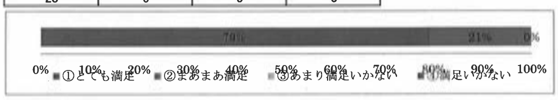
3 あなたはこの「障がい者スポーツ伴走講習会」を何でお知りになりましたか。

①協会HP	②家族・友人	③職場・所属クラブ	④チラシ	④その他
3%	28%	66%	3%	0%
1	8	19	1	0



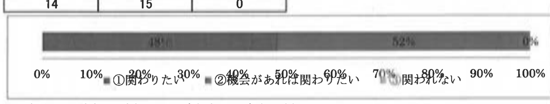
4 伴走講習会の内容は、満足いくものでしたか。

①とても満足	②まあまあ満足	③あまり満足いかない	④満足いかない
79%	21%	0%	0%
23	6	0	0



5 この講習会に参加して、今後も伴走に関わりたいと思いましたか。

①関わりたい	②機会があれば	③関われない
48%	52%	0%
14	15	0



6 講習会の感想やご意見などご自由にお書きください。

◇普段から職場で、視覚障がい者の方とかかわる機会が多いので、自分もアイマスクを付けてウォーキングやランニングをしてみて、改めて怖さを感じました。とても参考になり、これから気を付けていきたいと思いました。
◇今まで、ブラインドランナーのことをよく知りませんでしたが、この講習をとおして様々なことを知ることができたのでよかったです。
◇相手に合わせることがとても難しかったです。目から入る情報をすべて言葉で伝えることは大変です。
◇初めて参加したがとてもよかった。次回も開催されるのであれば是非参加したい。
◇細かい気遣いとかけひきがあり、とても奥深かったが、ペース走のいい練習にもなると感じました。
◇実際に伴走してみたくなる講習会でした。安全に伴走するには経験が必要だとも感じました。
◇とても勉強になりました。いつも伴走する相手が一人なので、他の視覚障がいの方と走ることができていい体験ができました。
◇講師の方からわかりやすく指導していただき、大いに参考になりました。リオの西島選手と走ることができてよかったです。
◇よい企画でした。天晴

長野県における障がい者のスポーツ活動環境強化支援事業

◆　障がい者スポーツ体験教室開催事業

◆　アスリートセミナー開催事業

公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

長野県における障がい者のスポーツ活動環境強化支援事業の実績報告書

1　はじめに

本県では、「県民一人一人が、年齢や性別、障害の有無等を問わず、関心や適性等に応じて日常的にスポーツに親しめる環境を整える」ことを基本理念とした「長野県スポーツ推進計画」を平成25年に策定し、障がい者のスポーツ活動を推進している。

これまで本県は、1998年の長野冬季パラリンピック大会や2005年のスペシャルオリンピックス冬季世界大会を開催した経験を有するが、近年は、運動・スポーツに親しむ障がい者や国際舞台等で活躍するアスリートが減少傾向にあるほか、県民の障がい者スポーツへの参加、協力、支援の輪も広がっていない現状にある。

こうした現状を改善していくため、県では、平成28年2月に、当協会はじめ障がい者スポーツ関係団体や福祉団体のほか、一般スポーツ関係団体、教育機関、市町村、学識経験者など多様なスポーツ支援団体等で構成する「長野県障がい者スポーツ推進会議」を設置し、各団体が有する機能や資源の結集と相互の連携協力による推進体制を整備した。

今後は、東京パラリンピックのムーブメントを活用して、障がい者が地域の身近な場所で参加できるスポーツ機会の拡大を図るため、地域の一般スポーツ団体の活動の中に障がい者の参加受入が進むよう取り組んでいく必要があるが、当協会はその牽引役としての役割が求められている。

2　事業の目的・ねらい

本県の障がい者スポーツ振興の課題である「すそ野の拡大」「競技力の向上」「県民の理解と応援の輪の拡大」を推進するためには、一般スポーツ界との連携による「地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境づくり」が不可欠であることから、①地域の一般スポーツ関係者に対する「長野県障がい者スポーツ推進会議」における議論の浸透と持続可能な関係づくり、②県民への障がい者スポーツの認知度の向上等を目的に、本事業を実施した。

（1）障がい者スポーツ体験教室開催事業

ア）スポーツ体験教室

スポーツに接する機会が少ない障がい者がスポーツの楽しさを体験し習慣化へつなぐ契機とするとともに、各地域で障がい者スポーツ指導員と一般スポーツ関係者との支援者ネットワークを構築し、地域における障がい者スポーツの普及振興と認知度の向上を図る。

イ）スポーツ喚起用ポスター等の制作

「スポーツ」の存在を障がい者の目に触れる場所へと届けるため、スポーツ参加を呼びかけるポスター及びチラシを制作し、県内のリハビリ系医療機関や学校等に広く配布することで、スポーツに親しむ障がい者の増加と障がい者スポーツの認知度の向上を図る。

ウ）スポーツ用具の購入

高額なスポーツ用具を購入整備し、障がいの有無に関わらず多くの者が体験利用することで、すそ野の拡大と障がい者スポーツへの理解の促進を図る。

（2）アスリートセミナー開催事業

競技性の高いステージを目指すアスリートの競技力向上を支援するため、県内の各分野の専門家の協力を得て、専門的知識習得のためのセミナーを開催する。

セミナーは広く公開し、県民の障がい者スポーツへの理解の促進を図る。

3　事業実施概要

（1）障がい者スポーツ体験教室開催事業

ア）スポーツ体験教室（県内 4 地区）

県内 4 地区の障がい者スポーツ指導員が中心となり、県レクリエーション協会等の一般スポーツ関係団体等と連携協力して、体験教室を開催した。

①中信地区

事　業　名	中信地区障がい者スポーツ体験教室　～エンジョイ　スポーツ～
日　　時	H28.10.30（日）　13:30～16:00
場　　所	松本市　松本大学　第 1 体育館
参　加　者	30 人（障がい者 18 人、家族等 12 人）
スタッフ	59 人（運営スタッフ 58 人、スポーツドクター1 人）
補　助　員	9 人（学生ボランティア）
主　　催	障がい者スポーツ指導者中信地区協議会
共　　催	中信レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会
協　力　・ 連携組織	障がい者スポーツ指導者中信地区協議会、中信レクリエーション協会、スポーツ推進委員（松本市、塩尻市、安曇野市）、松本大学、信州大学、車椅子バスケットボール協会、ボッチャ協会、県スポーツドクター協議会、中信地区特別支援学校長会
内　　容	・体験種目 （ボッチャ、スポーツ吹き矢、ディスゲッター、囲碁ボール、ラート、バブルボール、G ボール） ・車椅子バスケットボールの体験と交流試合 ・車椅子バスケットボールチームによるエキシビジョンゲーム

事業記録

②東信地区

事　業　名	楽しもう！“みんなのスポーツ”体験会
日　　時	H28.11.13（日）　9:30～12:00
場　　所	東御市　東御市立田中小学校体育館
参　加　者	87 人（障がい者 49 人、家族等 38 人）
ス タ ッ フ	46 人（運営ｽﾀｯﾌ 40 人、講師 1 人、ｽﾎﾟｰﾂﾄﾞｸﾀｰ 1 人、看護師 1 人、手話通訳 3 人）
補　助　員	ー
主　　催	県障がい者スポーツ指導者東信地区協議会
共　　催	「みんなの健康×スポーツ」実行委員会
協　力　・ 連 携 組 織	障がい者スポーツ指導者東信地区協議会、東信レクリエーション協会、スポーツ推進委員（佐久、上小）、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会東信地区、障がい者フライングディスク協会、ボッチャ協会、上田養護学校、小諸養護学校
内　　容	ボッチャ、フライングディスク、ダブルダッチ、ラダーゲッター

事業記録

③南信地区

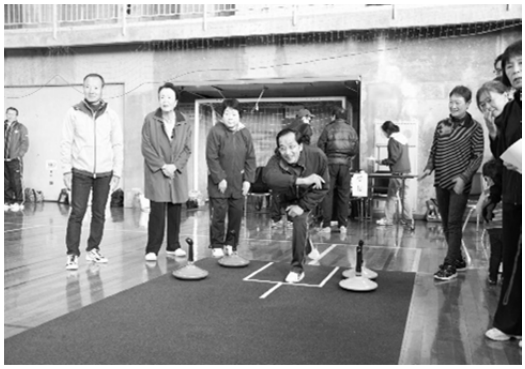
事　業　名	南信地区障がい者スポーツ体験教室　～エンジョイ　スポーツ～
日　　時	H28.11.26（土）　10:00～12:00
場　　所	上伊那郡宮田村　宮田村屋内運動場
参　加　者	45 人（障がい者 15 人、家族等 30 人）
ス タ ッ フ	22 人（運営スタッフ 21 人、看護師 1 人）
補　助　員	ー
主　　催	県障がい者スポーツ指導者南信地区協議会
共　　催	南信レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会
協　力　・ 連 携 組 織	障がい者スポーツ指導者南信地区協議会、南信レクリエーション協会
内　　容	フライングディスク、ボッチャ、ラダーゲッター

事業記録

④北信地区

事　業　名	北信地区障がい者スポーツ体験教室
日　　時	H28.11.26（土）　9:30～12:00
場　　所	長野市　長野運動公園総合運動場総合体育館
参　加　者	49 人（障がい者 21 人、家族等 28 人）
スタッフ	35 人（運営スタッフ 33 人、スポーツドクター1 人、手話通訳 1 人）
補　助　員	ー
主　　催	県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会
共　　催	北信レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会
協　力　・ 連携組織	県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会、北信レクリエーション協会、総合型地域スポーツクラブ、フライングディスク協会、ボッチャ協会、県スポーツドクター協議会、
内　　容	フライングディスク、ボッチャ、ティボール、ユニカール

事業記録



イ）スポーツ喚起用ポスター等の制作

障がい児者に向けたスポーツ喚起用のポスター及びチラシを制作し、県内のリハビリ系医療機関や学校等に広く配布した。

数　　量	ポスター　1,000 枚（B2 版） チラシ　 12,000 枚（A4 版）
配　布　先	リハビリ系医療機関 特別支援学校 福祉関係団体 市町村（福祉担当、教委担当）　等
協　力　・ 連 携 組 織	県スポーツドクター協議会、県障がい者スポーツ指導者協議会、障がい者スポーツ競技団体、関係大学教員、特別支援学校

ウ）スポーツ用具の購入

障がい者スポーツの利用体験用として、次のスポーツ用具を購入した。

・バスケットボール用車いす　2 台

・陸上競技用車いす　　1 台

（2）アスリートセミナー開催事業

国際大会など競技性の高い舞台での活躍を目指す本県の障がい者アスリート等を対象に、競技力向上に必要な専門的知識を習得するためのセミナーを開催した。

事　業　名	NAGANOアスリートセミナー2016
日　　時	H28.12.8（木）　14:00～17:00
場　　所	長野市　長野ホテル犀北館
参　加　者	70人 （選手及び障がい者スポーツ競技団体29人 障がい者スポーツ指導員11人 支援者等30人）
対　象　者	・国際大会など競技性の高い舞台での活躍を目指す障がい者アスリート等 ・選手の家族、指導者、支援者　等 ・障がい者スポーツの普及振興に関心のある方
内　　容	1. リオパラリンピック出場選手の凱旋報告会　《オリンピアンと対談》 2.「スポーツ障害予防とコンディショニング」《スポーツドクター協議会》 3.「うっかりドーピングを防ぐ」《薬剤師会》 4.「障がい者スポーツと栄養」　《公認スポーツ栄養士》
協力・連携組織	県体育協会、スポーツドクター協議会、県薬剤師会、県栄養士会、県障がい者スポーツ指導者協議会

事業記録

4　障がい者スポーツ指導者の活用・役割

本県の障がい者スポーツ指導者協議会は、県内4地区に地区協議会が設置されているが、これまで地区協議会が主体的に企画運営する活動はほとんどなかった。

今回の体験教室では、地区協議会が中心となって企画運営を担当し、地域の一般スポーツ団体との協力関係を築きながら事業を実施した。これにより、地域における障がい者スポーツ指導員の存在や役割について理解が進み、さらなる波及効果（資格希望者の増など）も期待できる。

5　連携について

（1）事業前の関係性

体験教室やアスリートセミナーで連携した一般スポーツ関係団体（レクリエーション協会、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、スポーツドクター協議会、薬剤師会、栄養士会など）とは、これまで当協会ではほとんど関わりがなかったが、今回の連携事業を通じて、将来につながる関係を築くことができた。

（2）実際の事業での役割分担

体験教室では、事前準備会への参加、用具の手配、スタッフ募集、当日のスポーツ指導・準備体操・受付等を担当したほか、参加者と一緒に障がい者スポーツ種目を体験していただいた。

セミナーでは、各専門講義の講師を担当していただいた。

（3）事業後の関係性の変化

体験教室開催後、一部の特別支援学校で初めてボッチャ教室が開催されたり、一部の総合型地域スポーツクラブではシッティングバレー教室が初めて行われたほか、一般スポーツ団体が主催するイベントに初めて障がい者スポーツ指導員が参加要請されるなど、徐々にではあるが確実に波及効果が表れている。

セミナーで講師を務めていただいた専門家についても、今回のセミナーを契機に、今後、選手や指導者の身近な相談相手として、協力支援いただける関係が構築できた。

6　スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

今回、バスケットボール用車いすと陸上競技用車いすという高額なスポーツ用具を購入することができたので、すそ野の拡大や障がい者スポーツの理解促進のため、障がいの有無に関わらず多くの者が利用体験できるよう、教室、アスリート講演会、一般スポーツイベントへの貸出展示など、様々な場面で活用していく。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

広い県土にあって、最も効果的な活用が期待できる機関等に管理を委託することとした。

バスケットボール用車いすは、当協会の副理事長が代表を務める車椅子バスケットボールチームに管理委託し、障がいのある子どもの体験利用、健常者車椅子バスケットボールチームとの合同練習、アスリート講演会等で活用していく。

陸上競技用車いすは、松本市の陸上競技場内に設置されている長野県体育センター（従来から用具の貸出事業を実施）に管理委託し、車椅子陸上選手の強化練習に参加する子どもや陸上競技場を利用する者の体験利用のほか、センターの主催スポーツイベント等で活用していく。

なお、貸出に関しては、各種会議や機関誌、HP等による貸出情報を広く発信していく。

7　事業の成果および評価（達成度）

スポーツ体験教室は、「地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境づくり」を進める上で、①地域の一般スポーツ関係者等の支援者相互の顔の見える関係づくり、②地域の一般スポーツ関係者による障がい者へのスポーツ指導体験、③障がい者スポーツ指導員の存在と役割の浸透など、予想を超える確実な一歩を踏み出せた。ご協力いただいた一般スポーツ団体の関係者からのアンケート結果も、次年度以降の継続開催を望む声が大半であった。

アスリートセミナーは、選手、指導者のみならず一般参加者からも高評価と今後の更なる充実を望む声が多数あった。今回講師を務めた一般スポーツの専門分野の専門家と今後につながる関係が構築できた。また、これまで支援が不足していた競技力向上の分野に関して、目に見える具体的な取組ができたことで、当協会への評価向上にもつながった。

8　事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

障がい者スポーツの普及振興には、「地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境づくり」が不可欠であるが、本年度の事業の実践を通じて、一定の手ごたえと課題が確認できた。

本年度は、県内 4 地区という大括りで実施したが、今後は障がい者にとってさらに身近な地域単位でのスポーツ環境づくりを推進する必要があることから、今回の参加者アンケートや別途開催する反省会の意見等を踏まえて、本事業の内容の充実を図りながら「共通の目標（教室等）と実践」を通じて、一般スポーツ関係者とのネットワーク構築等に努めていきたい。

《スポーツ体験教室》

・さらに身近な地域での実施、ネットワークづくり（4⇒ 10 地区程度）
・さらなる連携組織の掘り起しと拡大
・ポスターは、小中学校、障がい者多数雇用事業所等への拡大配布。

《アスリートセミナー》

・参加者の利便性向上と県民への情報発信の強化（1⇒ 2 か所、平日⇒休日等）
・さらに様々な分野の専門家と将来につながる関係づくり

9　おわりに

（1）所感

東京パラリンピックの開催を 4 年後に控え、この機に、障がい者が適性や目的等に応じて、地域の身近な場所でスポーツに親しめる環境を強力に推進していく必要があるが、なかなか掛け声だけでは進まない実態もある。こうした中、本事業により、障がい者スポーツ関係者と一般スポーツ関係者が「体験教室の開催」という共通目標をもって一緒に実践する場ができたことで、地域の支援者相互に顔の見える関係が築け、今後のネットワークづくりに価値ある一歩を踏み出すことができた。

また、本事業は、当協会のみならず障がい者スポーツ指導員の存在や役割について、広く理解される契機ともなった。

まだ当面は、本事業を活用した様々な仕掛けが必要であるが、将来的には、この事業の成果が各団体の主体的かつ持続的な活動へと結びつき、障がい者スポーツが地域に根差したものへとつながっていくよう努めていきたい。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

《体験教室関係》

・将来の各団体の主体的かつ持続的な活動につなげるための事業と位置付け、支援者ネットワークの構築を最大の目標とした。
・可能な範囲で地区ごとに一般スポーツ関係者を含めた準備会や反省会の開催を依頼。
・全ての地区で、参加者及び運営スタッフに対し統一様式によるアンケートを実施。
・全ての地区に、統一様式による事業成果や課題を整理した実施報告書の提出を求めた。
・4 地区のスポーツ指導者協議会役員と事業の評価検証のための反省会を開催予定。
・一般スポーツ団体に対して、事前の趣旨説明など丁寧な対応に心掛けた。
・多少の課題があっても、立ち止まらず「まずは実践すること」を前提とした。
・ポスター制作の過程では、写真提供など多くの団体に声をかけ、関係団体もともに障がい者へのスポーツ喚起を行う機運を図った。

《セミナー関係》

・将来的に選手や指導者の身近な相談相手となっていただれるよう、講師は県内の専門家にお願いした。
・選手や指導者等の関係者だけでなく、障がい理解の促進につなげるため、一般公開とした。
・旬の話題（リオパラ選手の出演）の取り上げ。
・同じアスリートとしてオリンピアンと対談を企画。

10　資料

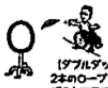
開催要項、参加申込書、チラシ、記録写真、新聞記事、アンケート結果など

[redacted]

と　き：平成28年11月13日（日）9:30~12:00
（受付 9:00~9:20）

ところ：東御市立田中小学校体育館
（〒389-0517 長野県東御市県71－2）

内容：①パラリンピック競技「ボッチャ」
②フライングディスク
③ダブルダッチ(2本のロープを使う大なわとび)



【ダブルダッチとは・・・】
2本のロープを使って跳ぶなわとび。3人以上で行ない、向かい合った2人の回し手が右手と左手のロープを内側に半周ずつずらして回す中を、跳び手が早く跳んだり、または色々な技を交えて跳ぶ、誰にでも手軽に楽しめるスポーツ。

【特別ゲスト】上原 大祐（うえはら だいすけ）さん
軽井沢町出身。2010年バンクーバーパラリンピックアイススレッジホッケー銀メダリスト。世界初のダブルダッチ車椅子プレイヤー。パラスポーツの普及活動や、障がいの有無に関わらず理解を深められる環境づくりの支援活動を展開。

対　象：障がいのある方とそのご家族
障がい者スポーツに興味のある方なら誰でも！

□参加費：無料　　□持ち物・服装：上履き・飲み物・動きやすい服装

申込締切 平成28年10月31日（月）
☆FAX・E-mailで申込の場合は、送信後、確認の電話を！

【主　催】東信地区障がい者スポーツ指導者協議会
【共　催】「みんなの健康×スポーツ」実行委員会(東御市)
【協　力】長野県障がい者フライングディスク協会　長野県ボッチャ協会　東信レクリエーション協会
上田養護学校　小諸養護学校　上田養護学校PTA　小諸養護学校PTA
【後　援】[illegible]スポーツ推進委員協議会　上小スポーツ推進委員協議会　長野県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会東信地区　[illegible]

参　加　申　込　書　　　　平成28年　月　日

ふりがな 参加者氏名	性別：男・女 年齢：　歳 <所属・園・学校名等：　　学年：　>
その他の 参加者氏名	※一緒に参加される方がいる場合、氏名・性別・年齢等、上記同様に記載してください。
住　所	〒　－ TEL(携帯可)：　　FAX：　　E-mail：
連絡事項	<障がいの有無、状況など>

[redacted]

中信地区障がい者スポーツ体験教室
～エンジョイ　スポーツ！～

参加者募集

日　時　平成28年10月30日（日）
13時30分から16時まで（受付開始13時15分）

場　所　松本大学　第1体育館
（松本市新村2095-1）

対象者
・中信地区に居住する身体･知的･精神に障がいのある方（児童生徒を含む）
・中信地区に居住し特別支援学級に在籍する児童生徒
・障がい者のスポーツ活動を支える方（家族、教員、施設職員等）

内　容　お楽しみスポーツ（スポーツ吹矢・囲碁ボールなど）の体験
パラリンピック種目の車いすバスケットボール・ボッチャも体験できます。

※参加される方は、運動のできる服装、体育館シューズ、飲み物を各自持参してください。
※1時間での参加も可能です。

主　催　長野県障がい者スポーツ指導者中信地区協議会
共　催　中信レクリエーション協会、一般財団法人長野県障がい者スポーツ協会

※お申込みは、下記申込先まで郵送、Mailにて申込書を提出いただくか、電話にてご連絡ください。
（締め切り：平成28年10月14日）

【申込先】
長野県障がい者スポーツ指導者中信地区協議会　事務局　堀内雅文
〒399-7101　安曇野市明科東川手648－2－201号
電話　090-7018-6459　　0263-62-3590
Mail　ms.horiuchi@city.azumino.nagano.jp

切り取り線

中信地区障がい者スポーツ体験教室参加申込書

平成28年　月　日

		年齢	性別	障がいの有無
ふりがな 氏　名		歳	男・女	有（　　） 無
住　所	〒	電話 FAX		

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等本教室運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

家族や支援者の方で参加を希望される方は下記にご記入ください。（保険加入のため）

保護者 支援者	ふりがな 氏　名		住所		性別	男・女	年齢	歳

参加者募集

南信地区障がい者スポーツ体験教室
～エンジョイ　スポーツ！～

日　時　平成28年11月26日（土）
10時00分から12時まで（受付開始9時30分）

場　所　宮田村屋内運動場
（上伊那郡宮田村６８８４）

対象者
・南信地区に居住する身体･知的･精神に障がいのある方
・南信地区に居住し特別支援学校・特別支援学級等に在籍する児童生徒
・障がい者のスポーツ活動を支える方（家族、教員、施設職員等）

内　容　お楽しみスポーツ（フライングディスク・ボッチャ・ラダーゲッター）の体験

※参加される方は、運動のできる服装、シューズ、飲み物を各自持参してください。

主　催　長野県障がい者スポーツ指導者南信地区協議会
共　催　南信レクリエーション協会、一般財団法人長野県障がい者スポーツ協会

※お申込みは、下記申込先まで郵送、Mailにて申込書を提出いただくか、電話にてご連絡ください。
（締め切り：平成28年11月18日）

【申込先】
長野県障がい者スポーツ指導者南信地区協議会　事務局　高久　義行
〒399-4301　上伊那郡宮田村３６７８－１
電話　090-4230-2839　FAX　0265-85-5363
Mail：nfd_takaku@yahoo.co.jp

切り取り線

南信地区障がい者スポーツ体験教室参加申込書

平成28年　月　日

		年齢	性別	障がいの有無
ふりがな 氏　名		歳	男・女	有（　　） 無
住　所	〒	電話 FAX		

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等本教室運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

家族や支援者の方で参加を希望される方は下記にご記入ください。（保険加入のため）

保護者 支援者	ふりがな 氏　名		住所		性別	男・女	年齢	歳

北信地区　楽しくスポーツを体験しませんか!!　**参加者募集**

障がい者スポーツ体験教室

内容
●どか点ゲーム
（ティーボール）
●ユニカール
●ボッチャ
●フライングディスク
※参加される方は、運動のできる服装・体育館シューズ・飲み物を各自持参してください。

平成28年11月26日（土）
9時30分～12時（受付開始9時10分から）
長野運動公園総合運動場総合体育館
サブアリーナ（補助体育館）
長野市吉田5-1-19

対象者
・北信地区（長野市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村及び栄村）に居住する身体、知的及び精神に障がいのある方
・障がいのある方のスポーツ活動を支える方（家族、教員、施設職員等）

主　催　長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会
共　催　長野県北信地区レクリエーション協会
一般財団法人長野県障がい者スポーツ協会

申込書はFAXまたは郵送、電子メールにて、下記申込先まで、お申込みください。
締切　平成28年11月12日

〒380-0803　長野市三輪9-2-18　北村方
長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会事務局　北村　淳子
TEL　090-3213-4264　026-241-7278
FAX　026-241-7278　　電子メール hokushin@hotmail.co.jp

キリトリ線

北信地区障がい者スポーツ体験教室参加申込書

平成28年　月　日申込		年　齢	性　別	障がいの有無
ふりがな 氏　名		歳	男・女	有（　　） 無
住　所	〒　－	電話 FAX 電子メール		

家族や支援者の方で参加を希望される方は、保険加入のため下記にご記入ください。

保護者・支援者 ふりがな 氏名	住　所	性　別	年　齢
		男・女	歳

□特に配慮してほしい事項があればご記入ください。（手話通訳の手配など）

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等本教室運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

NAGANO障がい者アスリートセミナー2016

目　的　国際大会など競技性の高い舞台での活躍を目指す本県の障がい者アスリートやその家族、指導者等を対象に、コンディショニング、ドーピング防止、スポーツ栄養等の専門的知識を習得するためのセミナーを開催し、本県の障がい者スポーツの競技力向上と普及振興を図る。

日　時　平成28年12月8日（木）
14時から17時まで（受付開始13時30分）

場　所　長野ホテル犀北館　「2階グランドボールルーム」
（長野市県町５２８－１）

対象者
- 国際大会など競技性の高い舞台での活躍を目指す現役の障がい者アスリート、将来的に競技性の高いレベルを目指す児童生徒　等
- 選手の家族、指導者、支援者　等
- 障がい者スポーツの普及振興に関心のある方

内　容
リオパラリンピック凱旋報告会
出演者：リオパラリンピックに出場 樋口政幸選手
聞き手：吉井小百合さん（トリノ・バンクーバーオリンピック日本代表）

セミナーⅠ「スポーツ障害予防とコンディショニング」
講　師：長野県日体協公認スポーツドクター協議会　加藤光朗 理事

セミナーⅡ「うっかりドーピングを防ぐ」
講　師：一般社団法人長野県薬剤師会　長谷部優 副会長

セミナーⅢ「障がい者スポーツと栄養」
講　師：株式会社やまびこスケートの森　藤森陽子 公認スポーツ栄養士

主　催　公益財団法人 長野県障がい者スポーツ協会

後　援　長野県、長野県教育委員会、公益財団法人長野県体育協会、長野県日体協公認スポーツドクター協議会、一般社団法人長野県薬剤師会、公益社団法人長野県栄養士会、株式会社やまびこスケートの森、長野県障がい者福祉センター、長野県障がい者スポーツ指導者協議会

公益財団法人　長野県障がい者スポーツ協会　事務局 半田直道
〒381-0008　長野市大字下駒沢５８６
ＴＥＬ　026-295-3661　　ＦＡＸ　026-295-3662
E-mail　nsad@nifty.com

「NAGANO障がい者アスリートセミナー2016」開催要項

1　目　的

国際大会など競技性の高い舞台での活躍を目指す本県の障がい者アスリートやその家族、指導者等を対象に、コンディショニング、ドーピング防止、スポーツ栄養等の専門的知識を習得するためのセミナーを開催し、本県の障がい者スポーツの競技力向上と普及振興を図る。

2　主　催

一般財団法人長野県障がい者スポーツ協会

3　後　援

長野県、長野県教育委員会、公益財団法人長野県体育協会、長野県日本体協公認スポーツドクター協議会、一般社団法人長野県薬剤師会、公益社団法人長野県栄養士会、株式会社やまびこスケートの森、長野県障がい福祉センター、長野県障がい者スポーツ指導者協議会

4　開催日時

平成28年12月8日（木）　午後2時から午後5時まで

5　場　所

長野市県町528-1　「長野ホテル犀北館　2階グランドボールルーム」
（電話　026-235-3333　　FAX　026-235-3365）

6　参加対象

（1）国際大会など競技性の高い舞台での活躍を目指す現役の障がい者アスリート、将来的に競技性の高いレベルを目指す児童生徒　等
（2）選手の家族、指導者、支援者　等
（3）障がい者スポーツの普及振興に関心のある方

7　日　程（予定）

13:30～14:00　受　付
14:00～14:05　開　会
14:05～14:50　リオパラリンピック凱旋報告会
　出演者：リオパラリンピックに出場した本県関係選手
　聞き手：吉井小百合さん（トリノ・バンクーバーオリンピック日本代表）
15:00～15:45　セミナーⅠ「スポーツ障害の予防とコンディショニング」
　講　師：長野県日本体協公認スポーツドクター協議会　加藤光朗　理事
16:00～16:30　セミナーⅡ「うっかりドーピングを防ぐ」
　講　師：一般社団法人長野県薬剤師会　長谷部優副会長
16:30～17:00　セミナーⅢ「障がい者スポーツと栄養」
　講　師：株式会社やまびこスケートの森　藤森陽子公認スポーツ栄養士

8　参加料

無　料

9　定　員

100名程度

10　申込方法

別添の申込書に必要事項を記入の上、郵送、ＦＡＸ、E-mailで11月28日（月）までにお申し込みください。

11　申込み・問合せ先

一般財団法人長野県障がい者スポーツ協会（担当：事務局長　半田直道）
〒381-0008　長野市大字下駒沢586　サンアップル内
電話　026-295-3661　ＦＡＸ　026-295-3662
E-mail　nsad@nifty.com

パラ種目「ボッチャ」など 障害者競技に挑戦
北信教室

ユニカールを楽しむ参加者

北信地方の障害者やボランティアなどが参加する「北信地区障がい者スポーツ体験教室」が11月26日、長野運動公園総合体育館サブアリーナで開かれた。パラリンピックの正式種目「ボッチャ」など障害の有無にかかわらず楽しめるスポーツ4種目に挑戦した。

競技は他に、カーリングと同じルールでマットの上でプラスチック製のストーンを滑らせる「ユニカール」、プラス

信州新町の小林祐一さん（43）は、高校時代の部活動で左半身不随になったという。「スポーツするのは楽しい。フライングディスクでは、見込みがあると褒められた」と喜んでいた。

体験教室は、県障がい者スポーツ協会が障害者の運動習慣づくりと、障害者スポーツの振興に向けて健常者のスポーツ指導員との協力関係を構築する目的で、県内4カ所で初めて企画。この日は北信、南信地区で行い、北信地区は同協会下部組織の「県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会」が主催した。

平成28年12月1日(木)
長野市民新聞

H28.11.27 長野日報上伊那版

スポ3競技で 障害者ら親睦
宮田で体験教室

県障がい者スポーツ指導者南信地区協議会（伊藤栄隆会長）は26日、「南信地区障がい者スポーツ体験教室」を宮田村屋内運動場で開いた。南信地域の障害者をはじめ、障害者スポーツの競技団体などから約40人が参加。フライングディスクなど3競技6種目を楽しんで、親睦を深めた。

障害者にスポーツに親しんでもらうとともに、障害者スポーツに携わる各団体のネットワークづくりの場にしようと、県内4地域ごとに初めて実施。フライングディスク、ラダーゲッター、ボッチャの3競技に取り組んだ。

障害者と健常者が一緒になり、ルールを教わりながら各競技を体験。ボッチャでは、赤と青のボールを投げたり転がし、目標球の白いボールにいかに近付けるかを競い合った。フライングディスクでは、円盤状のディスクがゴールに当たったり通過するたびに拍手が沸き上がった。

同南信地区協議会事務局の高久義行さんは「身近なスポーツを一緒に楽しむことで障害者への理解が深まり、障害者の社会参加が促進できれば」と話していた。（宮沢知史）

↑フライングディスクを楽しむ参加者

「NAGANOアスリートセミナー2016」アンケート結果

平成28年12月8日(木)14:00～
長野ホテル犀北館

1　あなたの年齢

①　20歳未満　②　20代　③　30代　④　40代　⑤　50代　⑥　60歳以上
（4名）　（7名）　（8名）　（9名）　計28名

2　障がい者スポーツに関わるあなたの立場はどれか

①　選手　②　指導者　③　支援者　④　その他（福祉、医療関係等）
（4名）　（10名）　（12名）　（4名）　計30名

3　アスリートセミナーの内容について

1）リオパラリンピック気旋報告会について

・オリンピアンの吉井さんが、同じトップアスリートの目線で、分りやすく引き出してくれて興味深い話を聞くことができて良かった。
・東京に向けても頑張ってほしいし、一人でも多くの人に知ってもらえる機会が増えるとよいと感じた。
・マラソンからトラック競技へ変わる時の心境等非常に感銘を受けました。本人の分りやすい説明、吉井さんの誘導等良かった。東京パラリンピック頑張ってほしい。
・障がい者になってからの自分の考え方が非常に感動させられました。
・アスリート同士の話はお互いに同調し合う。面白い。
・パラリンピック選手のお話を間近で聞ける機会は少ないのでとても良かったです。車いす競技の詳しいことやパラリンピックについてご本人の気持ちも含めてお聞き出来て参考になりました。
・現在のアスリートより貴重な体験話を聞かせていただきよかったです。
・日本と外国の実力を減らす努力をして次の大会へ向けて頑張って下さい。
・受傷してから早い競技への切り換えされ事はとても感動した。更なるご活躍をご祈念いたします。
・とても良かった。
・樋口さんのおはなしが興味深かったとともに、吉井さんの話も聞けてよかったです。
・生で樋口選手のお話を聞くことが出来て感動しました。樋口選手、吉井さんのオリ・パラを目指すキッカケ、競技との出会いの話では、改めて健常者も障がい者も関係ないんだなと思いました。出会った後それに打ち込めるかどうかですね。
・花々しい舞台の裏側を聞かせて頂き参考になりました。
・競技出場での移動の大変さ大会への準備。ポジション取り、タイミングの難しさともう少しの「力」持久力が必要！世界のこの位置にいられることは大変な事です。次の目標に向かって下さい。
・4年毎のオリンピック、パラリンピックに標準を合わせるのはとても大変な事なのだなと思いました。
・もっと色々と聞きたかった。良い内容でした。
・現役で活躍している選手の生の声を聞いて勇気づけられ励みになりました。聞き手の吉井さん自身の体験も折り混ぜての対談もとても良かったです。
・両選手の興味深い対談でした。
・お二人の4年に1年にかける想い、大舞台での実体験など聞いていてとてもワクワクした時間でした。
・普段お話が聞けない方のお話が聞けてとても良かった。
・東京オリンピックに向けて前向きなお話が聞けて良かった。

・時間が少し短い？
・時間が短かった。質問時間がもっと欲しかった。
・生の声にはやはり刺激をうけます。もっと若い人たちに聞いてほしい内容。

2）スポーツ障害予防とコンディショニングについて

・アイスレッジホッケー岡谷市のやまびこ競技場で、キッズの皆様と交流してくださった。アスリートの皆様大会出場資格に向け頑張って居られました。今日の講演の中で良い成果を語られた様に受け取りました。頑張りましょう。
・アイススレッジホッケーを初めて見ることが出来て具体的で分かりやすかったです。障がいを持っている方の予防とコンディショニングは特別に考えがちですが基本的には一般のアスリートと同じで評価をしっかりしていくことがよくわかりました。
・「評価」の大切さを教えていただきました。
・サポートとして効果的なトレーニングの必要性を学んだ。
・ためになった。
・専門的すぎてついていけない部分もありましたが良かったです。
・スポーツ障害のメカニズム(考え方)が分かりました。競技で各部位が適正に働くようにトレーニングを行っていくことが大切ですが、トレーニングを行っている人は筋トレマシンで大きな筋肉をつけることに意識が向きがちと感じます。可動域や小筋群にも目が向かうよう情報提供していきたいと思いました。
・障がい者にもとても必要な事です。これからも学んでアスリートに生かしていきたいと思います。
・アイスレジホッケー勝つフィジカルの強さ日本人にあったスピード小技と個々の能力up
・メディカルチェック、スポーツドクター等について勉強になりました。
・関節に Mobility と Stability があることが参考になりました。アイスレッジホッケー競技の強化の為メディカルな面からのコンディショニングをすすめていることが理解出来ました。
・直接関わっている方の話で難しいけれど学びになりました。
・私自身もあまり良く理解できていなかった障害特有の身体障害(機能)、Mobility&Stability という一ワードも非常に勉強になりました。
・予防することはとても大切なんだと改めて思った。
・分かりやすいお話で良かった。
・障がい者を知る(体幹も含めて)そして競技性を知っての指導・トレーニング・理解。これからはトップアスリート選出するには総合チーム力が必要、よってバックアップが必要。
・専門用語が多く理解しにくかった。
・一つの競技に特化した話ではなく、全体的な話を聞きたい。
・スポーツのみでなく毎年内容をかえてほしい。
・コンディショニングの方法をもう少し説明してほしかった。
・ナショナルチームなどは評価を受けたりサポートしてもらえると思うがそこまでのレベルに達していない者たちの予防とコンディショニングについて教えてほしかった。
・メンタルトレーニング、コンディショニング、もっと詳しく聞きたかった。
・アイススレッジホッケーは下肢障害とはいっても切断とかの非常に状態のよい当事者のスポーツだということを知った。全く参考にならない。体幹があまり使えない人はどうしたらよいのか。機能のない人に対しての話をした方がよい。体幹マヒしている人の体幹の鍛え方ってあるのですか？

3）うっかりドーピングを防ぐについて

・より詳しく教えてもらい分りやすかった。

・とても良かった。分りやすい。
・参考になりました。
・責任はアスリート自身だが周りのフォローも必要だと感じました。
・サプリメントや食事にも注意が必要だとわかりました。
・資料ありがとうございました。
・ドーピングに関しては自分で知っている事であった。
・常に新しい情報を確認しておく必要性を感じた。
・アスリートである事の自覚を常に持つ事の大切さに気づかされた。
・役に立った。
・そのような事が良くわかる先生方と良く相談したい。
・漢方薬がダメという事を知りませんでした。コーチとして気を付けていきます。
・健康食品、サプリメント使用も注意ドーピングは自分の責任。
・大会参加選手への差し入れ等も気を付けなければいけないなと感じました。(サプリメント・健康増進ドリンク等)
・アスリート自身やコーチが常にドーピングについて気を付けて意識していなければならない事を理解しました。
・アスリート等の厳しさを実感(怖さも)選手記録にますます尊敬します。
・何度も受けているので良い復習になりました。
・指導者としてとても参考になった。
・分かりやすかった。
・ＴＵＥのことを知れて良かった。
・おおまか理解
・時間が少なく内容が多い為難しい。
・普段の活動には縁遠い話でピンときませんが大切な事だとは思います。
・県内にドーピングについて相談できる方、窓口があることがわかり良かったです。障がい者は薬を飲み続けて生活や活動ができている人もいると思いますがＴＵＥ検査で不可となった時薬を変えなければならなくなり調整してもその薬と同等の効果が得られず生活、活動が維持できなければ選手として競技会に出ることは諦めなければならないのでしょうか・・・。

4）障害者スポーツと栄養について

・基礎でわかりやすかった。具体的には例ももっと聞いてみたいです。
・栄養はバランス良く摂る事が大事だとわかりました。
・具体的で良かった
・スポーツと栄養の関係にもっと関心をもっていきたい。
・グリコーゲンの補、わかり易かった。量より質を考えたい。
・常に栄養を考えて摂取する。
・参考になった。
・障がい者スポーツ栄養はまだまだ発展途上ですが、障がい者アスリート栄養指導研究が進み、障がい者全ての人の食生活のあり方にフィードバックされると良いと思いました。
・普段からの食事が大切だと良く分かった。つけやきばではダメ。
・スポーツ栄養奥が深いですね。コーチをする上でとても重要だと思います。連携を深めてアスリートを指導していきます。
・炭水化物は早めに摂っておく事が体をつくる。

・参考になりました。
・普段あまり食事について考えていなかったので参考になりました。
・学びの多い内容、私はベジタリアン30年
・栄養士というイメージが覆されました。
・とても参考になった。
・筋グリコーゲンの回復の話が興味深かった。
・大切な側面が分かった。大切な部分だと再認識。
・障害者への取り組みは健常者とは違うところがあるので難しく感じた。
・面白かったです。もっと詳しい話を聞きたいと思いました。
・もっと詳しい話が聞きたい。
・早く障がい者アスリートのデータをとってほしい。

4　アスリートセミナーで取り上げてほしいテーマ

・詳しい栄養学。
・いろいろな障がいスポーツの様子や現状を見たいです。
・スポーツ栄養学がもっと知りたいです。
・アスリートの実際のフォローの仕方を各方面で教えてほしい。
・障がい児童に対応しどうケガの予防、いかにながくアスリートでいられるには。
・トレーニングの現状を詳しく知らせてほしい。
・選手達が取り組んでいる内容や現場での悩み、生の声を聞きたい。
・障がい者スポーツと体力つくり。
・障がい者でもできるスポーツ種目と体験できる会場等紹介してほしい
・障がい者アスリートをいかに支援するか障がい者アスリートとサポーターの連携について
・トップアスリートの実体験・選手団の交流の場を設けてほしいです。
・会社員アスリートが仕事と両立させる秘訣。
・筋トレやコンディショニングについて詳しい話を聞きたい。
・県のアスリート(競技別)の活躍状況、組織、人口等。
・選手発掘、競技普及のためのイベントをして下さい。

5　その他、ご意見・ご要望等

・とてもためになりました。ありがとうございました。
・次年度もこのセミナーに参加したいです。
・識ることの大切さを学び考え生活に生かしたい。
・とても有意義な時間でした。また機会があれば参加したいです。
・次回も楽しみにしています。
・駐車場をきちんと用意してほしい。
・今回は時間が少なく内容が多々に渡っていたのでもっと詳しく学びが出来る会を用意してほしい。
・パラリンピックのオリンピア(アスリート)の方を多く出席していただき話をしてもらう。
・もっとこれから障がい者スポーツに取り組んでみたいという希望を持った若い人、初心者が知りたい内容にした方が良いと思う。会場ももっとバリアフリーの所がよい。曜日も土日の方が集まりやすいのでは？

静岡県における障がい者スポーツの地域連携普及促進事業

◆チャレンジスポーツ教室開催事業

◆スポーツフォーラム開催事業

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会

静岡県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

スポーツ環境の特色

「静岡県スポーツ推進計画」において、スポーツは、人格の形成、体力の向上、健康長寿の礎であるとともに、地域の活性化など、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成する上で欠かすことのできないものであり、生涯にわたってスポーツに親しむことができる地域社会をつくることは大きな意義を有するとし、基本理念である「『ふじのくに』生涯スポーツ社会の実現」のための基本目標のひとつである「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」として、県民誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しむことができる環境の整備を目指し、障がいのある人とない人が共にスポーツができる機会の提供や、障がい者スポーツ指導員の養成と育成に努めるとしている。

実情と課題

障がいのある方の重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーション（人との交流）をしたくても、受入可能な場所が無い、場所はあるが遠くて（ひとりで）行くことが出来ない等の現状を改善するため、県内各地域の公認指導者と地域との連携により、障がい者スポーツの普及が進んでいない地域を重点的にスポーツのできる環境を整えること。

②事業の目的・ねらい

25 年度より継続して地域と連携したスポーツ教室を開催してきたことにより、普及啓発の効果は見えてきており、各市町福祉担当課・生涯スポーツ担当課・医療関係団体との連携も深まった。しかし、教室開催にあたっては県全域に大きく開催してしまったことにより、地域に根付かせることができなかったと思われる。今年度は、障がい者スポーツ環境のないところを特に重点的に、参加を待つのではなく、まず、より狭い範囲の地域に出向き、重度障がい者への対応含め、障がい者スポーツ環境の地域格差をなくしていきたい。

地域の指導員の掘り起こしをしながら、初めてスポーツをする障がいのある方へ参加を促し、生涯スポーツとして継続・発展させたい。

③事業実施概要

（1） チャレンジスポーツ教室開催事業

①スポーツ巡回指導（6 月～1 月　計 77 回）

各市町障害者福祉担当課、生涯スポーツ担当課、県内特別支援学校、特別支援学級のある小中学校、障害者各団体、支援団体との連携を図り、障がい者スポーツ環境の少ない地区を中心に、県内各所へチラシを配布しスポーツ指導希望先を募集。教室開催会場、参加者の障がいの状況や日常のスポーツ活動状況を電話にて相談し、派遣指導員を決定。派遣指導員はプログラムを作成し、指導員同士で事前に打ち合わせ。教室開催終了後、指導員は報告書を提出。アンケートを実施。

開催				内容	参加人数						
回数	開催日	開催会場	市町		指導員	身体	知的	精神	職員	その他	合計
1	6月2日	藤枝市立高洲小学校	藤枝市	フライングディスク	2		17		4		23
2	6月3日	静岡市立西奈小学校	静岡市	エアボール、ティーボール	2		5	4	2		13
3	6月7日	ラポールファーム	静岡市	フライングディスク、順送球	3		21		7		31
4	6月10日	静岡市立美和中学校	静岡市	フライングディスク	2		4		2		8
5	6月10日	特定非営利活動法人笑美会	富士市	フロートR、ボッチャ	2	1	18		8		29
6	6月11日	リカバリー静波	牧之原市	フライングディスク、ボッチャ、バルーン	1	1	6		3		11
7	6月11日	プラサーザ大泉	沼津市	ボッチャ、フライングディスク	2	12	8		7		29
8	6月14日	ラポールたけみ	静岡市	バルーン、フライングディスク、ボッチャ	3		21		7		31
9	6月15日	たちばな授産所	浜松市	フロートR、フライングディスク、ペタボードなど	3	1	42		10		56
10	6月21日	北部すみれの家	藤枝市	バルバレー、フライングディスク、バルーンなど	3		26		7		36
11	6月22日	静岡市清水なぎさホーム	静岡市	フロートR、ボウリング、ボッチャ	2	15	9		10		36
12	6月24日	富士市立田子浦中学校	富士市	バルバレー、フライングディスク、ティーボール	2		6		1		9
13	6月28日	テラス・きらっと	静岡市	フライングディスク、ボッチャ、ボウリング	3	6	18	8			35
14	6月23日	静岡県聴覚障害者協会	静岡市	フライングディスク	2	28					30
15	6月29日	掛川工房つつじ	掛川市	エアボール、フライングディスク、ボッチャ	2	1	25	6			34
16	6月30日	心象めぐみ会共同作業所	熱海市	フライングディスク	1		2	4	1	3	11
17	7月1日	磐田市立磐田中部小学校	磐田市	エアボール、フライングディスク、ボッチャ			11	13	3		27
18	7月5日	浜松市立芳川小学校	浜松市	ボッチャ、ペタボード、フライングディスク	2		21		5		28
19	7月6日	浜松市立北星中学校	浜松市	フライングディスク、ペタボード	3		32		8		43
20	7月7日	みどりの丘えまつ	川根本町	エアボール、フライングディスク、ボッチャなど	3		29	7			39
21	7月9日	ワークスとおがさ	沼津市	フライングディスク、ボッチャ、バルバレー	3	23			4		30
22	7月13日	アミ・ス　オーブ	静岡市	フロートR、ボッチャ	3		11		5		19
23	7月14日	きぼうの里	富士市	バルーン、フロートR、ボッチャ	3		45		10		58
24	7月19日	袋井特別支援学校磐田見付分校	磐田市	バルバレー、フライングディスク	2		17		5		24
25	7月23日	裾野市障がい福祉課	裾野市	フライングディスク、ペタボード、バルーンなど	5	14	13	4		9	45
26	7月30日	浜松特別支援学校	浜松市	フライングディスク、ペタボード、ボッチャなど	2		30		2	10	44
27	7月31日	伊東の丘いずみ	伊東市	ペタボード、ボッチャ、バルバレーなど	2	21			2		25
28	8月1日	konoki	静岡市	バルバレー、フライングディスク、ボッチャ	1	2	8		3		14
29	8月5日	放課後支援事業所あげは	静岡市	フライングディスク、ティーボール、バルーン	3		25		12		40
30	8月8日	放課後等デイサービス有永寮	静岡市	フライングディスク、ボッチャ	1		12		6		19
31	8月8日	放課後支援事業所第3あげは	静岡市	フライングディスク、ティーボール、ボッチャ	2		28		10		40
32	8月10日	放課後支援事業所第2あげは	静岡市	エアボール、フライングディスク、ボッチャ	2		16		8		26
33	8月18日	あいあい学園	掛川市	ボッチャ、フライングディスク	2	2	19		8		31
34	8月19日	静岡市立賤機中学校	静岡市	フライングディスク	1		4		2		7

開催				内容	参加人数						
回数	開催日	開催会場	市町		指導員	身体	知的	精神	職員	その他	合計
35	8月19日	おれんじ坂口	牧之原市	フロートR、フライングディスク	1		10		4		15
36	8月20日	フェスタシズウェル	静岡市	フライングディスク、ボッチャ	9	50	50				109
37	8月22日	かげんどら	静岡市	フライングディスク、ボッチャ	2	2	13		8		25
38	8月23日	浜名特別支援学校	湖西市	フライングディスク	1		16		4		21
39	8月24日	放課後デイ大沢町ルーム	静岡市	エアボール、フライングディスク、ボッチャ	1	5	5		4		15
40	8月25日	おれんじ柳町	島田市	フライングディスク、ボッチャ	2	1	11		4		18
41	8月27日	テラス・ひだまり	静岡市	フライングディスク、ボッチャ、バルーン	1		12		3		16
42	8月30日	医療法人好生会さわや家	掛川市	フライングディスク、ボッチャ	1			13	3		17
43	9月17日	ワークセンターコスモス	島田市	バルバレー、フライングディスク、ボッチャ	2		23		5		30
44	9月20日	静岡市立葵小学校	静岡市	フライングディスク	2		32		4		38
45	9月21日	静岡県立静岡聴覚特別支援学校	静岡市	ボッチャ	1	4			3		8
46	9月24日	三島市手をつなぐ育成会	三島市	フライングディスク、ボッチャ	2		20			20	42
47	10月5日	テラス・あとりえ	静岡市	バルバレー、フライングディスク、ボッチャ	2		12	2	4		20
48	10月8日	三ケ日たちばな授産所	浜松市	バルバレー、フライングディスク、ボッチャ	2		9		2		13
49	10月11日	富士市立くすの木学園	富士市	バルバレー、フライングディスク、ボッチャ	3		37		10		50
50	10月13日	下田アイフレンズ	下田市	ティーボール、ラジオ体操、バルバレー	1	11				12	24
51	10月27日	浜松市立新津小学校	浜松市	フライングディスク	2		16		4		22
52	10月27日	浜松特別支援学校磐田分校	磐田市	ボッチャ、フライングディスク	1		13		4		18
53	10月28日	ゆいまある	静岡市	フライングディスク、ボッチャ	2		18		10		30
54	10月31日	大井川寮	焼津市	フライングディスク	2		25		6		33
55	11月2日	心身障がい者施設ともの家	静岡市	ボッチャ、フライングディスク	2	3	9		6		20
56	11月7日	静岡市立西豊田小学校	静岡市	フライングディスク	2		14	17	6		39
57	11月7日	ワークセンターやまばと	牧之原市	バルバレー、フライングディスク、ボッチャ	2	1	17		6		26
58	11月11日	つくしホーム	牧之原市	ボウリング、ボッチャ、バルバレー	2	11	11	17	11		52
59	11月16日	静岡市清水ひびきワーク	静岡市	フライングディスク、ボッチャ	2	24			10		36
60	11月18日	しずおか健康長寿財団	静岡市	ボッチャ	4					73	77
61	11月19日	きらり藤枝校	藤枝市	ペタボード、ボッチャ、バルーンなど	2	1	12	3	3		21
62	11月25日	磐田市立磐田南小学校	磐田市	フライングディスク	1		10	4	4		19
63	11月30日	浜松市立可美小学校	浜松市	フライングディスク	2		12		3		17
64	12月8日	磐田市立福田小学校	磐田市	ペタボード、ボッチャ	2	1	20		6		29
65	12月10日	磐田市役所発達支援室	磐田市	フライングディスク、ボッチャ、ボウリングなど	2		12		4	13	31
66	12月11日	スポーツ＆健康フェスタinふじえだ	藤枝市	フライングディスク、ボッチャ、車いす体験	8					2,000	2008
67	12月14日	富士市立吉原小学校	富士市	フライングディスク	2		13	10	7		32
68	12月15日	伊東市立東小学校	伊東市	ボッチャ	2		10		2		14
69	12月15日	相良地区特別支援学級交流会	牧之原市	フライングディスク、ティーボール	2		22		7		31
70	12月23日	引佐草の根作業所	浜松市	ボッチャ、フライングディスク	2	2	12	4	8		28
71	12月26日	放課後等デイサービスkonoki登呂	静岡市	エアボール、フライングディスク、ボッチャ	1		9		4		14
72	1月12日	富士市立田子浦小学校	富士市	バルバレー、ボッチャ、ティーボールなど	1		13		3		17
73	1月12日	沼津特別支援学校	沼津市	フライングディスク	5	1	70		30		106
74	1月20日	四季の郷	浜松市	バルバレー、ボッチャ	2		18		3		23
75	1月21日	ニット工房ライク	静岡市	フライングディスク、ボッチャ、ボウリング	1		14		2	3	20
76	1月22日	チャレンジスポーツin三島	三島市	車椅子バスケットボール、ボッチャ、ペタボードなど	9					85	94
77	1月31日	ＮＰＯ静岡県作業所連合会・わ	静岡市	フライングディスク、ボッチャ、ペタボード	4	20	80	20	30		154
計					177	264	1249	136	399	2,228	4453

②第２回静岡障がい者サッカーフェスティバル

日　　時	平成 29 年１月７日（土）、８日（日）　９：30～16：00
場　　所	清水ﾅｼｮﾅﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ、IAI ｽﾀｼﾞｱﾑ日本平、 静岡市立清水庵原中学校（静岡市清水区）
参 加 者	知的・精神・身体（ｱﾝﾌﾟﾃｨｰ、ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ、ﾃﾞﾌ、電動車椅子）計 800 名
ス タ ッ フ	実行委員会（ｻｯｶｰ競技役員・審判員・PT・看護師・指導員・協会職員） 計 80 名
補 助 員	東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部女子サッカー部、静岡市立清水庵原中学校サッカー部、静岡市立清水第一中学校サッカー部　　計 60 名
協　　力	清水ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ・清水ﾅｼｮﾅﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ・静岡県理学療法士会　他
連携組織	NPO 法人静岡 FID サッカー連盟、一般財団法人静岡県サッカー協会、NPO 法人清水サッカー協会、しずおか精神障害者スポーツ推進協議会、静岡県電動車椅子サッカー協会　他
事業内容	大会（知的小学生の部１チーム・知的中学生の部３チーム・知的一般エンジョイの部 10 チーム・知的一般スタンダードの部９チーム・知的静岡県代表×横浜Ｆマリノスフトゥーロ・電動車椅子の部・アンプティーの部・ソーシャルフットボールの部・ブラインドサッカーの部） 体験会（ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｻｯｶｰ教室・ｱﾝﾌﾟﾃｨｰｻｯｶｰ教室・ﾃﾞﾌｻｯｶｰ教室・混合） 研修会（サッカー会議）

●静岡障がい者サッカーフェスティバルスケジュール

1月7日(土)

カテゴリー	時　間	場　所
知的一般エンジョイ、スタンダード	9:30~15:15	東西ピッチ
知的中学生（8人制）	9:30~14:00	清水庵原中学校 決勝、準決のみ西ピッチ
知的小学生	14:00~15:00	西ピッチ
ブラインドサッカー教室	9:00~10:30	体育館
アンプティサッカー教室	12:30~15:00	フットサル場2面
電動車椅子サッカー大会	10:30~15:00	体育館
知的障がい者サッカーを語ろう!（関係者対象）	18:30~20:00	会議室

1月8日(日)

カテゴリー	時　間	場　所
知的県代表 vs 横浜マリノスフトゥーロ	11:00~14:30	IAIスタジアム
ごちゃ混ぜサッカー（試合）※	10:30~11:30	東ピッチ
アンプティサッカー東西対抗	9:30~10:30	西ピッチ
ソーシャルフットボール	10:00~14:00	体育館
ごちゃ混ぜサッカー（体験会）※	10:00~12:00	フットサル場

※ごちゃ混ぜサッカー（試合）：電動車椅子、知的障害の方とシニア、女子が混じって試合を行ないます。
ごちゃ混ぜサッカー（体験会）：ジェスチャーゲーム、ブラインド、アンプティ等のサッカーを体験します。

●障がい者サッカーについて知ろう!

日本知的障がい者サッカー連盟JFFID	http://jffid.com/
日本電動車椅子サッカー協会JPFA	http://www.web-jpfa.jp/
日本脳性麻痺7人制サッカー協会JCPFA	http://jcpfa.jp/
日本ろう者サッカー協会JDFA	http://jdfa.jp/
日本ブラインドサッカー協会JBFA	http://www.b-soccer.jp/
日本アンプティサッカー協会JAFA	http://j-afa.com/wp/
日本ソーシャルフットボール協会JSFA	http://jsfa-official.jp/

●出場・教室参加のお問い合わせ

第2回静岡障がい者サッカーフェスティバル実行委員会

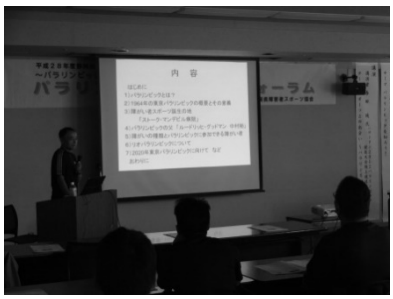
※担当事務局　公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会
〒420-0856　静岡県静岡市葵区駿府町1-70　静岡県総合社会福祉会館内

電話 / 054(221)0062　FAX / 054(651)2600
E-mail / s-spokyo@za.tnc.ne.jp

（2） スポーツフォーラム開催事業

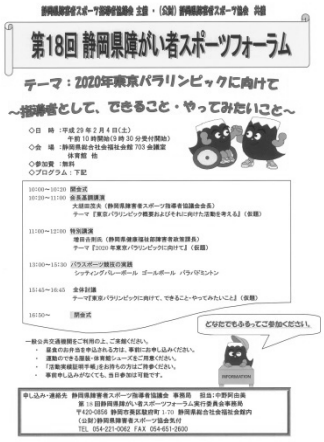
①パラリンピック競技体験フォーラム

日　　時	平成 28 年 7 月 24 日（日）10：00～16：00
場　　所	もくせい会館（静岡市葵区）
参 加 者	計 55 名
スタッフ	講師 2 名、競技指導 11 名、指導員 6 名（協会職員含）　計 19 名
協　　力	YONEX、静岡県車椅子バスケットボールクラブ　他
連携組織	静岡県健康福祉部障害者政策課　他
事業内容	講演、パラスポーツ体験会（ﾊﾟﾗﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ・車椅子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ）



②静岡県障がい者スポーツフォーラム

日　　時	平成 29 年 2 月 4 日（土）10：00～17：00
場　　所	静岡県総合社会福祉会館（静岡市葵区）
参 加 者	計 82 名
スタッフ	講師 2 名、競技指導 4 名、実行委員（協議会指導員 17 名、精神スポーツ関係団体 1 名、協会職員 4 名）　計 28 名
協　　力	静岡県健康福祉部障害者政策課、しずおか精神障害者スポーツ推進協議会他
事業内容	講演、競技実践（シッティングバレーボール・ゴールボール・パラバドミントン）、グループ検討、全体討議



④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

各市町より、市内の障がい者スポーツ指導員の情報がほしいとの声が増えてきた。これは、地域のメンバーだけでスポーツイベントを企画開催したいという動きが大きくなっていることからであり、各地域でのスポーツ環境構築への兆しである。当県においても、活動できる指導員の固定化は通年の課題であり、各種派遣事業や研修会において、経験の多い指導員が各地域で核となり指導員を育成していかなくてはならない。

障がい者スポーツ指導員の今後の役割は、地域の障がいのある方のスポーツに関する状況を継続的に観察し、その地域の障がいのある方がスポーツをしたいときにいつでもできる環境づくりのため、行政や地域スポーツ関連団体、福祉団体との連携をコーディネイトしていくことも必要と感じている。

⑤連携について

各市町ごとで、障がいのある方へのスポーツに関して、福祉担当課・生涯スポーツ担当課・スポーツ推進委員・総合型スポーツクラブ・体育協会等主体となるところに違いはあるが、オリパラの影響もあり障がい者スポーツへの取組は急速に進んで来ている。

当県は、理学療法士の関わりもさらに大きくなってきており、医学的サポート体制強化で安全なスポーツ環境の確保ができるようになってきた。

今後も、障がい者スポーツセンターの無い当県においては、障がい者スポーツの問い合わせは当協会に集中することから、各市町ともさらに連携を図り、障がいのある方に新鮮な情報提供を続けていきたい。

⑥スポーツ用具について

各所での教室や体験会開催にあたり、いろんな用具が綺麗に整備されていることは、参加者の気持ちにも働きかけ、やる気も高まる。そして、各関係団体が用具の使い方を体験し、その用具があれば継続的にスポーツできると思うことは、今後の展開に向けて大きな役割を持つ。

借用希望のあった施設や学校へ貸し出しができるよう、貸出簿を整備し、保管についても定期的に確認をしていきたい。

⑦事業の成果および評価（達成度）

継続実施と新聞等への掲載の効果で、当協会の事業についての周知が広がり、スポーツをしたことの無い方の申し込みも増えてきた。また、指導員養成講習会への参加や問い合わせも、さらに増えてきている。

県教育委員会の各市町担当者会議や、県スポーツ推進委員連絡協議会、総合型スポーツクラブ連絡協議会でも、障がい者スポーツへの取組についてが検討事項に入っていることが多くなった。

各市町内の団体連携の必要性も感じているところであるが、事務局として事業を実施することを優先してしまい、事業についての事前事後検討ができていないため、計画の変更が多かった。マニュアル化できるところとそうでないところを明確にし、協議会や指導員のみなさんと連携しながら実施していくべきだと反省している。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

オリパラの影響で障がい者スポーツも競技思考で捉えている部分も多いが、地域での教室開催や研修会・講習会を続けて、県内の障がい者スポーツの地域格差を減らして行きたい。

将来を考え、障がい者スポーツ指導員を増やしていくためには、各障がい者スポーツイベントに小学生・中学生からボランティアなどで参加してもらうことが大切だと改めて感じた。

今回開催できなかったが、活動していない指導員の掘り起こしと活動への自信、活動が集中している指導員の負担軽減のためにも、指導者の育成講習や現任研修などが年間数回は不可欠であり、計画をより高く達成させるためには、事務局体制の強化も必要である。

⑨おわりに

（1）所感

障がい者スポーツにおける県内の地域格差を縮小するために実施したチャレンジスポーツ教室開催事業、県内の障がい者スポーツへの理解促進につなげるためのスポーツフォーラム開催事業を実施したことにより、来るべき 2020 東京パラリンピックに向けて県民の関心も高まってきているものと感じている。

こうした取り組みを続けていくことが、障がい者スポーツの振興・発展につながるものであり、東京大会の終了後も障がい者スポーツが地域においてもしっかりとした位置を築いて行けるものと感じている。

（2）特記事項

各組織との連携については、行政、健常者スポーツ団体との関係が深まった。

また、各職種としての関係は、障害者スポーツ指導者協議会と障害者スポーツ協会は両輪のような関係になりつつあり、加えて、各理学療法士会やスポーツ推進委員と具体的に協力関係ができるようになってきており、回を重ねるごとに新たな取り組みが可能と考える。

（3）事業を継続実施した成果および変化

これらの事業を行ったことにより、障がい者スポーツ用具の貸し出し希望が増加したり、障がい者スポーツクラブに入りたい、障がい者スポーツのイベントを知りたいなど問い合わせが実際に増えている。

また、フォーラムでは、まだなじみが少ないパラ競技であるゴールボールやシッティングバレーなどの体験を取り入れところ、好評であり、今後、参加した指導員が地域に持ち帰って展開することで、新たなスポーツの振興が期待できる。

このような事業を継続し、地域でスポーツをおこなう障がいのある人に様々な場を提供することで、障がいのある人の健康・福祉の増進が図られていくものと考える。

兵庫県における障がい者スポーツ振興事業

◆障がい者スポーツ実施者の拡大

障がいのない方も参加できる障がい者のスポーツ・レクリエーション教室の開催

◇フライングディスク教室

◇ローンボウルズ教室

◆障害への理解

障がい者スポーツフェスティバルの開催

◇パラ・スポーツ応援隊　in　宝塚　夢プロジェクト 2017

◆障がい者スポーツ支援者の拡大

障がい者スポーツ普及啓発講演会の開催

◇11 月 1 日：加古川市立野口南小学校

◇11 月 18 日：県立氷上高等学校

公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

兵庫県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

兵庫県では、平成 24 年 12 月に「兵庫県スポーツ推進計画」を策定し、重点目標に「障害のある人のスポーツ参加者の増加」を掲げ、スポーツ推進審議会には障がい者スポーツ指導者が参画し、県立特別支援学校などを障がい者スポーツ拠点として整備（施設整備・用具の充実）・活用するなど、新たな事業も展開している。

また、障がい者スポーツ推進の基盤となる競技団体（連盟・協会）31 組織が設立されており、兵庫県障害者スポーツ協会からの事業助成を受けて活動を展開しているほか、兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会や全国車いすマラソン大会の開催などにより、障がい者の積極的な社会参加の促進等に取り組んでいる。

しかし兵庫県は南北に長く、瀬戸内と日本海にまたがる地理的条件があり、障がい者スポーツ普及の状況についても地域格差は否めない。各地域によって、スポーツ環境や障がい者スポーツ関連の事業数、市町のスポーツ推進委員との関係、公認障がい者スポーツ指導者の活動や地域総合型スポーツクラブの状況等、さまざまな条件に大きな差がある。

身近な地域で障がい者がスポーツに参加できる社会を、各地域において実現するためには、それぞれの地域において、ひょうご障害者指導者協議会員等が中心となり、障がい者スポーツ競技団体や地域のスポーツ推進組織、また地域住民・団体等との協働により障がい者スポーツの普及に取り組んでいくことが必要である。

そのため、兵庫県障害者スポーツ協会から各団体・機関との連携により、障がい者スポーツ普及のための事業を実践し、多くの参加者（教室・スポーツ体験参加者、講演聴衆）を得るとともに、障がい者スポーツ指導者の活用推進、地域スポーツ関係者の理解、教育関係者への呼びかけを行い、企画運営に携わる各団体・機関の連携を進めることで、今後の障害者スポーツの各地域における普及の足がかりをつくることを目的とする。

②事業の目的・ねらい

①障がい者スポーツ実施者の拡大

：障がい者スポーツ・レクリエーション教室の地域での企画開催

②障がいへの理解

：障がい者スポーツを見る・学ぶ・体験する事業（講演・写真展・体験プログラム）

③障がい者スポーツ支援者の拡大

：障がい者スポーツ指導者・一般指導者・教育関係者等の参加促進（教室の指導と補助、スポーツイベントのスタッフ参加、障がい者スポーツ体験参加等）

③事業実施概要

（1）◆障がいのない方も参加できる障がい者のスポーツ・レクリエーション教室の開催

事　業　名	フライングディスク教室
日　　時	第1回　平成28年10月9日（土）10時から12時 第2回　平成28年11月18日（金）19時から21時
場　　所	第1回　兵庫県立障害者スポーツ交流館（兵庫県神戸市西区曙町1070） 第2回　西宮市立中央体育館　　（兵庫県西宮市河原町1―16）
参　加　者	延104人（障害者　16、一般　88） 第1回　参加34人（障害者11、一般23） 第2回　参加70人（障害者5　一般65）
スタッフ	延べ26名　講師：12名（兵庫障害者フライングディスク協会)、 スポーツ施設職員9名　兵庫県障害者スポーツ協会職員5名
補　助　員	延べ12名 障がい者スポーツ指導員8名（初級5　中級3）　スポーツ推進委員4名
協　　力	兵庫障害者フライングディスク協会
連携組織	兵庫県立障害者スポーツ交流館、西宮市立中央体育館、西宮市スポーツクラブ21 西宮市スポーツ推進委員会、ひょうご障害者スポーツ指導者協議会
事業内容	○フライングディスクの概要説明（用具管理と基礎知識） ○ディスクの握り方、投球方法の実際 ○アキュラシー（5・7m)、ディスタンスの実技と障害に応じた工夫 ○審判法と安全管理、ゲーム運営と記録の実際 ○簡易ゲームの体験 ○地域におけるフライングディスク普及の方策について

対面パスで目標修正

安全管理の大切さを学ぶ

普及用の新たなディスク

投球技術の演習

上級者の模範試技

個別指導と意見交換

事 業 名	ローンボウルズ教室
日　　時	第 1 回　平成 28 年 10 月 13 日（土）13 時から 15 時 第 2 回　平成 28 年 10 月 14 日（金）10 時から 12 時
場　　所	第 1 回　西はりまﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ（兵庫県たつの市誉田町福田 780-3） 第 2 回　兵庫県立出石特別支援学校（兵庫県豊岡市宮内 2-8）
参 加 者	延 74 人（障害者　54、一般　20） 第 1 回　34 人（障害者 29、一般 5）第 2 回　40 人（障害者 25　一般 15）
スタッフ	延 18 人　兵庫県障害者ローンボウルズ連盟 6 人　障がい者スポーツ指導員 10 人（初級 9　上級 1）　施設職員 5 名　兵庫県障害者スポーツ協会職員 2 名
補 助 員	延 22 人　西はりまリハビリテーションセンター職員 7 人、特別支援学校 15 人
協　　力	兵庫県障害者ローンボウルズ連盟
連携組織	ひょうご障害者スポーツ指導者協議会　西はりまリハビリテーションセンター 障がい者スポーツネットひょうご、出石特別支援学校、豊岡市教育委員会
事業内容	○ローンボウルズ用具の搬入 ○ローンボウルズの概要説明 ○ボールの握り方、投球の基本練習 ○簡易ゲームの体験

ボールの握り方と投球指導

インドア用ボールと一般ボール

障害特性に応じた投球の工夫

高齢者の体力にも適度な運動

（2）◆障がい者スポーツフェスティバルの開催

事 業 名	パラスポーツ応援隊　in　宝塚　夢プロジェクト 2017
日　　時	平成 29 年 1 月 14 日（土）10 時から 15 時
場　　所	宝塚市立スポーツセンター（宝塚市小浜 1-1-11）
参 加 者	145 人（障害者　30、一般　115）
スタッフ	123 人　兵庫県障害者スポーツ協会職員 6 人　宝塚市障害者スポーツ協会 5 人　宝塚市職員 5 人　各競技団体 74 人（8 名はボランティア参加／旅費・謝金なし）　手話通訳など 10 人　障害者スポーツ指導員 25 人(初級 19　中級 3　上級 3)(4 名はボランティア参加)
補 助 員	宝塚市スポーツ推進委員 17 人
協　　力	兵庫県障害者ローンボウルズ連盟　兵庫県吹き矢協会　兵庫県障害者ふうせんバレー連盟　兵庫県ブラインドサッカー協会　NPO 法人兵庫県障害者タンデムサイクリング協会　兵庫県車椅子バスケットボール連盟　ウィルチェアーラグビーHEAT　日本障がい者乗馬協会　神戸市障害者射撃協会、兵庫県ボッチャ協会、大阪アタッカーズ、障がい者スポーツネット、兵庫県立障害者スポーツ交流館、神戸市障害者スポーツ振興センター
連携組織	ひょうご障害者スポーツ指導者協議会　宝塚市
事業内容	○広報（新聞、宝塚市市報、FM ラジオたからづか、ケーブルテレビ J・COM） ○パラスポーツ体験ラリー（ｼｯﾃｨﾝｸﾞﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、ローンボウルズ、ウィルチェアーラグビー、ブラインドサッカー、車椅子バスケットボール、タンデム自転車、車椅子レーサー、ボッチャ、吹矢、射撃（ビームライフル）、乗馬（ポニー）、ふうせんバレー　計 12 競技 ※各種競技体験して缶バッジ提供 ○パラリンピック写真展

スタッフ参集

ローンボウルズ体験

吹矢体験

射撃（ビームライフル）体験

タンデム自転車体験

乗馬（ポニー）体験

（3）**◆障がい者スポーツ普及啓発講演会の開催**

事 業 名	障がい者スポーツ普及啓発講演会
日　　時	第 1 回　平成 28 年 11 月　1 日（火）10：30～12：00 第 2 回　平成 28 年 11 月 18 日（金）13：20～15：05
場　　所	第 1 回　加古川市立野口南小学校（加古川市野口町古大内 245-3） 第 2 回　兵庫県立氷上高等学校（丹波市春日町黒井 77）
参 加 者	計 625 人　第 1 回　130 人（小学生 125　職員 5） 第 2 回　495 人（生徒 448　一般（地域住民）32　職員 15）
スタッフ	計 27 人　講師：2 人　兵庫県障害者スポーツ協会職員 3 人　教職員及び教育委員会職員 22 人（加古川市野口南小学校　5 人、氷上高等学校 17 人）
補 助 員	ひょうご障害者スポーツ指導者協議会 6 名（初級 6 名）
協　　力	加古川市立野口南小学校、県立氷上高等学校
連携組織	加古川市教育委員会、兵庫県教育委員会、ひょうご障害者スポーツ指導者協議会
事業内容	○講演 1　枝川哲也氏（車椅子陸上競技、身体障害者野球選手） 障害、社会環境、障がい者スポーツをキーワードに講演、車椅子レーサーの実演と体験プログラム（全員体験）、車椅子使用してのキャッチボール交流、自家用車への移乗実演と運転装置の紹介（グループ分けて全員）、質疑応答など ○講演 2　加藤作子氏（シドニーパラリンピック水泳メダリスト） 障害、ユニバーサル社会、パラリンピックへの挑戦などをキーワードに講演と質疑応答。講演にメディアが取材報道したビデオを教材に障害者の生活やパラリンピックの理解、自身の活動を紹介する。講師の檀上移動に生徒たちの介助体験を組込み、障害への理解を高める。講演後に質疑応答 ○会場となる学校内で 1 週間前からパラリンピック写真展を実施する。

枝川さんの講演

車椅子レーサー体験

自家用車への移乗と運転装置

パラリンピック写真（事前展示）

加藤さんの講演

パラリンピック金メダルを全員が触れる

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

本県における障がい者スポーツの普及は、瀬戸内側（神戸・阪神地域他）と日本海側（但馬・丹波地域）と広域であることから、その地域格差は否めない現状がある。その対応に「ひょうご障害者スポーツ指導者協議会」では、会員の連携と活動充実を目的に「地域委員会」を設けている。しかし、地域の福祉行政、スポーツ振興課（スポーツ推進委員含む)、地域スポーツクラブ、スポーツ施設等との有機的な関係化は十分ではなく、その対応に兵庫県障害者スポーツ協会が関与し、その活用を促進することで、役割が明確となり、「協働」が生まれることを目標にした。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

各種事業に係る障害者スポーツ団体（協会・連盟)、障がい者スポーツ指導者は、活動量も少なく、個人的な活動に終始していた。また、企画、実施に係る参加促進への広報においても経費、行動力も脆弱であり、その解決策に見出せない現状であった。

（2）実際の事業での役割分担

スポーツ教室、障がい者スポーツフェスティバル、講演会の企画・実施には、福祉施設、特別支援学校、公共スポーツ施設に所属する障がい者スポーツ指導員（以下「指導員」と言う）やボランティアで活動する指導員が関わった。

関係する行政、学校、福祉施設、関係団体に連絡調整し、数度の打合せを重ねて事業開催に至った。

これまでの当日に支援するだけの役割からコーディネイト、ネットワークづくりにも関わった成果は大きい。

（3）事業後の関係性の変化

今回の事業実施から個人の活動域の拡大、チームとしてできる可能性、福祉施設との関係性、福祉領域から一般スポーツ支援者（スポーツ推進委員など）との繋がりなどが創出できた。これからの地域における障がい者スポーツ推進への課題解決に複数の関係団体が関われることを確信した。

（4）その他

障がい者スポーツ推進事業を職業とする指導員や施設職員の実施には、効率性と経済性が優先してしまうことが常である。しかし、指導員が競技団体等と連携し、役割分担することでこれまでにはない「連携」が創出された。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

① フライングディスク用具

老若男女、障がいの種別・程度に関係なくだれでも親しめるフライングディスクだが、講習会、地域行事では多くのディスクが調達できず不便であった。今回の用具が整備され本事業が円滑に取り組めた。

② ローンボウルズ用具

ローンボウルズについても、年齢、性別、障がいの有無・種別に関係なく同じルールで競い合うことができるスポーツだが、屋外コートはわずかしかなく、また季節や天候に左右される。

屋内環境としても、マットの所有施設は、兵庫県下では県立障害者スポーツ交流館のみであり、普及が困難であった。

今回は、通常サイズに加え、普通ワゴン車への搭載が可能なショートサイズも購入したことで、少人数のスタッフ、比較的わずかな費用での運搬、体験会実施等、今後の各地域での普及啓発の可能性が広がった。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

購入した用具は（公財）兵庫県障害者スポーツ協会が管理し、自主事業（普及啓発事業）に活用するとともに、ひょうご障害者指導者協議会及び今回の連携協力機関・団体・施設等が各地域において連携しながら実施する障害者スポーツの普及啓発・体験事業等への活用を促し、各地域における障害者スポーツの普及振興のための一助とする。

⑦事業の成果および評価（達成度）

「フライングディスク教室」と「ローンボウルズ教室」では、今回のショートマットの購入の成果もあり、用具の運搬、設置も容易となり、また障がいのある方・ない方両者が障害者スポーツに親しむ姿が注目され、地域、施設等によっては用具の整備を検討したいとのコメントや、公認審判員資格取得の問い合わせなどもあった。

障がい者の高齢化、重度化、障害の変容にも対応できるスポーツとして期待でき、福祉関係者のみならず一般スポーツ関係者にも周知されたことが大きい。

「障がい者スポーツフェスティバル」事業では、宝塚市スポーツ振興課との協働で企画、準備し、実行委員・運営スタッフには障がい者スポーツ指導者と地元障がい者スポーツクラブが参画、当日の企画運営には 11 種の障がい者スポーツ団体（連盟・協会等）が協働できたことが大きな成果である。

また、当日の運営には、スポーツ推進委員が協力し、事前の周知、当日は地元ラジオ（FM 宝塚）の放送、後日にはケーブルテレビによる報道があり、障がい者スポーツの啓発に大きな効果が期待できる。ひょうご障害者スポーツ指導者協議会では阪神支部が中心となってとりくみ、地域の連携化が図られた。

「障がい者スポーツの普及啓発講演会」では、県教育委員会、市町教育委員会との連携で準備し、障がい者選手の経験談、障がい者スポーツ実演と体験などで、選手との交流により、スポーツや障がいのある生活等について学ぶ機会を、今後の社会を担う児童生徒はじめ地域住民や教育関係者（教員、教育委員会職員）などに提供できた。

小学校では講演とともにレーサー試乗を 4 年生全員が体験。障がい及び障がい者スポーツへの理解を育むとともに、「障がい者スポーツの楽しさ」を心に刻むこととなった。

バレーボールの全国強豪校である氷上高等学校では、全校生徒及び地域の方々（学校が父兄及び地域全体に広報）及び教員を対象に、障がいのある中での競技への取組み、パラリンピックを

目指す夢や努力の講演に対し、多くの共感が得られ、障がい者スポーツへの親和が図られた。

障害者スポーツの講演の多くは、競技や取り組む状況が語られることが多いが、今回は生活での話題も組み込み、その理解度は増したことと思う。非日常的な話から日常的な講演内容が聴講した側には好評であった。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

本事業の実施にあたり、「事業提案はあっても予算なくして実行できない」という従来の課題から扉が開けたことから、まずは「行動」を起こす契機になったことが大きな成果である。そして、指導者の活動を創出し、関連機関、競技団体、学校等との関係を構築しながら必然と「連携」が生まれ、今後の明るい見通しと取り組んだ事実が継続していく見込みである。

事業（1）⇒フライングディスクは、手軽に参加できるスポーツとして参加者、支援する側が予備知識や経験がなくても取り組める特性がある。その手軽さゆえにディスクの飛ぶ方向やリリースには、事故の情報もあることから安全管理への学習、認識が確認された。ローンボウルズは静かな知的スポーツともいわれるほど調整力と冷静な判断が求められ、ユニバーサルスポーツとして普及の可能性を見出した。

事業（2）⇒スポーツフェスティバルの実施には、宝塚市スポーツ振興課と宝塚市障害者スポーツ協会が協働し、広報に積極的に取り組まれた。また、3年後には障害者スポーツ優先施設整備が予定され市民と行政の関係化が生まれている。指導者間の共通意識が芽生え、事業の企画、準備と運営を通じたチームでの取り組み体験が重要であり、継続性へ連動すると確信した。

事業（3）⇒講演会は、障害を理解する・障害者スポーツを知る機会にはなるが、継続した記憶や次への行動に結びつけることは難しい。よって、意図的な啓発プログラムを企画し継続することが必須であり、パラアスリートバンクや活動の推進体制を整備することが施策と考える。

⑨おわりに

（1）所感

地域における障がい者スポーツの推進には、「ひと・もの・かね」が必要と言われるが、今回の事業には、「ひと」の指導者、行政、施設、学校等の関係化が生まれ、「もの」の用具の整備により簡便に実施でき、「かね」である予算が執行されたことで安全で安心した事業に取り組めた。

障がい者スポーツの文部科学省への移管、スポーツ庁の設置などの動向に関し、指導者やスポーツ行政関係者は実感を覚えず月日が経過していたが、当事業の実施がその「体感」となった。

今回は微力であったが、スポーツ振興に対してひとつの指針を示し、それに対して各機関が連携し対応した結果の事業の実施であった。

しかし今回の事業でも、情報の周知については課題が明示され、参加者の拡大には一層の関連組織との連携による多種多様な情報発信が必須と考える。

近年の地域の過疎化、障害者の高齢化、健康の状況などに鑑みたスポーツ振興に取り組まなければならない。

このたびの事業参加には、重度障害者、精神障害者や内部障害者の参加は少ないことも気がかりであり「誰もが参加できるスポーツ」への取組みを目指していきたい。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど、

・スポーツ教室の選定には、用具が不十分で普及し難い種目とした。
（今後の普及啓発の出発点として）
・スポーツ教室実施団体とは、役割分担を調整した。（用具の搬入搬出）
・市町教育委員会に情報配信し、希望する地域、施設、学校等が選択できるプログラムとした。
・フェスティバル事業では、より多くのスタッフ動員を目標に関係機関に働きかけた。
・兵庫県内で協力困難な種目には、近畿県域にも協力要請した。
・バリアフリーな施設においても排泄に関係する環境を意識して準備対応した。
・参加が記憶から消えぬよう「缶バッジ」を作成した。
・周知方法にケーブルテレビ取材、FM ラジオ放送の実況放送などを取り入れた。
・フライングディスクには、オリジナルディスクを製作し啓発効果を高めた。
・ローンボウルズは、サイズ・軽量化による運搬容易なショートマットを整備した。
・指導者の活用は地域性を意識し、今後に向けての連携づくりに務めた。
・講演講師には、特徴ある（車椅子での野球投手、60 歳の競泳パラスイマー）を選んだ。

⑩資料

チラシ

パラ・スポーツ応援隊 In 宝塚 夢プロジェクト 2017

1/14（土）

宝塚市立スポーツセンター
総合体育館　宝塚市小浜１-１−11

体験型

誰でも参加！無料申込不要運動できる服装と室内シューズ持参

	アリーナ				サブアリーナ
10：00 ▼ 12：00	①ブラインドサッカー ②ウィルチェアーラグビー	③ふうせんバレー	④タンデム自転車	⑤ローンボウルズ	⑥ボッチャ ⑦吹き矢 ⑧車いすレーサーハンドバイク
12：10	デモンストレーション「ウィルチェアーラグビーゲーム」				パラ写真展
13：00 ▼ 15：00	⑩シッティングバレーボール		⑪車いすバスケットボール		⑥ボッチャ ⑦吹き矢 ⑨射撃
	ロビー		⑫乗馬（ポニー）※ロビー		

≪会場≫

★阪神バス　小浜 下車徒歩５分（始発 JR 宝塚駅前）
★阪急バス　スポーツセンター前下車すぐ（始発 阪急逆瀬川駅前）
★中国自動車道宝塚 IC より約８００m

問合せ（公財）兵庫県障害者スポーツ協会　☎078-362-3280
宝塚市教育委員会スポーツ振興課　☎0797-77-9117

主催　（公財）兵庫県障害者スポーツ協会　宝塚市　宝塚市教育委員会　宝塚市障害者スポーツ協会
後援　宝塚市障害者（児）団体連絡協議会　総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ福祉のまちづくり研究所　ひょうご障害者スポーツ指導者協議会　障害者スポーツネットひょうご
協力　宝塚市体育協会　宝塚市スポーツ少年団　宝塚市スポーツ推進委員会　（公財）宝塚市スポーツ振興公社　宝塚医療生活協同組合　兵庫県ボッチャ協会　（一社）日本障がい者乗馬協会　神戸市障害者射撃協会　兵庫県障害者ふうせんﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ連盟　兵庫県車椅子バスケットボール連盟　大阪アタッカーズ　兵庫県障害者吹矢協会　兵庫県障害者ローンﾎﾞｳﾙｽﾞ連盟　NPO 法人兵庫県障害者タンデムｻｲｸﾘﾝｸﾞ協会　兵庫県ブラインドｻｯｶｰ協会　ウィルチェーアラグビーHEAT

鳥取県障がい者スポーツ振興事業

◆障がい者スポーツ競技体験教室

◆障がい者スポーツ指導法講習会

◆精神障がい者フットサル体験会及び交流試合

一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会

鳥取県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

1　はじめに

鳥取県スポーツ推進計画の目指す姿は、「すべての県民が豊かなスポーツ文化を享受できる鳥取県」である。知事をリーダーとして 10 名で構成する鳥取県スポーツ戦略会議に、県体育協会とともに、本協会から会長が加わっている。また、県スポーツ課が主催するスポーツ審議会の委員 15 名の中に障がい者スポーツ分野で本協会会長はじめ 3 名の委員が出席し積極的に発言し、様々な年代の人々が年齢や性別、障がい等を問わず、関心、適正等に応じてスポーツに参画できる環境を整備し、心豊かな生活を営むことができる社会を 10 年計画で推進している。

2　事業の目的・ねらい

今回の事業を今年度の重点項目として企画する中で、本協会の自主事業での教室やイベント、昨年度実施した総合型地域スポーツクラブと連携した教室事業を行い、地域での活動を少しずつ推進しており、徐々に参加者が増えてきている。しかしながら、本協会加盟競技団体では中心となる指導者不足や新たな人材発掘ができておらず、活動状況はどの団体も脆弱となっていることが顕在化した。そこで、障がい者が地域でスポーツを楽しむために県体育協会加盟競技団体やプロスポーツチームと連携し、本協会加盟競技団体の育成に務める事とした。そこで、障がい者理解を深める活動をするとともに、各競技活動を更に推進し、磐石なものとするために必要な人材の確保と育成を行い、障がい者が身近な地域で楽しめるネットワークを構築する活動をした。

3　事業実施概要

（1）　【障がい者スポーツ教室事業】

事　業　名	障がい者陸上競技体験会
日　　時	第 1 回：平成 28 年 8 月 20 日（土）9 時 30 分～11 時 30 分 第 2 回：平成 28 年 9 月 3 日（土）9 時 30 分～11 時 30 分 第 3 回：平成 28 年 9 月 24 日（土）9 時 30 分～11 時 30 分
場　　所	第 1・2 回：コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場 第 3 回：名和総合運動公園陸上競技場
参　加　者	延べ　50 名 第 1 回 16 名（知的 9 名・身体 7 名） 第 2 回 22 名（知的 13 名・身体 7 名・健常 2 名） 第 3 回 12 名（知的 10 名・身体 1 名・健常 1 名）
スタッフ	延べ　37 名 鳥取陸上競技協会指導者 8 名 鳥取パラ陸上競技協会 12 名（初級 11 名・スポーツ医 1 名） 理学療法士 4 名、協会職員 13 名
協　　力	鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会、鳥取県、鳥取県体育協会
連携組織	鳥取陸上競技協会、鳥取パラ陸上競技協会、鳥取県理学療法士会
事業内容	車いすレーサー、投てき、ハードルの体験・練習 障がい者スポーツ医による診察（手技）での障がい程度の判断 参加者に合わせた内容で実施

【障がい者陸上競技体験会の様子】

事　業　名	ＦＩＤバスケットボール体験教室
日　　時	第1回：平成28年 9 月19日（月）14時00分～16時00分 第2回：平成28年 9 月25日（日）14時00分～16時00分 第3回：平成28年10月10日（月）14時00分～16時00分 第4回：平成28年12月18日（日）14時00分～16時00分
場　　所	名和総合運動公園名和農業者トレーニングセンター
参　加　者	延べ　106名（障がい者104名・健常者2名） 第1回25名（知的25名・健常0名） 第2回23名（知的23名・健常0名） 第3回29名（知的27名・健常2名） 第4回29名（知的29名・健常0名）
スタッフ	延べ　26名 鳥取県バスケットボール協会5名 鳥取県FIDバスケットボール連盟13名（初級13名） 協会職員8名
協　　力	鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会、鳥取県、株式会社チュウブ
連携組織	鳥取県バスケットボール協会、鳥取県FIDバスケットボール連盟
事業内容	参加者に合わせて基本動作練習から応用練習 ゲーム形式での対戦

【FIDバスケットボール体験教室の様子】

事　業　名	障がい者水中運動教室
日　　時	第1回：平成28年10月16日（日）10時00分～11時00分 第2回：平成28年10月30日（日）13時30分～14時30分 第3回：平成28年11月13日（日）13時30分～14時30分 第4回：平成28年11月13日（日）10時00分～11時00分 第5回：平成28年11月20日（日）10時00分～11時00分 第6回：平成28年11月27日（日）13時30分～14時30分 第7回：平成28年11月27日（日）10時00分～11時00分 第8回：平成28年12月 4 日（日）13時30分～14時30分 第9回：平成28年12月11日（日）10時00分～11時00分
場　　所	第2・3・6・8回：鳥取県営鳥取屋内プール 第1・4・5・7・9回：米子市皆生市民プール
参　加　者	延べ　246名（障がい者181名・介助者65名） 第1回17名（知的10名・身体1名・介助者6名） 第2回27名（知的10名・身体9名・精神3名・介助者5名） 第3回30名（知的11名・身体9名・精神4名・介助者6名） 第4回24名（知的16名・身体1名・介助者7名） 第5回28名（知的16名・身体2名・介助者10名） 第6回31名（知的12名・身体9名・精神4名・介助者6名） 第7回29名（知的18名・身体2名・介助者9名） 第8回31名（知的13名・身体8名・精神4名・介助者6名） 第9回29名（知的18名・身体1名・介助者10名）
スタッフ	延べ　53名 鳥取県水泳連盟指導員20名 障がい者スポーツ指導員18名（初級16名・上級2名） 協会職員15名
協　　力	鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会、SON鳥取
連携組織	鳥取県水泳連盟、鳥取県障がい者水泳協会、鳥取県体育協会
事業内容	参加者に合わせて水中運動・水慣れから泳法指導教室

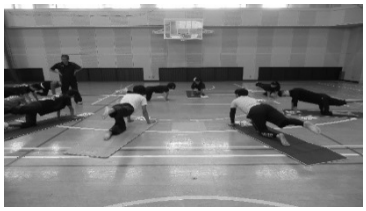
※中部会場は鳥取県中部地震によりプール破損による営業停止となり中止。

【障がい者水中運動教室の様子】

（2） 【障がい者スポーツ指導者育成事業】

事 業 名	陸上競技指導者及び保護者対象講習会
日 時	第1回：平成28年8月20日（土）9時00分～9時30分 第2回：平成28年9月 3 日（土）9時00分～9時30分 第3回：平成28年9月24日（土）9時00分～9時30分
場 所	第1・2回：コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場 第3回：名和総合運動公園陸上競技場
参 加 者	延べ 31名 第1回 8 名（保護者4名・教員1名・障がい者スポーツ指導員3名） 第2回12名（保護者4名・教員3名・障がい者スポーツ指導員5名） 第3回11名（保護者4名・教員0名・障がい者スポーツ指導員7名）
スタッフ	延べ 22名（講師）障がい者スポーツ指導員5名、理学療法士4名、協会職員13名
協 力	鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会、鳥取県、鳥取県体育協会
連携組織	鳥取陸上競技協会、鳥取パラ陸上競技協会、鳥取県理学療法士会
事業内容	陸上競技専門指導者によるストレッチ、筋力トレーニングの体作り講座 自宅や日々のトレーニングに繋がる動きの姿勢確認及び実践、伴走体験

【陸上競技指導者及び保護者対象講習会の様子】



事 業 名	FIDバスケットボール指導者講習会
日 時	平成28年8月11日（木）9時30分～17時00分
場 所	鳥取県立鳥取産業体育館
参 加 者	21名（教員8名・体育施設職員2名・障がい者スポーツ指導員8名・一般職3名）
スタッフ	延べ 18名 日本FIDバスケットボール連盟2名（講師） 競技団体指導者2名、障がい者スポーツ指導員2名、補助員9名、協会職員3名
協 力	鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会、鳥取県、鳥取県体育協会
連携組織	鳥取県バスケットボール協会、鳥取県FIDバスケットボール連盟
事業内容	FIDバスケットボールについて講演 県FIDバスケットボール連盟所属選手をモデルに練習や試合の中で指導法、審判法講習

【FIDバスケットボール指導者講習会の様子】

事　業　名	障がい者水中運動指導者講習会
日　　時	平成 28 年 9 月 25 日（日）13 時 30 分～17 時 00 分
場　　所	米子市皆生市民プール
参　加　者	25 名（教員 1 名・体育施設職員 10 名・障がい者スポーツ指導員 10 名、一般職 4 名）
スタッフ	延べ　7 名 競技団体指導者 2 名、障がい者スポーツ指導員 2 名、協会職員 3 名
協　　力	鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会、鳥取県
連携組織	鳥取県水泳連盟、鳥取県障がい者水泳協会、鳥取県体育協会、ＳＯＮ鳥取
事業内容	障がいに応じた指導の留意点、競技規則の確認 障がい別指導法・介助法（実技） タッピング体験

【障がい者水中運動指導者講習会の様子】

（3）　【障がい者スポーツ理解啓発事業】

事　業　名	精神障がい者フットサル体験会
日　　時	平成 28 年 12 月 11 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分
場　　所	社会福祉法人敬仁会　救護施設ゆりはま大平園体育館
参　加　者	23 名
スタッフ	延べ　12 名 ガイナーレ鳥取 2 名、障がい者スポーツ指導員 4 名、協会職員 6 名
協　　力	鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会、鳥取県、SON 鳥取
連携組織	ガイナーレ鳥取、鳥取県立精神保健福祉センター、医療福祉センター倉吉病院、社会福祉法人養和会 F&Y 境港
事業内容	フットサルの体験及びレクリエーション プロサッカーチーム選手、スタッフを配置しグループ練習、交流試合

【精神障がい者フットサル体験会の様子】

4　障がい者スポーツ指導者の活用・役割

障がい者が身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境を整えるため、本協会加盟競技団体、障がい者スポーツ指導者協議会に加え県体育協会加盟競技団体にも中心的に関わって頂き、障がい者への対応や専門的な指導を行って頂く為の指導者育成事業を実施した。その後の教室事業の企画や運営を行い充実した事業となった。

教室前に指導者講習会をする事で指導者の指導に対する不安を軽減し、知識の再習得ができたことは効果的であった。

5　連携について

（1）　事業前の関係性

障がい者スポーツ大会やスポーツイベントでは各競技団体に事業協力を依頼することがあったが、練習会等は各競技団体が独自で実施している現状であり参加者や指導者の確保に苦戦していた。

（2）　実際の事業での役割分担

各競技団体には登録選手や登録指導者への告知をして頂いたほか、講習会での講師や教室時のメインの指導を務めて頂いた。県全体への幅広い広報や事務的な部分を本協会が受けもつことで、指導に専念でき参加者に満足いただける内容が提供できた。

（3）　事業後の関係性の変化

事業終了後、各競技団体の活動を的確に把握することができた。加えて参加者からのスポーツ活動の問い合わせに対して各競技団体が自主的に実施している練習会や大会を紹介できるようになった。本協会に対しても競技団体側から本事業を次年度以降も企画を希望する声が上がるなど連携が高まった。

また、精神障がい者フットサルイベントをする事で競技団体の設立に向けての動きが関係した指導者を中心に進み始めた。

（4）　その他

本事業を実施することで、中央競技団体から指導者講習会の講師を派遣して頂いたり、参加者も本事業がきかっけとなり日本代表選考合宿へ参加することができた。県内での取り組みだけでなく日本のトップレベルを知る事に繋がることができ有意義であった。

また、競技用車椅子を他県の競技団体から複数台を借用することができ、他県の様子を参考にすることができた。

6　スポーツ用具について

（1）　購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

各競技団体から事業実施に必要な用具を聞き取り、陸上競技で使用するケア・トレーニング用品等の購入ができた。他にも参加者や施設の状況に合わせた用具の購入により幅広い方々に対応することができた。

（2）　今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会にて保管し、定期点検を行う。

また、今回の事業を一過性のものとせず各団体と協力して活用していきたい。

7　事業の成果および評価（達成度）

全事業で幅広い世代から多くの参加者があり、普段なかなか体験できない専門的なスポーツに触れるきっかけとなった。参加者の満足度も高く、今後の障がい者スポーツ活動の発展に繋がる足がかりとなった。FID バスケットボールについては、これまで男子チームのみであったが、本事業をきっかけに女子チームが発足できることとなった。

また、各事業でプロスポーツチームや、中央競技団体、県内のトップ指導者に指導を受けることで、指導者やスタッフの資質向上と障がい者スポーツの理解啓発となり、有意義な事業を実施することができた。

8　事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

今後、継続的に各教室実施を目指す中で、全事業において指導者の確保が課題となった。各競技団体中心では大会やイベントと重なり実施が困難な場合があった。スポーツ指導者以外の地域在住指導者の参加が少なかった事もあり、更なる理解啓発を広げる活動を行い、スポーツ指導者以外でも関わる指導者育成を推進したい。そのため各競技団体や関係機関と年間を通した連携をしていくことが競技団体育成に必要と感じた。

また、参加者がスポーツ教室参加の成果を知る機会として記録会や交流試合の実施ができればと考えたが、各競技団体の大会やイベント等により日程を追加することが難しく課題が残った。

今後は本事業で関係を築くことができた団体や関係各所と連携を更に強め、今後も継続して実施ができるよう努めたい。

9　おわりに

（1）所感

障がい者スポーツの普及・振興を進めていくために本協会加盟競技団体と県体育協会加盟競技団体を中心に連携した事業を実施し成果があった。これまでの障がい特性に応じた指導を一般スポーツ指導者が学ぶことができ、更に参加者や支援者に広めることで地域での広がりを感じ、県全体のスポーツ振興が進んだのではないかと思われる。引き続き支援が必要な競技団体もあり継続した事業を行いたい。

また、本協会としても様々な事業を企画し実施することで活動を知っていただき、別の当協会実施事業への参加者が増えたと実感している。

今後とも県内の障がい者スポーツへの興味関心を高めるきっかけとなる事業の実施と、障がい者に加えて、高齢者も参加し色々な体験ができる生涯スポーツが県内全域へ広がるよう行政等と連携しながら共生社会の実現に向けて推進していきたい。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど

・継続的な事業とするため、障がい者スポーツ競技団体主体で企画・運営を行った。
・居住地域でのスポーツ振興を目指し可能な限り実施会場を分けた。
・毎回の教室後にスタッフで反省と次回の内容を話しあいスタッフ間の信頼を高めた。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

・参加者の交通手段確保が課題であったので、連携施設から送迎車を借用し対応した。
・県体育協会加盟競技団体へ障がい者スポーツ指導員資格取得を勧める機会となった。

１０　資料

募集チラシ、参加申込書

（平成28年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会委託事業）

障がい者陸上競技体験会

日時
平成 **28** 年 **8** 月 **20** 日(土) 9:00～12:00
コカ･コーラウエストスポーツパーク陸上競技場
（鳥取市布勢146－1）

平成 **28** 年 **9** 月 **3** 日(土) 9:00～12:00
コカ･コーラウエストスポーツパーク陸上競技場
（鳥取市布勢146－1）

会場
平成 **28** 年 **9** 月 **24** 日(土) 9:00～12:00
名和総合運動公園陸上競技場
（西伯郡大山町名和1247－1）

参加対象者 ●● 指導者：パラ陸上に関心のある方
選　手：13才以上の障がい者及び保護者・引率者
定　　員 ●● 指導者 **20名**、選手及び引率者 **20名**（当日参加不可）
※定員に満たない場合は随時受付けます
持 ち 物 ●● シューズ、タオル、ドリンク等
申込み方法 ●● 裏面申込用紙に記載し、FAXでお申し込みください
締め切り ●● 平成 28 年 8 月 12 日(金)

参加費 無料

お気軽にご参加ください

研修内容

受付・諸連絡 8:30～9:00
第一部 9:00～9:30
「指導者及び保護者対象講習」
第二部 9:30～11:30
「障がい別グループ実技指導」
質疑応答 11:30～12:00

初回のみ公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ医（整形外科医 片桐浩史氏）による診断を受けれます。

お問い合わせ先
一般社団法人
鳥取県障がい者スポーツ協会
TEL 0857－50－1071
FAX 0857－50－1074

申し込み先
一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
FAX 0857－50－1074

参加申込用紙　選手 ・ 指導者（○で囲んでください）

ふりがな 名前		性別	男・女	生年月日	年　月　日（　才）
引率者名		続柄		緊急連絡先	
住所	〒			電話番号	
所属					
障がい	障がい（肢・知・聴・視・精）			補装具等	
参加希望日	8／20 ・ 9／3 ・ 9／24			参加項目	第一部・第二部・どちらも
何か体調面で不安なこと、指導者に知っておいてもらいたいことがありましたら、記入してください。					

この講習会に参加するにあたり、健康状態の管理を十分に行い参加します。活動中に起きた事故等による責任は一切主催者側に請求しません。主催者側で加入している保険の範囲内で補償を受けることに同意します。

平成　年　月　日　　お名前

（平成28年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会委託事業）

FIDバスケットボール指導者講習会

～ FID国際大会を経験した講師による講演会･実技指導 ～

日　時 平成 **28** 年 **8** 月 **11** 日(木)
会　場 **鳥取県立鳥取産業体育館**

参加対象者 ◆◆ 鳥取県内バスケットボール指導者及び支援者の方
定　　員 ◆◆ **25名**（当日参加不可、定員を超えた場合は抽選）
参 加 費 ◆◆ 無料
持 ち 物 ◆◆ 室内シューズ、タオル、ドリンク等
申込み方法 ◆◆ 裏面申込用紙に記載し、FAXでお申し込みください
締め切り ◆◆ 平成 28 年 8 月 5 日(金)

研修内容

受付・諸連絡 9:00～9:30

講義1 9:30～10:45
「知的障がい者とバスケットボールについて」
講師：小川　直樹　氏
玉木　彰治　氏

講義2 11:00～12:15
「FIDバスケットボールの指導法・練習法」
講師：小川　直樹　氏

実　技 13:30～16:30
「指導法・練習法と審判法」
講師：小川　直樹　氏
玉木　彰治　氏

質疑応答 16:30～17:00

FIDバスケットボールとは、知的障がい者のバスケットボールで、ルールは一般のバスケットボールと同じです。全国障害者スポーツ大会の正式種目になっており、全国大会『FIDジャパン・チャンピオンシップバスケットボール』や世界大会も開催されています。
鳥取県では昨年度設立の鳥取県FIDバスケットボール連盟が主体となって活動しており、全国障害者スポーツ大会中国四国ブロック予選会突破を目指して練習に取り組んでいます。

お問い合わせ先
一般社団法人
鳥取県障がい者スポーツ協会
TEL 0857－50－1071
FAX 0857－50－1074

講師紹介

小　川　直　樹　講師（FIDバスケットボール男子日本代表監督）

1965年10月28日生　50歳　日本体育大学体育部卒
現在　横浜ビー・コルセアーズGM、日本FIDバスケットボール連盟理事長兼男子代表HC
1987年　大学主要大会（春季トーナメント、秋季リーグ、インカレ）3冠メンバー
1988年　日本鋼管（NKK）バスケットボール部入社
日本男子代表チームA・B（1988・1989年）
第25・27回日本リーグ優勝（1992・1994年）
2000年～現在　FID日本男子代表HC就任、シドニーパラリンピック8位（2000年）
INAS　GLOBAL　エクアドル大会　5位（2015年）

玉　木　彰　治　講師（FIDバスケットボール世界大会派遣審判）

1965年8月1日生　50歳　国士舘大学　体育学部卒
現在　富山県滑川市立早月中学校教頭、JBA公認S級審判員
2003年　JBA公認2A級ライセンス取得（現S級）
2012年～現在　NBL担当審判（次年度BLG担当）
全日本大学選手権・全国中学校バスケットボール大会決勝担当
INAS　GLOBAL　エクアドル大会　日本チーム帯同審判（2015年）

申し込み先
一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
FAX 0857－50－1074

参加申込用紙

ふりがな 名前		性別	男・女	生年月日	年　月　日（　才）
住所	〒			電話番号	
所属					
勤務先 住所	〒			電話番号	
指導歴				障がい	有 ・ 無 障がい（肢・知・聴・視・精） 補装具等（　　）

この講習会に参加するにあたり、健康状態の管理を十分に行い参加します。活動中に起きた事故等による責任は一切主催者側に請求しません。主催者側で加入している保険の範囲内で補償を受けることに同意します。

平成　年　月　日　　お名前

（平成28年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会委託事業）

FIDバスケットボール体験教室開催

日時　平成28年9月19日(月)　14：00～16：00
平成28年9月25日(日)　14：00～16：00
平成28年10月10日(月)　14：00～16：00
平成28年12月18日(日)　14：00～16：00

会場　名和農業者トレーニングセンター（名和総合運動公園内）

会場まで名和駅から送迎バスが出ます。参加の方はウラ面申込書に記入し、下記列車の時間を確認のうえ、ご利用ください。

参加費無料

行き
鳥取駅 11時17分発 → 名和駅 13時27分着
米子駅 12時47分発 → 名和駅 13時18分着

帰り
名和駅 17時15分発 → 鳥取駅 19時02分着
名和駅 17時02分発 → 米子駅 17時34分着

FIDバスケットボールとは、知的障がい者のバスケットボールで、ルールは一般のバスケットボールと同じです。全国障害者スポーツ大会の正式種目になっており、全国大会『FIDジャパン・チャンピオンシップバスケットボール』や世界大会も開催されて、鳥取県では昨年度設立の鳥取県FIDバスケットボール連盟が主体となって活動しています。

指導者　鳥取県FIDバスケットボール連盟指導員（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認指導員）
一般社団法人鳥取県バスケットボール協会指導員（公益財団法人日本バスケットボール協会公認コーチ）

対象者
◇県内在住の知的障がい者
◇療育手帳の交付を受けた方
またはその取得対象に準ずる障がいのある方
※介助が必要な方は引率者と参加してください

内容　基本動作練習から応用練習までレベルに合わせて指導します

まずは体験!!
みんなでバスケを楽しもう!!

ウラ面の参加申込書に必要事項を記入し、平成28年9月12日(月)までに下記までお申込みください。(FAX可)

お問い合わせ・申込み先
一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
〒680－8570　鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857－50－1071　FAX 0857－50－1074

定員
30名程度
当日参加不可・定員に満たない場合は随時受け付けます

持ち物
スポーツウエア
タオル
室内用シューズ等

お問い合わせ・申込み先
一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
〒680－8570　鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857－50－1071　FAX 0857－50－1074

参加申込用紙

ふりがな 名前		性別	男・女	生年月日	年　月　日（　才）
引率者名		続柄		緊急連絡先	
住所	〒			電話番号	
参加希望日	9／19 ・ 9／25 ・ 10／10 ・ 12／18			バス利用	有　・　無
所属					

何か障がいのこと、体調面で不安なこと、指導者に知っておいてもらいたいことがありましたら、記入してください。

この講習会に参加するにあたり、健康状態の管理を十分に行い参加します。活動中に起きた事故等による責任は一切主催者側に請求しません。主催者側で加入している保険の範囲内で補償を受けることに同意します。

平成　年　月　日　　お名前

（平成28年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会委託事業）

障がい者フットサル体験会

個人での参加もチームでの参加も可能です！
フットサルはどなたでも楽しめるスポーツで、普段からプレイしている方、初めての方、体力に自信のない方も、男性も女性もマイペースで参加できます！
この機会にフットサルを楽しみましょう！

プロサッカーチーム ガイナーレ鳥取の選手をお招きして体験講習会を実施

日時　平成28年12月11日(日)
13：30～15：30（受付13：00～）

会場　社会福祉法人敬仁会
救護施設ゆりはま大平園　体育館
（東伯郡湯梨浜町長和田1835－1）

対象者
鳥取県内に在住する精神障がい者
精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けた方。
あるいはその取得の対象に準ずる障がいのある方。
※当日参加者でチームを編成しますので、少人数や個人での参加が可能です。支援者の方や家族の方も是非ご参加ください。

交通手段
鳥取・米子の各駅から会場まで送迎バスが利用できます。
希望者は申込書に記載してください。
※参加決定通知の発送時に詳細な時間等を送付します。

その他
●主催者で傷害保険に加入しますが、受講中の事故等に対しては、主催者側で応急処置のみとし、その責任は負いません。
●活動中の写真を当協会HP等に掲載させて頂きますのでご了承の上お申込ください。掲載等ができない場合は当日お伝えください。

持ち物
更衣室があります。
・運動に適した服装
・着替え
・タオル
・室内用シューズ
・ドリンク　など
※フットサル用すね当て（レガース）、靴下をお持ちの方は持参してください。

定員
20名程度
（当日参加不可）

参加費無料

ウラ面の参加申込書に必要事項を記入し、平成28年12月6日(火)までに下記までお申込みください。(TEL・FAX可)

お問い合わせ申込み先
一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
〒680－8570　鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857－50－1071　FAX 0857－50－1074

申込み先
一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
〒680－8570　鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857－50－1071　FAX 0857－50－1074

参加申込用紙

申込種別（○をつける）	（　　）所属機関・医療機関等 団体でまとめて申し込む	（　　）個人で申し込む
所属団体	団体名（個人申込の場合は代表者名・連絡先） 連絡担当者名（　　）	住所　〒 電話（　　）

参加者	（ふりがな）氏名	性別	年齢	フットサル経験	支援者の方は○をつけてください	送迎バス利用 乗車場所
①						（有・無）鳥取・米子
②						（有・無）鳥取・米子
③						（有・無）鳥取・米子
④						（有・無）鳥取・米子
⑤						（有・無）鳥取・米子
⑥						（有・無）鳥取・米子
⑦						（有・無）鳥取・米子
⑧						（有・無）鳥取・米子
⑨						（有・無）鳥取・米子
⑩						（有・無）鳥取・米子

当日の付き添い ※当日付き添いのない方は必ず記入してください。	無し 当日緊急連絡先（家族・医療機関等） 名前（　　）／本人との関係（　　） 連絡先（　　）	有り 引率者名（　　） 本人との関係（　　） 連絡先（　　）

参加に際して、何か障がいのこと、体調面で不安なこと、指導者に知っておいてもらいたいことがありましたら、記入してください。

この講習会に参加するにあたり、健康状態の管理を十分に行い参加します。活動中に起きた事故等による責任は一切主催者側に請求しません。主催者側で加入している保険の範囲内で補償を受けることに同意します。

平成　年　月　日　　お名前

（平成28年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会委託事業）

障がい者水中運動教室

会場・日時

東部会場
鳥取県立鳥取産業体育館
鳥取県営鳥取屋内プール
（鳥取市天神町50－2）
10/30（日）
11/13（日）
11/27（日）
12/ 4（日）
実施時間 13:30～14:30
受付 13:00～

中部会場
倉吉市営温水プール
（鳥取県倉吉市駄経寺町198－2）
10/30（日）
11/20（日）
12/ 4（日）
実施時間 16:00～17:00
受付 15:30～

西部会場
米子市皆生市民プール
（米子市皆生温泉3丁目18－3）
10/16（日）
11/13（日）
11/20（日）
11/27（日）
12/11（日）
実施時間 10:00～11:00
受付 9:30～

指導者
鳥取県障がい者水泳協会指導者
（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認指導員）
一般財団法人鳥取県水泳連盟指導者
（公益財団法人日本水泳連盟公認指導員）

内容
顔付け・水慣れから水中ウォーキング、泳法指導等をレベルに合わせて指導します。

参加対象者
県内在住の障がい者・指導者、補助していただける方。
※てんかん、心臓病などの症状があり、医師の診断が必要な場合は診断書が必要になります。
※安全確保のため、介助が必要な方は必ず介助者の入水が必要です。

参加料無料

ウラ面の参加申込書に必要事項を記入し、平成28年10月11日(火)までに下記までお申込みください。（FAX可）
※定員に満たない場合は随時受付します。締切を過ぎた場合は下記までお問い合わせください。

お問い合わせ 申込み先
一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
〒680－8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857－50－1071 FAX 0857－50－1074

定員
15名
当日参加不可・
定員を超えた場合は抽選

持ち物
水着・ゴーグル
キャップ・タオル
等

申込み先
一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
〒680－8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857－50－1071 FAX 0857－50－1074

参加申込用紙

ふりがな 名前		性別	男・女	生年月日	年 月 日（ 才）
介助者等	介助入水 有・無 入水者名（ ）	続柄		緊急連絡先	
住所	〒 ☎（ ）－	参加区分		指導者・補助者 障がい（肢・知・聴・視・精） 補装具等（ ）	
所属					
参加会場 日時	会場・日付に○をつけてください 東部（10/30・11/13・11/27・12/4） 中部（10/30・11/20・12/4） 西部（10/16・11/13・11/20・11/27・12/4）	水泳歴（希望内容）			

何か障がいのこと、体調面で不安なこと、指導者に知っておいてもらいたいことがありましたら、記入してください。

この講習会に参加するにあたり、健康状態の管理を十分に行い参加します。活動中に起きた事故等による責任は一切主催者側に請求しません。主催者側で加入している保険の範囲内で補償を受けることに同意します。

平成 年 月 日 お名前

（平成28年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会委託事業）

障がい者水中運動指導者講習会

日時 平成28年9月25日(日)
会場 米子市皆生市民プール
参加料無料

参加対象者 県内在住の指導者の方、支援者の方、保護者の方、興味のある方
定員 25名（当日参加不可、定員を超えた場合は抽選）
持ち物 水着、ゴーグル、キャップ、タオル等
申込み方法 下記参加申込用紙に記載し、お申し込みください
締め切り 平成28年9月16日(金)

講師 鳥取県障がい者水泳協会
上原 佑希子 氏

お問い合わせ・申込み先
一般社団法人
鳥取県障がい者スポーツ協会
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857－50－1071
FAX 0857－50－1074

研修内容

受付 13:00～13:30
講義 13:30～14:30
「障がい者の特性理解・水泳指導法」
実技 15:00～16:30
「障がい特性に合わせた指導法・介助法」
質疑応答 16:30～17:00

参加申込用紙

ふりがな 名前		性別	男・女	生年月日	年 月 日（ 才）
住所	〒			電話番号	
所属					
勤務先 住所	〒			電話番号	
指導歴				障がい	有・無 障がい（肢・知・聴・視・精） 補装具等（ ）

この講習会に参加するにあたり、健康状態の管理を十分に行い参加します。活動中に起きた事故等による責任は一切主催者側に請求しません。主催者側で加入している保険の範囲内で補償を受けることに同意します。

平成 年 月 日 お名前

広島県における障がい者スポーツ振興事業

◆組織連携推進強化事業（地域推進事業　障害者スポーツ体験会）

◆障がい者スポーツ理解啓発事業（パラスポーツイベント）

広島県障害者スポーツ協会

広島県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

1　はじめに

広島県では、平成 26 年 3 月に障害者プランが策定され、障害者スポーツ競技団体の組織化等の体制整備に向けて、関係団体との協議を進めてきた。また、同年 8 月には、広島県スポーツ推進計画が策定され、障害のあるアスリートが、パラリンピックを始めとする国際大会や全国規模の大会で活躍できるよう、障害者スポーツの県民への普及・啓発と、競技力強化につながる取組を推進し、障害者スポーツ競技団体の組織化などの体制整備に取り組んでいる。

このような背景の中、広島県障害者スポーツ協会は、県内の障害者スポーツを統括する中核的な組織として、全ての県民が障害の有無に関わらず障害者スポーツに親しむとともに、障害者がスポーツ活動を通じて健康の保持・増進や地域社会との交流による社会参加に努め、また競技力向上に取り組むことができるよう、障害者スポーツの振興を図り、もって活力ある共生社会の実現を目指すことを目的として、平成 28 年 1 月 14 日に設立した。

これまで、県内における障害者スポーツは、県立障害者リハビリテーションセンタースポーツ交流センターと広島市心身障害者福祉センターが拠点となり、指導員等の養成を行ってきた。しかし、県内各地域で実際に指導を行っている障がい者スポーツ指導員は少なく、その多くが、障害者スポーツに触れる機会や指導経験の機会が少ないことが理由となっている。

現在、広島県障害者スポーツ協会事務局と広島県障がい者スポーツ指導者協議会事務局が、同じスポーツ交流センター内にあることから、双方の連携により、県内の障害者スポーツの普及・振興に繋げていくためにも本事業が不可欠である。

2　事業の目的・ねらい

本事業は、県内の障がい者スポーツ指導員を始め、スポーツ推進委員や理学療法士等、各地域で障害者スポーツ指導を行える指導員の養成と、障害者スポーツ普及・振興のための体制づくりを行うことを目的として実施した。

また、パラリンピック競技種目の紹介や体験会を実施することにより、県民に対する障害者スポーツの興味・関心に繋げ、併せて障害者スポーツ選手の発掘や障害者スポーツの普及・啓発に繋げることをねらいとした。

3　実施概要

（1）◆組織連携推進強化事業（地域推進事業　障害者スポーツ体験会）

事 業 名	広島県障害者スポーツ協会地域推進事業
日　　時	① 平成 28 年 11 月 13 日（日）　13：00～15：00 ② 平成 28 年 11 月 23 日（水・祝）13：00～15：30 ③ 平成 28 年 12 月 17 日（土）　13：00～15：30 ④ 平成 28 年 12 月 24 日（土）　13：00～15：30
場　　所	① 廿日市市（廿日市市スポーツセンター　サンチェリー） ② 福 山 市（福山市障害者体育センター）

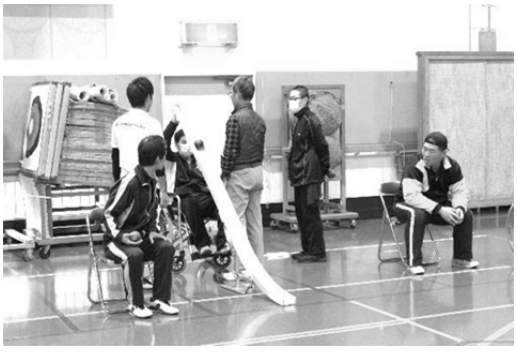
	③ 庄 原 市（庄原市総合体育館） ④ 広 島 市（南区スポーツセンター）
参 加 者	広島県内各地区のスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ会員、理学療法士、障がい者スポーツ指導員等　計 36 名 ① 廿日市市　 6 名 ② 福 山 市　 6 名 ③ 庄 原 市　14 名 ④ 広 島 市　10 名
スタッフ	16 名（講師 11 名、スポーツ指導員 4 名、協会職員 1 名）
協　　力	広島県障がい者スポーツ指導者協議会、広島大学アダプテッドスポーツクラブ、県立広島大学アダプテッドスポーツクラブ
連携組織	広島県、広島県教育委員会、広島県体育協会、広島県理学療法士会
事業内容	障害の有無にかかわらず参加可能なスポーツの体験会（指導者向け講習会） ［実施種目：ボッチャ・卓球バレー・風船バレー］

事業の様子

廿日市市（試合形式でボッチャを体験）

廿日市市（風船バレーのルール説明）

福山市（車椅子を使用しての風船バレー）



福山市（ボッチャでランプを使用）

庄原市（試合をしながらルール解説）

庄原市（ボッチャにおける得点解説）

広島市（ボッチャでのランプ使用方法説明）

広島市（試合形式での卓球バレー体験）

（2）◆障がい者スポーツ理解啓発事業（パラスポーツイベント）

事 業 名	ひろしまパラスポーツイベント 2016
日　　時	平成 28 年 12 月 23 日（金・祝）　10：00～17：00
場　　所	県立広島大学　広島キャンパス
参 加 者	広島県内全域（障害者、興味・関心のある方）自由参加 のべ約 350 名
スタッフ	35 名（講師 24 名、スポーツ指導員 7 名、協会職員 4 名）
協　　力	広島県障がい者スポーツ指導者協議会、広島大学病院スポーツ医科学センター、株式会社チャレンジド・アソウ、シーズアスリート、特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟、一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟、一般社団法人日本ボッチャ協会、NPO 法人日本車いすフェンシング協会、広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター
連携組織	広島県、国立大学法人広島大学、公立大学法人県立広島大学
事業内容	① リオパラリンピックゴールボール日本代表主将 浦田 理恵選手による講演会 演目「自分らしくきらきら生きる」 ② パラスポーツ選手によるデモンストレーションとパラスポーツ体験会 ［実施競技・講師］ゴールボール：浦田 理恵選手 ボッチャ：杉村 英孝選手 車いすレーサー：小西 恵子選手 パワーリフティング：小林 浩美選手、福嶋 康人選手 バドミントン：島田 務選手、島田 緑選手 車いすフェンシング：馮　英騏ヘッドコーチ ③ 広島大学病院スポーツ医科学センターによるメディカルサポート ［実施内容］高圧酸素カプセル、超音波エコー、高速度カメラ撮影、心理サポート、トレーニング相談等の体験

事業の様子

リオパラリンピックゴールボール日本代表主将
浦田 理恵選手による講演会

浦田 理恵選手によるゴールボール
デモンストレーション・体験会

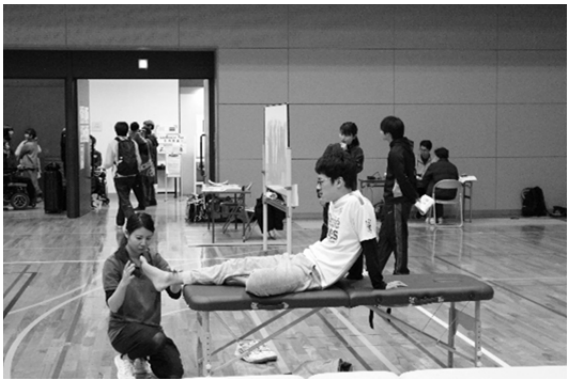
リオパラリンピック金メダリスト杉村 英孝選手
によるボッチャデモンストレーション・体験会

小西 恵子選手による車いすレーサー
デモンストレーション・体験会

島田 務選手，島田 緑選手による
バドミントンデモンストレーション・体験会

小林 浩美選手，福嶋 康人選手による
パワーリフティングデモンストレーション・体験会

馮　英騏ヘッドコーチによる
車いすフェンシングデモンストレーション・体験会



広島大学病院スポーツ医科学センター
メディカルサポートブース

4　障がい者スポーツ指導者の活用・役割

本事業は、広島県障がい者スポーツ指導者協議会との連携により、企画・実施した。本県における障害者スポーツ振興の課題として、障がい者スポーツ指導員資格取得後、各地域で実際に指導を行える指導員が少ないことが挙げられており、障がい者スポーツ指導員の積極的な参加を呼び掛けた。本事業の実施により、各地域の障がい者スポーツ指導員に対する指導の知識習得とスキル向上に繋げることができた。また、理学療法士や学校教員、各種スポーツクラブ指導員等、障がい者スポーツ指導員資格を取得していない参加者が、指導者資格への興味・関心を持ち、障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講する等、指導者の養成に繋げることができた。

5　連携について

（1）　事業前の関係性

これまで、当協会運営にあたり、広島県教育委員会、広島県体育協会の所属役員から役員会等で意見を伺うことはあったが、事業実施にあたり直接連絡をとることはなかった。また、広島県理学療法士会とは、これまで全く関わりがなく、本事業実施にあたり初めて連絡をとることとなった。

国立大学法人広島大学（以下「広島大学」という。）とは、平成 28 年 10 月 6 日に 4 者協定（広島大学、広島県障害者スポーツ協会、特定非営利活動法人 STAND 及び広島県の 4 者による障害者スポーツ分野における連携協力に関する協定）を締結した。これまで直接的な連携は、広島大学病院スポーツ医科学センターとのみであったが、本事業の広報にあたり、大学に直接連絡をとることとなった。

公立大学法人県立広島大学（以下「県立広島大学」という。）とは、これまで直接的な関わりがなかったが、広島県と連携し、本事業の実施会場として会場借用依頼をし、併せて広報依頼をした。

（2）　実施の事業での役割分担

広島県、広島県教育委員会、広島県体育協会には、事業実施にあたり後援いただいた。また、広島県、広島県教育委員会には各市町やスポーツ推進委員へ、広島県体育協会には総合型地域スポーツクラブへ、広島県理学療法士会には県内の理学療法士に対して、それぞれ参加者募集の広報をしていただいた。

広島大学には社会産学連携室を通してホームページに掲載いただき、学生、職員へ参加を呼び掛けていただいた。また、県立広島大学にも学内掲示板への掲載により、学生、職員への参加を呼び掛けていただいた。

（3）　事業後の関係性の変化

本事業とほぼ同時期に、各市町や総合型地域スポーツクラブにおける障害者スポーツの取組状況を把握するため、県教育委員会を通じてアンケート調査の協力を得た。また、広島県理学療法士会とは、双方が情報提供を行えるようになった。広島大学、県立広島大学とは引き続き情報提供および広報の依頼を行えるようになった。また、両大学のアダプテッドスポーツクラブ所属学生に対し、他の事業でも協力を依頼できるようになった。

（4）　その他

本事業を通して、これまで障害者スポーツに関わりの少なかった機関と連携をとるようになった。この関係性を保ち、今後の障害者スポーツ振興に役立てたい。

6　スポーツ用具について

（1）　購入した備品の活用について

本事業により、韓国製ボッチャボール（5 セット）、ランプ（4 台）、卓球バレー用具（10 セット）、風船バレー（風船 40 個、鈴 80 個）を購入した。これまで公式用具が不足しており、他の用具で代用したり、ルールを簡略化したりする等、レクリーション要素を重視した内容での教室は実施できていたが、公式ルールでの体験会を実施することが困難であった。今回のスポーツ用具購入により、より競技に近い形で体験会を実施することができ、参加者に対して各競技の特性を正しく理解してもらうことができたと共に、各指導現場における対象者に応じた指導知識を習得してもらうことができた。

（2）　今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会にて備品を管理・保管し、要望に応じて、県内各地への貸し出しを行い、障害者スポーツ振興に役立てていく。また、本事業の参加者が現場で指導を行う際にも、積極的に用具を活用してもらえるよう体制を整備する。

7　事業の成果および評価

事業（1）「広島県障害者スポーツ協会地域推進事業」を通して、障害者関係機関だけでなく、様々な職種の指導者に参加してもらうことができ、障害者スポーツの知識習得とスキル向上の機会となった。また、県内 4 地域（廿日市市、福山市、庄原市、広島市）で開催したことにより、理学療法士やスポーツクラブ指導者等の参加者が、本事業終了後、障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講する等、各地域で実際に指導を行える指導員の養成に繋げることができた。

事業（2）「ひろしまパラスポーツイベント 2016」では、パラスポーツ各競技団体からの協力を得て、パラリンピック競技種目のデモンストレーションや体験会を実施し、パラスポーツ選手と交流をしながら、参加者が楽しめる有意義なイベントを実施することができた。参加者からは「パラスポーツ選手は凄いと思った。大変な努力をされていると思った。」「このようなイベントをまた開催して欲しい。」等、多くの感想があった。

また、イベント内では、広島大学病院スポーツ医科学センターの協力により、最新機器を用いた「メディカルサポートブース」を設置し、障害者スポーツにおけるメディカルサポートについて周知することができた。当協会では、県内の強化指定選手を選出しており、今後、選手が受けられるメディカルサポートについて事前に体験してもらうことができたと共に、障害者スポーツ選手の発掘と競技力強化に向けた取組に繋げることができた。

本事業の様子は、テレビ各社で報道された。広く県民に対して障害者スポーツを紹介し、興味・関心を持ってもらうことのできた貴重な機会となった。2020 年東京パラリンピックに向け、障害者スポーツへの理解と普及・啓発に繋げることができた。

8　事業の今後の必要性

本事業の実施にあたりご協力いただいた、広島県障がい者スポーツ指導者協議会を始め、関係機関との連携を図りながら、引き続き、県内全域で障害者スポーツの普及・振興に取組んでいきたい。

また、広島大学病院スポーツ医科学センターを始め、各競技団体との連携により、障害者スポーツ選手の育成・強化にも取組んでいきたい。

事業（1）⇒継続的な活動の場を提供することにより、指導者スキル向上に繋げることができる。また、本事業の広報時期が遅れたことにより、全体を通して参加者が少なかった。継続的な実施により、若い世代の指導者育成に繋げていきたい。

事業（2）⇒継続したパラスポーツ選手との関わりにより、障害者スポーツへの興味・関心だけでなく、支援、指導できる人材の育成に繋げることができる。また、障害者スポーツ選手の発掘に繋げることができる。

9　おわりに

（1） 所感

本県では、障がい者スポーツ指導員資格を取得しながらも、各地域で実際に指導を行っている障がい者スポーツ指導員が少ないことが課題となっていたが、本事業の実施により、実際の現場で活かしてもらうことができる指導知識習得と、スキル向上の場を提供することができた。

また、パラスポーツ各競技団体、県内の大学等、これまで直接的な関わりのなかった機関との連携により、2020 年東京パラリンピックに向け、継続した障害者スポーツの普及・振興と、競技力強化に向けた取組に繋げることができる関係性を持つことができた。

本事業は、多くの人々に対して障害者スポーツの情報を発信し、興味・関に繋げる大変貴重な機会となった。今後も、広島県障がい者スポーツ指導者協議会を始め、関係機関との連携を強化しながら、障害者スポーツの普及・振興に取組んでいきたい。

（2） 特記事項

事業（1）

・県内の大学で活動するアダプテッドスポーツクラブ所属学生に協力を依頼し、若い世代の人材を活用した。

事業（2）

・広報において、5、000 枚の音声コード付チラシを作成し、県内の小・中学校や高等学校、関係機関、施設等に配布した。
・プログラム等を記載したパンフレットを作成し、当日、来場者に配布した。
・開会にあたり当協会役員が出席し、開会式を行った。開会式の中で、パラスポーツ各競技団体の協力者紹介を行った。
・開会式および講演会では手話通訳を配置し、情報保障席を設けた。
・会場内に来場者用駐車場が確保できなかったため、近隣の商業施設に駐車場の一部使用についてお願いし、承諾を得た。

１０　資料

（1） ◆広島県障害者スポーツ協会地域推進事業：開催要項、受講申込書、チラシ

（2） ◆ひろしまパラスポーツイベント 2016：開催要項、チラシ、パンフレット

平成 28 年度広島県障害者スポーツ協会　地域推進事業開催要項

1　目　　的　県内の各地域で，障害のある人に関わりのある人や，これから関わりを持つ人に対して，障害の有無に関係なく共に楽しめる障害者スポーツを体験してもらうことにより，障害のある人のスポーツ参加のきっかけとなることを目的とする。
2　主　　催　広島県障害者スポーツ協会
3　後　　援　広島県　広島県教育委員会　広島県体育協会
4　協　　力　広島県障がい者スポーツ指導者協議会　スポーツ交流センター
5　開 催 日　平成 28 年 11 月 13 日（日），11 月 23 日（水・祝），12 月 17 日（土），12 月 24 日（土）
6　開催場所　広島県内 4 か所　・廿日市市（廿日市市スポーツセンターサンチェリー）
・福山市（福山市障害者体育センター）
・庄原市（庄原市総合体育館）
・広島市（広島市南区スポーツセンター）
7　募集定員　各会場 40 名程度
8　参加資格　広島県内各地区のスポーツ推進委員，総合型地域スポーツクラブ会員，理学療法士，障がい者スポーツ指導員
9　講習内容　障害の有無にかかわらず参加可能なスポーツの体験
（実施種目：ボッチャ・卓球バレー・風船バレー）
10　参 加 費　無料（ただし，参加に係る交通費等は参加者負担とする。）
11　申 込 み　所定の申込書に必要事項を記入の上，郵送，FAX，メールのいずれかで下記事務局までお申込みください。
（申込書は HP からダウンロードできます。）
URL　http://www.hpsa.info/　　E-mail　hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp
《申込み締切》　西部地区（廿日市市）　平成 28 年 11 月 11 日（金）
東部地区（福山市）　平成 28 年 11 月 16 日（水）
北部地区（庄原市）　平成 28 年 12 月 9 日（金）
広島地区（広島市）　平成 28 年 12 月 17 日（土）
12　そ の 他　(1) 必ず運動のできる服装で参加すること。（体育館シューズを持参してください。）
(2) 講習中の事故に対しては主催者側で応急処置はするが，その責任は負わない。
(3) 参加者は全員，主催者側にて傷害保険に加入する。

【申込先・お問い合わせ先】
広島県障害者スポーツ協会事務局
〒739-0036　東広島市西条町田口 295-3 スポーツ交流センター内
TEL（082）426-3333　FAX（082）425-6789
E-mail　hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp
URL　http://www.hpsa.info/　　（担当：土居・内海・佐々木）

平成２８年度広島県障害者スポーツ協会地域推進事業
受　講　申　込　書

ふりがな 氏　名		性別	男・女
生年月日	S・H　年　月　日生 （　成）		
自宅住所	〒		
TEL FAX		携帯 メールアドレス	
参加資格	スポーツ推進委員　・　総合型スポーツクラブ会員　・　理学療法士 障がい者スポーツ指導員（　初級　・　中級　・　上級　）		
参加希望会場	廿日市市（11 月 13 日）・福山市（11 月 23 日） 庄原市（12 月 17 日）・広島市（12 月 24 日）　※希望会場に○をしてください		
受講の動機			
経験の有無	（この講習会はどこで知りましたか？＿＿＿＿＿＿＿＿） 障害者スポーツ経験　有（種目　　） 無 ボランティア経験　有（内容　　） 無		
参加資格以外の所有資格	・ ・ ・ ・ ・ ・		
活動地域	（例）○○市○○町		

※　上記の個人情報は，本事業開催に関わる目的のみに使用いたします。

※　申込み締め切りは実施要項を参照してください

【申　込　先】
広島県障害者スポーツ協会事務局
〒739 0036　東広島市西条町田口 295-3 スポーツ交流センター内
TEL（082）426-3333　FAX（082）425-6789
E-mail　hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp

平成２８年度広島県障害者スポーツ協会地域推進事業

広島県内４つの地域で開催

障害者スポーツ体験会

障害のある人に関わりのある人
これから障害のある人に関わりをもつ人
を対象とした指導者向け講習会です

■開 催 日　平成 28 年 11 月 13 日（日）廿日市市スポーツセンターサンチェリー
11 月 23 日（水・祝）福山市障害者体育センター
12 月 17 日（土）庄原市総合体育館
12 月 24 日（土）広島市南区スポーツセンター
■時　　間　13：00～15：30（廿日市市，広島市は 15：00 まで）
※申込みに関する詳細は，各地区開催要項をご覧ください。
■参加資格　広島県内のスポーツ推進委員，総合型地域スポーツクラブ会員，理学療法士，障がい者スポーツ指導員
■申 込 み　所定の申込書に記入の上，下記事務局までご提出ください。

〈実施種目〉

・ボッチャ
・卓球バレー
・風船バレー

【主　催】広島県障害者スポーツ協会
【後　援】広島県　広島県教育委員会　広島県体育協会
【協　力】広島県障がい者スポーツ指導者協議会　スポーツ交流センター

【申込み・お問い合わせ】
広島県障害者スポーツ協会事務局　〒739-0036 東広島市西条町田口 295-3
TEL 082-426-3333　FAX 082-425-6789　Mail hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp

平成 28 年度広島県障害者スポーツ協会
「ひろしまパラスポーツイベント２０１６」開催要項

1　目　　的　パラスポーツ選手との交流やパラリンピック競技種目の体験会等を通して，県民の障害者スポーツへの興味・関心に繋げ，併せて県内の障害者スポーツ選手の発掘や，障害者スポーツの理解および普及・啓発を図ることを目的とする。
2　主　　催　広島県障害者スポーツ協会
3　後　　援　広島県
4　協　　力　広島県障がい者スポーツ指導者協議会，広島大学病院スポーツ医科学センター，株式会社チャレンジドアソウ，シーズアスリート，特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟，一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟，一般社団法人日本ボッチャ協会，ＮＰＯ法人日本車いすフェンシング協会，広島県立障害者リハビリテーションセンタースポーツ交流センター
5　日　　時　平成２８年１２月２３日（金・祝）　１０：００～１７：００
6　会　　場　県立広島大学 広島キャンパス
広島市南区宇品東一丁目１番７１号　TEL（082）251-5178
7　内　　容　・広島県障害者スポーツ協会設立記念挨拶
・リオパラリンピック日本代表選手による講演会
（ゴールボール　浦田　理恵選手）
・パラスポーツ選手によるデモンストレーションと障害者スポーツ体験会
（ゴールボール，ボッチャ，車いすレーサー，パワーリフティング，バドミントン，車いすフェンシング，）
・広島大学病院スポーツ医科学センターによるサポートブース
（高圧酸素カプセル，超音波エコー，心理サポート，高速度カメラ撮影，トレーニング相談）
8　入 場 料　無料
9　申 込 み　不要
10　そ の 他　障害者スポーツ体験会に参加する場合は，室内シューズを持参する。

【お問い合わせ】
広島県障害者スポーツ協会事務局
〒739-0036　東広島市西条町田口 295-3 スポーツ交流センター内
TEL（082）426-3333　FAX（082）425-6789
E-mail　hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp
URL　http://www.hpsa.info/　　（担当：土居・内海・佐々木）

パラスポーツを体験しよう！

障がい者スポーツ

広島で初めての開催となるパラスポーツイベントです。
選手と一緒に楽しさを体験しませんか？

参加無料

とき 2016 12/23 金・祝 10:00～17:00

ところ 県立広島大学 広島キャンパス

車いすレーサー

陸上競技の競技用車いす。最高時速は約50km！！

ボッチャ

リオパラリンピックで日本が銀メダル獲得！赤と青の球を白の球に近づける勝負！

ゴールボール

視覚障害の選手の対戦スポーツ。ボールの音と仲間の声を頼りにゴールを狙おう！

車いすフェンシング

車いすを固定し、上半身のみで競技。剣のコントロールとスピードが勝負のポイント！！

など

講演会 10:30～

「自分らしくキラキラ生きる」

リオパラリンピック
ゴールボール日本代表主将 **浦田 理恵選手**

1977年熊本県生まれ。20歳を過ぎて、急激に視力が低下し「網膜色素変性症」と判明。2008年北京パラリンピック出場。2012年ロンドンパラリンピックにて金メダル獲得。2016年リオパラリンピックでは日本の主将として5位に導いた。

広島県障害者スポーツ協会 設立記念挨拶 10:00～

同時開催 13:00～17:00

広島大学病院スポーツ医科学センター「メディカルサポートブース」

- 高圧酸素カプセル
- 超音波エコー
- 高速度カメラ撮影
- 心理サポート
- トレーニング相談

広島県障害者スポーツ協会

プログラム・アクセスマップ
音声コードはウラ面へ

講演会 10:30～ 講堂

「自分らしくキラキラ生きる」

リオパラリンピックゴールボール日本代表主将 **浦田 理恵**選手

パラスポーツ体験希望者は、室内用シューズをご持参ください。

13:00～ 大競技室

浦田 理恵選手が教える
パラスポ体験会① **ゴールボール**

13:00～ 小競技室

選手が教える
パラスポ体験会② **ボッチャ**

15:00～ 大競技室

選手が教える
パラスポ体験会③ **車いすレーサー**

15:00～ 大競技室

選手が教える
パラスポ体験会④ **バドミントン**

15:00～ 小競技室

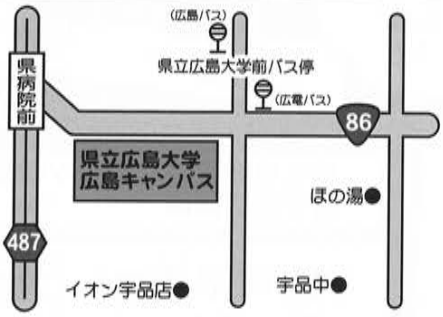
選手が教える
パラスポ体験会⑤ **パワーリフティング**

15:00～ 小競技室

選手が教える
パラスポ体験会⑥ **車いすフェンシング**

13:00～ 大競技室

広島大学病院スポーツ医科学センターによる
最新機器を用いて科学的に分析 **メディカルサポートブース**



【住所】広島市南区宇品東 1-1-71

JR 広島駅から

広島バス 乗車約20分：「JR 広島駅(南口)7 番乗り場」で「31 号線(翠町)」乗車→「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車→徒歩約 3 分

市内電車 乗車約20分：「JR 広島駅(南口)5 号線乗り場」で(広島港(宇品)行き)」乗車→「県病院前」下車→徒歩約 7 分

八丁堀から

広電バス 乗車約20分：「八丁堀バス停(ヤマダ電機前)」で「12 号線(仁保沖町)」に乗車→「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車→徒歩約 1 分

※駐車場は限られた数しかありませんので、公共交通機関をご利用ください。
やむを得ずお車でお越しの場合は、近隣の駐車場をご利用ください。

主催 広島県障害者スポーツ協会 ☎082-426-3333 FAX082-425-6789 **後援** 広島県

協力 広島県障がい者スポーツ指導者協議会、広島大学病院スポーツ医科学センター、株式会社チャレンジドアソウ、シーズアスリート、特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟、一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟、一般社団法人日本ボッチャ協会、NPO 法人日本車いすフェンシング協会、スポーツ交流センター

詳しくはホームページをご覧ください。▶▶ ひろしま パラスポーツ 検索

これは目の不自由な方の音声コードです。

山口県における障害者スポーツの地域推進事業

◆地域障害者スポーツ教室開催事業

◆障害者スポーツ体験教室開催事業

◆障害者交流スポーツ大会開催事業

◆障害者スポーツ指導者養成及び派遣事業

公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

山口県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえるとともに、楽しさ・喜びをもたらし、心身の健全な発達を促し、人々との交流を促進するなど、生涯を通じて幸福で豊かな生活を営む基盤である。そうした中、本県では、「おいでませ！山口国体・山口大会」での成果を継承し発展させつつ、平成25年度に「輝く、夢あふれるスポーツ元気県やまぐち」の実現を目指し「山口県スポーツ推進計画」が策定された。それを受け当協会においても年齢や性別、障害等を問わず、すべての県民が生涯にわたって、それぞれの関心や適性等に応じて身近でスポーツに親しむことができるよう地域や関係団体、学校、行政等と連携、協働し障害者スポーツの推進に努めている。

また、全県域で障害者スポーツ指導者を主体とした地域活動拠点づくりを支援し、連携して活動してきたことで、各地域に障害者スポーツ活動が広がりつつある。しかし、活動の情報が取得できないことや会場までのアクセスの確保が困難なこと、介助者要請に係る費用等でスポーツ活動に参加できない障害者もいるのが現状で、より多くの障害者がスポーツを享受できる環境づくりが今後の課題である。

②事業の目的・ねらい

共生社会の実現に向けて、地域の障害者が自主的、主体的に参加できるスポーツ環境づくりを推進するため、身近な地域で、障害者が気軽にスポーツの楽しさを体験し、障害の有無にかかわらず一緒にスポーツをすることで交流を深めることのできるスポーツ教室やスポーツ大会を開催する。また、障害者スポーツを支える人材を育成し支援するための講習会や相談会を開催する。

③事業実施概要

（1） 地域障害者スポーツ教室開催事業

事　業　名	地域障害者スポーツ教室	
日　　時 場　　所	1. 5月 7 日（土）	高千帆公民館（山陽小野田市）
	2. 5月25日（水）	スポーツ文化センター（山口市）
	3. 6月 7 日（火）	山陽小野田市民会館
	4. 6月26日（日）	周南市学び・交流プラザ
	5. 6月26日（日）	宇部フロンティア大学短期大学部（宇部市）
	6. 7月 1 日（金）	下松市立久保中学校
	7. 7月 7 日（木）	山口ウッドムーンネットワーク（山口市）
	8. 7月31日（日）	山口県身体障害者福祉センター（山口市）
	9. 8月11日（木）	下関市立青年の家
	10. 8月28日（日）	サン・アビリティーズ光（光市）
	11. 9月 1 日（木）	山口ウッドムーンネットワーク（山口市）
	12. 9月 2 日（金）	岩国短期大学（岩国市）
	13. 9月10日（土）	サン・アビリティーズ光（光市）
	14. 9月24日（土）	維新百年記念公園（山口市）
	15. 10月10日（月）	宇部市俵田翁記念体育館

	16．10月10日（月）　ながと総合体育館（長門市） 17．10月16日（日）　ときわ公園（宇部市） 18．10月20日（木）　長門市立明倫小学校 19．11月 6 日（日）　山口短期大学（防府市） 20．11月10日（木）　山口ウッドムーンネットワーク（山口市） 21．11月15日（火）　山口県立下松高校（下松市） 22．11月16日（水）　宇部フロンティア大学短期大学部（宇部市） 23．11月20日（日）　宇部フロンティア大学短期大学部（宇部市） 24．11月27日（日）　下松市勤労者総合福祉センター 25．12月18日（日）　山口県身体障害者福祉センター（山口市）
参　加　者	延べ1，849名
スタッフ	審判員2名、障がい者スポーツ指導員120名（初級86名、中級23名、上級11名）、看護師1名、作業療法士4名、 ボランティア76名、協会職員11名（延べ）
補　助　員	風船バレーチーム「このまちアトーズ」
協　力 連携組織	宇部フロンティア大学短期大学部、岩国短期大学、一般社団法人山口県レクリエーション協会、一般財団法人山口県施設管理財団、有限会社リベルタス興産、山口県車椅子バスケットボール連盟、山口県ボッチャ協会、山口県グラウンド・ゴルフ協会、サン・アビリティーズ光、各市、各市教育委員会、各市社会福祉協議会、山口県、県内小中高校
事業内容	各地域でスポーツ教室を開催 各地域のイベントや学校でスポーツ体験教室を開催 地域の指導者を中心にして企画、運営 ＜種目＞　ボッチャ、風船バレー、卓球バレー、フライングディスク、カローリング、車椅子バスケットボール、シッティングバレー、グラウンド・ゴルフ、スポーツレクリエーション

事業の様子

シッティングバレーの体験教室

車椅子バスケットボールの体験教室

スポーツレクリエーション

カローリング教室

（2） 障害者スポーツ体験教室開催事業

事　業　名	障害者スポーツ体験教室
日　　時	平成 28 年 8 月 10 日（水）　13 時 30 分～15 時 30 分
場　　所	山口県立山口総合支援学校
参　加　者	26 名
スタッフ	講師 1 名、協会職員 2 名
協　　力 連携組織	山口県特別支援学校体育連盟、山口県特別支援学校長会 山口県中学校長会、山口県小学校長会
事業内容	コーディネーション運動教室 支援学校の体育教員を対象にコーディネーショントレーニング講習 ・「コーディネーショントレーニング理論」の講義 ・実技

事業の様子

講義

実技

（3） 障害者交流スポーツ大会開催事業

事　業　名	1. 山口県障害者交流スポーツフェスティバル 2016 2. 山口県サウンドテーブルテニス大会 3. ヨット体験教室 4. 山口県障害者ボウリングフェスティバル

日　　時	1.平成 28 年 6 月 18 日（土）　9 時 00 分～16 時 00 分 2.平成 28 年 6 月 26 日（日）　9 時 00 分～15 時 30 分 3.平成 28 年 8 月 24 日（水）　9 時 00 分～12 時 00 分 4.平成 28 年 12 月 4 日（日）　9 時 30 分～15 時 00 分
場　　所	1.維新百年記念公園スポーツ文化センター（山口市） 2.山口県身体障害者福祉センター（山口市） 3.山口県スポーツ交流村（光市） 4.小郡スーパーボウル（山口市）
参 加 者	延べ 400 名（1.224 名、2.37 名、3.19 名、4.120 名）
スタッフ	審判員 34 名、障がい者スポーツ指導員 36 名（初級 25 名、中級 7 名、上級 4 名）、看護師 3 名、理学療法士 1 名、ボランティア 51 名、手話通訳者 4 名、講師 5 名、職員 21 名（延べ）
協力 連携組織	NPO 法人日本車いすフェンシング協会、山口県卓球バレー協会、山口県障害者卓球協会、山口県卓球協会、山口県サウンドテーブルテニス協会、公益社団法人山口県セーリング連盟、山口県障害者ボウリング協会、山口県ボウリング連盟、一般財団法人山口県施設管理財団、山口県スポーツ交流村、山口県、山口県教育委員会、山口県特別支援学校長会、一般社団法人山口県身体障害者団体連合会、山口県障害福祉サービス協議会、山口県身体障害者施設協議会、山口県精神障害者福祉会連合会、一般財団法人山口県手をつなぐ育成会、一般財団法人山口県知的障害者福祉協会、山口県障害者社会参加推進センター
事業内容	1.車いすフェンシングのデモンストレーションと体験 風船バレー、卓球バレー、卓球の交流体験会 風船バレー、卓球バレー、卓球の競技大会 2.視覚障害者を対象としたサウンドテーブルテニスの競技大会 3.ヨット（アクセスディンギー）体験 クルーザー、モーターボート体験 4.知的障害者を対象としたボウリングの競技大会 全障害を対象としたボウリングの交流大会

本事業の様子

車いすフェンシングのデモンストレーション

風船バレー、卓球バレーの交流体験会

卓球大会

ＳＴＴ大会の開会式

ヨット教室

ボウリングフェスティバル

（４） 障害者スポーツ指導者養成及び派遣事業

事　業　名	1. 山口県障害者スポーツボランティア養成講習会 2. 障害者スポーツ支援相談会
日　　時	1. 平成 28 年 11 月 12 日（土）　 9 時 30 分～16 時 30 分 2. 平成 29 年 1 月 15 日（日）　13 時 30 分～16 時 30 分
場　　所	1. 山口県身体障害者福祉センター（山口市） 2. 山口県教育会館（山口市）
参　加　者	48 名（ボランティア養成講習会 23 名、支援相談会 25 名）
スタッフ	講師 2 名、医科学委員 8 名、トレーナー3 名、協会職員 10 名（延べ）
補　助　員	初級障がい者スポーツ指導員 5 名 卓球バレーチーム「るりがくえん」、ボッチャチーム「アスライフ」
協　　力 連携組織	山口県、山口市、山口市教育委員会、山口市社会福祉協議会、山口市スポーツ推進委員会、山口県障害者スポーツ医・科学サポート活用推進委員会
事業内容	1.「障害のある人々のスポーツ」の講義 「ボランティア論」の講義 障害者スポーツの体験（卓球バレー、レクリエーションボッチャ） 障害者スポーツの冊子作成 2. 医科学委員から筋力トレーニング法と障害者スポーツ指導の情報提供 理学療法士からいわて大会の帯同報告 FID バスケットチームのトレーナーから支援の実際の報告 質疑応答

事業の様子

ボランティア養成講習会の
障害者スポーツ体験（ボッチャ）

障害者スポーツ支援相談会

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

障がい者スポーツ指導者は、地域のスポーツ教室では、企画から資料の作成や運営まで行い、継続的に活動している。スポーツ大会では、プログラム編成会議に参加し選手の組み合わせを決め、大会当日は審判から障害者の介助まで幅広く運営スタッフとして活躍している。審判員資格を取得する指導者も増えている。講習会では、講師や補助員として協力している。

活動している指導者は限られているが、スポーツ教室や大会を運営する上では欠かせない存在となっている。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

連携団体には、これまでも事業の周知で協力していただいていた。

競技団体には審判をお願いしていた。

指導者協議会とは今年は年度初めに協議の場を設けることができた。今後も緊密な連携を取りながら事業を進めていきたい。

（2）実際の事業での役割分担

施設の利用、当日の講師や運営スタッフ、事業の周知等で協力していただいた。

競技団体からは審判員の派遣と当日の運営を協力していただいた。

（3）事業後の関係性の変化

連携団体から、事業の周知の協力だけでなく、スポーツ教室や大会、講習会を協力して開催したいという申し出があった。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

リオパラリンピックの影響もあってか、地域のスポーツ教室等でボッチャを行う回数が増え、協会のボッチャボールが不足したため購入した。同日にスポーツ教室が開催されてもボッチャを行うことができた。

ボウリング大会で使用する投球補助具を購入した。重度障害者の参加が増えたことで投球補助具が必要となった。

卓球の球、STT の球、風船バレーの風船を購入し、スポーツフェスティバルを開催した。スタッフを含め総勢 313 名の大会であったが対応できた。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

スポーツ用具は当協会で管理している。申請があれば貸し出しも行い、障害者スポーツの普及に役立っている。年間を通して、障害者施設や学校等が貸し出しを利用してボッチャ等を楽しんでいる。今後も用具の貸し出しについて広報し、活用していきたい。

⑦事業の成果および評価（達成度）

地域障害者スポーツ教室においては、ここ数年の継続した取り組みの成果もあり地域の組織づくりができ、障害者スポーツ指導者が自主的に会議を行い、スポーツ教室を開催している地域が増えてきた。また地域によっては、障害者スポーツ指導者が行政等と連携を取りながら行政主催のイベント等で障害者スポーツ教室を開催し積極的に活動を行っている。

スポーツフェスティバルにおいては、今年度初めての試みであったが、障害者と健常者がともに楽しみ、交流し、理解を深めた。アンケート結果でも、「次回も参加したい」が 96%であった。また、車いすフェンシングのデモンストレーションと体験も高い関心を集めていた。

ボランティア養成講習会においては、障害者とともにスポーツを体験したことで、障害者スポーツを支えることに興味を持ち、協会主催のスポーツ大会にボランティアとして参加した者もいた。数名ではあるが人材育成の成果である。今後に繋げたい。

スポーツ支援相談会においては、障害者スポーツ指導者を対象に情報交換を行い、医科学の専門家が質問に答えることで課題解決の糸口となり、障害者スポーツ指導者の資質向上に役立った。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

共生社会の実現に向けて、障害者スポーツの推進に取り組んでいるが、一朝一夕に進んでいくものではないので、指導者や関係団体等と意見交換をしながら事業を根気強く継続していくことが大切である。

地域障害者スポーツ教室においては、地域ごとの取り組みの差があるため、他地域との情報交換の場が必要に思われる。

障害者スポーツ体験教室においては、支援学校との調整が難しく、実施回数が減ってしまった。今後は支援学校だけでなく支援学級にも対象を広げて周知したい。

障害者交流スポーツ大会においては、参加希望者が増えてきたことにより、大会スタッフも増やしていかなければならず、指導者やボランティア等の人材確保には引き続き取り組みたい。

障害者スポーツ指導者養成においては、現在、東京パラリンピック開催に向けて障害者スポーツへの関心が高まっているので、人材の養成や資質の向上に努めたい。

⑨おわりに

（1）所感

障害者が身近な地域でスポーツに参加できる環境づくりに取り組んできたことにより、スポーツ活動の場が増え、参加者も増え、スポーツ用具が不足気味であったが、用具を購入することで事業が展開できた。

また、スポーツフェスティバル等のスポーツ大会では、大学生のボランティアが多く参加し、障害者と交流し、共に楽しむことができた。継続的な活動に繋げていくことで、次世代

の人材を確保していきたい。

地域障害者スポーツ教室の参加者が、障害者スポーツに興味を持ち、ボランティア養成講習会に参加したり、ボランティア養成講習会を受講した大学講師が、次年度の初級障がい者養成講習会を自身の大学で開催したいという申し出があったりと、各々の事業が連携しながら人材育成に繋がった。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・各地域の障害者スポーツ指導者が企画会議、関係団体との連携、参加者の募集等で主体的に活動した。
・スポーツ大会の運営補助として学生ボランティアを広く募集し、人材を確保した。
・講習会では参加者が障害者選手と一緒にスポーツをすることで理解を深めた。
・投球補助具を購入することで、重度障害者もボウリングを楽しめた。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

・スポーツ活動の回数を重ねることで、連携団体との繋がりが深まり、協力体制が確立してきた。
・地域のスポーツ教室に障害者スポーツ競技団体や選手の参加が増え、障害者スポーツへの理解が深まった。
・各地域でスポーツ推進委員の協力が得られるようになり、スポーツ推進委員 10 名が今年度の初級障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講した。

⑩資料

開催要項、参加申込書、チラシ、記録写真、新聞記事、アンケート結果など

平成２８年度　山口県障害者スポーツボランティア養成講習会開催要項

1. 目　的
　障害者スポーツ活動を行う上で、障害者及び障害者スポーツを支えることのできるボランティアを養成することを目的とする。

2. 主　催　　山口県　　公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

3. 後　援　　山口市　山口市教育委員会　山口市社会福祉協議会
　　山口市スポーツ推進委員協議会

4. 協　力　　山口県障がい者スポーツ指導者協議会

5. 開 催 日　平成２８年１１月１２日（土）　9:30　～　16:30

6. 開催場所
　山口県身体障害者福祉センター（山口市八幡馬場 36-1）　　TEL　083-925-2345

7. 募集定員　４０名程度

8. 参加資格　高校生以上

9. 講習内容　　午前　講義
　　午後　実技
日　程　表　　（都合により内容が変更する場合があります。）

時　間	内　容
9:30～ 9:50	受　付
9:50～10:00	開　講　式
10:00～11:00	講　義　「障害のある人々のスポーツ」
11:10～12:10	講　義　「ボランティア論」
12:10～13:00	昼 食 ・ 休 憩
13:00～16:00	実　技　＊　障害者スポーツの体験 （卓球バレー、レクリエーションボッチャ）
16:00～	閉　講　式

10. 参 加 費
　無　料　　＜但し、参加に係る経費（交通費等）は、参加者負担とします。＞

11. 申し込み
　別紙申込書に必要事項を記入の上、**平成２８年　１０月２８日（金）まで**に、郵送又はＦＡＸ、メールで下記事務局までお申込みください。
（申込書はＨＰからダウンロードできます。）
URL http://syospo-yamaguchi.jp　メールアドレス：webmaster@syospo-yamaguchi.jp

12. 参加上の注意
①　必ず運動のできる服装で参加すること。(体育館シューズを持参してください)
②　講習中の事故に対しては、主催者側で応急処置はするが、その責任は負わない。
③　参加者には全員、主催者にて傷害保険に加入する。

13. その他
①　受講についての詳細は、**平成２８年　１１月４日（金）まで**にご案内します。
②　講習会修了後、スポーツボランティア証明証を発行します。

事務局（申し込み先）
公益社団法人山口県障害者スポーツ協会　　（担当者：大西　真紀）
〒753-0072　山口市大手町９－６　山口県社会福祉会館内
TEL　083-901-4065　　FAX　083-901-4064
E-mail：webmaster@syospo-yamaguchi.jp

平成２８年度障害者スポーツ支援相談会開催要項

公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

1　趣旨
　全国障害者スポーツ大会等の競技力向上に携わる指導者等に対して、スポーツ医・科学サポートの情報や強化の指導事例等の情報共有を行うことにより、指導のヒントや課題解決に資するために相談会を実施する。

2　相談会の概要
- 強化の事例発表（競技力向上のための工夫や生活指導等の事例発表）
- 強化の情報提供（コンディショニングや栄養指導等の情報提供）
- 選手や選手団への支援（山口県やスポーツ協会から）
- 質疑や協議、その他

3　日時　平成２９年1月１５日（日）１３時３０分から１６時３０分まで

4　場所　山口県教育会館　５階　第一研修室
〒753-0072 山口県山口市大手町２-１８　（TEL: 083-922-5766）

5　日程（概要）
(1)　開会
(2)　事例発表　　団体競技から
(3)　情報提供Ⅰ　　諸種のトレーニングや栄養指導（関節可動域の拡大、柔軟性や筋協調性の向上、栄養指導、生活習慣の改善等）の事例から
(4)　情報提供Ⅱ　　支援（練習環境、活動支援、相談等）の実際について
(5)　質疑、協議

6　参加予定者
(1)　全国障害者スポーツ大会及び県内の競技大会等で指導や支援に関わっているスタッフ
(2)　山口県障害者スポーツ協会の「障害者スポーツ医・科学サポート活用委員会」の各委員
(3)　障害者スポーツの個人競技及び団体競技の指導者や支援者
(4)　山口県障害者スポーツ協会「障害者スポーツ人材バンク」に登録している者
(5)　山口県障害者スポーツ協会会員（正社員）の所属者
(6)　障害者スポーツの指導に関心をもつ学校、施設、医療関係者等の職員
(7)　障害者スポーツ協会が参加を認めた者

※　問合せ先：公益社団法人山口県障害者スポーツ協会（担当者：西村直記）
TEL:083-901-4065　FAX:083-901-4064
E-mail:webmaster@syospo-yamaguchi.jp

山口県障害者交流スポーツフェスティバル 2016　開催要項

1．目　的
　障害の有無に関わらず、一緒にスポーツをすることで健常者と障害者の交流を深めるとともに、障害者スポーツの普及発展に資することを目的とする。

2．主　催
一般財団法人山口県施設管理財団、公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

3．主　管
山口県卓球バレー協会、山口県障害者卓球協会、その他関係競技団体

4．後　援
山口県　山口県教育委員会　一般社団法人山口県身体障害者団体連合会
山口県障害福祉サービス協議会　山口県身体障害者施設協議会　山口県精神障害者福祉会連合会
一般財団法人山口県手をつなぐ育成会　一般財団法人山口県知的障害者福祉協会

5. 開催日時等
平成 28 年 6 月 18 日（土）　9:15～16:00（予定）（受付：8:30～）
開　会　式　　9:15
①卓　球
予選リーグ　　9:30～11:30
体験コーナー　　11:45～13:30　車椅子フェンシング、車椅子卓球、風船バレー、卓球バレーの体験
決勝トーナメント　13:40～15:30
表彰・閉会式　　15:45～
なお、競技日程はプログラム編成後、決定する
②風船バレー・③卓球バレー
交流タイム　　9:30～11:30　健常者が、障害者と一緒に②・③の競技を体験する
体験コーナー　　11:45～13:30　車椅子フェンシング、車椅子卓球の体験
競技タイム　　13:40～15:30　②・③それぞれの障害者チームが、トーナメント形式で競う
表彰・閉会式　　15:45～
なお、競技日程はプログラム編成後、決定する

6．実施競技・募集人数・開催場所
・卓球　　個人８０名以内　　スポーツ文化センターレクチャー
・風船バレー　16 チーム以内　　スポーツ文化センターアリーナ
・卓球バレー　16 チーム以内　　スポーツ文化センターアリーナ
※各競技における募集人数は、応募人数の状況に応じて、大会事務局の判断により出場制限を設ける場合がある。

7．参加資格
（1）健常者の場合、卓球は「競技の部（男子）（女子）」のみ参加可能、風船バレー・卓球バレーは交流タイムに参加可能とする。体験コーナーは障害の有無に関わらず参加可能とする。
ただし、卓球に参加する健常者は、上級者クラス（A クラス）以外の者とする。
（2）障害者の場合は、卓球は「楽しむ部（初心者の部）」「競技の部（男子）（女子）」「車椅子の部」に参加可能。風船バレー・卓球バレーは「交流タイム」は必ず参加、「競技タイム」は希望者（チーム）とする。
（3）身体障害者は、身体障害者手帳の交付を受けた者。知的障害者は、療育手帳の交付を受けた者、若しくはその取得の対象に準ずる障害のある者。精神障害者は、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者、若しくはその取得の対象に準ずる障害のある者。
（4）競技に支障のある疾患を有しない者。

8．参加費
①卓球：500 円/人　　各組１位表彰あり。
②風船バレー・③卓球バレー：交流タイムのみ参加：無料　交流タイムの表彰はなし。
競技タイム参加：１チーム 3,000 円　同一施設による２チーム目以降は 2,000 円
個人参加 500 円/人　競技タイムは１位表彰あり。

9．競技規則
本大会の競技規則は「山口県障害者交流スポーツフェスティバル 2016 競技規則」※によるものとする。
※卓球、風船バレー、卓球バレー各競技団体ごとに作成し、参加者・チームに参加案内とともに配付する。また、(公社)山口県障害者スポーツ協会 HP に載せるものとする。

10．参加申込み　他
（1）出場申込に当たっては、各競技の参加申込書に必要事項を記入の上、**平成 28 年 5 月 20 日（金）**までに「公益社団法人山口県障害者スポーツ協会」へ申し込むこと。
（2）会場までの移動は、参加者の責任にて行う。
（3）参加者は運動のできる服装、上靴で参加し、タオル、飲み物等の必要なものは各自で用意する。
（4）主催者において傷害保険に一括加入し、活動中の事故については応急処置まで行う。
（5）大会当日は、会場内で報道関係者が撮影を行うことがあり、この場合、個人の写真・映像が、新聞・テレビ等に出るほか、事務局が作成する広報誌、ホームページの記事に使用されることがある。参加申込みを行ったものは、この点について了解したものとみなす。

11．申込先
公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
〒753-0072　山口市大手町９－６－４F　TEL:083-901-4065　FAX:083-901-4064
e-mail　webmaster@syospo-yamaguchi.jp　　http://syospo-yamaguchi.jp

12．大会事務局（問合せ先）
・維新百年記念公園　一般財団法人山口県施設管理財団
〒753-0815　山口市維新公園 4-1-1　TEL:083-922-3712　FAX:083-928-3374
e-mail　info@ishin100.com　　http://www.ishin100.com

・公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
〒753-0072　山口市大手町９－６－４F　TEL:083-901-4065　FAX:083-901-4064
e-mail　webmaster@syospo-yamaguchi.jp　　http://syospo-yamaguchi.jp

愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業

◆障がい者サイクリング大会（しまなみ海道と島四国めぐり）

◆障がい者ハンドサイクル等体験会

◆障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）

◆障がい者スポーツ競技理解体験会（ボランティアスタッフ等）

愛媛県障がい者スポーツ協会

愛媛県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

本県では、平成23年3月に「愛媛県スポーツ振興計画（後期)」が策定され、子どもから高齢者・障がい者まで地域住民誰もが、身近に好きなスポーツを気軽に楽しむことができるよう地域に根ざしたスポーツの振興を図ることとしている。また、平成29年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会への理解と認識を積極的に推進していく必要がある。このため、今回、誰もが身近にできる障がい者スポーツを楽しむ体験事業と全国障害者スポーツ大会の普及啓発のための事業を企画した。

②実施目的・ねらい

平成29年に本県で全国障害者スポーツ大会が開催されることとなっており、全国障害者スポーツ大会の啓発と障がい者の心身の健康増進や社会参加に対する理解が得られるよう「愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業」を実施する。

③事業実施概要

（1）障がい者サイクリング大会(しまなみ海道と島四国めぐり)

事　業　名	愛媛県障がい者サイクリング大会(しまなみ海道と島四国めぐり)
日　　時	平成28年10月2日(日)　9時30分～14時30分
場　　所	しまなみ海道(サンライズ糸山～大島よしうみバラ公園間　約20㌔)
参　加　者	104名(障がい者45名、協力者59名)
協　　力 (連携組織)	NONちゃん倶楽部、愛媛県庁サイクリングチーム、今治市役所サイクリングクラブ、EBCサイクリング部、愛媛県庁障がい福祉課、愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会
事業内容	○日頃自転車に乗る機会の少ない障がい者と共に、しまなみ海道、世界初3連吊り橋の来島海峡大橋をサイクリングする。 ・6班に分かれ、一人乗り自転車・二人乗り(タンデム)自転車・ハンドサイクルで約20㌔の距離をサイクリング ・島四国めぐり

事業の様子

一人乗り自転車の様子

ハンドサイクルの様子

二人乗り(タンデム)自転車の様子

昼食の様子(バラ公園にて)

島四国めぐりの様子

集合写真

（2）障がい者ハンドサイクル等体験会

事　業　名	愛媛県障がい者ハンドサイクル等体験会
日　　時	平成 28 年 9 月 3 日(土)　13 時 30 分～16 時
場　　所	愛媛県身体障がい者福祉センター運動場
参　加　者	23 名(障がい者 15 名、協力者 8 名)
協　　力 (連携組織)	NON ちゃん倶楽部、愛媛県庁障がい福祉課、愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会
事 業 内 容	○日頃ハンドサイクルに接する機会の少ない障がい者にハンドサイクルやハンドバイクの試乗体験を行う。 ・試乗方法について ・試乗体験

事業の様子

試乗方法について

ハンドバイク

ハンドサイクル試乗体験の様子

（３）障がい者スポーツ紹介事業(体験会)

事　業　名	障がい者スポーツ紹介事業(体験会)～障がい者スポーツの魅力!お伝えします!!～
日 時・場 所	①平成 28 年 7 月 22 日(金)10 時～12 時・愛媛県身体障がい者福祉センター ②平成 28 年 8 月 28 日(日)13 時～15 時・宇和島市障害者福祉センター(むつみ荘) ③平成 28 年 9 月 21 日(水)13 時 30 分～15 時・四国中央市三島運動公園体育館 ④平成 28 年 10 月 17 日(月)13 時 20 分～15 時 10 分・八幡浜市立双岩中学校 ⑤平成 28 年 11 月 21 日(月) 9 時 30 分～11 時 30 分・松山市立雄郡小学校 ⑥平成 28 年 12 月 8 日(木)13 時 30 分～15 時・四国中央市三島運動公園体育館 ⑦平成 28 年 12 月 10 日(土)14 時～16 時・上島町弓削体育館 ⑧平成 29 年 1 月 17 日(火)10 時～12 時・愛媛県立しげのぶ特別支援学校
参　加　者	①20 名(障がい者 12 名、その他 8 名)②20 名(障がい者 10 名、その他 10 名) ③24 名(障がい者 18 名、その他 6 名)④40 名 (中学生全校生徒) ⑤83 名(小学 4 年生)⑥31 名(障がい者 25 名、その他 6 名) ⑦30 名(障がい者 6 名、その他 24 名)⑧47 名(障がい者 23 名、その他 24 名)
協　　力 (連携組織)	香川県ボッチャ協会、愛媛県障害者フライングディスク協会、愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会
事 業 内 容	・体験会希望の各市町や学校等で障がい者スポーツ体験会を開催。 (今年度実施種目：ボッチャ、フライングディスク、ディスコン、グランドゴルフ) 各体験会希望団体と、体験種目(全国障害者スポーツ大会関係種目)・日程等を調整し、各競技団体・協力団体を派遣し事業を実施。

事業の様子

①ボッチャ

②フライングディスク

③ボッチャ、ディスコン

④フライングディスク

⑤フライングディスク

⑥ボッチャ、グランドゴルフ、ディスコン

⑦フライングディスク

⑧ボッチャ

（4）障がい者スポーツ競技理解体験会

事　業　名	障がい者スポーツ競技理解体験会
日　　時	平成 28 年 12 月 3 日(土)　10 時～17 時
場　　所	愛媛県身体障がい者福祉センター
参　加　者	90 名
協　　力 (連携組織)	愛媛県、愛媛県教育委員会、公益財団法人愛媛県体育協会、愛媛県身体障害者団体連合会、愛媛県手をつなぐ育成会、愛媛県知的障害者福祉協会、愛媛県精神障害者福祉会連合会、愛媛県視覚障害者協会、愛媛県聴覚障害者協会、愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会、愛媛県フライングディスク協会
事業内容	○平成 29 年に本県で開催する『第 17 回全国障害者スポーツ大会』実施に際し、運営協力してもらう大学生、専門学校生、教職員等に対し、障がい者スポーツを体験してもらい、障がい者スポーツへの理解とスタッフとしての関わり方等を学んでいただく。また、大会終了後も継続的な支援体制を図るため、愛媛県障がい者サポートバンクの説明も行い、積極的にサポーター登録していただいた。 ・全国障害者スポーツ大会に向けて ・手話体験 ・障がい者スポーツ体験(フライングディスク、スラローム、ボッチャ、サウンドテーブルテニス) ・応援メッセージの作成

事業の様子

全国障害者スポーツ大会に向けて

手話体験の様子

フライングディスク体験の様子

スラローム体験の様子

ボッチャ体験の様子

サウンドテーブルテニス体験の様子

応援メッセージ作成の様子

④障がい者スポーツ指導者の活動・役割

本県では、障がい者スポーツ協会が発足間もないことから、障がい者スポーツ指導員の役割は大きく、事業の企画・運営・検討等、常に連携して事業を実施している。特にサイクリング大会においては、パイロットとしての役割は勿論、カメラマンやDVD編集係、事前準備等で幅広く協力いただいた。その他の事業にも積極的に協力いただき、事業を実施する際には障がい者スポーツ指導者と障がい者スポーツ協会との継続した連携の大切さを改めて感じた。

⑤連携について

(1) 事業前の関係性

NONちゃん倶楽部、県庁サイクリングチーム、愛媛銀行サイクリングチームEBCサイクリング部等とは、この事業を実施するまで関係性はなったが、初めて連絡をとることとなった。

(2) 新たな連携

競技団体との連携や障がい者スポーツ指導員との連携がほとんどであったが、本県では、28年度からサポートバンクへの登録制度を実施しており、トレーニングサポータやリーダーサポーターとして体験会の実施や、イベント時の会場設営や運営等の実施協力をお願いしている。また、この事業ではないが、日本障がい者スポーツ協会の委託事業として今年度実施したフェスティバル事業において、障がい者スポーツをする人たちの口腔ケア等の面で新たに歯科医師会と連携が図られた。今後もいろいろな関係団体と連携を図っていきたい。

⑥スポーツ用具について

(1) 購入した備品の活用について

今まで、ボッチャ用具については古いものしかなかったため、スポーツ教室や体験会等も実施できなかったが、今回ボッチャ用具等を購入したが、リオデジャネイロパラリンピックでのボッチャの日本選手の活躍等もあり、障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）で4回、ボッチャの体験会を実施することができた。

(2) 今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会にて適正に保管し、担当職員が定期的にメンテナンスを行う。また、他の施設等から借用希望があった際には、適切に対応していきたい。今後も継続的に事業を実施していけるよう工夫していきたい。

⑦成果及び評価

(1) 愛媛県障がい者ハンドサイクル等体験会及び愛媛県障がい者サイクリング大会開催事業

日頃、外へ出る機会が少ない障がい者で、自転車は初体験の障がい者も多く、ハンドサイクルやハンドバイク、タンデム自転車等でサイクリングを楽しむことができたことは、有意義であった。障がい者の人たちも十分満足した様子で「来島海峡大橋を自転車で初めて走ることができて、爽快だった。来年は違う場所を走りたい。」「来年はいつ実施するんですか。」等の声も多数あり、思い出に残る大変貴重な体験ができた。本県では、県を挙げてサイクリングを積極的に取り組んでいることもあり、協力していただいた県庁サイクリングチームや愛媛銀行サイクリングチーム等との連携が図られ、「是非、来年も実施しましょう。」という声も多く聞かれた。29年度からは、県予算によりパラサイクリングの支援者養成研修等を加え、内容を更に充実して実施することとなった。

(2) 愛媛県障がい者スポーツ紹介事業

26年度からこの事業を実施しているが､2年間はフライングディスクの希望だけであったが、今年度は、フライングディスクに加え、ボッチャ、ディスコン、グランドゴルフ等の競技希望もあり、希望種目も多岐にわたってきている。また、体験会希望地域も広がりつつあり、今後も内容を充実して実施していきたいと考えている。

(3) 障がい者スポーツ競技理解体験会（ボランティアスタッフ等）

この事業は、28 年度のみの事業で、29 年の全国障害者スポーツ大会で協力していただく予定のボランティアスタッフ等を対象に、障がい者スポーツを体験してもらうことで、障がい者スポーツへの理解とスタッフとしての関わり方を学んでいただくことを目的に実施した。また、併せて参加者には大会終了後も継続的な支援体制を図るため、愛媛県障がい者サポートバンクの説明も行い、積極的にサポーター登録をしていただいた。今後もいろいろな機会に協力を得られる体制づくりもできた。競技理解体験会では参加者も積極的に学んでいただき、目的を十分に果たしたと考えている。

⑧今後の課題

(1) 愛媛県障がい者ハンドサイクル等体験会及び愛媛県障がい者サイクリング大会開催事業

29年度以降は県予算で実施するが、実施に際し、多くのスタッフの応援等が不可欠で、応援者の人員の確保が必要である。また、県内ではタンデム自転車の台数に限りがあり、これ以上の参加者への対応等を検討する必要がある。

(2) 愛媛県障がい者スポーツ紹介事業

障がい者スポーツの普及啓発に努めており、全国障害者スポーツ大会への理解は、ある程度得られたと思われるが、より一層の普及啓発に努める必要性を感じた。今後、愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会や関係機関と連携し、いろいろな競技を実施し、障がい者スポーツの普及啓発に努めていきたい。また、県内の市町とも連携し、イベント等開催時には、障がい者スポーツの普及啓発を進めていきたい。

⑨おわりに

・その他所感、特記事項等

平成29年の全国障害者スポーツ大会開催を契機として、平成25年4月に愛媛県障がい者スポーツ協会が発足し、自主事業を主催することで、愛媛県障がい者スポーツ協会の存在意義も、少しずつではあるが、示すことができたのではないかと思う。

・事業を継続した成果・変化

本県では、全国障害者スポーツ大会が実施されることもあり、県下全域、障がい者スポーツに対する理解が得やすい環境になっているが、この時期に「愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業」を継続して実施することにより、より関係機関・各種団体等の理解や協力も得られやすくなってきている。今後も、この状況を継続・拡充していくことが重要であると考えている。

今後も機会を捉え、いろいろな事業を企画し、障がい者スポーツの普及に努め裾野の拡大に努めて参りたい。

愛媛県障がい者サイクリング大会開催要項
（しまなみ海道と島四国めぐり）

1 目的　　障がい者が瀬戸内しまなみ海道、世界初3連吊り橋の来島海峡大橋を爽快に走り、島四国めぐりを行いながらサイクリングするとともに、健康増進と交流を深め、障がい者スポーツの振興を図ることを目的とする。
2 主催　愛媛県障がい者スポーツ協会
3 協力　NONちゃん倶楽部 ・愛媛県庁サイクリングチーム
伊予銀行サイクリングクラブ・愛媛銀行サイクリングクラブ
今治市役所サイクリングクラブ・EBC サイクリング部
愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会
4 日時・場所　平成28年10月2日（日） 9:00～15:00
しまなみ海道・来島海峡大橋
5 集合場所　今治市サンライズ糸山（松山から送迎車を運行）
6 参加募集人員　40名程度 （自転車に乗車可能で20㎞走行可能な障がい者）
7 参加費　1000円（昼食代及び保険代）
8 申し込み先　〒790－0843 松山市道後町2丁目12番11号
愛媛県障がい者スポーツ協会　電話 089－924－2101
FAX 089－923－3717
メール syo-supo@ehime-swc.or.jp
9 申込締切　平成28年8月19日（金）
10 実施方法　①1人乗り自転車の部
②2人乗り（タンデム）自転車の部
（前の座席は前乗り経験のあるパイロットが運転します。）
③ハンドサイクルの部
11 コース　サンライズ糸山 ～ 来島海峡大橋 ～ 島四国めぐり ～ よしうみパラ公園（昼食）
9:00集合　12:00～12:50
～よしうみいきいき館 ～ 来島海峡大橋 ～ サンライズ糸山
13:20～13:50　14:30
12 送迎　・7：30愛媛県身体障がい者福祉センターに集合。貸切バスにて
今治市サンライズ糸山に移動。（JR松山駅、JR今治駅でも乗車可）
・15：00閉会後貸切バスにて17：00頃松山着
・希望する個人所有の自転車は松山から今治までトラックで搬送します。
13 その他　①貸自転車及びタンデム車（二人乗り自転車）及びヘルメットは主催者が用意 しますが、台数、種類及びサイズには限りがあります。（希望の車種、サイズをご記入ください）
②タンデム車の前乗りパイロットは経験のあるスタッフが行います。
③ハンドサイクルの貸し出しはありません。
④大会中の万一の事故については、主催者の加入する傷害保険の範囲内での保障となる旨ご了承ください。
⑤盲導犬を連れて参加される方、手話通訳者、要約筆記者の必要な方は、申し込みの際にお知らせください。
⑥小雨決行です。
⑦動きやすい服装（裾が広がらないズボン等）運動靴、手袋（軍手等）をご用意ください。
⑧参加決定の可否は、申込期間終了後に連絡します。
⑨走行中は必ずヘルメットを着用してください。
⑩ポロシャツは、他の団体と判別できるよう、そろいのポロシャツを準備しますので、サイズをご記入ください。
⑪レースではなく、サイクリングを楽しむ走行イベントです。

愛媛県障がい者サイクリング大会参加申込用紙

ふりがな 氏　名		性別	男・女	年齢	歳	障がい名	
住　所	〒			電話・携帯番号			
ふりがな 同行者氏名		性別	男・女	年齢	歳	携帯番号	
レンタル自転車希望	有 ・ 無						
※レンタル自転車希望の方のみ記入してください。 ・希望車種 クロスバイク・ママチャリ・その他（　　）　・サイズ 子供用・大人用（　　インチ程度）							
タンデム自転車希望	有 ・ 無						
ポロシャツのサイズ希望	S ・ M ・ L ・ LL その他（　　）						
送迎希望	有 ・ 無	自転車搬送サービスの利用			有 ・ 無		
バス乗降希望場所	身障センター ・ JR松山駅 ・ JR今治駅						
盲導犬を連れて参加希望	有 ・ 無	手話通訳希望			有 ・ 無		

※ 同行者も参加申込書を提出してください。

愛媛県障がい者ハンドサイクル等体験会開催要項

1 目 的　　日頃、ハンドサイクル等に乗る機会が少ない方々を対象に、体験会を開催することで、風をきる喜びを体感し自立と健康増進を図り、県内ハンドサイクル愛好者の増加と生涯スポーツとして、障がい者スポーツの振興を図ることを目的とする。
2 主 催　愛媛県障がい者スポーツ協会
3 協 力　NONちゃん倶楽部、
県庁サイクリングクラブ
愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会
4 日時・場所　平成28年9月3日（土） 13:00～16:00
愛媛県身体障がい者福祉センター運動場
（雨天時は身体障がい者福祉センター体育館）
5 参加募集人員　障がい者20名程度
6 参加費　無料
7 申し込み先　〒790－0843 松山市道後町2丁目12番11号
愛媛県障がい者スポーツ協会　電話 089－924－2101
FAX 089－923－3717
メール syo-supo@ehime-swc.or.jp
8 申込締切　平成28年8月22日（月）
9 実施方法　ハンドサイクル・ハンドバイク・車いす対応自転車の試乗体験を行います。
10 その他　①動きやすい服装と運動靴、手袋（軍手等）をご用意ください。
②開催中の万一の事故については、主催者の加入する傷害保険の範囲内での保障となる旨ご了承ください。

障がい者ハンドサイクル等体験会参加申込用紙

ふりがな 氏　名		性別	男・女	年齢	歳
住　所	〒				
電話番号					
携帯番号					
障 害 名					

障がい者スポーツ紹介事業（体験会）
～障がい者スポーツの魅力！お伝えします！！～

1 目 的
1年後に愛媛県で開催される『第17回全国障害者スポーツ大会 ～ 愛顔（えがお）つなぐえひめ大会 ～ 』の成功に向け、住民の参加機運を高めるとともに、障がい者スポーツの振興を深めることを目的に普及啓発紹介事業（体験会）を開催する。

2 主 催
愛媛県障がい者スポーツ協会

3 協 力 （予定）
愛媛県、愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会、愛媛県障害者フライングディスク協会等

4 日 程
平成28年7月～平成29年1月の間で、実施希望団体と日程調整後実施する。

5 会 場
各市町や学校等の体育館やグラウンドにおいて実施する。

6 概 要 【障がい者スポーツ体験会】
・実施方法：各市町や学校等へ愛媛県障がい者スポーツ協会職員等を派遣して体験会を実施する。体験種目、日程等は実施希望団体と協議して決定しますが、全国障害者スポーツ大会関係競技を中心に実施する。

（実施競技の例）
体験会①：ス ラ ロ ー ム 競 技 ～ いざ、タイムトライアル ！～
体験会②：フ ラ イ ン グ デ ィ ス ク ～ アキュラシー5にチャレンジ！ ～
体験会③：車椅子バスケットボール ～ フリースロー&ドリブルシュートに挑戦 ～
体験会④：ボッチャ競技 ～目標の白いボールに向かって転がそう！ ～
・参加者 ： 1会場 20～40 人程度（体験会に参加できる障がい者、障がい者と関わりのある職場等の関係者、障がい者スポーツに理解や関心のある方）

7 費 用
・体験会の講師謝金、派遣旅費、使用道具等は、愛媛県障がい者スポーツ協会が負担する。但し、会場までの参加者の旅費等は、参加者負担でお願いします。

8 その他
・詳細は、愛媛県障がい者スポーツ協会へ連絡いただくか、ホームページをご覧ください。
〒790-0843 松山市道後町2丁目12－11 電話 089-924-2101
・予算に限りがありますので、実施競技等が調整できた団体等から、順次、予算の範囲内で実施します。

障がい者スポーツ紹介事業（体験会）参加申込書

平成　年　月　日

所属団体住所・氏名　　印

連絡先

障がい者スポーツ紹介事業（体験会）に下記のとおり申込書を提出します。

記

1　実施希望競技名　（　　）

2　実施希望日時　第１希望（　月　日（　）　：　～　：　）

第２希望（　月　日（　）　：　～　：　）

第３希望（　月　日（　）　：　～　：　）

3　実施予定会場名　（　　）

4　参加予定者及び人数　（障がい者　　名、その他　　名）

◆実施競技、日時等を協議して決定する場合、未定と記載してください。

平成28年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」
愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業

「障がい者スポーツ競技理解体験会」実施要項

1 目 的　　本事業は、平成29年に本県で実施する「第17回全国障害者スポーツ大会」実施に際し、運営協力してもらう大学生、専門学校生、教職員等に対し、障がい者スポーツ（フライングディスク、スラローム、STT等）を体験してもらい、障がい者スポーツへの理解とスタッフとしての関わり方等を学んでいただく。
また、大会終了後は、障がい者スポーツ振興のため、各種障がい者スポーツイベント等に積極的に参加し協力する体制やネットワークの構築を図る。

2 主 催　愛媛県障がい者スポーツ協会

3 協力団体（予定）　愛媛県　愛媛県教育委員会　公益財団法人愛媛県体育協会　愛媛県身体障害者団体連合会　愛媛県手をつなぐ育成会　愛媛県知的障害者福祉協会　愛媛県精神障害者福祉会連合会　愛媛県視覚障害者協会　愛媛県聴覚障害者協会　愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会　愛媛県障害者フライングディスク 協会

4 日 時　平成28年12月3日（土） 10:00～17:00

5 会 場　愛媛県身体障がい者福祉センター（松山市道後町2丁目12-11）

6 内 容

10:00－11:00　【開会式、全国大会概要】（会議室）
・開会式
愛媛県障がい者スポーツ協会
・全国障害者スポーツ大会の概要について
えひめ国体推進局障がい者スポーツ大会課

11:00－12:00　【手話体験】（会議室）
・楽しい手話講座
簡単な手話を教えてもらい、来年度本県で開催される全国障害者スポーツ大会等で活用してもらう。

13:00－15:30　【障がい者スポーツ体験】（体育館、研修室）
・障がい者スポーツ体験（グループに分かれてすべての競技を体験）

①フライングディスク競技
フライングディスク競技のうち、アキュラシー競技を体験
②スラローム競技体験
車椅子に乗り、紅白の旗門の間をルールに従い通過する体験を実施
③STT（サウンドテーブルテニス）体験【研修室で実施】
視覚障がい者の卓球で、アイマスクを使用し、STT専用卓球台での卓球を体験
④ボッチャ競技
全国障害者スポーツ大会の競技種目ではないが、パラリンピック競技種目で2020年に日本でパラリンピックも開催されることから、この競技の体験も併せて実施。

15:30－16:45　【応援メッセージ作成】（会議室）
・各所属団体ごとに分かれ、テトロンポンジ幕に全国大会に向けた応援メッセージ を作成し、各種イベント等にその幕をもって参加し、全国大会への機運を醸成する。

（ **13:00－17:00　【パネル、競技用具展示】**）
障がい者スポーツパネル及び競技用具展示
・全国障害者スポーツ関連、障がい者スポーツ紹介パネル等の展示
・障がい者スポーツ関連用具等の展示

16:45－17:00　【閉会式】（会議室）
愛媛県障がい者スポーツ協会

7 参加申込み 不要

8 参加料　無 料

9 健康安全管理
・参加中の怪我は、応急処置のみを行います。

10 傷害保険の加入
・主催者にて傷害保険に加入します。

11 その他
・主催者及び主催者側が許可した報道機関等の撮影、ホームページの写真掲載等については、ご了承のうえご参加ください。 ご協力をお願いします。

12 お問い合わせ

第17回全国障害者スポーツ大会
愛顔つなぐえひめ大会

愛媛県障がい者スポーツ協会事務局　清水
〒790-0843　愛媛県松山市道後町2丁目12－11
（愛媛県身体障がい者福祉センター内）
電話　089-924-2101　FAX　089-923-3717
Eメール　syo-supo@ehime-swc.or.jp

沖縄県における障がい者スポーツ振興事業

障がい者スポーツコミュニティーおきなわ

◆知的障がい者福祉施設スポーツ・レク祭り

◆障がい者バスケットボール教室

◆聴覚障害者バレーボール教室

沖縄県障がい者スポーツ協会

沖縄県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

年間を通して温暖な本県の地理的・自然的条件とスポーツ資源を生かした「スポーツアイランド沖縄」の形成とともに、国際的なスポーツ交流の構築を目指している。障がい者スポーツは、県民の誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しみ、楽しむことができるツールとして広がりを見せている。「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」としての多様な展開を通じてまちづくりや地域の活性化に寄与する役割は大きい。福祉施設や障がいを持つ児童生徒がその健康の維持・増進に役立つ、またとりもなおさず仲間づくり、社会参加への有効な手段としてコミュニティースポーツの広がりが期待されている。

しかし、県内のスポーツ指導員やボランティアの活躍する場が少なく活動が少しづつ消極的になっている現状がある。スポーツ指導員と障がい者スポーツの競技団体や福祉事業所等との連携や交流も一部を除いては希薄である。

②事業の目的・ねらい

障がい者スポーツが、障がいを持つ人々に限らず年齢や性別を問わず全ての人が共有できるものとして定着を図り、スポーツ指導員やボランティアの育成に社会的広がりを期待する。これにより日常的に地域で親しまれるツールとしてのコミュニティースポーツを目指すものである。

また、指導員やボランティアの発掘・育成を目指す。

③事業実施概要

（1）知的障がい者福祉施設スポーツ・レク祭り

事　業　名	知的障がい者福祉施設スポーツ・レク祭り
日　　時	平成 28 年 12 月 15 日（木）　13 時～15 時半
場　　所	うるま市具志川ドーム
参　加　者	福祉施設利用者 253　うるま市青年会議所 10 名
スタッフ	ボランティア 40 名　協会職員 3 名
補　助　員	障がい者スポーツ指導員 12 名（初級 9 名　上級 3 名）
協　　力	合同会社レジスポ
連携組織	うるま市就労支援施設ネットワーク連絡協議会 うるま市青年会議所
事業内容	会場となるドーム内を区分けし、複数種目の体験ブースを設置。 ・ボッチャ　・ラダーゲッター　・風船バレー　フライングディスク

事業の様子

（2）障がい者バスケットボール教室

事　業　名	障がい者バスケットボール教室
日　　時	第1回平成28年12月23日(金)9時～13時 第2回平成29年1月14日(土)9時～13時
場　　所	第1回沖縄県総合運動公園　体育館 第2回浦添市　サン・アビリティーズうらそえ
参　加　者	延べ106名(第1回62名　第2回44名)
スタッフ	協会職員3名
補　助　員	障がい者スポーツ指導員　延べ20名(初級　上級) ボランティア　延べ30名
協　　力	車いすバスケットチーム　シーサーズ
連携組織	トラステック・ミズノ共同企業体
事業内容	障がい3者のバスケット教室 障がい程度や技能別に分けそれらに応じたバスケット指導 参加者の交流目的の試合

事業の様子

（3）聴覚障害者バレーボール教室

事　業　名	聴覚障害者バレーボール教室
日　　時	第1回　平成28年11月26日(土)13時～17時 第2回　平成28年12月3日(土) 13時～17時 第3回　平成29年1月21日（土）13時～17時 第4回　平成29年1月28日（土）13時～17時
場　　所	第1回　浦添市　サン・アビリティーズうらそえ 第2回　県立美里工業高校 第3回　県立美里工業高校 第4回　浦添市　サン・アビリティーズうらそえ
参　加　者	延べ 104名（第1回 25名　第2回 24名 第3回　28名 第4回　27名）
スタッフ	延べ 4名 専門指導者　1名　協会職員3名
補　助　員	障がい者スポーツ指導員3名　（初級　2名　上級　1名） ボランティア　延べ24名（全4回）
協　　力	聴覚障害男女バレーボールチーム
連携組織	沖縄県バレーボール協会
事業内容	聴覚障害者バレーボールの選手の発掘・育成 県内バレーボール指導者による指導

事業の様子

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

沖縄県における障がい者スポーツの競技団体、各福祉施設事業所は地域社会との関わりが少ない事が挙げられる。また、障がい者スポーツ指導員の固定化、活動の場の少なさの現状。
これらを解消すべく障がい者スポーツのイベント等では積極的な地域社会への周知と参加呼びかけ。障がい者スポーツ指導員やボランティアの活動の場の提供により今後の障がい者スポーツの定着化を図る。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

地域の青年会議所とは今までは関りがなかったが本事業の参加呼びかけにより興味をしめしてくれた。障がい者スポーツというものを初めて体験し今後も連携を取りたいと興味を示してくれた。

県内バレーボール協会も聴覚障害者バレーボールの競技団体との関りが希薄であったが積極的に連携をしていただいた。

（2）実際の事業での役割分担

企画会議への参加や事業の周知、競技の講師や地域社会への交流を務めて頂いた。当協会だけでなく連携団体からの様々な意見を聞くことが出来た。県内競技団体協会からの専門的な指導を受けより良い内容の事業であった。

（3）事業後の関係性の変化

事業実施後も定期的に交流や指導の協力に興味を示してもらい続いている。

障がい者スポーツのイベントにも参加希望があり今後も連携をとっていく。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

各競技ともスポーツ用具の不足であったが購入する事により充実した事業を実施することが出来た。特にボール類やボッチャ、フライングディスク等を揃える事により多くの方がそれらのスポーツの取り組むことが出来た。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会が備品を管理、対応していく。借用についても各団体を対象に借用手続きを行い積極的に活用していく。

⑦事業の成果および評価（達成度）

「スポーツ・レク教室」の事業は福祉施設だけでなく地域の青年会議所や商工会も巻き込む事ができ地域社会との交流・連携ができ今後も様々な面で関りを持っていこうという話し合いが出来た。「障がい者バスケットボール教室」や「聴覚障害バレーボール教室」では県内の競技団体・協会からの指導で当事者の競技力とモチベーションの向上が図れた。競技団体・協会からは健常者の県内の大会にも参加出来るようにしたいという意見ももらえた。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

本事業の実施は実施前の予想よりも大きな成果がみられた。連携した各関係団体とも１回限りで

なく今後とも連携を続けていきたいという意思表示をいただいた。周りの関心も上がったことにより、より一層障がい者スポーツの普及、推進に力を入れていきたい。

・スポーツ・レク教室
　多くの関係団体に企画会議の段階で参加していただき様々な意見を出しあった。当日の実施体制での反省も含めて地域社会の団体が参加する事で指導員やボランティアの今後の活動にも意欲が出る。
・障がい者バスケットボール教室
　県内の障がい別のバスケットボール競技団体による交流が今まではなかった。これによりお互いの情報交換もでき指導者も招いて競技の発展・育成に繋がった。
・聴覚障害者バレーボール教室
　聴覚障害者バレーボールの競技団体は男女共に1チームしかなく他の団体等との交流もなく練習試合の相手や競技指導に関する悩みがあった。県内バレーボール協会に協力してもらう事により技術の向上や高校のバレーボール部との練習試合の機会が増えた。

⑨おわりに

（1）所感
　地域社会の障がい者スポーツへの理解はあるが参加・交流の機会に関してはまだまだ少ない。参加する役員・指導員やボランティアの人材も少なく同じメンバーで運営している状況である。今回の事業でスポーツイベントや競技教室を実地することにより参加・交流の機会をより多くの方々に提供することが出来た。またスポーツ用具を購入する事により、より事業を円滑に実施することが出来た。
　今回の事業へ始めて参加された関係者から関心をもってもらうことが出来て障がい者スポーツへのアプローチをすることが出来た。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）
・各事業を様々な関係団体で実行委員会を設置。多方面で参加呼びかけ。
・高校や大学等へも協力してもらい人材養成を図った。
・専門指導員との協力により競技力向上をねらった。
・スポーツ用具購入で新たな選手発掘を図った。
・参加者の意見を集約・検証をし次回へ繋げる。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）
・今回の事業は普段、障がい者スポーツへの関心・交流の機会がないもしくは少ない方々への参加をしてもらうことを意識し、その結果障がい者スポーツへの関心をもってもらう事が出来た。
・県内のバレーボール協会と連携して事業を実施したことにより今後、バレーボール協会主催大会にも聴覚障害バレーボールのチームにも参加させていという意見が出た。
・今回の事業で地域社会には障がい者スポーツというものをより身近に感じてもらうことが出来た。

⑩資料　開催要項、チラシ、記録写真、アンケート結果など

第４回うるま市障がい者スポーツレクレーション大会

みんなで広げよう地域の輪

12.15 具志川ドーム

2016 [THU]

■日時：
12月15日(木)13:00～
■場所：具志川ドーム

大会プログラム

13:00 開会式　挨拶
13:10 体操（ウンタカダンス）
13:20 競技開始
- ボッチャ
- ラダーゲッター
- 風船バレー
- ムカデじゃんけん

（各 20 分）
14:26 休憩
14:45 整列・競技説明
15:05 競技終了
15:10 終わりの挨拶

参加施設

NPO法人福幸フレンドリーI
NPO法人てぃーだ与勝 竜宮の島センター
社会福祉法人おきなか福祉会 ゆいまーる・れいめいの里・石水の里
社会福祉法人大樹会 くわの実・あだんの実
社会福祉法人緑和会 栄野比学園・緑の里・栄野比の里

聴覚障害バレーボール教室

目　的　聴覚障害のバレーボールチームは県内には１チームしかなく地域の方々との交流の機会が少ないため県内の指導者を招き教室を開く。地域の学校等のチームを招きバレーボール教室を開く事によって強化と振興を深める事を図る。それによる選手発掘、育成事業、障がい者スポーツの啓発。

主　催　特定非営利活動法人　沖縄県障がい者スポーツ協会

後　援　沖縄県体育協会、沖縄県バレーボール協会
沖縄県身体障害者福祉協会、沖縄県聴覚障害者協会
（予定）

期　日　平成28年11月26日(土)、12月3日(土)、
平成29年　1月21日(土)、1月28日(土)
１３時~１７時

会　場　浦添市身体障がい者福祉協会サン・アビリティーズうらそえ

お問合せ　特定非営利活動法人　沖縄県障がい者スポーツ協会
〒900-0026　那覇市奥武山町51-2　沖縄県体協スポーツ会館309
ＴＥＬ/ＦＡＸ098-880-2459
メール　okiparasupo098@yahoo.co.jp
担当者　平安

障がい者バスケットボール教室　実施要項

1　目　的
本教室は、障がい者スポーツを広く普及し、障がい者の社会参加と自立を促進することを目的に開催します。また、併せて、競技への意欲向上と選手育成・発掘・交流を目的とします。

2　主　催
沖縄県障がい者スポーツ協会
沖縄県知的障がい者スポーツ連絡会

3　協　力
車椅子バスケットボールチーム　シーサーズ
沖縄県障害者スポーツ指導者協議会

4　後　援
沖縄県バスケットボール協会

5　協　賛
琉球新報
沖縄タイムス

6　期　日
①平成２８年１２月２３日（金：天皇誕生日）
②平成２９年　１月２８日（土）
午前９時から午後１２時

7　会　場
①沖縄県総合運動公園体育館　②浦添市サン・アビリティーズうらそえ

8　参加資格
知的障がい児・者（療育手帳取得、または取得見込の者）
身体障害者手帳を所持し、車椅子を使用されている方等
事前に医師の診断によりスポーツに支障がないと認められた者

9　参加費
無料、但し会場までの交通費は自己負担とする。

10　加申込方法
参加申込用紙に必要事項を記入の上、下記事務局までＦＡＸ若しくはメールにて送付する。

11　イベント中の怪我等について
教室開催時の怪我等については、主催者側で加入した保険を適用します。それ以上の保証を希望される場合は、各自で傷害保険に加入することをお勧めします。

12　その他
教室開催中に報道機関が来場し、個人情報について報道されることが予想されます。
よってこれらのことを承諾の上で申し込みをお願いします。

13　申込先
沖縄県障がい者スポーツ協会
〒900-0026　沖縄県那覇市奥武山町51-2　沖縄県体協スポーツ会館309
ＴＥＬ/ＦＡＸ：098-880-2459
E-mail　okiparaspo098@yahoo.co.jp

第4回　スポーツレクリエーション大会

1　開催日時		平成28年　12月　15日（　水　）13:00~15:00（雨天決行）
2　場所		具志川ドーム
3　目的		「共生社会への助走」
4　行程	9:30	各事業日課活動
	11:00/11:30	昼食（昼食時間が30分早まっているので注意して下さい。昼食後、トイレ誘導、着替え）
	約12:15	施設出発
	12:30	会場入り（点呼・トイレ誘導・整列）
	13:00	開会式
	〃	うるま市就労支援ネットワーク連絡協議会　事務局長　宮城　和正　様
		沖縄県障がい者スポーツ協会　事務局長　平安　泰知　様
		来賓挨拶　公益社団法人　うるま市シルバー財団センター　理事長　金城　盛功　様
		来賓挨拶
		上級指導員　長濱　隆介　様
	13:15	体操：ウンタカダンス
	13:20	各競技・休憩へ移動
	〃	競技開始（ボッチャ・ラダーゲッター・・フライングディスク・休憩）各20分＋各2分移動
	14:53	各競技終了
	14:55	整列・競技説明
	15:00	ムカデじゃんけん（20分程）
	15:20	競技終了・整列
	15:25	終わりの挨拶　うるま市就労支援施設ネットワーク連絡協議会　副会長　佐久田　盛徳　様

利用者：　44 名　職員：　11名

：注意事項：
※施設Tシャツ、ジャージ着用。
※ドーム内は土足厳禁なので室内履きを使用する事。
※ドーム内は飲食禁止です。
※玄関口にて大変混雑が予想される為、各施設待機箇所を確認し、ドーム外周より入場して下さい。
※利用者用、職員用靴入れ（Lパック）は前日、大会役員に配布します。名前を書く場合もあるので。

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

委託先団体募集要綱

平成 28 年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」
委託先団体募集要綱

1. 助成の目的

本事業は、障がい者が身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる社会を実現することを目的に実施する。

また、地域の障がい者スポーツ振興の統括組織である都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会や障がい者スポーツ指導者が、本事業をきっかけに地域のスポーツ団体や関係者等と連携・協働し、教室やイベント等の事業の企画や運営、指導をすることで、地域全体の障がい者スポーツの振興体制の整備に寄与することを目的とする。

2. 委託先対象

本事業は委託事業として実施する。委託先対象は、都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会とし、かつ、助成事業の実施体制が整っている事を委託先対象の条件とする。

3. 対象事業

下記の区分を対象とした、地域における障がい者スポーツ振興にかかわる事業とする。なお、助成の目的に合致すると共に、地域の障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者協議会が協力・連携した体制で実施するものとする。

【事業区分】

(1)障がい者のスポーツ教室事業
(2)障がい者スポーツ指導者の育成事業
(3)障がい者スポーツ指導者の派遣事業
(4)選手発掘・育成事業
(5)障がい者スポーツ理解啓発事業(大会等イベントも含む)
(6)組織連携推進強化事業(組織連携を主たる目的とした事業)

※注1:厚生労働省が実施している「地域生活支援事業」の「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」や日本スポーツ振興センターの「スポーツ振興事業助成」等の他団体からの助成を受けている事業は重複して申請はできない。

※注2:スポーツ庁が都道府県・指定都市に委託事業として実施する「地域における障害者スポーツ普及促進事業」および「特別支援学校等を活用した障害児・者のスポーツ活動実践事業」を実施する団体は、申請時に必ず申し出ること。

4. 活動の範囲

原則として、委託先団体の都道府県内(指定都市を含む)を実施場所とすること。なお、実施内容・特性等の理由により当該の都道府県内で実施が困難な場合はこの限りではない。

5. 助成対象となる事業の実施期間

本事業の委託契約締結日～平成 29 年 1 月末日(事業完了)

※平成 29 年 2 月に実施団体の報告会を開催予定。

※委託費の支払い以前の実施費用については、委託先団体の立替によるものとする。

6. 募集期間と提出書類

募集期間は次のとおりとする。締切日までに下記の書類を作成し、送付すること。なお、締切り後および書類に不備がある場合は受理できないので注意すること。

【募集期間】 平成 28 年 3 月 22 日(火)～平成 28 年 4 月 15 日(金)(必着)

【提出書類】 (1)受託申請書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 1
(2)事業計画書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 2-1、2-2
(3)予算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 3-1、3-2
(4)スポーツ用具購入申請書、管理誓約書・・・様式 4
(5)謝金・旅費・賃金等の規程・規約等
※上記(2)(3)は、データについても USB 等の電子記録媒体またはメールでご提出ください。

7. 委託費と対象経費

委託費は、各団体につき 200 万円または 300 万円とする。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。

諸謝金、旅費交通費、スポーツ用具、消耗品費、会議費、借損料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料

詳しくは別紙の「経費支出について」をご参照ください。

＊ 委託費の入金は 6 月以降の予定です。
＊ 支出については、すべて委託先団体の規程により行ってください。
＊ 今年度より、委託費(総事業費)の 35%を上限として事業目的に必要なスポーツ用具の購入が認められます。(ただし、本事業では事務用品等の備品の購入はできません)

8. 選定方法及びその結果

(1) 委託先団体の選定は、当協会が設置する選定委員会で、平成 28 年度助成事業に関する選定方針に基づいて審査し決定する。
(2) 選定結果については、内容確認後随時、文書をもって知らせる。また、決定した事業については、当協会ウェブサイトで公開する。
(3) 他の機関の助成等を受けて当該事業を実施することとなった場合は、採択後であっても受託申請を辞退すること。
(4) 選定結果に関するいかなる問い合わせ等については答えられない。

9. 委託先団体の決定と決定後の事務手続き(提出物)

委託先団体の決定後、下記の書類を提出すること。

(1)委託契約書・・・内容を確認の上、委託先団体の長が署名捺印し、事業計画書とともに 2 部提出すること。
(2)請求書・・・・・・・事務手続きの簡素化から、委託契約書と同時に請求書を提出しても構わない。

10. 委託事業に係わる消費税の取り扱い

当協会との委託事業契約に基づき実施する事業の委託金については、国等からの補助金と同様の扱いとし、「特定収入」として取り扱うこと。また、消費税の計算にあたり簡易課税を選択されている団体についても、本委託金は課税対象外の収入として取り扱うこと。

11. 事業報告

事業報告は、助成事業の完了から 1 カ月以内又は平成 29 年 1 月末日(消印有効)のいずれか早い日までに提出すること。

※事業報告はその後、当協会がとりまとめ、平成 29 年 4 月 10 日までにスポーツ庁に提出する。

(1)完了報告書

完了報告書は、委託先団体の長が押印して提出すること。また報告書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

(2)決算書

決算書は、領収書及び納品書のコピーを添付し提出すること。また決算書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

(3)成果物・印刷物

ポスター・チラシ・冊子等、委託費で作成したものを 2 部提出すること。

(4)報告書(原稿)

全ての委託先の報告書を当協会で合本するので、原稿等をデータで提出すること。また報告書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

【報告書内容(案)】

①事業を企画した経緯(自県のスポーツ環境の特色、実情、課題点等)
②事業の目的・ねらい
③実施概要(内容および実施体制等)
・事業内容 ・実施体制(連携・協力団体等) ・参加者内訳等
④障がい者スポーツ指導者の活動・役割
⑤成果および評価
⑥今後の課題
⑦所感、特記事項等

【添付資料】

①開催要項 ②記録写真(1事業につき 6 枚程度) ③その他

※ 詳細は後日の連絡とする。
※ 報告書の原稿は、各団体 1 事業につき、1～2 ページの予定。

(5)その他事業に係る要綱等資料

12. 問合せ先及び送付先

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 スポーツ推進部
担当: 滝澤・屋敷・小島
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町 2-13-6 ユニゾ水天宮ビル 3F
TEL) 03-5695-5420(直通) FAX) 03-5641-1213
問合せ時間 月曜～金曜 AM9:30～PM5:45

※ この募集要綱は、平成 28 年度国庫補助事業(ｽﾎﾟｰﾂ振興事業)の予算の状況によっては内容が変更となる場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

平成28年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

2017年3月31日 発行

発行　公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
印刷　日本印刷株式会社